

沖縄県自殺対策に関する県民の意識調査

〔報告書〕

平成27年3月

沖縄県保健医療部健康長寿課

目次

実施概要	4
調査結果	12
調査結果要約	14
I. 回答者属性	22
II. 自殺に関する基本認識	24
III. 悩みやストレス等について	58
IV. うつに関する意識について	77
V. 自殺に関する意識について	97
VI. 相談窓口について	114
VII. 自殺対策・予防について	141
調査票	172
集計表	184

実施概要

1.調査の概要

- (1) 件 名 : 「沖縄県自殺対策に関する県民の意識調査業務委託」
- (2) 目 的 : 自殺に対する県民の認識、理解度等の実態を把握し、今後の自殺対策施策の推進の参考とするための基礎資料とする。
また、平成20年3月に策定された「沖縄県自殺総合対策行動計画」は、平成29年度を目標年度とする10年計画となっており、その見直しに向けた検討のための資料とする。
- (3) 調査の企画・実施 : 本調査は沖縄県保健医療部健康長寿課で企画し、㈱アドスタッフ博報堂に委託して実施した。
- (4) 委託期間 : 平成26年9月5日～平成27年3月31日
- (5) 調査項目 : ①あなた自身について
②自殺の現状等について
③悩みやストレスについて
④自殺に関する意識について
⑤相談窓口について
⑥自殺対策・予防等について
⑦自由意見
- (6) 調査対象 : ①母集団 沖縄県内に居住する満20歳以上の男女
②標本数 2,482件
③抽出方法 層化二段無作為抽出法
④調査地点数 127地点
県内市町人口比に応じて算出した標本数を、各調査地点の標本数が20前後になるように調査地点数を決定
- (7) 抽出方法 : 2,000の標本数を住民基本台帳を基に各市町村に居住する満20歳以上の男女で比例配分した後、住民基本台帳を閲覧し、調査対象者を無作為に抽出する。ただし、配分された標本数が10に満たない町村については、人口の比率により算出された数を10倍した数をサンプル数として抽出し、集計時には元の標本数に割り戻す。

(8) 調査地点 : 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上割り当てられた市町村については、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{市町村の町字数}}{\text{調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法により抽出する。また、調査地点数が1地点の場合には、乱数により無作為に抽出する。(乱数表は表計算ソフトにて作成)

抽出に際しての、市町村の町字については「市町村の町字別住民基本台帳人口及び世帯数」の区分に従った。

また抽出した地点における世帯数が抽出対象数に満たない場合は、次の地点を対象地域として抽出する。

※別添資料参照 「市町村の町字別住民基本台帳人口及び世帯数」

(9)対象者抽出:調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲(町字)で標本となる対象者が抽出できるように、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{調査地点における当該母集団人口(住民基本台帳人口 H26.1.1現在)}}{\text{調査地点抽出標本数}}$$

を算出し、住民票基本台帳より等間隔抽出法によって抽出する。

対象者市町村別配分 ①：市町村人口、構成比

市町村		20歳以上人口 (H26.1.1)			構成比 (人口比/%)		
圏域	市町村名	男性	女性	合計	男性	女性	合計
北部圏域	名護市	22,793	23,714	46,507	2.07	2.16	4.23
	国頭村	2,140	2,084	4,224	0.19	0.19	0.38
	大宜味村	1,444	1,322	2,766	0.13	0.12	0.25
	東 村	854	704	1,558	0.08	0.06	0.14
	今帰仁村	3,871	3,772	7,643	0.35	0.34	0.69
	本部町	5,636	5,502	11,138	0.51	0.50	1.01
	伊江村	1,942	1,936	3,878	0.18	0.18	0.35
	伊平屋村	536	466	1,002	0.05	0.04	0.09
	伊是名村	650	572	1,222	0.06	0.05	0.11
中部圏域	うるま市	45,565	46,128	91,693	4.14	4.19	8.33
	沖縄市	48,791	53,953	102,744	4.43	4.90	9.34
	宜野湾市	34,466	37,476	71,942	3.13	3.41	6.54
	恩納村	4,241	4,035	8,276	0.39	0.37	0.75
	宜野座村	2,156	2,221	4,377	0.20	0.20	0.40
	金武町	4,250	4,453	8,703	0.39	0.40	0.79
	読谷村	14,958	15,597	30,555	1.36	1.42	2.78
	嘉手納町	5,087	5,491	10,578	0.46	0.50	0.96
	北谷町	9,845	11,111	20,956	0.89	1.01	1.90
	北中城村	5,976	6,549	12,525	0.54	0.60	1.14
	中城村	7,308	7,263	14,571	0.66	0.66	1.32
那覇圏域	那覇市	119,159	131,646	250,805	10.83	11.96	22.79
南部圏域	浦添市	40,820	44,074	84,894	3.71	4.01	7.72
	久米島町	3,552	3,113	6,665	0.32	0.28	0.61
	渡嘉敷村	308	269	577	0.03	0.02	0.05
	座間味村	399	345	744	0.04	0.03	0.07
	粟国村	353	276	629	0.03	0.03	0.06
	渡名喜村	193	162	355	0.02	0.01	0.03
	南大東村	604	418	1,022	0.05	0.04	0.09
	北大東村	242	190	432	0.02	0.02	0.04
	糸満市	22,439	22,555	44,994	2.04	2.05	4.09
	南城市	16,235	16,158	32,393	1.48	1.47	2.94
	西原町	13,240	13,307	26,547	1.20	1.21	2.41
	豊見城市	21,784	23,032	44,816	1.98	2.09	4.07
	八重瀬町	10,932	11,150	22,082	0.99	1.01	2.01
	与那原町	6,635	7,224	13,859	0.60	0.66	1.26
	南風原町	13,174	13,869	27,043	1.20	1.26	2.46
宮古圏域	宮古島市	21,241	21,732	42,973	1.93	1.98	3.91
	多良間村	525	434	959	0.05	0.04	0.09
八重山圏域	石垣市	18,478	18,708	37,186	1.68	1.70	3.38
	竹富町	1,696	1,582	3,278	0.15	0.14	0.30
	与那国町	626	584	1,210	0.06	0.05	0.11
		535,144	565,177	1,100,321	48.64	51.36	100.00

実施概要

対象者市町村別配分 ②：サンプル数、調査地点数

市町村		2000サンプルを人口比で配分			10人以下の 地区を10倍	調査 地点数	町字数	地点抽出 間隔
圏域	市町村名	男性	女性	合計				
北部圏域	名護市	41	43	85	86	5	88	18
	国頭村	4	4	8	80	4	20	5
	大宜味村	3	2	5	50	3	16	5
	東 村	2	1	3	30	2	6	3
	今帰仁村	7	7	14	14	1	19	—
	本部町	10	10	20	22	2	27	13
	伊江村	4	4	7	70	4	5	1
	伊平屋村	1	1	2	20	1	5	—
	伊是名村	1	1	2	20	1	5	—
中部圏域	うるま市	83	84	167	167	9	81	10
	沖縄市	89	98	187	187	10	148	15
	宜野湾市	63	68	131	131	7	66	9
	恩納村	8	7	15	15	1	11	—
	宜野座村	4	4	8	80	4	4	1
	金武町	8	8	16	16	1	3	—
	読谷村	27	28	56	56	3	22	7
	嘉手納町	9	10	19	19	1	11	—
	北谷町	18	20	38	38	2	21	10
	北中城村	11	12	23	23	2	14	7
	中城村	13	13	26	26	2	18	9
那覇圏域	那覇市	217	239	456	456	13	218	9
南部圏域	浦添市	74	80	154	154	8	85	10
	久米島町	6	6	12	12	1	27	—
	渡嘉敷村	1	0	1	10	1	3	—
	座間味村	1	1	1	10	1	5	—
	粟国村	1	1	1	10	1	3	—
	渡名喜村	0	0	1	10	1	4	—
	南大東村	1	1	2	20	1	6	—
	北大東村	0	0	1	10	1	3	—
	糸満市	41	41	82	82	4	44	11
	南城市	30	29	59	59	3	41	13
	西原町	24	24	48	48	3	22	7
	豊見城市	40	42	81	81	4	24	6
	八重瀬町	20	20	40	40	2	23	11
	与那原町	12	13	25	25	2	4	2
	南風原町	24	25	49	49	3	12	4
宮古圏域	宮古島市	39	40	78	78	4	41	10
	多良間村	1	1	2	20	1	3	—
八重山圏域	石垣市	34	34	68	68	4	24	7
	竹富町	3	3	6	60	3	13	4
	与那国町	1	1	2	20	1	1	—
		973	1,027	2,000	2482	127	1,196	

「—」の町村は、乱数により地点を抽出

- (10)回収方法 : 調査票の回収は、調査員が各対象世帯を訪問し回収を行う。
一部離島町村については、返信用封筒を同封し郵送による回収を行った。該当地域対象者に対しては、郵送後一定期間の後、返答協力依頼を郵便にて行った。
- (11)回収結果 : (1)回収数(率) 1,566件 (63.1%)
(2)調査不能数(率) 916件 (36.9%)
－不能内訳－
転居 74 長期不在 26 一時不在 413
住所不明 28 拒否 121 その他 254
- (12)集計作業 : 回答者個々の回答をデータ入力を実施
①単純集計
②クロス集計 a)属性別:性別、年齢別、職業別、市町村別、圏域別、
本島／離島別
b)質問間クロス
- (13)ウェイトバック集計 : サンプルを10倍にして回収した町村については、10分の一に割戻し、沖縄県の人口構成比に合わせ集計を行う。(次頁参照)
- (14)その他 : 必要に応じ「自殺に関する意識調査／内閣府(平成23年度)」、「沖縄県保健医療県民意識調査／沖縄県保健医療部(平成19年度)」との比較分析を行う。

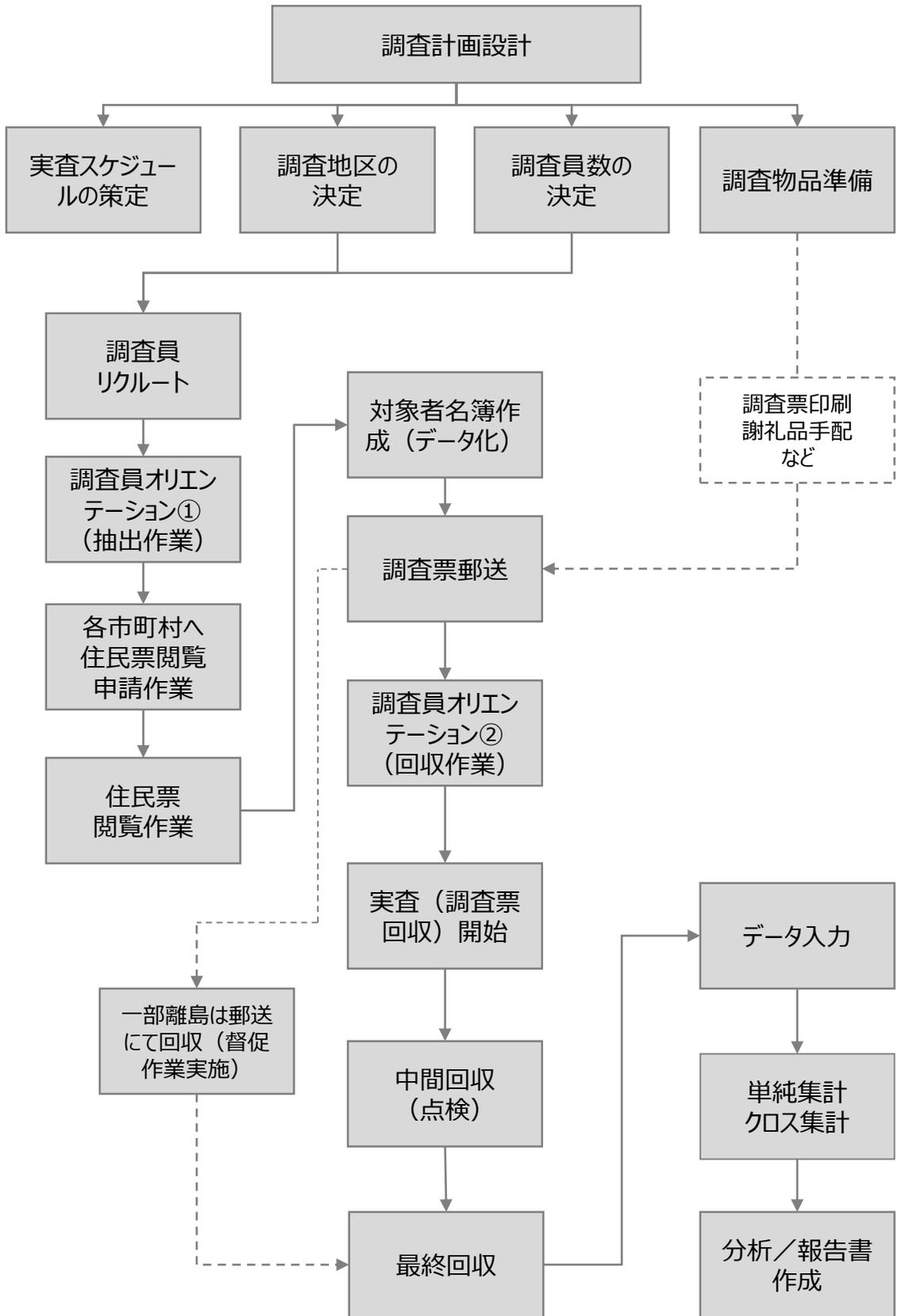
実施概要

市町村別回収件数及びウェイトバック後集計件数

市町村		対象数	回収 件数(実数)	ウェイトバック 集計件数	対象数を10倍 した市町村	
圏域	市町村名					
北部圏域	小計	392	273	109		
	名護市	86	63	63		
	国頭村	80	70	7	●	
	大宜味村	50	42	4	●	
	東 村	30	26	3	●	
	今帰仁村	14	11	11		
	本部町	22	16	16		
	伊江村	70	31	3		
	伊平屋村	20	7	1		
	伊是名村	20	7	1		
中部圏域	小計	758	492	441		
	うるま市	167	99	99		
	沖縄市	187	111	111		
	宜野湾市	131	94	94		
	恩納村	15	11	11		
	宜野座村	80	57	6	●	
	金武町	16	9	9		
	読谷村	56	40	40		
	嘉手納町	19	13	13		
	北谷町	38	18	18		
	北中城村	23	22	22		
	中城村	26	18	18		
那覇圏域	那覇市	456	247	247		
南部圏域	小計	620	404	375		
	浦添市	154	78	78		
	久米島町	12	5	5		
	渡嘉敷村	10	2	0	●	
	座間味村	10	6	1	●	
	粟国村	10	5	1	●	
	渡名喜村	10	5	1	●	
	南大東村	20	9	1	●	
	北大東村	10	7	1	●	
	糸満市	82	62	62		
	南城市	59	40	40		
	西原町	48	35	35		
	豊見城市	81	65	65		
	八重瀬町	40	28	28		
	与那原町	25	18	18		
	南風原町	49	39	39		
	宮古圏域	小計	98	57	54	
		宮古島市	78	54	54	
多良間村		20	3	0	●	
石垣圏域	小計	148	91	63		
	石垣市	68	60	60		
	竹富町	60	21	2	●	
	与那国町	20	10	1	●	
地域不明			2	2		
		2,482	1,566	1,291		

※地域不明は郵送回収分

(15)実施フロー :



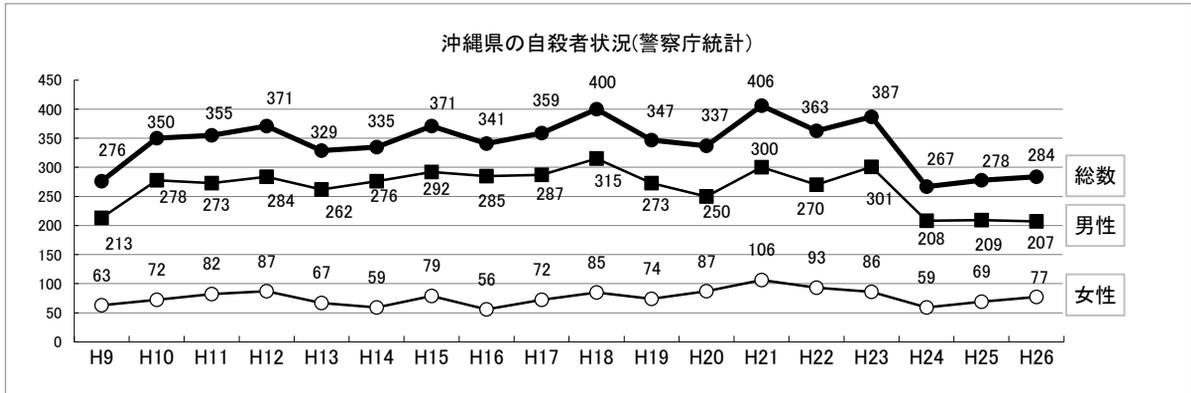
調查結果

沖縄県の自殺について(参考)

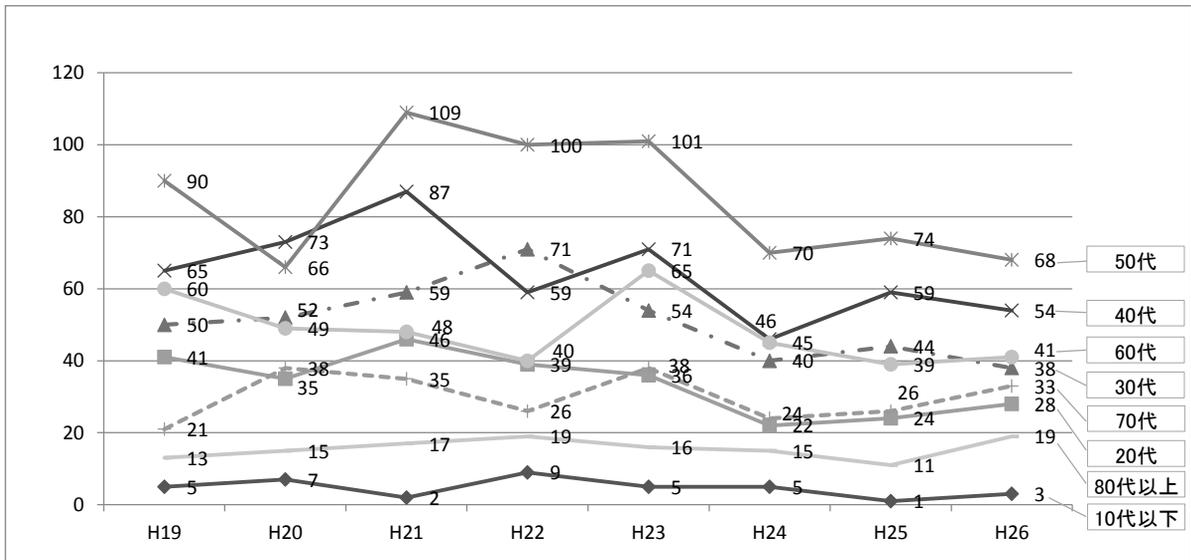
沖縄県の自殺者数は、平成10年から平成23年まで、毎年300人台で推移していたが、平成24年には267人と300人を下回り、平成26年は284人(男207人、女77人)となっている。年齢階級別にみると、50代の自殺者が最も多く、次いで40代が多くなっている。

原因・動機別にみると、健康問題が最も多くなっている。

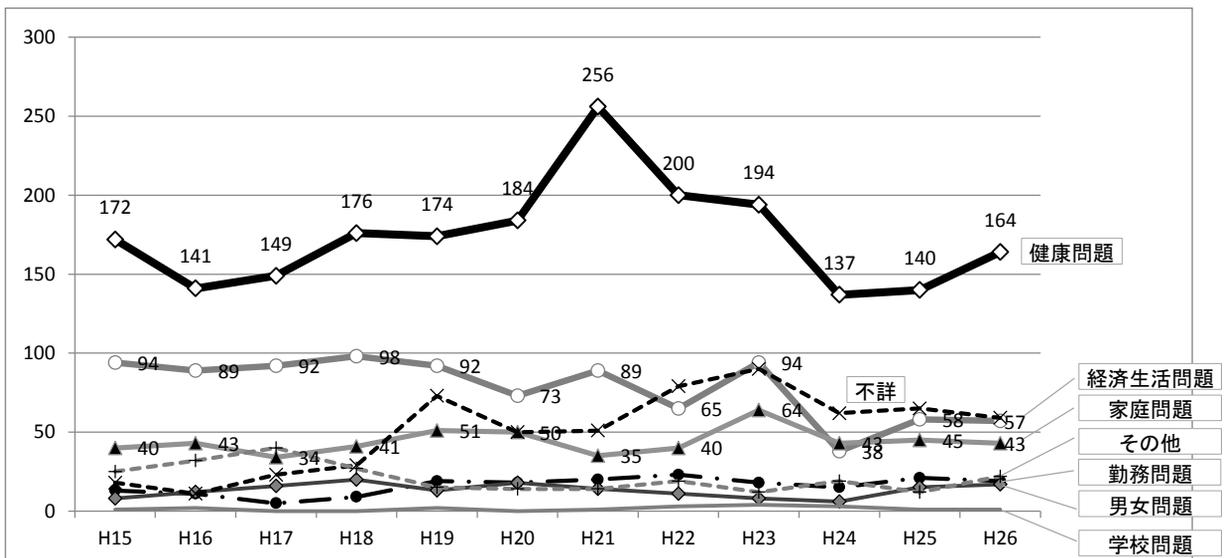
■自殺者数の年推移



■年代別自殺者数の推移



■動機別自殺者数の推移



調査結果要約

I. 回答者属性

回答者は、男性590人45.8%、女性690人54.0%で、北部圏域8.5%、中部圏域34.2%、那覇圏域19.2%、南部圏域29.1%、宮古圏域4.2%、八重山圏域4.9%となっている。

年齢別では、20歳代151人11.7%、30歳代240人18.6%、40歳代245人19.0%、50歳代214人16.6%、60歳代199人15.5%、70歳代236人18.3%となっている。

職業別内訳では、「常勤」「パート」「自営業」を合わせて仕事をしている方が52.7%、無職が15.3%、専業主婦が11.2%、学生2.0%となっている。

同居家族は、「あり」が82.9%で「いない」は9.6%となっている。

II. 自殺についての基本認識

県内の自殺者数の現状について知っているか尋ねたところ、「よく知っていた」が14.3%、「聞いたことはあった」が34.0%、「よく知らなかった」が30.7%、「知らなかった」が16.0%で、『知っていた』は合計48.3%となりほぼ半数が認知していることがわかった。性別では男性が『知っていた』46.8%、女性49.7%とほぼ同じ程度の認知率となった。年齢別で見ると20歳代、30歳代で『知っていた』が最も少なく、年齢が上がるにつれて多くなる傾向がある。圏域別で見ると那覇圏域が54.3%で最も多く、逆に宮古圏域33.4%、八重山圏域35.7%で認知がやや低い。全国調査では、国内の自殺者数の現状について「知っている」との回答は65.1%となっており、それに比較すると県民の認知率はやや低めとなっている。

自殺に対する考え方を15項目示し、その意見についてそう思うか、思わないかを5段階で尋ねたところ、『そう思う』との肯定回答が多いのが「多くの自殺者は一つの原因だけで無く、様々な問題を抱えている」(83.6%)、「自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う」(79.9%)、「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」(83.3%)などである。また「自殺せずに生きていれば良い事がある」についても84.0%が『そう思う』と回答している。また「自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」(73.8%)、「自殺しようとする人は何らかのサインを出している」(80.7%)と考えており、さらに「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」については『そう思わない』が74.0%と多くを占め、加えて「自殺は防ぐことができる」は『そう思う』が77.7%となっている。

一方で「生死は最終的に本人の判断にまかせるべき」との意見について『そう思う』が37.6%、『そう思わない』が51.1%となっている。また「自殺は自分にはあまり関係ない」について『そう思う』が42.3%、『そう思わない』が47.2%、「自殺は本人の弱さからおこる」は『そう思う』が42.8%、『そう思わない』は47.0%となっている。

性別で比較すると「生死は最終的に本人の判断に任せる」で『そう思う』は男性41.9%、女性34.1%、「自殺は本人の弱さからおこる」で『そう思う』が男性49.3%、女性37.4%、「自殺は本人が望んだことだから仕方ない」は『そう思う』が男性24.5%、女性17.7%、「自殺は恥ずかしいことである」は『そう思う』が男性37.2%、女性24.0%となっている。

年代で見ると「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」は若いほど肯定意見が多くなる傾向みられ、『そう思う』は20歳代の53.5%と過半数を超える割合から、30歳代49.2%、40歳代38.1%、50歳代28.3%と年齢が上がるに従いその数値は減少している。「自殺を口にする人は本当は自殺しない」という意見について『そう思う』の割合は、男性36.0%、女性36.4%で性別での差はみられないが、年代で見ると、20歳代、30歳代とも42.3%で高くなっている。

また年配の方ほど多くなるのは「自殺は本人の弱さからおこる」で『そう思う』が20歳代34.8%、30歳代38.5%に対して、60歳代56.0%、70歳代55.3%と20ポイント差が開いており、年配層は自殺は「本人の弱さ」だと考える傾向が強い。また「自殺は恥ずかしいことである」も『そう思う』が20歳代の20.0%から70歳代の46.4%まで年代が上がるほど多くなっている。

全国調査と比較すると、「生死は最終的に本人の判断に任せるべき」は『そう思う』が沖縄37.6%、全国32.6%で、「自殺せずに生きていけばいい事がある」は沖縄84.0%、全国73.8%となっている。

【結果】

1. 自殺の現状に対する認知度が全国に比べ低い。年齢別にみると20歳代、30歳代で低い。
2. 生死は最終的に本人の判断に任せるべきとの回答は全国に比較して高く、年齢別では、20歳代、30歳代では過半数となっている。
3. 自殺を口にする人は本当は自殺しないと思っている割合が36.2%で、年齢別では、20歳代、30歳代が高い。
4. 自殺は本人の弱さからおこるとの回答が42.8%で、年齢が高くなるほど高い。

Ⅲ. 悩みやストレスについて

普段の生活での不満や悩み、ストレスを感じる事が「大いにある」「多少ある」との回答は合わせて63.5%で県民の6割強が悩みやストレスを感じている。性別で見ると男性59.1%、女性67.2%と女性の方がストレスを感じている。年齢別では30歳代が72.8%、40歳代が71.2%となっている。70歳代を除く他の年代でも約6割がストレスを感じている。圏域別で見ると北部圏域、中部圏域、那覇圏域、南部圏域の本島はそれぞれが6割を超えている。宮古圏域では59.5%、八重山圏域では41.7%で八重山圏域で低めになっている。性別・年齢別で見ると30代女性が最も高く80.7%、次いで40代女性の72.9%、50代女性の71.9%となっている。男性は40代が最も高く69.4%となっている。

全国調査では65.5%となっており、ストレスを感じる割合はほぼ同様の結果となっている。平成19年度調査と比較すると、ストレスがあるのは72.7%から63.5%と減少している。

ストレスの原因としては「家庭問題」45.8%、「勤務問題」38.8%、「経済生活問題」32.0%、「健康問題」31.9%、「男女問題」6.1%、「学校問題」3.1%となっている。性別で比較すると女性で「家庭問題」が57.4%と男性の30.3%に比べ2倍近い数値となっている。男性では「勤務問題」が44.8%で女性の34.4%より約10ポイントより高くなっている。年齢別で見ると、「家庭問題」は30歳代が一番多く、「勤務問題」は年齢が低いほど、逆に「健康問題」は年齢が高いほど多くなってくる。

悩みやストレスについて誰かに相談をすることにためらいを感じるのは全体の34.9%で3人に1人がためらいを感じると回答している。性別で見ると男性では38.3%、女性は32.0%と男性が女性より相談することにためらいを感じる事が多い。女性は年齢が高くなるにつれて「ためらいを感じる」回答が多くなっている。全国調査では「ためらいを感じる」との回答は43.4%で沖縄に比べ約10ポイント多い。

不満や悩みを聞いてくれる人は、「同居の家族」が最も多く56.6%、次いで「友人」53.3%となっている。女性は「友人」が61.1%と多く、男性の44.4%と差が大きい。また男性は「いない」が10.4%と女性(4.7%)の2倍以上となっている。中でも60歳代男性、70歳代男性の「いない」がそれぞれ16.2%、11.6%と多く、男性高齢者の相談相手が他の年齢層より少なめになっている。

ストレス解消法としては「テレビや映画をみたり、ラジオを聞いたりする」が38.8%、「人と話をする」が38.3%、次いで「買物」29.8%、「寝る」29.8%、「音楽」28.1%、「お酒を飲む」28.0%、「食べる」23.6%、「スポーツ」21.9%と続く。性別で見ると、男性は「お酒を飲む」が38.8%でトップ、2位は「テレビや映画..」の38.2%、女性では「人と話をする」が49.4%でトップ、2位が「買物」41.8%となるなど男女で差が見られる。これまでに自殺を考えたことがある人は、そうでない人に比べ、ストレス解消法として「音楽」「食べる」「寝る」「お酒を飲む」「たばこを吸う」「ギャンブルをする」が多くなっている。

睡眠で休養が取れているか尋ねたところ、「あまり取れていない」、「まったく取れていない」を合わせて『睡眠で十分な休養が取れていない』は14.7%となっている。性別では『取れていない』は男性11.6%、女性16.9%となり、女性の方が高い。男性は40代が一番多く、女性は年齢が高いほど多くなっている。

【結果】

1. 県民の約6割が何らかのストレスを感じているが、誰かに相談したり助けを求めることにためらいを感じている方が3割いる。男性、とりわけ60代、70代男性は相談相手がいらないとの回答が高い。
2. ストレス解消法として女性は「人と話をする」が多く、男性は「お酒を飲む」が多くなっている。
3. 睡眠で十分な休養が取れていない方が約15%となっている。

IV.うつに関する意識について

うつ病のサインについて知っているか尋ねると、「詳しい内容まで知っていた」が4.3%、「大体的内容を知っている」33.2%、「聞いたことはある」が41.7%と合わせて79.1%は何らかの形で『知っている』と回答している。性別で見ると、男性で『知っている』は77.2%、女性は81.1%でやや女性の認知が高く、「詳しい内容まで知っている」と「大体的内容まで知っている」までを合わせた『理解度』を見ると男性33.5%、女性41.1%とやはり女性が高くなっている。年齢別で見ると、『知っている』は年代間の差はあまりないが、「詳しい内容まで知っている」と「大体的内容まで知っている」までの『理解度』で見ると20歳代の28.3%から60歳代の47.7%まで年代が上がるにつれて高くなる。圏域別では那覇圏域が『理解度』49.4%と高くなっている。

家族などの身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたときの対応を聞くと、「精神科のある診療所や病院の受診をすすめる」が38.4%で最も多く、次いで「誰かに相談することをすすめる」となっている。性別で見ると女性が「精神科のある診療所や病院の受診をすすめる」が男性より多くなっている。圏域別で見ると「精神科のある診療所や病院の受診をすすめる」は那覇圏域で多く、「誰かに相談する」は北部圏域で多い。

自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたときの対応としても身内がうつになった場合と同様「精神科のある診療所や病院の受診をすすめる」が最も多く31.4%、次いで「誰かに相談することをすすめる」が28.9%、「もう少し様子を見て決める」16.5%となっている。性別で見ると、「もう少し様子を見て決める」は男性が多い。年齢別で見ると「精神科のある診療所や病院の受診をすすめる」は50歳代以上で多くなっており、「誰かに相談する」は若いほど多く、年配の方ほど減っていく傾向にある。圏域別で見ると「精神科のある診療所や病院の..」は那覇圏域で多く、宮古圏域、八重山圏域では「精神科のある診療所や病院の受診をすすめる」「誰かに相談する」は他の圏域に比べ低い。宮古圏域は「もう少し様子を見る」が突出して多くなっている。

これまでに自殺を考えたことがある方は、ない方に比べて「もう少し様子を見る」「我慢する」との答えが多い。

うつ病チェックを5つの項目で聞いて見たところ5つの項目についていずれかの項目に該当すると回答しているのは全体の36.7%と約4割となる。そのうち複数の項目が該当する回答した方は17.4%。特に女性に多く中でも20歳代で31.5%、30歳代で26.6%と若い層に多くなった。

個別項目で「はい」と回答した割合は「毎日の生活に充実感がない」が14.5%、「これまで楽しんでやれたことが、楽しめなくなった」が8.3%、「以前は楽に出来ていたことが、今ではおっくうに感じられる」が19.3%、「自分は役に立つ人間だとは思えない」が9.1%、「わけもなく疲れたような感じがする」が19.4%という結果となった。「毎日の生活に充実感がない」「わけもなく疲れたような感じがする」で若いほど「はい」との回答が多くなっており、「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる」は50歳代から増え始める。

平成19年度調査と比べると5つのすべてで「はい」の回答が減少している。これまでに自殺を考えた事がある方は「はい」が多くなっている。

【結果】

1. うつ病のサインに気づいたときに、「精神科等への受診をすすめる」「誰かに相談することをすすめる」が多いが、男性は「もう少し様子を見る」が多くなっている。
2. これまでに自殺を考えたことがある方はない方より、うつ病のサインに気づいたときに、「もう少し様子を見る」「我慢する」が多くなっている。

V. 自殺に関する意識について

今までに本気で自殺を考えたことがあるか尋ねたところ、「自殺をしたいと思ったことがある」との回答は16.0%となっている。性別で見ると、男性が「ある」が13.2%に対して、女性は18.4%と女性が高く、年齢別では30歳代が20.9%で最も高く、次に20歳代の18.7%、50歳代が18.3%と続いている。圏域別で見ると中部圏域が19%で最も高く、北部圏域(17.3%)、南部圏域(15.5%)、那覇圏域(13.4%)と続いている。

性別・年齢別で見ると女性は30代が26.8%、20歳代が24.1%となっており、20代30代女性の約4人に1人が「自殺を考えたことがある」ことになる。男性は50代が一番高く17.2%となっている。全国調査と比較すると沖縄は「自殺したいと思ったことがある」は全国より低くなっている。

過去に自殺を考えたことがある方に、最近1年以内に自殺したいと思ったか尋ねたところ、22.6%が「はい」と回答。性別では男性が27.7%、女性が20.0%となっている。年齢別では20歳代が36.0%と3人に1人となりかなり高い数値となっている。30歳代以上は年代が上がるにつれて少なくなっている。圏域別で見ると北部圏域29.9%、中部圏域27.7%、南部圏域22.7%、那覇圏域15.2%となる。性別・年齢別で見ると男性は20歳代が56.0%、30歳代が35.7%、40歳代が33.1%と高くなっている。全国調査では22.7%となっており、ほぼ同じとなっている。

自殺したいとの思いをどのように乗り越えたかを尋ねると、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が41.5%で最も多く、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」(36.2%)、「できるだけ休養をとるようにした」(24.9%)、「医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した」(9.4%)と続いている。性別では「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が男性で多く、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」、「できるだけ休養をとるようにした」は女性が男性より多くなっている。

年齢別で見ると、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」は20代から40代の若い層が多く、50歳代以上は急減する。

自分の周りに自殺した方がいるか尋ねると「いない」が57.1%であった。不明回答が9.8%あるのでこれを除いて考えると、約3割の方が身近に自殺した方がいると推測される。具体的には「同居の家族、親族以外の親族」が13.3%、「友人」が10.7%、「職場関係」が5.5%となっている。性別でみてもほぼ同様の傾向である。年齢別で見ると50歳代で身近に自殺した方が多くなっている。圏域別ではあまり違いはない。全国調査でもほぼ同様な結果となっており、全国との違いは見られない。

身の回りで自殺未遂をした方がいるかどうかについては「いない」が75.3%で、不明回答13.1%を除いて考えると、残りの約1割の方が身近に自殺未遂をした方がいると推測される。これは、前問における身の回りで自殺した方が「いる」との回答、約3割と比べて低くなっている。

身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときにどう対応するか尋ねたところ、「ひたすら耳を傾けて聞く」が最も高く34.1%、次に「『医師など専門家に相談した方が良い』と提案する」14.1%、「『死んではいけない』と説得する」12.7%、「『死にたいくらい辛いんだね』と共感を示す」10.7%の順となっている。性別では「ひたすら耳を傾けて聞く」は女性が多く、「『死んではいけない』と説得する」は男性が多い。年齢別では「ひたすら耳を傾けて聞く」は若いほど高く、「『医師など専門家に相談した方が良い』と提案する」は年代が高いほど多くなる傾向にある。

圏域別での違いは特に見られない。全国調査と比較すると沖縄は「『医師など専門家に相談した方が良い』と提案する」が高めになっている。

これまでに自殺を考えたことがある方は「ひたすら耳を傾けて聞く」「死にたいくらい辛いんだねと共感を示す」がない方に比べて高い。

【結果】

1. 今まで本気で自殺したいと思ったことがある方が16%おり、男性は50代、女性は20～30代が高い。
2. どのようにして乗り越えたかの回答では、「趣味や仕事で気を紛らわせた」「身近な人に話を聞いてもらった」が多いが、心の健康等の専門機関への相談は少ない。
3. 身近な人から死にたいと打ち明けられた時に、「ひたすら話を聞く」が一番多く、女性は次に「専門家へ相談をすすめる」となっており、男性は「死んではいけない」と説得する割合が高い。
4. これまで自殺を考えたことがある方は「ひたすら話を聞く」「死にたいくらい辛いんだねと共感を示す」が高くなっている。

VI.相談窓口について

自殺や自殺未遂の相談窓口の認知を尋ねたところ、最も知られていたのは「沖縄いのちの電話」で48.3%と半数の方に認知されている。「総合精神保健センター」(13.5%)、「保健所」(13.5%)、「市町村」(16.6%)は1割台となっている。

相談窓口の中で最も認知率が高い「沖縄いのちの電話」を見ると、性別では男性42.4%、女性53.5%と女性の認知がより高くなっている。年代別では60歳代が63.5%、50歳代も54.9%と高くなっている。圏域別では那覇圏域が高くなっており、宮古圏域と八重山圏域は本島に比べ

認知率は低くなっている。これまでに自殺を考えたことがある方の認知は6割と高くなっている。

総合精神保健福祉センターにおいて開かれている自死遺族支援策の「自死遺族の分かち合いの会」についての認知を聞いたところ、「はい」4.9%でほとんど知られていない。性別での差はほぼ見られない。圏域別でみると、八重山圏域、那覇圏域が高くなっている。

次に悩みやトラブルの内容毎に相談窓口が設置されていること知っているかを尋ねたところ、最も認知されていたのは「多重債務、ヤミ金融機関」で46.1%であった。以下、「いじめ」41.6%、「配偶者暴力、虐待」39.8%、「子育て」31.3%、「介護」30.4%、「悪徳商法」28.9%、「セクハラ」26.2%、「失業」25.3%などが続く。性別で見ると、男性は「多重債務、ヤミ金融機関」がトップ、女性は「配偶者暴力、虐待」がトップとなっている。年齢別で見ると、「多重債務、ヤミ金融機関」は50歳代が多く、「いじめ」は20歳代から50歳代、「配偶者暴力、虐待」では40歳代、50歳代、「介護」は年齢が高くなるに従い多くなるなど、年齢毎の特徴が見られる。

職場における悩みの相談窓口の設置環境などを聞いたところ、「職場での相談窓口がある」と回答したのは12.9%、「職場で相談したことがある」は3.3%、「職場に産業医がいる」は9.3%、「職場に衛生管理者がいる」は8.4%であった。

自分のかかりつけ医が「いる」と回答したのは36.7%で3人に1人である。性別では男性で32.8%、女性で40.1%と女性で多くなっている。年齢別で見ると、20歳代の14.1%から70歳代の60.1%まで、年代が高くなるほどかかりつけ医が「いる」との回答が増える。かかりつけ医がいる方の診療科目は「内科」に集中しており76.0%となっている。

かかりつけ医に悩みやストレスを相談するか尋ねたところ、「相談する」は32.3%、「おそらく相談する」が24.1%で合わせて56.3%が『相談する』と回答している。性別では『相談する』は男性55.4%、女性は57.3%でやや女性が多い。年齢別で見ると、『相談する』は年齢が上がるにつれて高くなり、70歳代では65.1%となる。

どのような相談窓口があればいいかについては、「無料相談窓口」が57.3%で最も多く、次いで「各専門家による相談窓口」49.8%、「電話相談」32.5%、「同じ悩みや不安を抱える人たちの集まり」21.9%、「インターネット上での相談」15.8%、「訪問による相談」14.3%と続く。性別では差は見られないが、年代別では若いほど「無料相談窓口」や「インターネット上での相談」が多くなっている。

自殺対策は社会的な取組として必要か尋ねると63.1%が「必要がある」と回答。「必要ない」は2%と少ないが、「わからない」という判断保留も23.3%と2割を超えている。性別ではあまり違いはない。年代別でも20歳代から60歳代まで6割以上が「必要」と回答している。圏域別では那覇市で最も「必要」との回答が多く73.3%となった。次いで多いのは南部圏域の65.7%、中部圏域の62.9%と続いている。性別・年代別で見ると40代男性が最も「必要」が多く73.1%と7割を超えている。

【結果】

1. 相談窓口の認知として「いのちの電話」は高いが、「保健所」、「総合精神保健福祉センター」、「市町村」は低い。
2. 「自死遺族の会」の認知が低い。
3. 相談窓口として「多重債務・ヤミ金」「いじめ」「配偶者暴力」等の認知は4割と高い。
4. かかりつけ医に悩みやストレスを相談すると答えた方は56.3%となっている。
5. 相談窓口として「無料相談」「専門家による相談」「電話相談」の必要性が高い。

VII.自殺対策・予防について

日常的なメディアの接触状況としては「テレビ」への接触が最も多く「ほぼ毎日」が7割を占める。以下「新聞」の「毎日」が43.8%、「インターネット」の「毎日」が31.6%、「ラジオ」の「毎日」が28.9%となる。「新聞」は40歳代以上で「毎日」が急増する。「テレビ」は30歳代から50歳代で7割を超え、「ラジオ」は50歳代で多い。「インターネット」は若いほど多く20歳代で59.4%、30歳代で56.2%が「毎日」接触しており、年代差が大きいのが特徴的である。

各メディアでの自殺関連の報道への接触状況は「ほぼ毎日」「週に1～2回程度」「月に1～2回程度」を合わせた『接触率』は新聞26.9%、テレビ38.3%、ラジオ14.3%、インターネット15.5%、ポスター13.4%、パンフレット・チラシ等9.8%となった。

沖縄県の自殺対策についての広告の接触率を聞くと、「テレビ」が最も多く28.3%、次いで「ポスター」24.2%、「新聞」24.2%、「ラジオ」10.4%、「インターネット」6.4%となった。

今までに自殺対策に関する講演会や講習会に参加したことがあるのは2.0%とわずかである。性別、年代別、圏域別で際立った違いは無かった。

ゲートキーパーについての認知度では「詳しい内容まで知っている」が2.0%、「大体的内容を知っている」が6.4%で合わせて『おおよそ理解している』人は8.4%にとどまる。それに「聞いたことがある」の23.8%を加えた『認知率』は32.2%と約3割となる。性別での差はほぼない。年代別では『認知率』は20歳代で48.5%、30歳代で43.2%、40歳代で45.3%と40歳代までは4割を超える。圏域別では那覇圏域が最も認知率が高く36.4%である。

自殺対策についてのPR活動については「自殺をよく知ってもらうためには必要」が66.1%と6割以上が「必要」と回答している。性別でも男性67.4%、女性65.1%が「必要」と回答しており、男女差はなく必要性を感じている。年代別では40歳代、50歳代、60歳代で7割が「必要」と回答している。

自殺対策が「必要」と回答した方にその理由を尋ねたところ、最も多くなったのは「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」が41.1%で最も多く、次に「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」が29.3%、「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」が9.7%、「自殺者を減らす取組は社会を良い方向に変えることができるから」9.7%と続いている。性別では大きな差は見られない。年代別でみると「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」が20代34.4%から年代が上がるにつれ多くなり、60歳代では52.2%となる。

【結果】

1. ゲートキーパーの認知度は約3割となっているが、理解度は1割にも満たない
2. 自殺対策に関するPR活動、社会的な取組に対する必要性が高い。

VIII.総括

本意識調査は、今後の自殺対策施策の推進の参考とするため、自殺に対する県民の様々な意識を浮き彫りにするものであるが、従来から言われているとおり、自殺者数の多い男性に関わる自殺対策を取り巻く厳しい状況を再認識させるとともに、若年層における自殺に対する意識や理解が十分でない等の状況を明らかにするものとなった。

「本気で自殺したいと思ったことがある」経験を持つ者の割合が20～30代の女性が最も高く、「最近1年以内で自殺したいと思ったことがある」者の割合では、20～30代の男性が最も高くなっている。一方で、自殺の現状に対する認知度や自殺に関する理解度は20～30代が最も低くなっている。

「本気で自殺したいと思ったことがある」方は、男性は「趣味や仕事で気を紛らわせた」女性は「身近な人に悩みを聞いてもらった」ことで乗り越えた方が多い。

また、県民の約6割は何らかのストレスを感じている中で、誰かに相談したり助けを求めることにためらいを感じている方が約3割おり、男性は相談相手がいないとの回答も多く、お酒を飲んでストレスを解消するが一番多くなっている。なお、自殺直前の飲酒、大量で習慣的な飲酒及びアルコール依存症が自殺の危険性を高めると言われている。これらのことから、悩みを抱えたときに、誰かに相談することにためらいを感じ、一人で苦悩する姿が浮かび上がってくる。

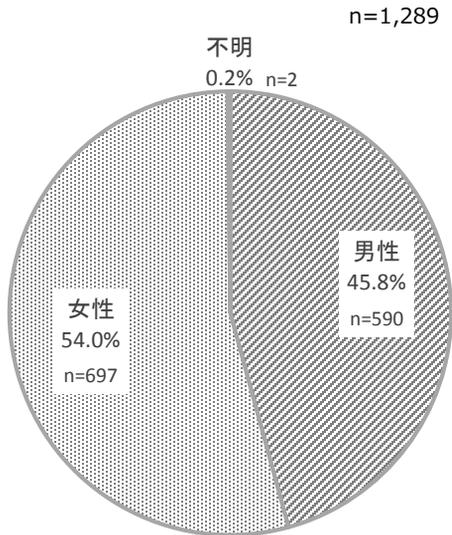
悩みや相談については、身近な人から死にたいと打ち明けられた時に、「ひたすら話を聞く」、「専門家へ相談をすすめる」が多くなっており、相談を受けたときの一般的な対応としては適当であると思われるが、その後の支援として安心情報を与えるために必要な具体的相談窓口の認知はかなり低くなっている。「自殺対策は社会的な取組として実施する必要があるか」への間に6割が必要だと回答しており、理由としては「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」となっており、当事者だけでなく家族へのケアが重要だと考えられている。

本意識調査の結果を踏まえ、今後は、自殺者数が多い男性だけでなく、自殺についての正しい認識が十分でなく、将来自殺のハイリスク者になる可能性がある若い世代についても、取組を検討することが重要である。

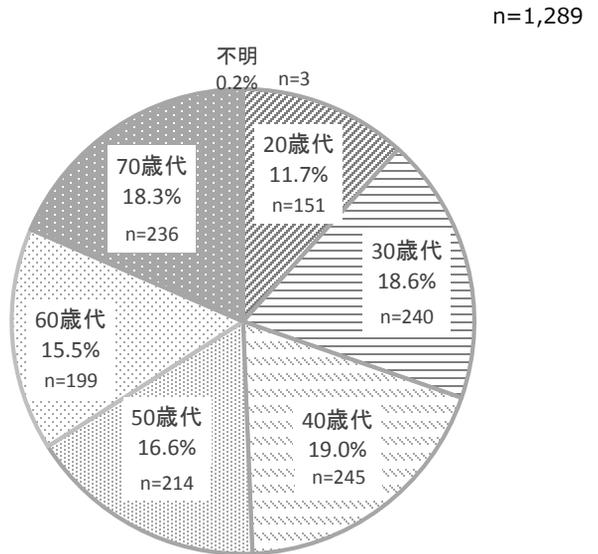
また、地域の取組を推進するため、当該調査結果を市町村へ提供し、積極的な活用を促す。

I. 回答者属性

【性別】



【年代別】



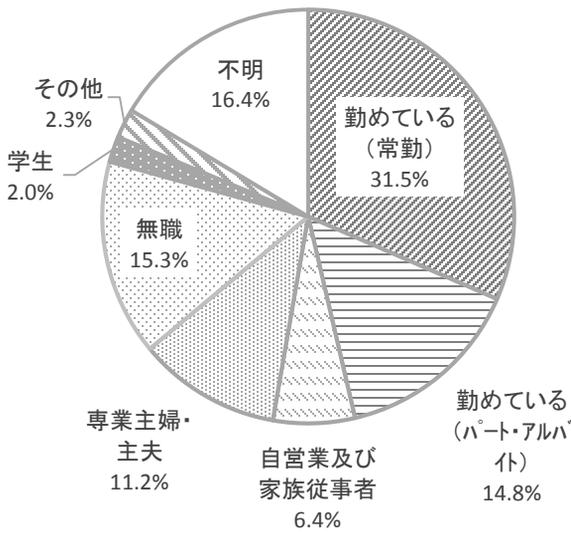
【市町村】

市町村		件数	(全体)%
圏域	市町村名		
北部圏域	小計	109	8.5
	1 名護市	63	4.9
	2 国頭村	7	0.5
	3 大宜味村	4	0.3
	4 東 村	3	0.2
	5 今婦仁村	11	0.9
	6 本部町	16	1.2
	7 伊江村	3	0.2
	8 伊平屋村	1	0.1
	9 伊是名村	1	0.1
中部圏域	小計	441	34.2
	10 うるま市	99	7.7
	11 沖縄市	111	8.6
	12 宜野湾市	94	7.3
	13 恩納村	11	0.9
	14 宜野座村	6	0.5
	15 金武町	9	0.7
	16 読谷村	40	3.1
	17 嘉手納町	13	1.0
	18 北谷町	18	1.4
	19 北中城村	22	1.7
20 中城村	18	1.4	
那覇圏域	21 那覇市	247	19.2

市町村		件数	(全体)%
圏域	市町村名		
南部圏域	小計	375	29.1
	22 浦添市	78	6.1
	23 久米島町	5	0.4
	24 渡嘉敷村	0	0.0
	25 座間味村	1	0.1
	26 粟国村	1	0.1
	27 渡名喜村	1	0.1
	28 南大東村	1	0.1
	29 北大東村	1	0.1
	30 糸満市	62	4.8
	31 南城市	40	3.1
	32 西原町	35	2.7
	33 豊見城市	65	5.0
	34 八重瀬町	28	2.2
	35 与那原町	18	1.4
	36 南風原町	39	3.0
	宮古圏域	小計	54
37 宮古島市		54	4.2
38 多良間村		0	0.0
石垣圏域	小計	63	4.9
	39 石垣市	60	4.7
	40 竹富町	2	0.2
	41 与那国町	1	0.1
地域不明		2	0.2
(地域不明除く)		1,289	100.0

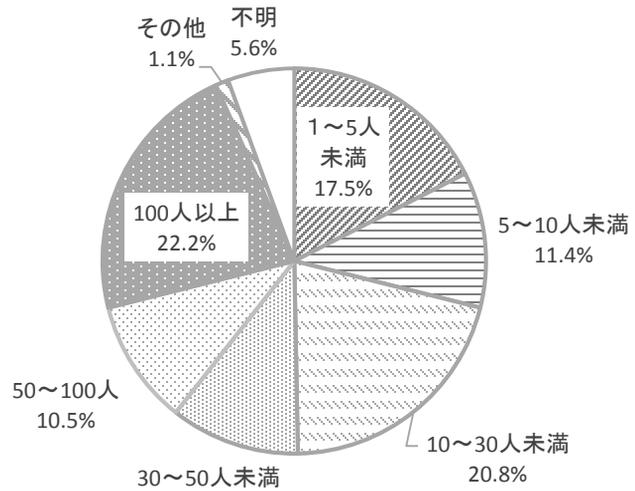
【職業】

n=1,289



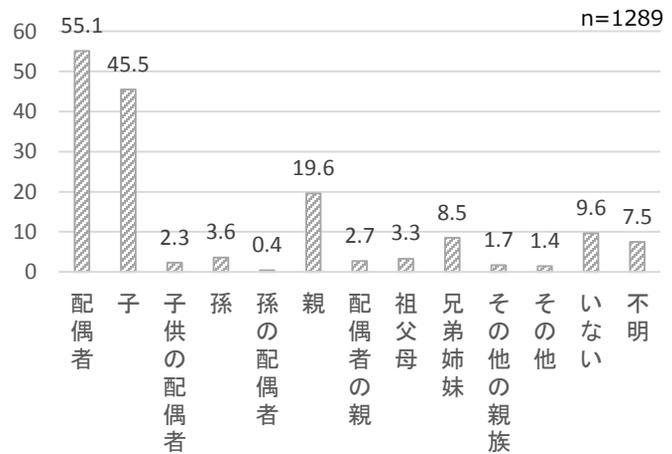
【職場の労働者数(就業者)】

n=711



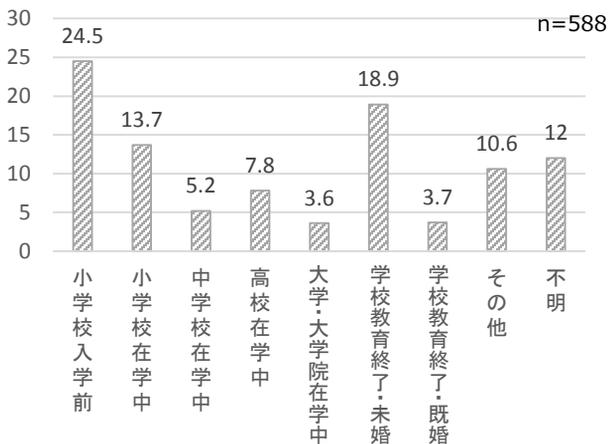
【同居家族】

カテゴリ	件数	(全体)%
配偶者	710	55.1
子	586	45.5
子供の配偶者	29	2.3
孫	46	3.6
孫の配偶者	5	0.4
親	252	19.6
配偶者の親	35	2.7
祖父母	42	3.3
兄弟姉妹	110	8.5
その他の親族	21	1.7
その他	18	1.4
いない	124	9.6
不明	96	7.5
N (%へ入)	1289	100

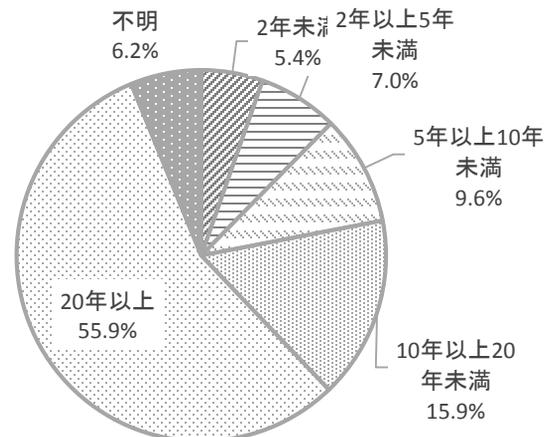


【末子の年齢(上記「子」の選択者)】

n=588



【現居住地での居住年数】



Ⅱ. 自殺についての基本認識

問7 あなたは、毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。(〇を1つ)

年間300人台で推移していた沖縄県内における自殺者数が平成24年度、25年度と300人を割っている。死因順位では全年齢では6位となっているものの、年齢階級別では20～39歳で1位、45～49歳で2位、10～19歳、40～44歳、50～59歳で3位である実態について、知っているか尋ねたところ、「よく知っていた」が14.3%、「聞いたことはあった」が34.0%、「よく知らなかった」が30.7%、「初めて知った」が16.0%となり、『知っていた』は合計48.3%とほぼ半数が認知していることがわかった。

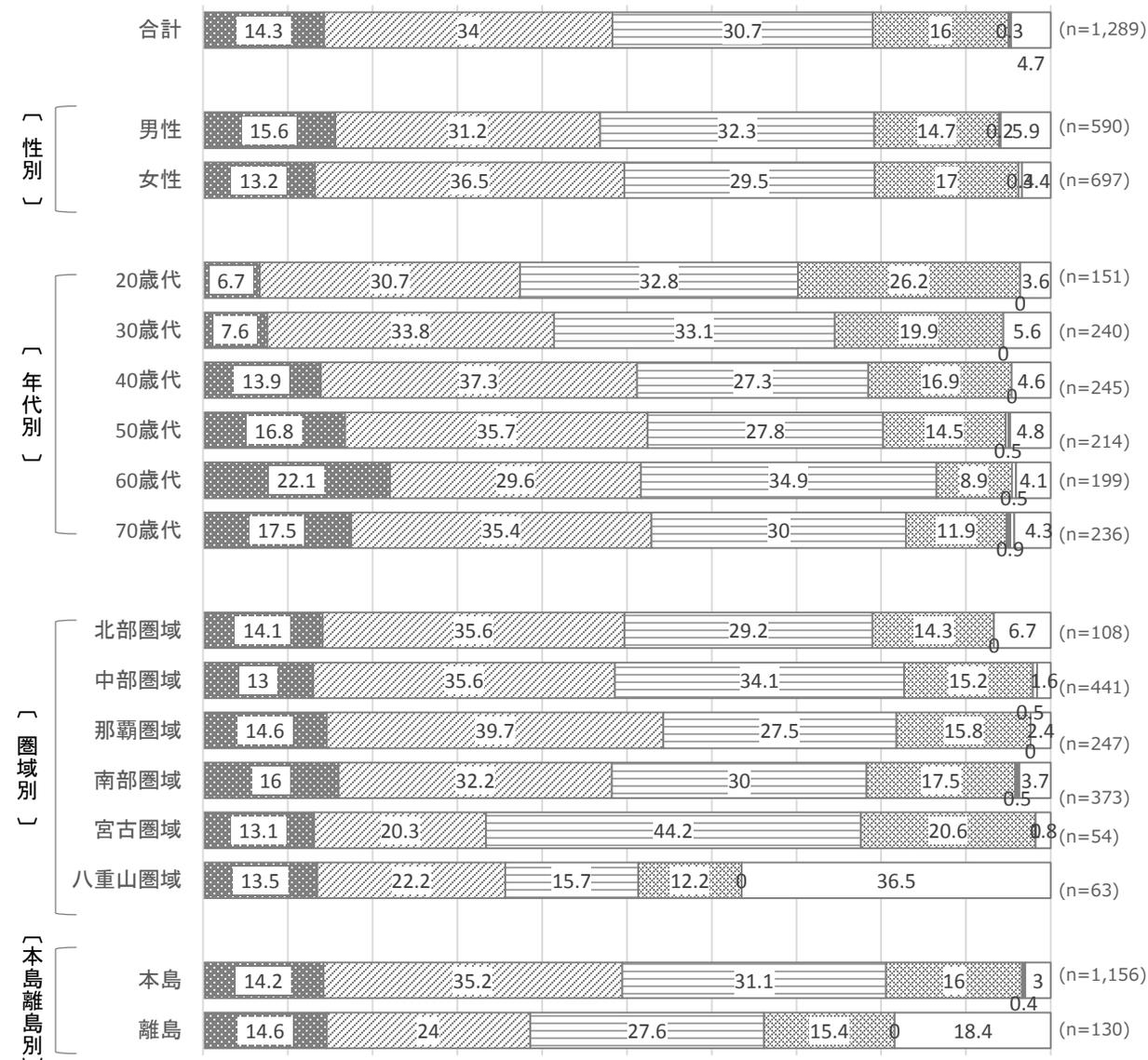
性別では男性が『知っていた』46.8%、女性49.7%とほぼ同様である。

年齢別で見ると年齢が上がるにつれて「よく知っている」が多くなる傾向があり、60代が22.1%で最も多くなる。

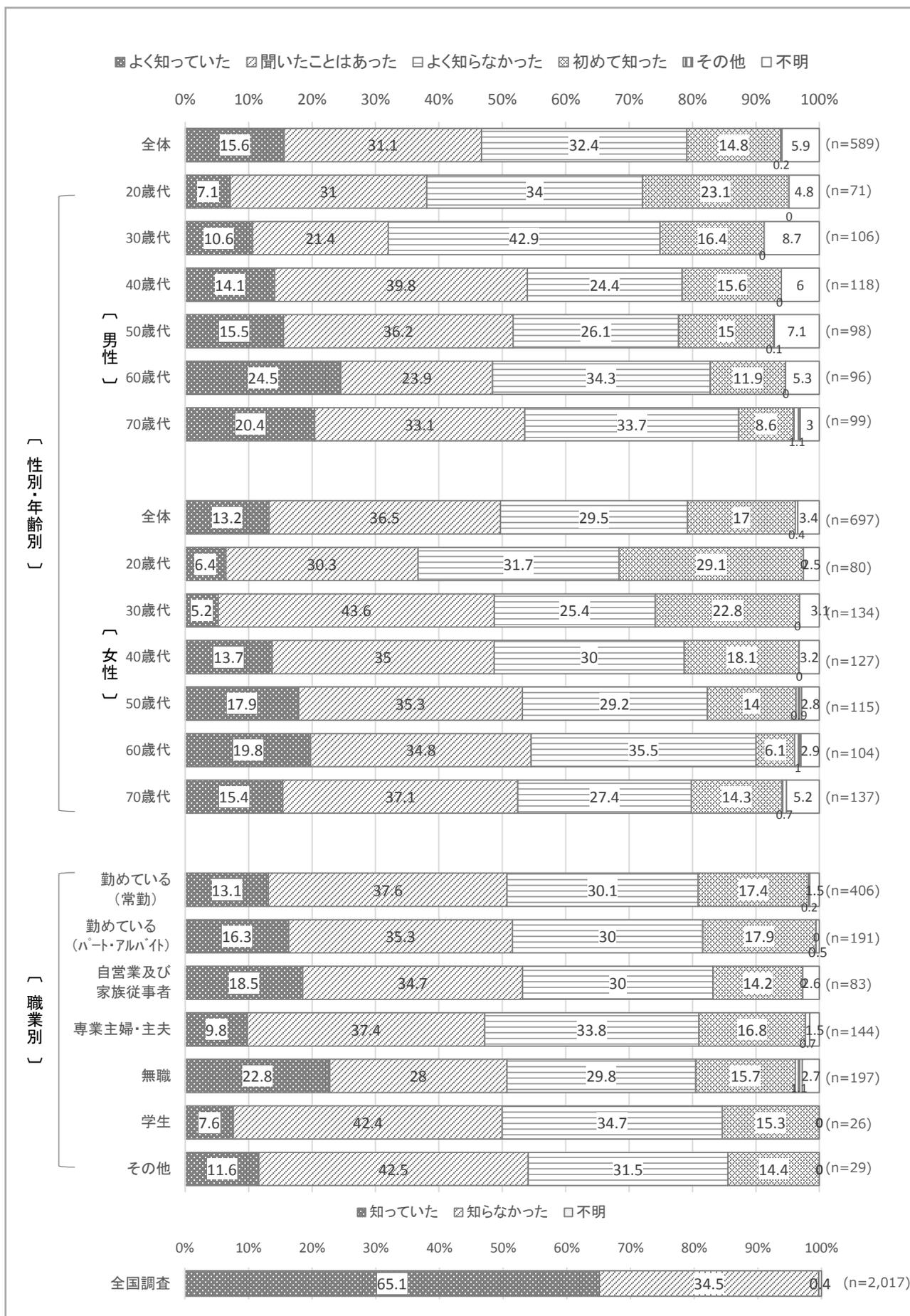
圏域別で見ると那覇圏域が54.3%で最も多く、逆に宮古圏域は33.4%、八重山圏域は35.7%とやや低い。

■よく知っていた ■聞いたことはあった ■よく知らなかった ■初めて知った ■その他 □不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



「自殺に関する意識調査（内閣府）」（以下「全国調査」）全国調査では「知っていた」が65.1%となっている。今回の調査と選択肢が違うため単純比較はできないが県民の認知はやや低めとなっている。

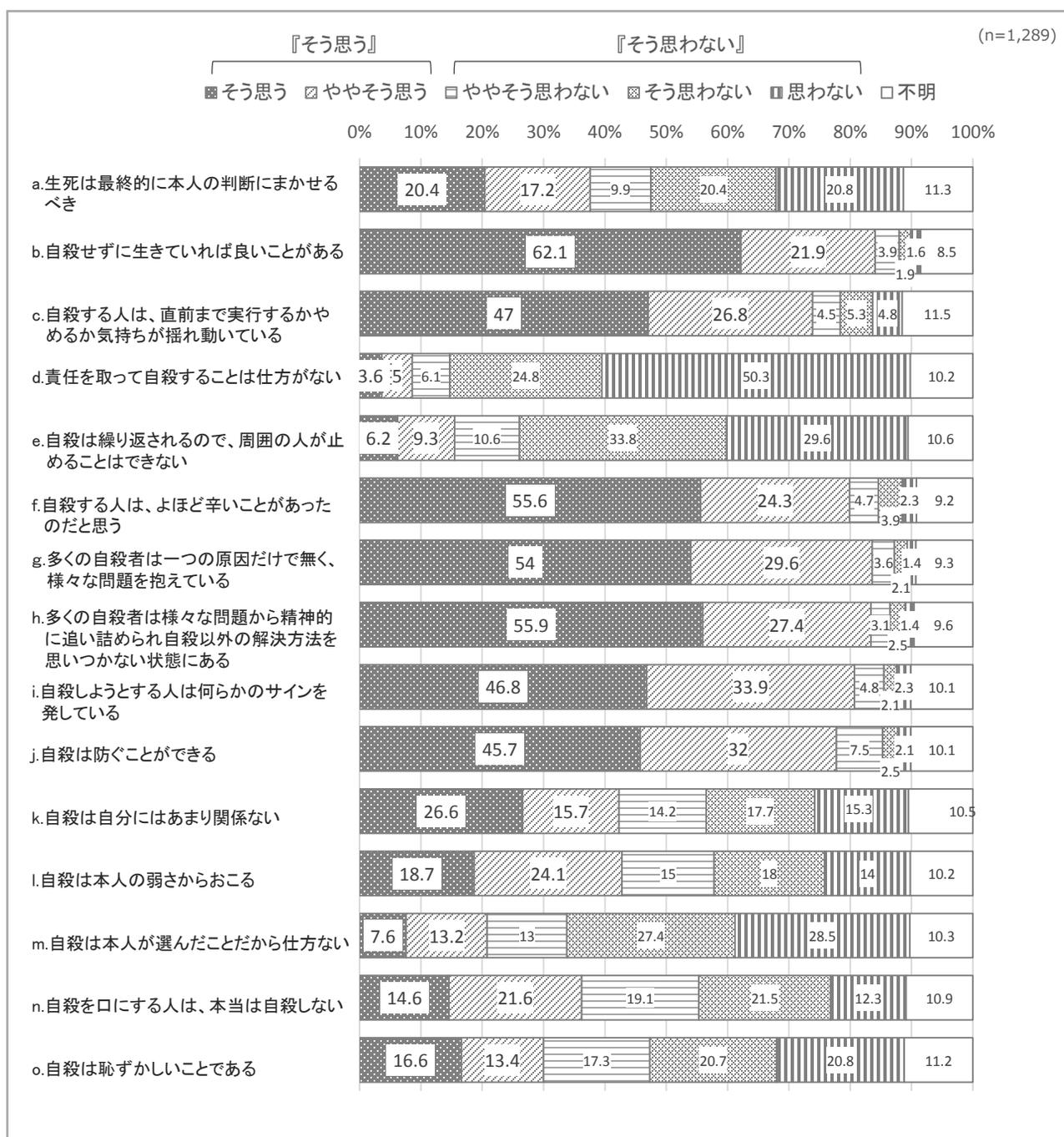


問8 あなたは、自殺についてどのように思いますか。次のaからoのそれぞれについてあなたのお考えに近いものを右の枠から選んで○をつけてください。(一つの項目に○はひとつずつ)

自殺についての15の意見についてそう思うか、思わないかを5段階で尋ねたところ以下の通りとなった。

「f. 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う」「g. 多くの自殺者は一つの原因だけでは無く様々な問題を抱えている」「h. 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ自殺以外に解決方法を思いつかない状態にある」などで「そう思う」との回答が多くなっている。

「i. 自殺しようとする人は何らかのサインを発している」「j. 自殺は防ぐことができる」も「そう思う」が約8割となっている。その一方「a. 生死は最終的に本人の判断にまかせるべき」では「そう思う」が37.6%、「そう思わない」が51.2%と意見は分かれている。



a) 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は37.6%、「ややそう思わない」「そう思わない」「思わない」を合わせた『そう思わない』は51.8%であった。

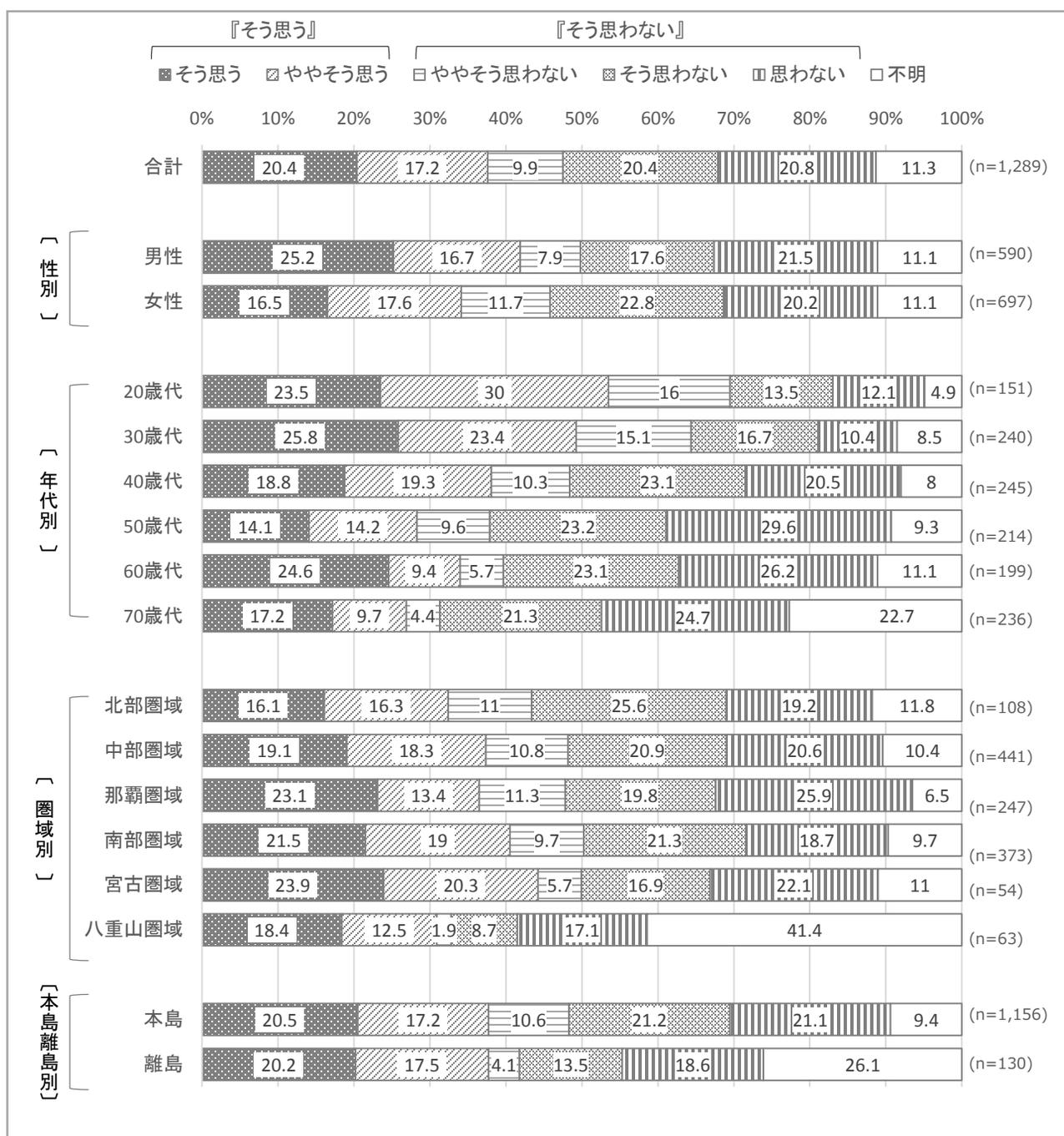
性別で見ると、男性が女性より『そう思う』が高くなっている。

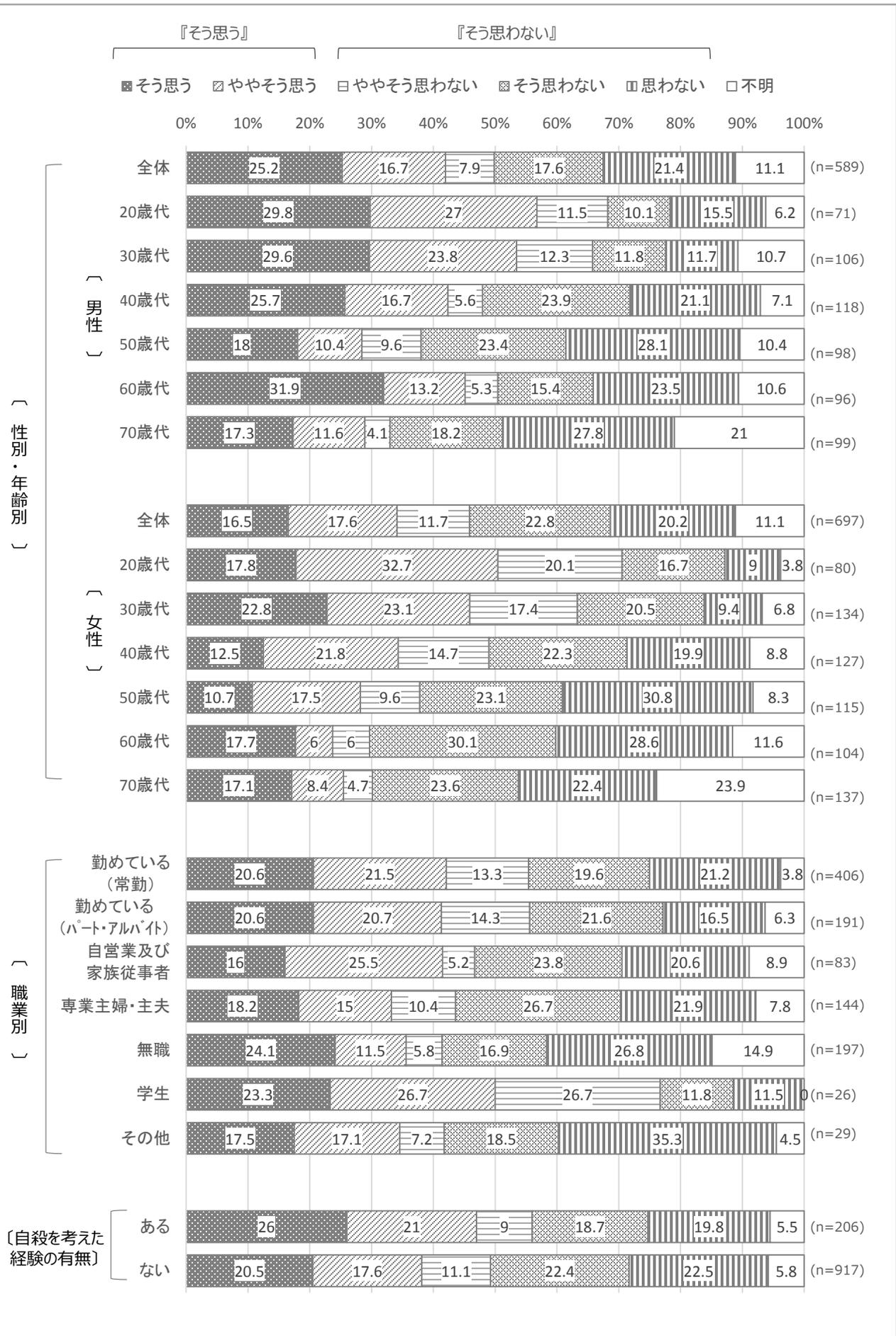
年齢別で見ると、20歳代で『そう思う』が53.5%と最も高く、若いほど高くなる傾向にある。20歳代から50歳代まで『そう思う』の割合が漸減するが、60歳代またやや高くなっている。

圏域で見ると宮古圏域で若干『そう思う』が44.2%と高めである。

性・年齢で見ると20代男性が最も『そう思う』が高く56.8%に達し、30代男性も53.4%で過半数を超えている。女性も若いほど『そう思う』が多く、20歳代の50.5%から年代が上がるに従い割合は減少し、60歳代、70歳代は2割台で20歳代の半分である。

過去に自殺を考えたことがあるかどうか(問18)でクロス集計すると、「自殺を考えたことがある」との回答者が「考えたことがない」回答者より『そう思う』の回答が多くなった。





b)自殺せずに生きていけば良いことがある

「自殺をせずに生きていけばよい事がある」に対しては『そう思う』は84.0%と8割を超えている。

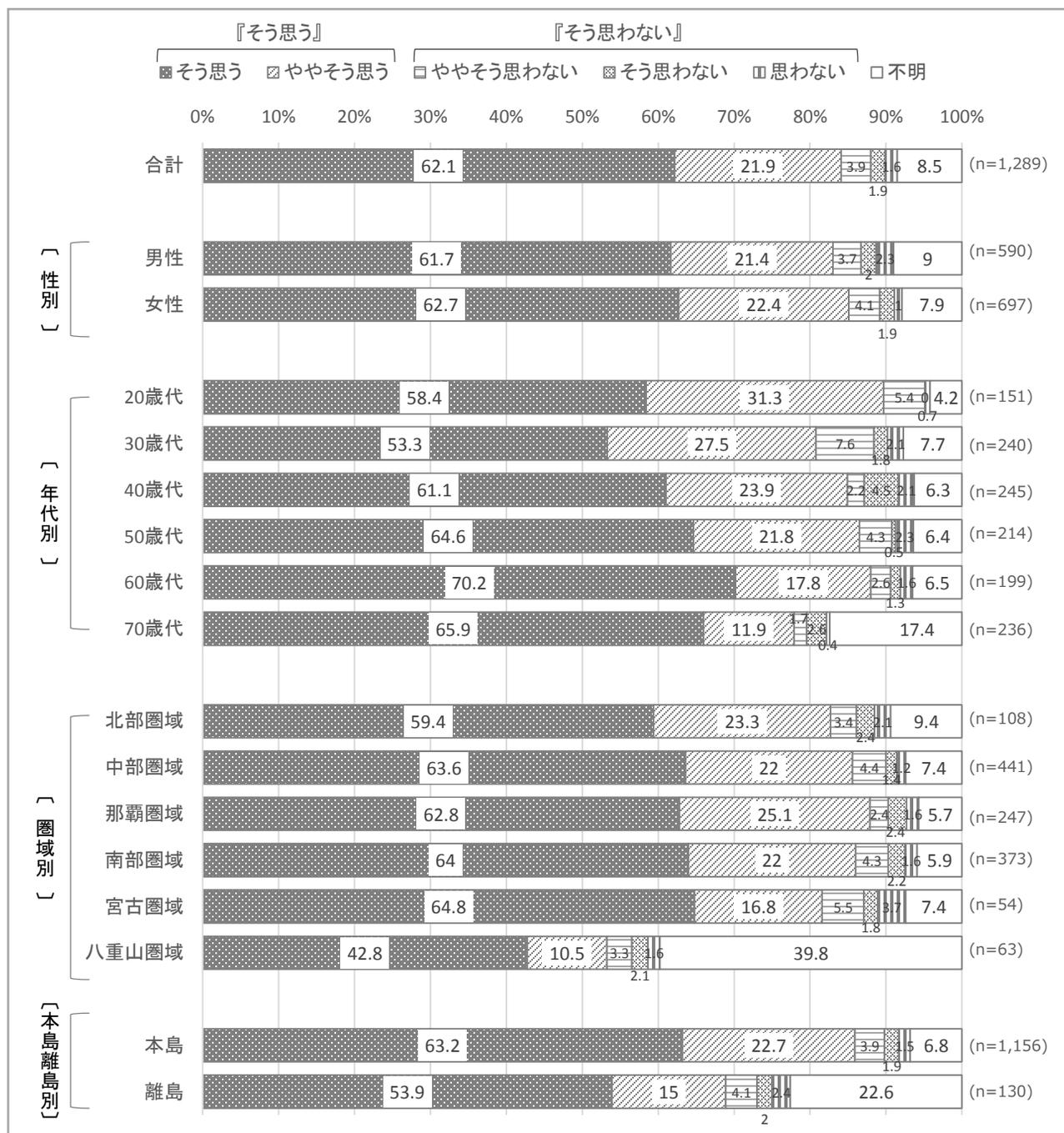
性別では男性は83.1%、女性が85.1%で差は見られない。

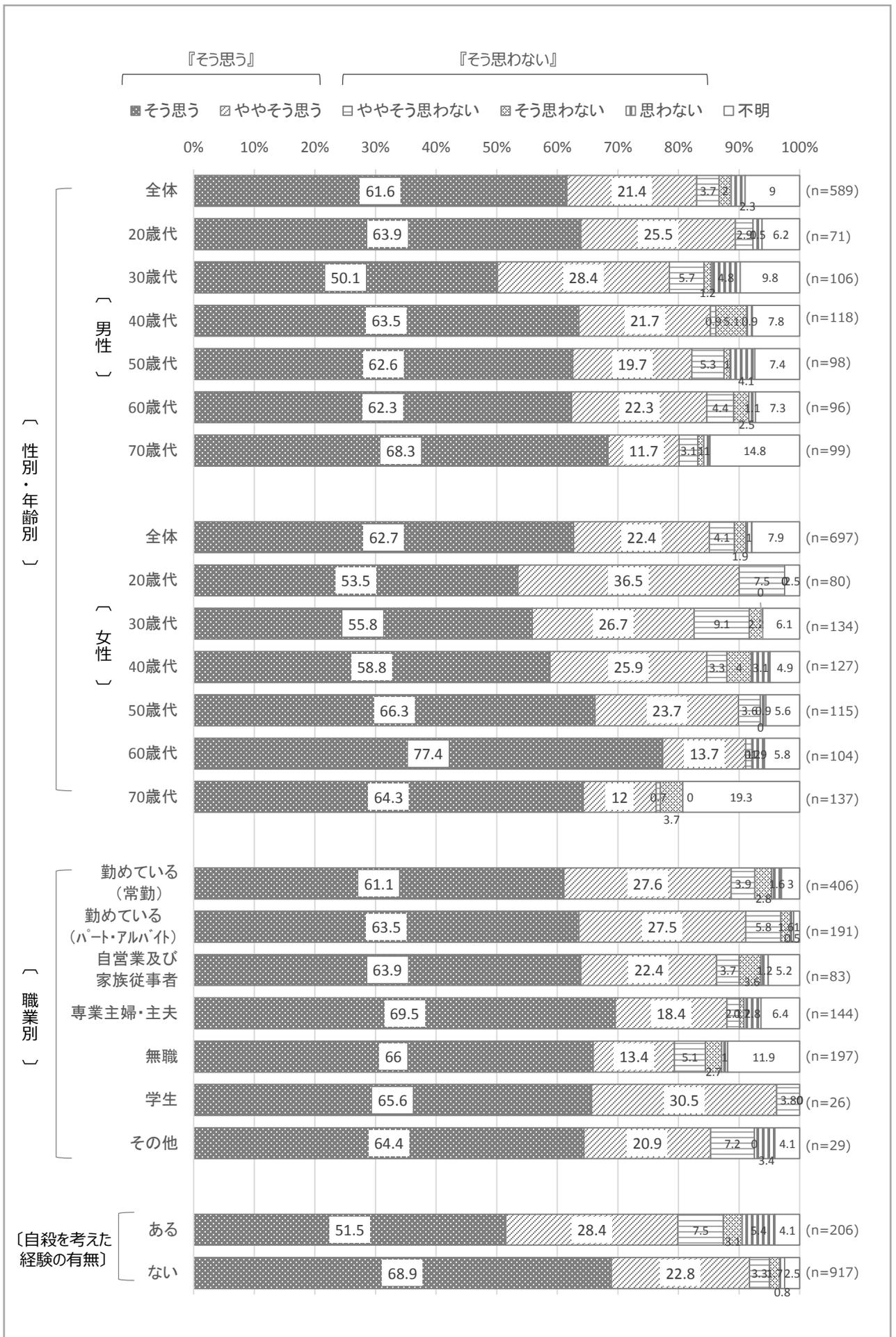
年齢別で見ると、20歳代で『そう思う』が89.7%と最も高く、30歳代で80.8%と下がるが60歳代の88.0%まで年代があがるにつれて高くなっていく。

圏域で見ると八重山圏域以外での差は見られない。八重山圏域は未回答である「不明」の割合が多くなっていることが影響している。

性・年齢別では差は少ない。

自殺を考えたことがある方は「生きていけば良いことある」について「そう思う」は51.5%、考えたことがない方は68.9%と17ポイント差が開いている。





c)自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている

自殺をする人は直前まで気持ちが揺れ動いているに『そう思う』は73.8%と約4人に3人。

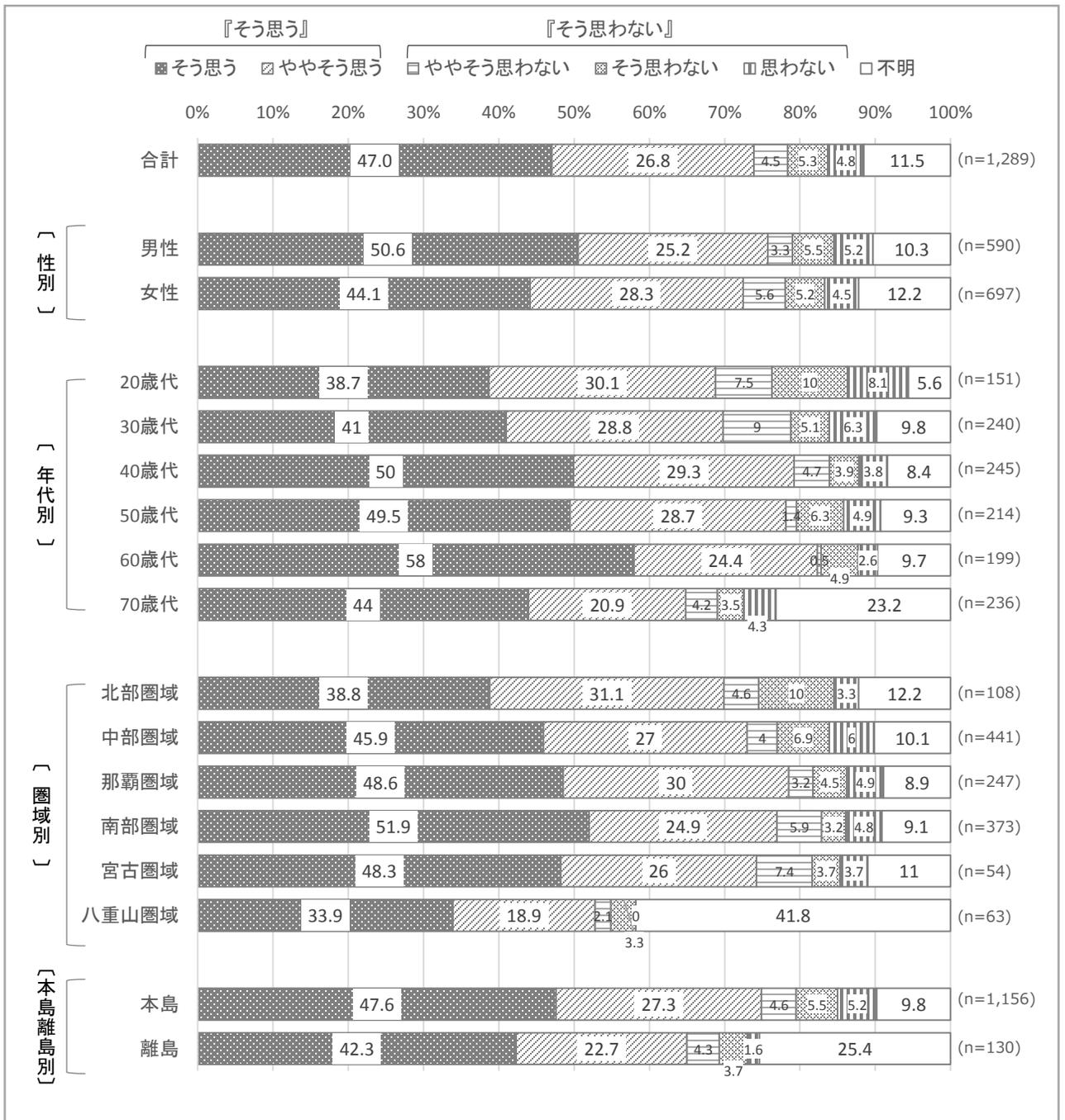
性別でいても『そう思う』は男性は75.8%、女性72.4%と差はあまりない。

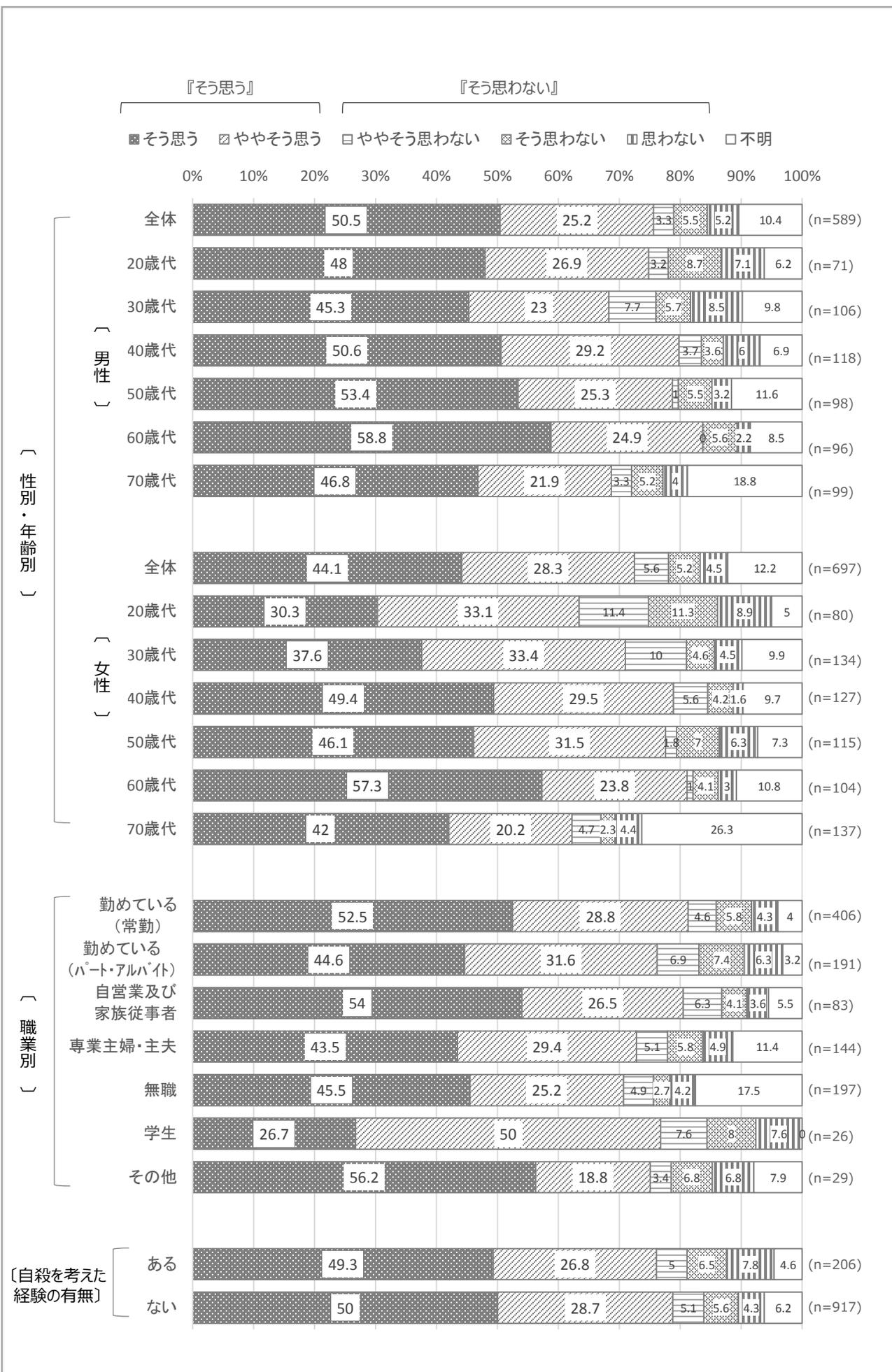
年齢別で見ると、20歳代の『そう思う』が68.9%から年代が上がるに従い高くなり、60歳代では82.4%となる。

圏域別では各圏域で『そう思う』が7割台で推移する中、八重山圏域だけが低くなっている。

性・年齢別で見ると、より意識の強い「そう思う」の回答が男性が女性より各年代とも高くなっている。

この項目では自殺を考えたことがある方も考えたことがない方も差はなかった。





d) 責任を取って自殺することは仕方がない

この意見に対しては否定回答の「ややそう思わない」「そう思わない」「思わない」を合わせた『思わない』が81.2%となった。

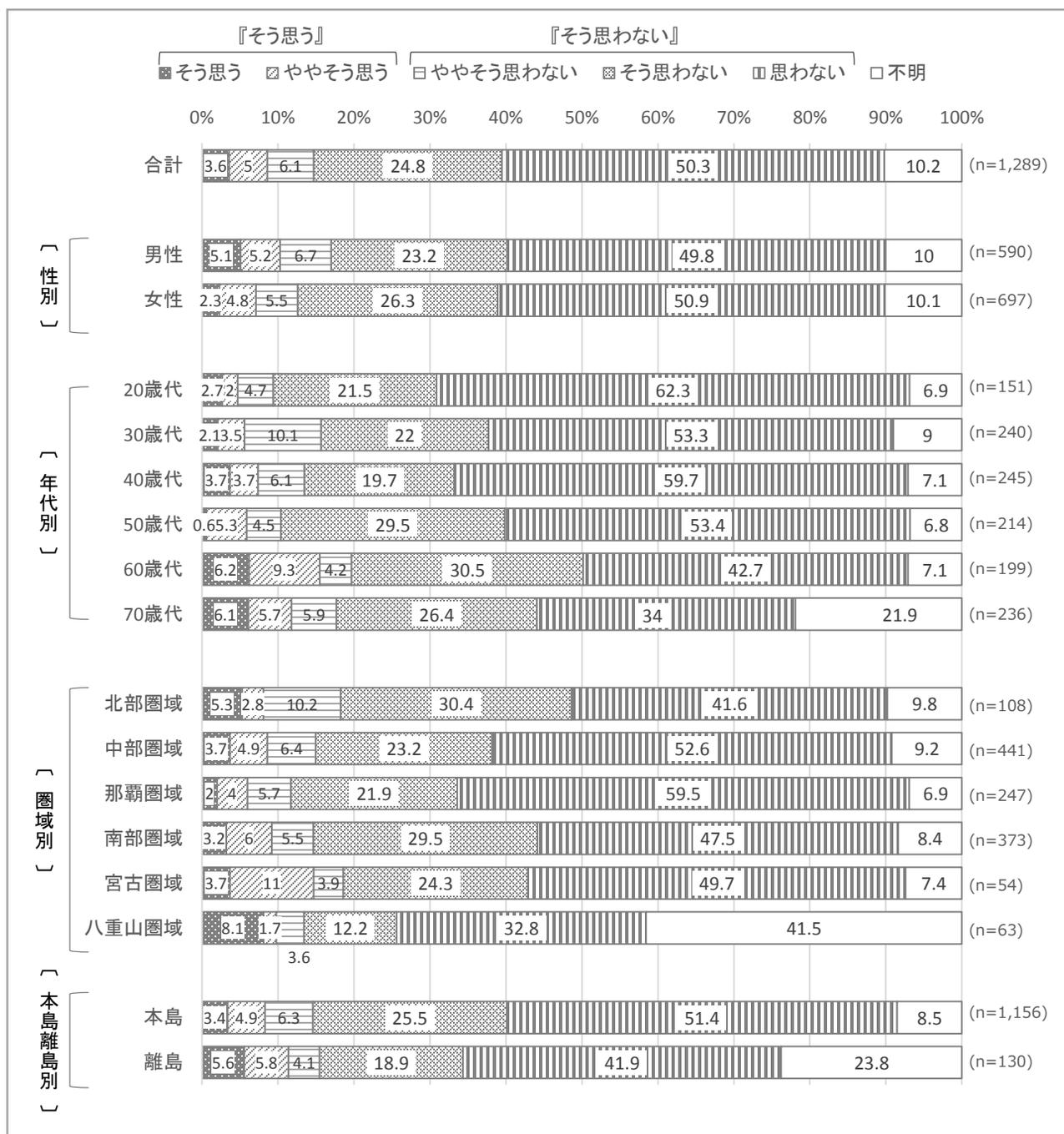
性別では男性が『そう思わない』が79.7%、女性が82.7%とやや女性の方が否定が多い。

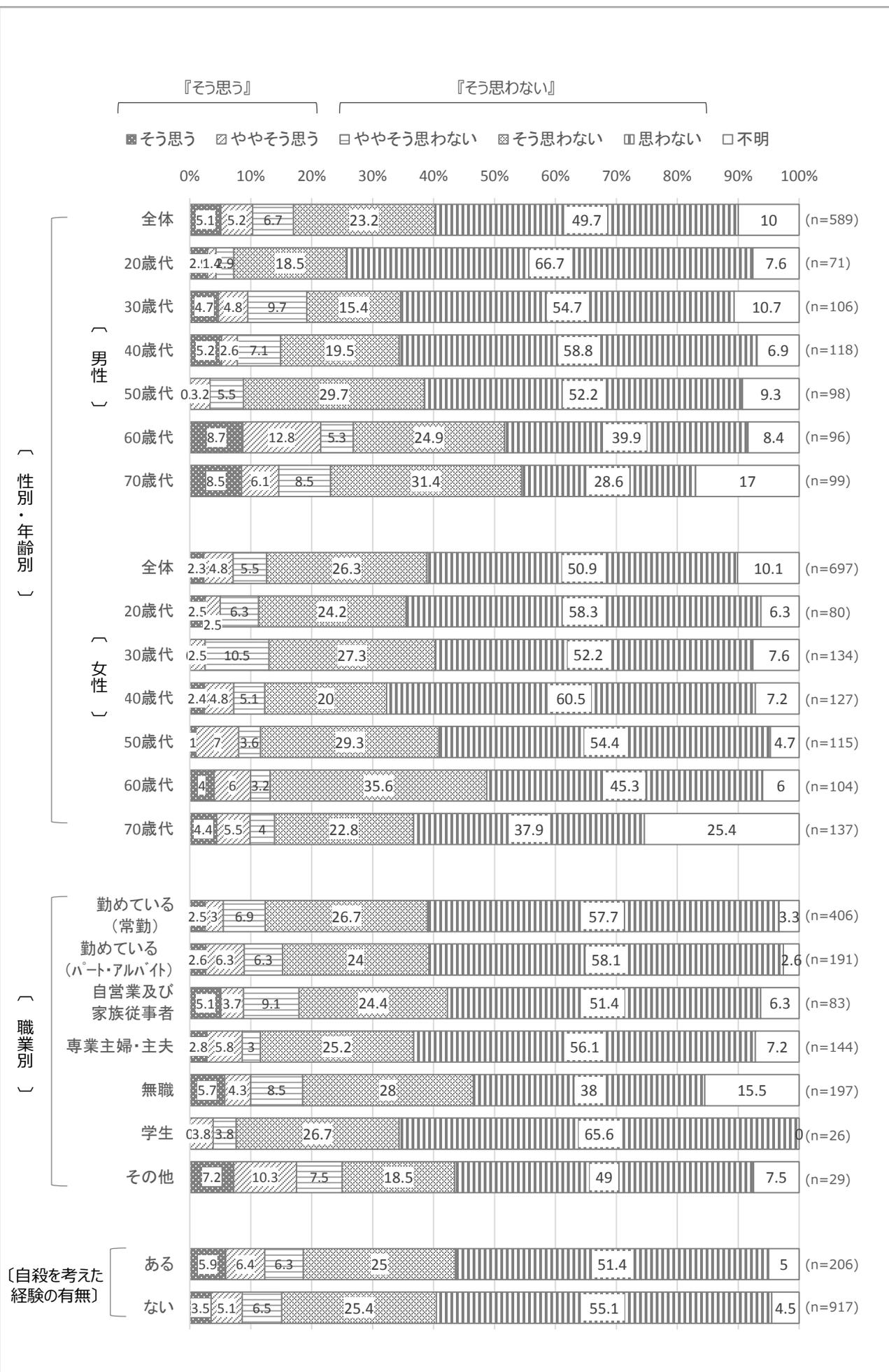
年齢別では20歳代～50歳代までは『思わない』が8割を超え、60歳代では7割、70歳代では6割台と高齢者でやや低くなる。

圏域で見ると北部圏域から南部圏域の本島の各圏域では8割が『思わない』と回答、宮古圏域では7割、八重山圏域では5割弱である。

性・年齢で見ると『そう思う』が60歳代男性21.5%、70歳代男性で14.6%と他の層に比べて高くなっている。

自殺を考えたことがある方は若干『そう思う』（責任を取って自殺することは仕方がない）が多くなっている。





e)自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

『そう思う』は15.5%、『そう思わない』は74.0%となっている。

性別で見ると、男性18.0%、女性13.3%と若干男性が『そう思う』が多い。

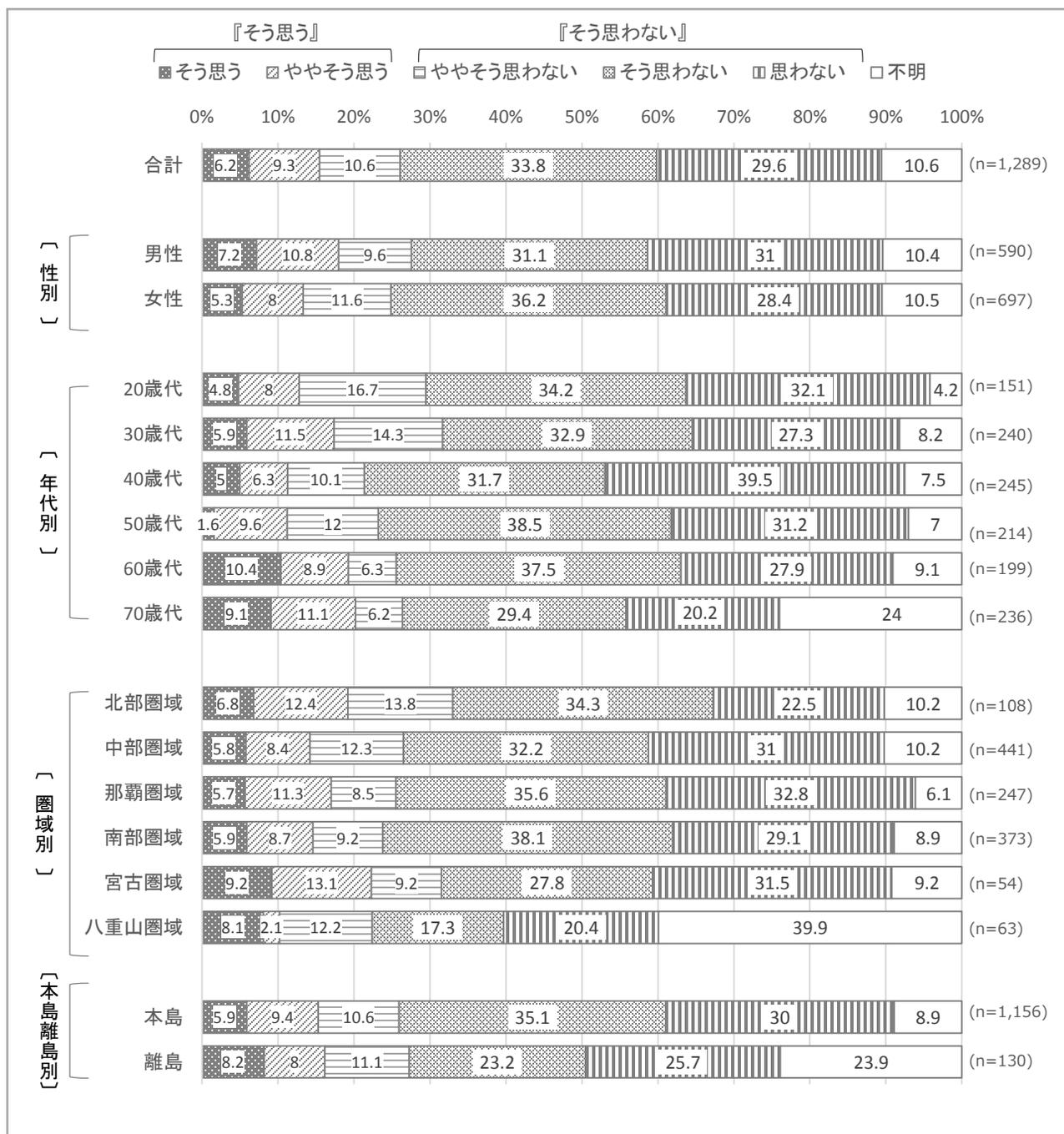
年齢別で見ると、『そう思う』が多いのは60歳代と70歳代。次いで30歳代で高くなっている。

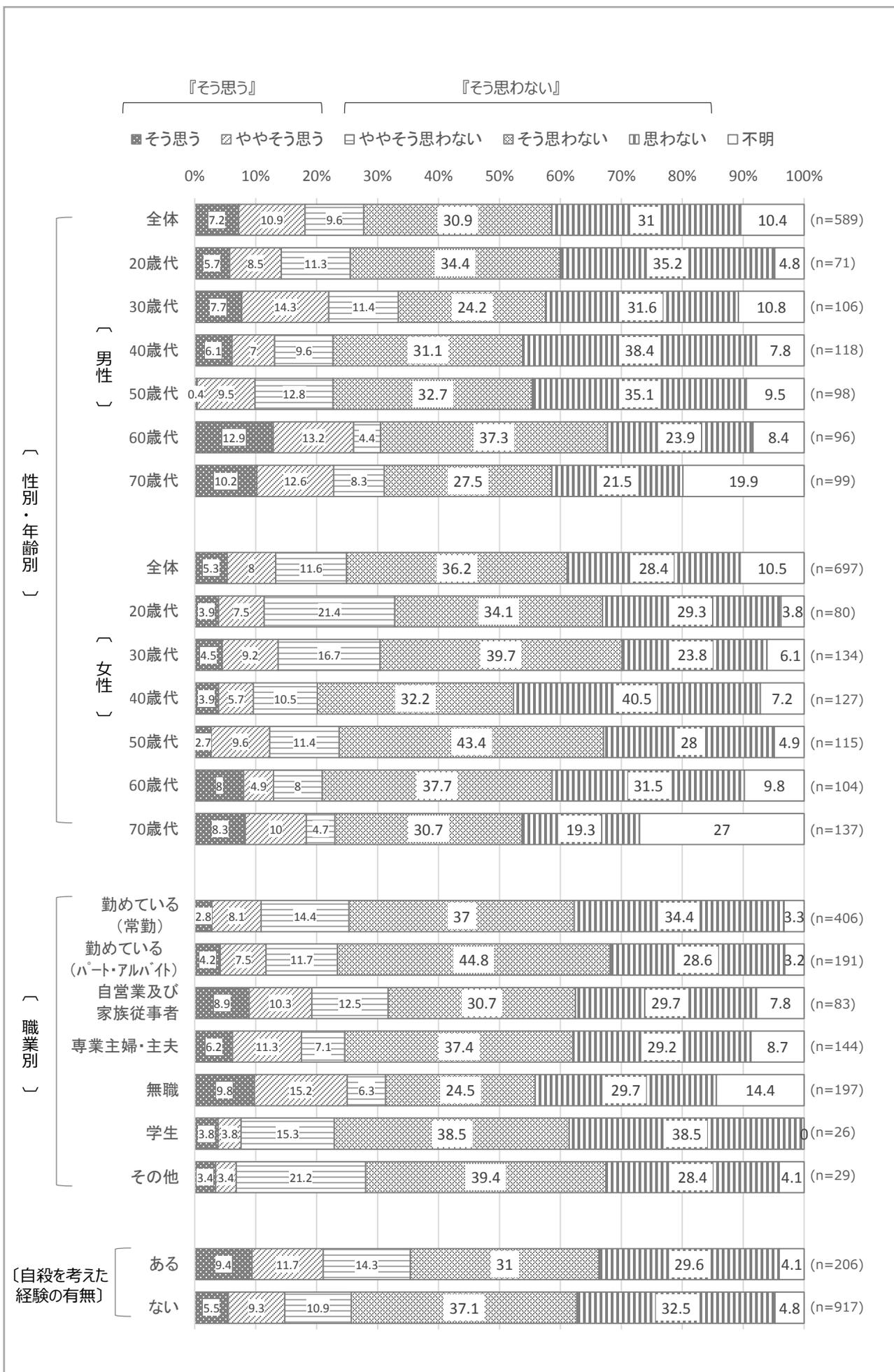
圏域では宮古圏域と北部圏域で『そう思う』がやや高い。

性別・年齢別では60歳男性、70歳代男性で『そう思う』がいずれも2割を超えており他の層より多くなった。

職業別で見ると無職が25.0%と全体より10ポイント高くなった。

自殺を考えたことがある方は20%超えて「周囲の人が止めることは出来ない」と回答している。





f) 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

この意見に対する『そう思う』は79.9%。

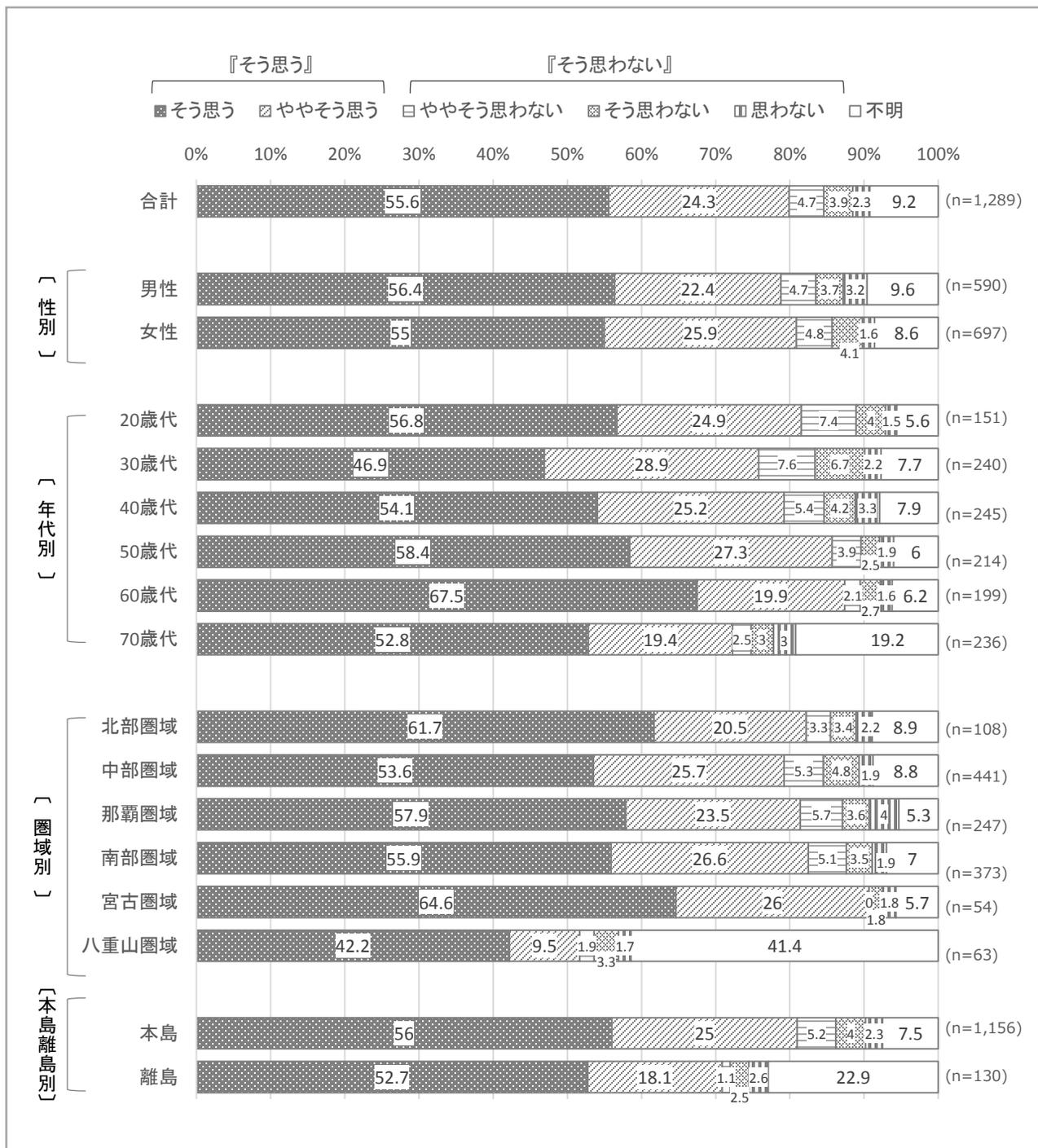
性別でも大きな差は見られない。

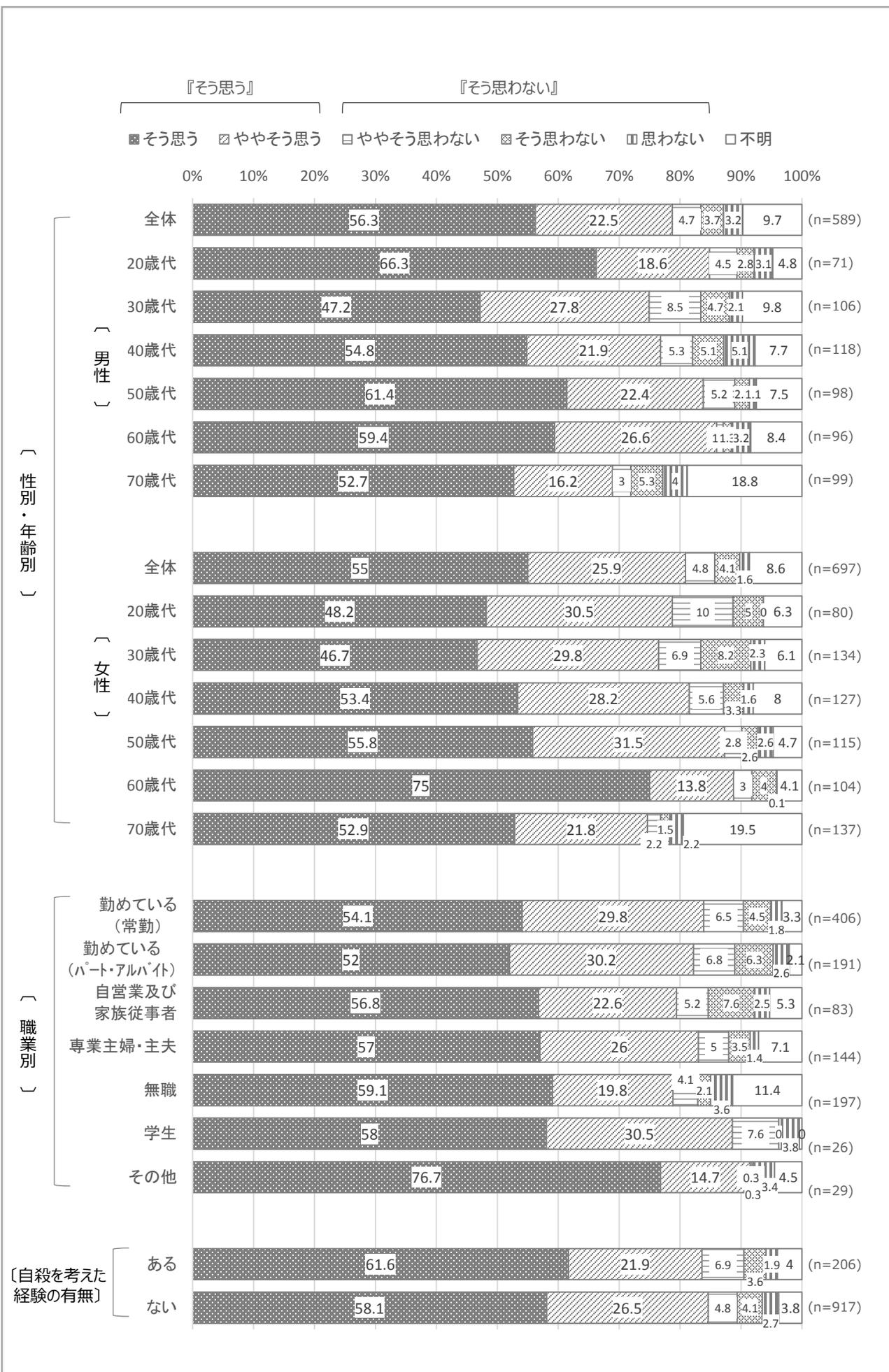
年齢別でみると『そう思う』のピークは60歳代で87.4%となる。

圏域別では宮古圏域でやや『そう思う』が90.6%と高くなっている。

性・年齢別で見ると男女とも60代で『そう思う』が最も高くなっている。

職業別での差は特に見られない。





g)多くの自殺者は一つの原因だけで無く、様々な問題を抱えている

『そう思う』は83.6%。

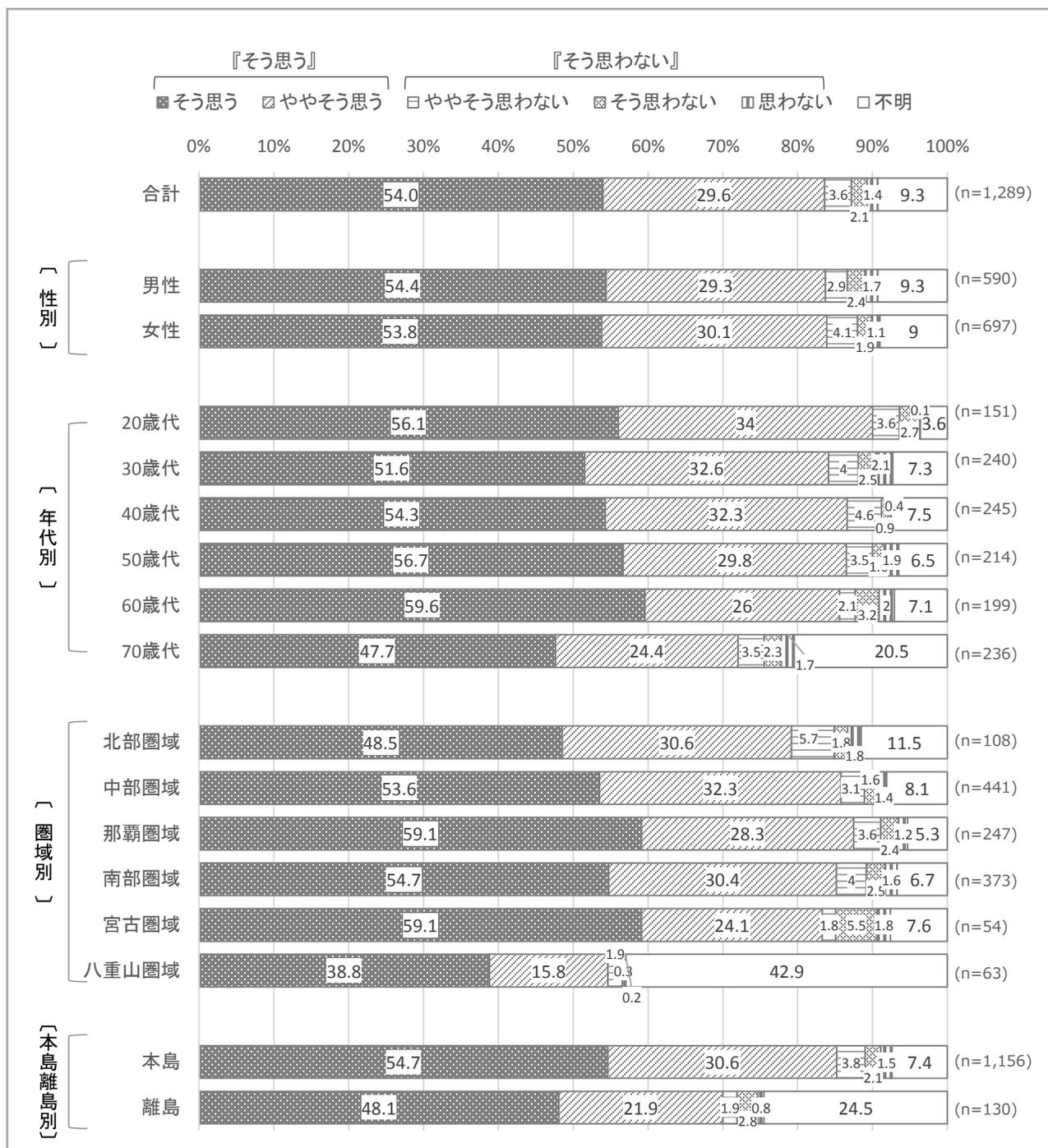
性別の差はほとんどない。

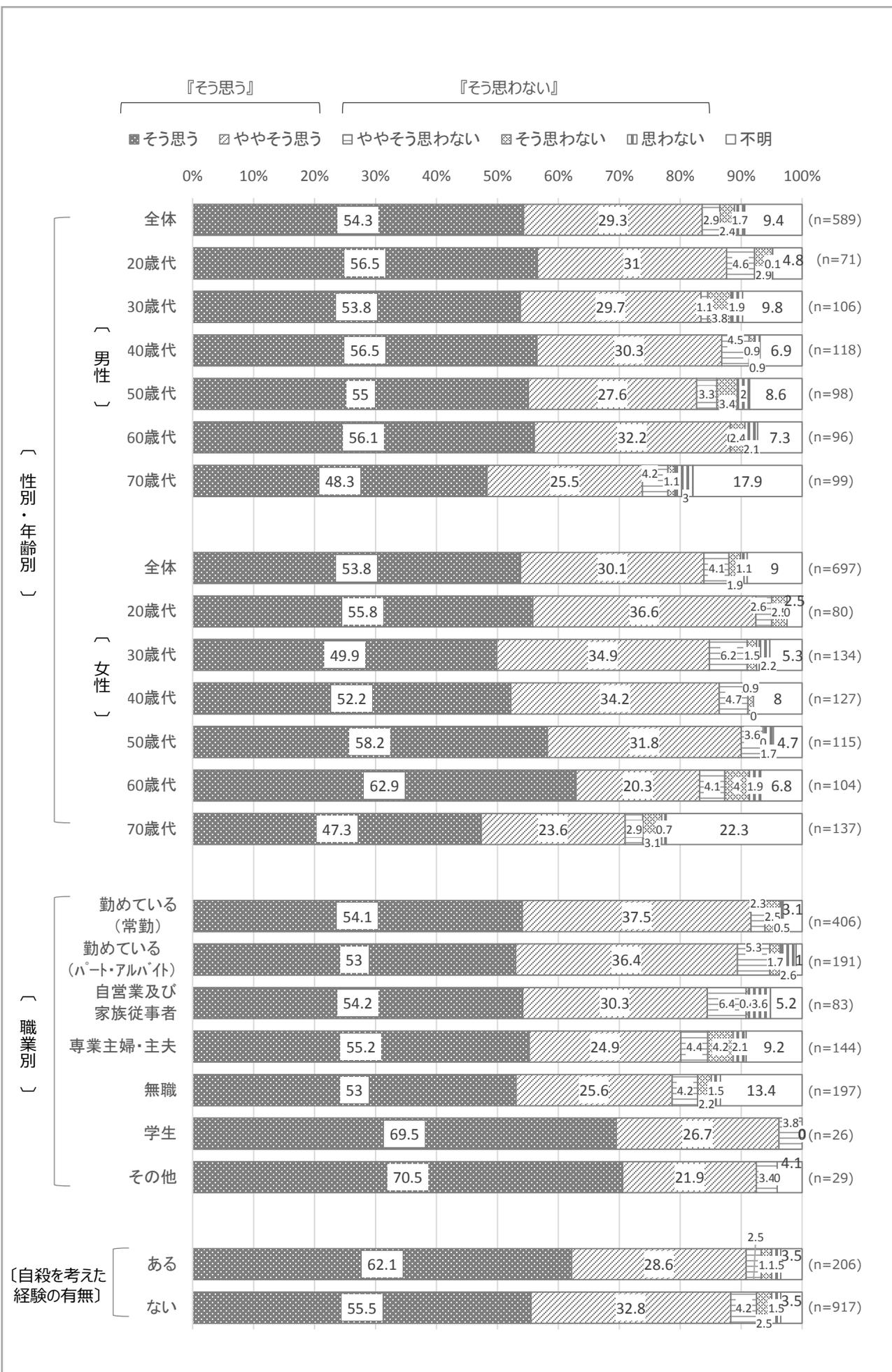
年齢別では『そう思う』はおおむね8割～9割。70歳代でやや低めになっており72.1%となった。

圏域別では中部圏域、那覇圏域、南部圏域、宮古圏域で8割を超えており、八重山圏域で低くなった。

性・年齢別は男女とも20歳代から60歳代まで8割台で推移する中、70歳代だけ低めになった。

自殺を考えたことがある方は「そう思う」が62.1%で、考えたことがない方の55.5%に比べ多く、『そう思う』は9割を超えている。





h)多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

この意見に対する『そう思う』は83.3%。

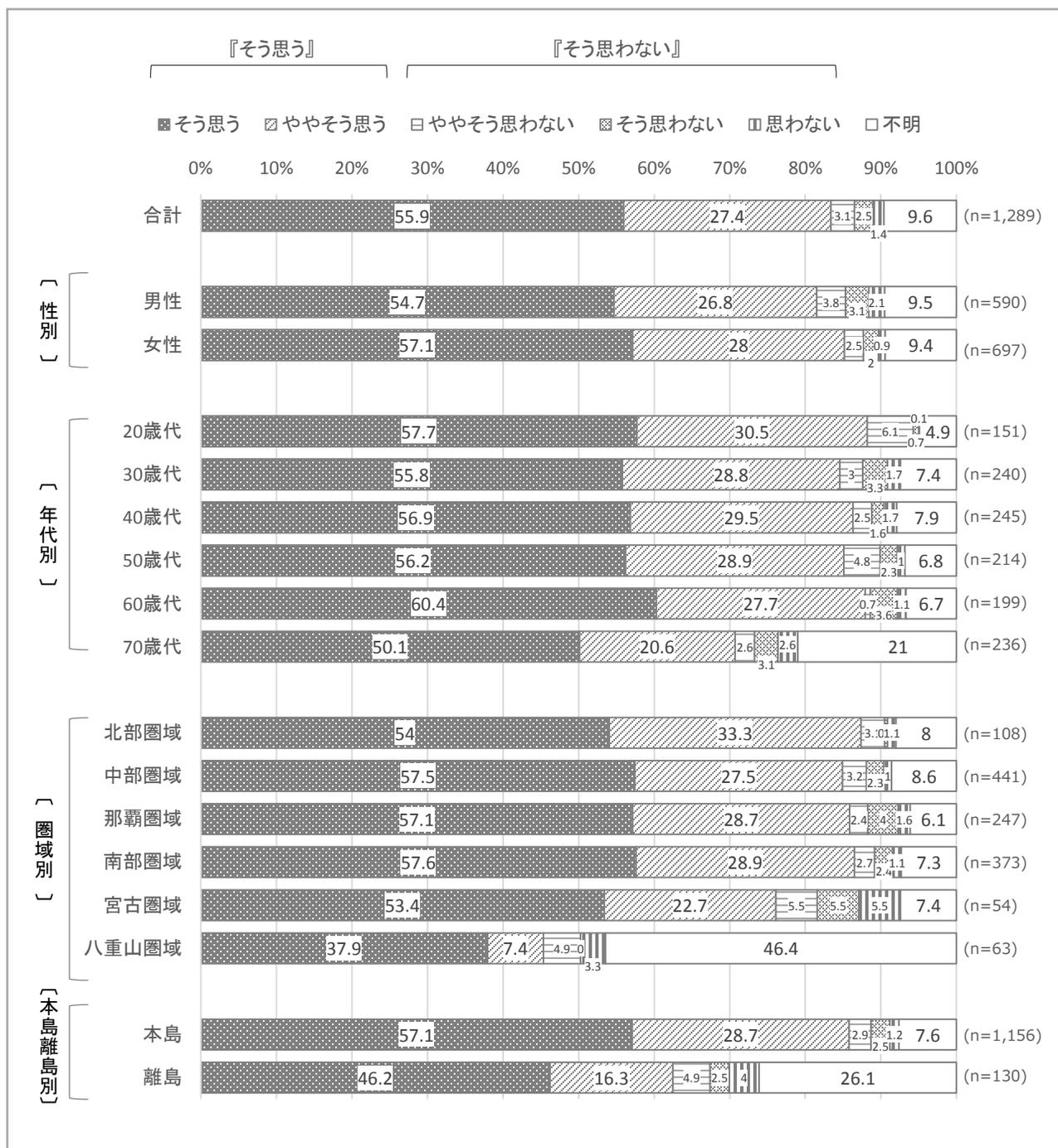
性別で男性が81.5%、女性は85.1%でやや女性が多い。

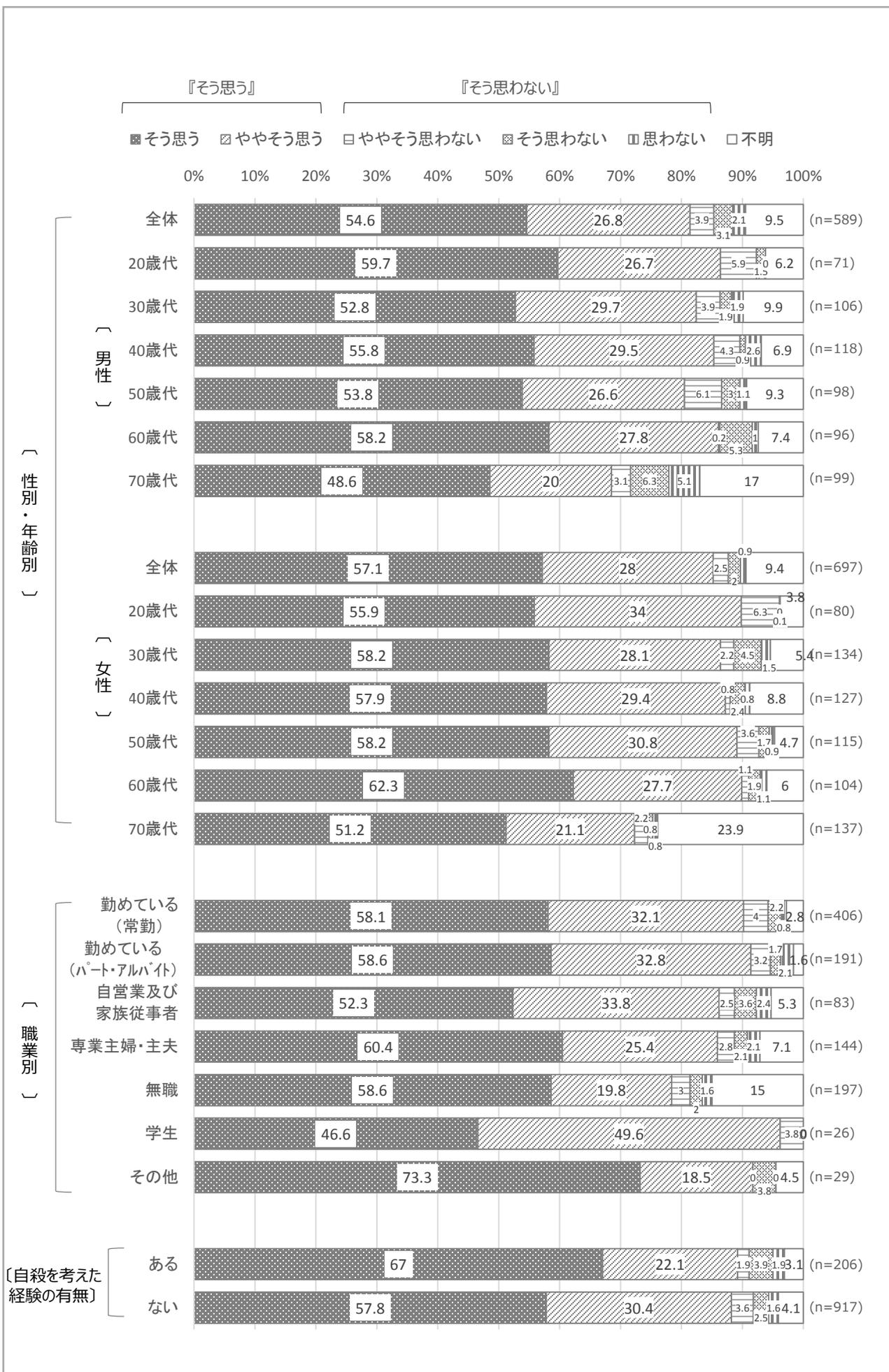
年齢別でも20歳代から60歳代まではほぼ同様の傾向で、70歳代で『そう思う』が70.7%と全体より10ポイント低くなっている。

圏域での差も八重山圏域以外では見られない。

性・年齢別では男女とも70歳代で低めである。

自殺を考えたことがある方は「そう思う」が67%と考えたことがない方より約10ポイント高くなっている。





i) 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している

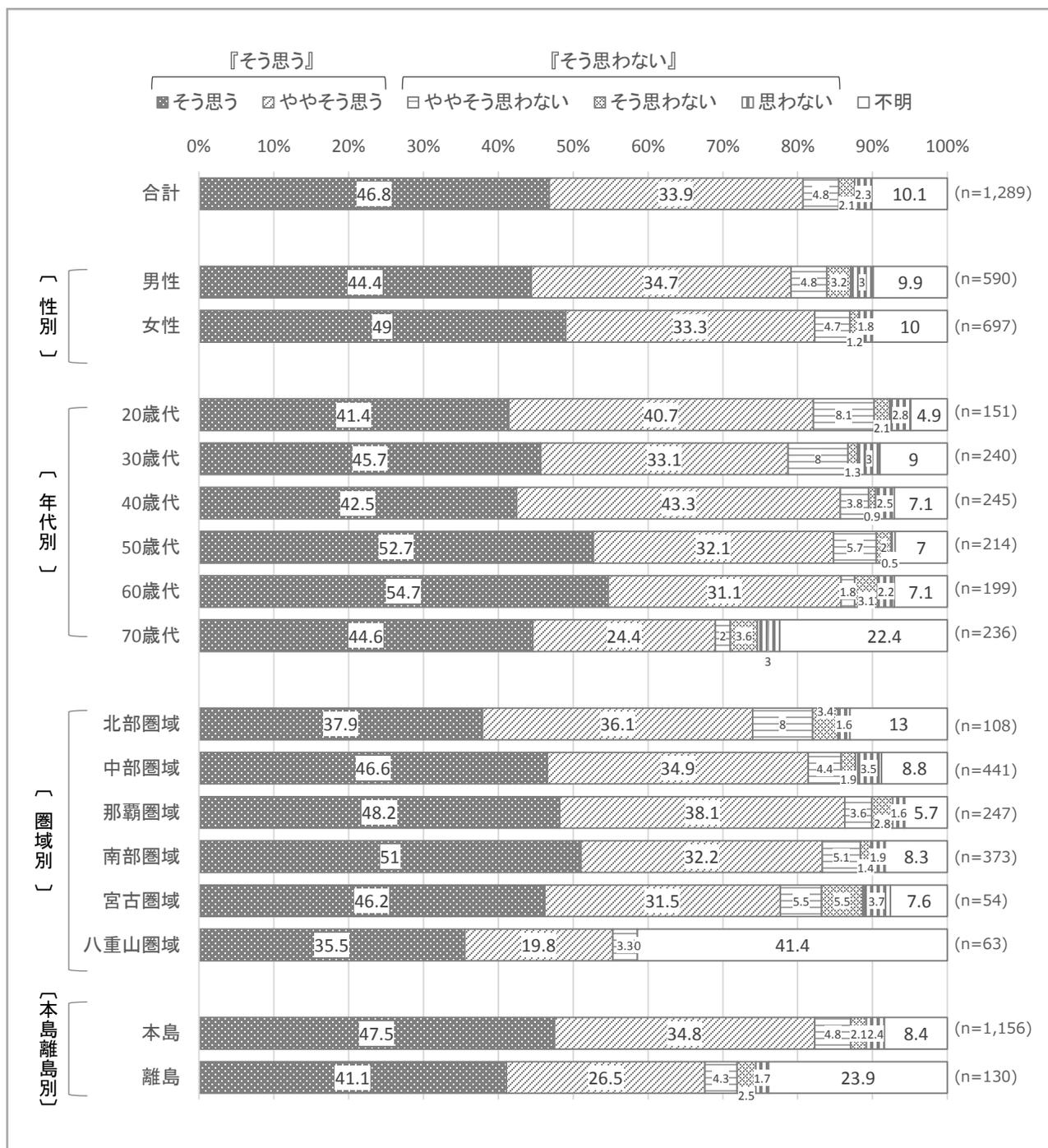
この意見に対する『そう思う』は80.7%。

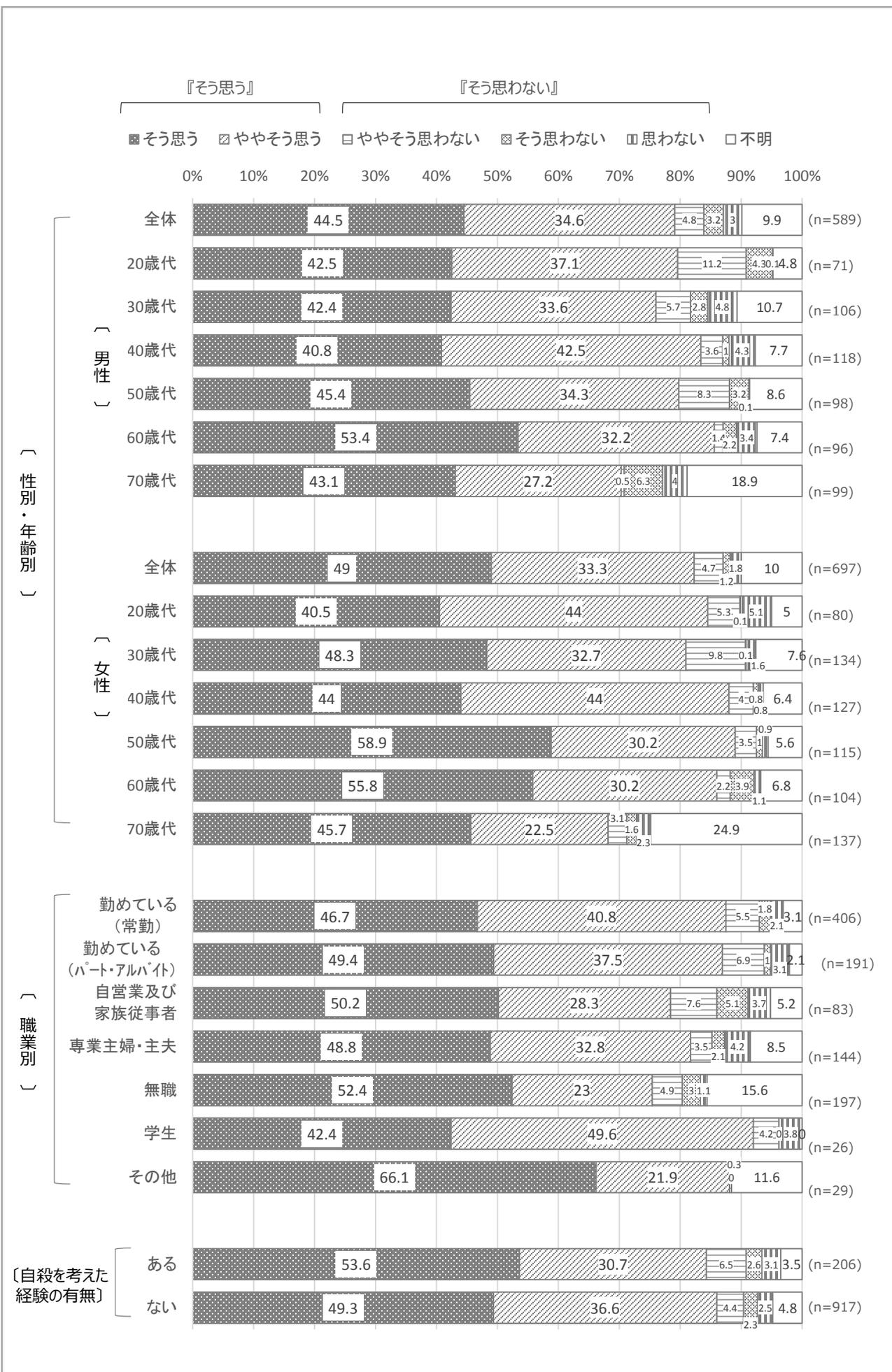
性別で見ると、男性が『そう思う』は79.1%、女性は83.2%とやや女性が高くなっている。

年齢別で見ると、『そう思う』は20歳代から60歳代まで同程度であるが、「そう思う」でみると年代が高くなるに従い多くなっており、60歳代では54.7%と20歳代とは10ポイント以上差がある。

保健圏域では那覇圏域が『そう思う』が86.3%と最も高い。

性・年齢でも70歳代男女でやや低いものの、大きな差は見られない。





j) 自殺は防ぐことができる

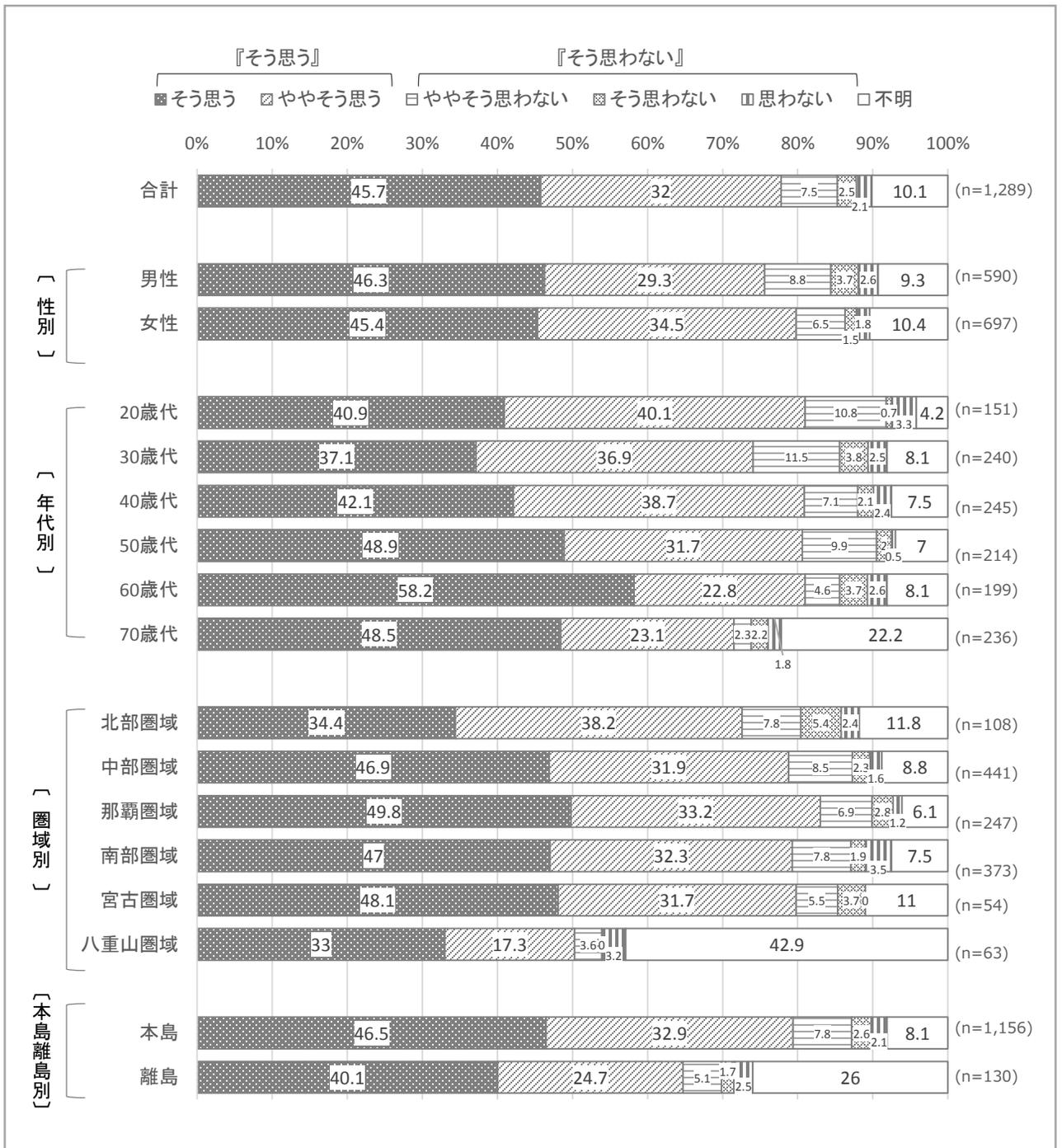
自殺を防ぐことができるかについては『そう思う』は77.7%、『そう思わない』は12.1%。

性別では男性の『そう思う』が75.6%、女性が79.9%とやや女性の肯定意見が多い。

年齢別『そう思う』で見ると差は少ないが、より度合いの強い「そう思う」で見ると20歳代の40.9%、30歳代の37.1%から増え始め、60歳代の58.2%と最も高くなる。

保健圏域でも『そう思う』では差は見られない。

性別・年齢別で見ると「そう思う」で男性で30歳代の36.7%から60歳代55.0%まで増加、女性でも20歳の35.7%から60歳代の61.1%まで増加し、60歳代でピークとなっている。



k) 自殺は自分にはあまり関係ない

自殺が自分に関係ないと思うか尋ねると『そう思う』は42.3%、『そう思わない』で47.2%と『そう思わない』が多く、自分にも関係があると考えの方が半数近くになった。

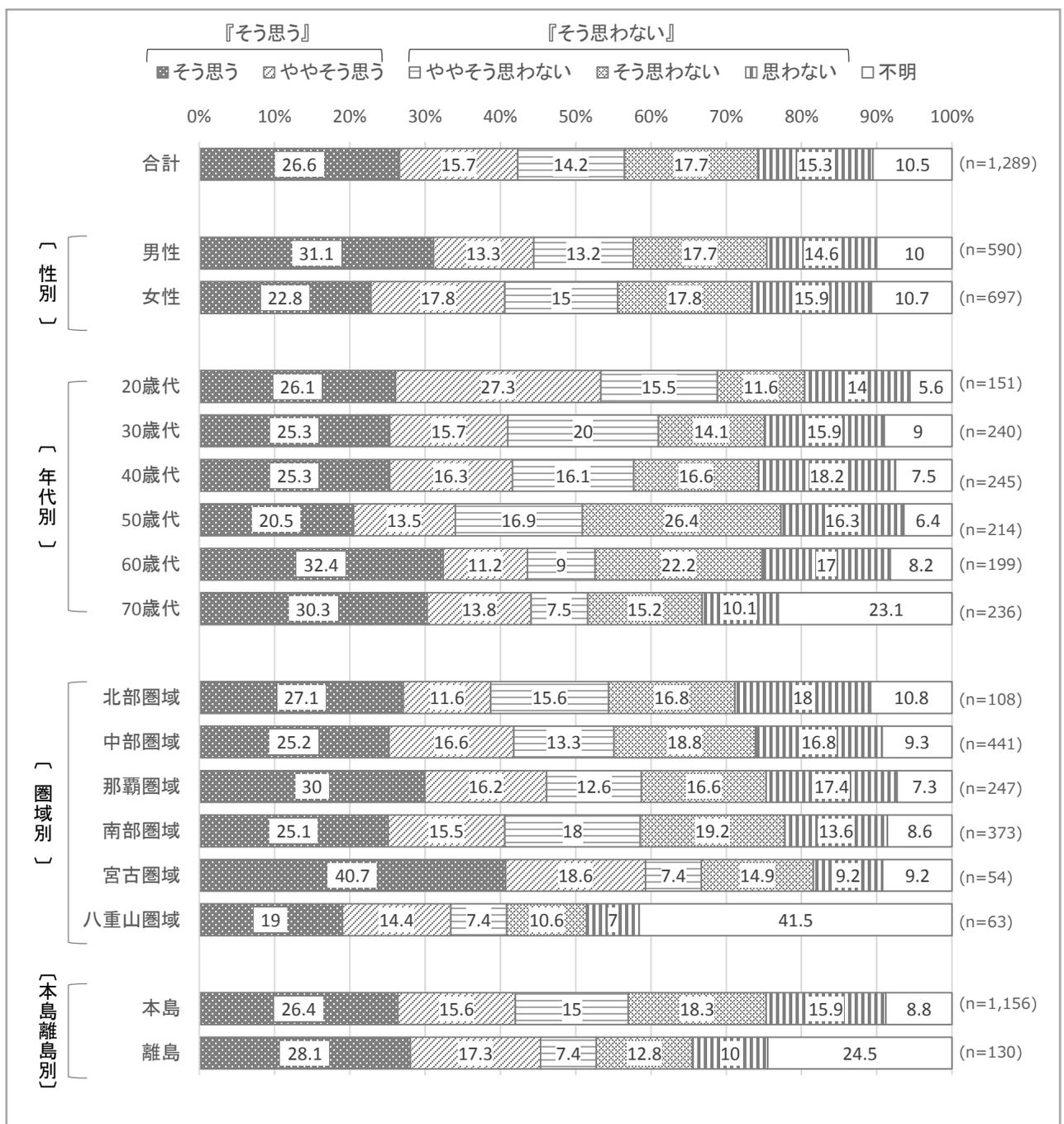
性別で見ると男性が『そう思う』は44.4%『そう思わない』は45.5%、女性では『そう思う』が40.6%、『そう思わない』が48.7%と女性の方が、より自分事として意識している。

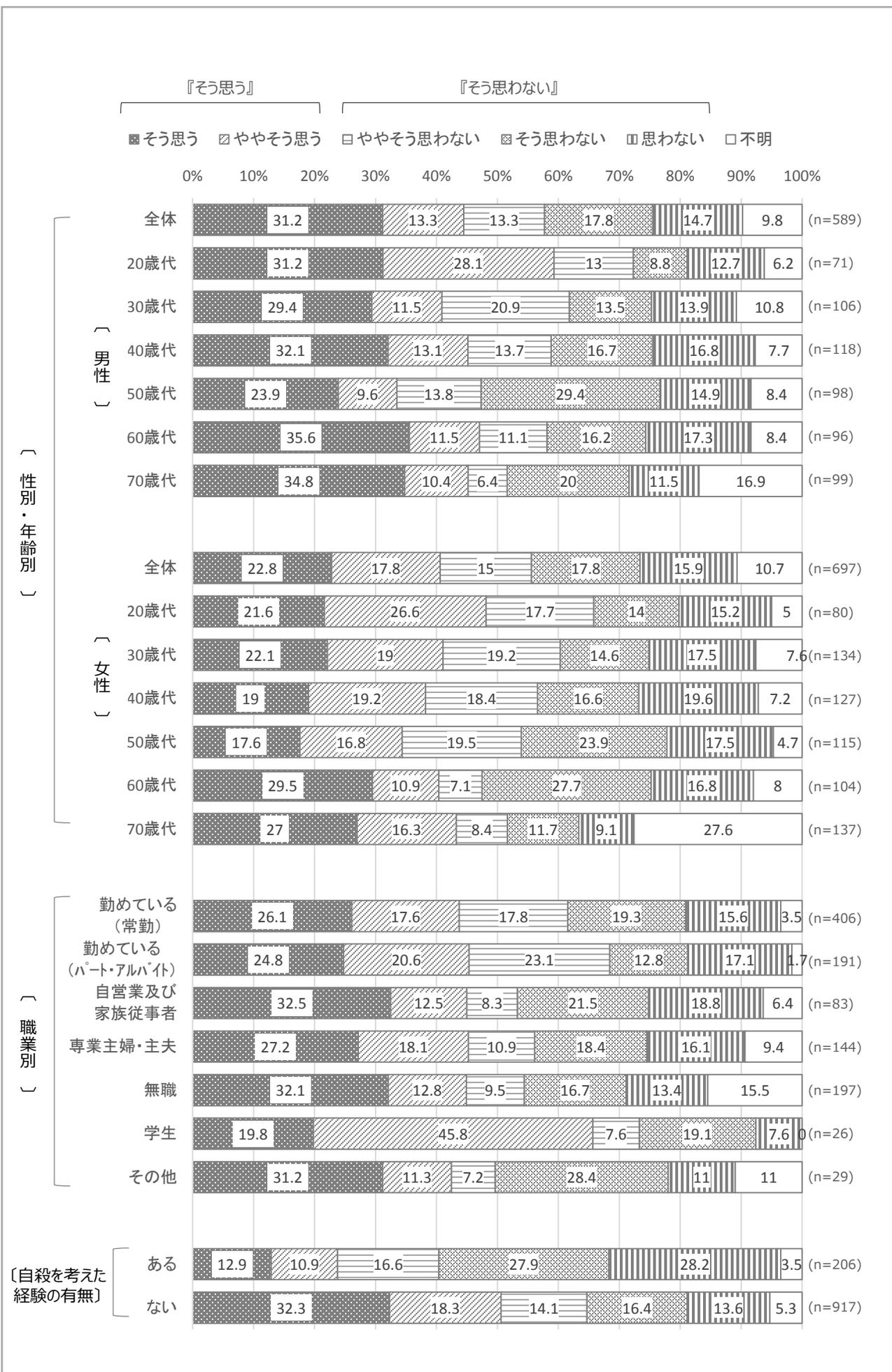
年齢別で見ると20歳代の『そう思う』が53.4%で最も高く、過半数が自分とは関係ないと考えている。年代が上がるほど『そう思う』は減少していくが60歳代でまた増えている。

圏域で見ると『そう思う』は北部、中部、那覇、南部圏域はほぼ同率。宮古圏域で59.3%で高めになっている。

性・年齢で見ると20歳代男性で『そう思う』が59.3%で全性別年代の中で最も高い。

自殺を考えたことがある方は『そう思わない』（「自殺は自分と関係がある」という意味）が72.2%で、自殺を考えたことがない方の44.1%に比べ約28ポイント多く、切実な問題として捉えていることがわかる。





1)自殺は本人の弱さからおこる

『そう思う』は42.8%、『そう思わない』は47.0%と『そう思わない』が否定意見が多くなったものの、『そう思う』が4割あり、少なくない割合が個人の弱さが原因と考えている。

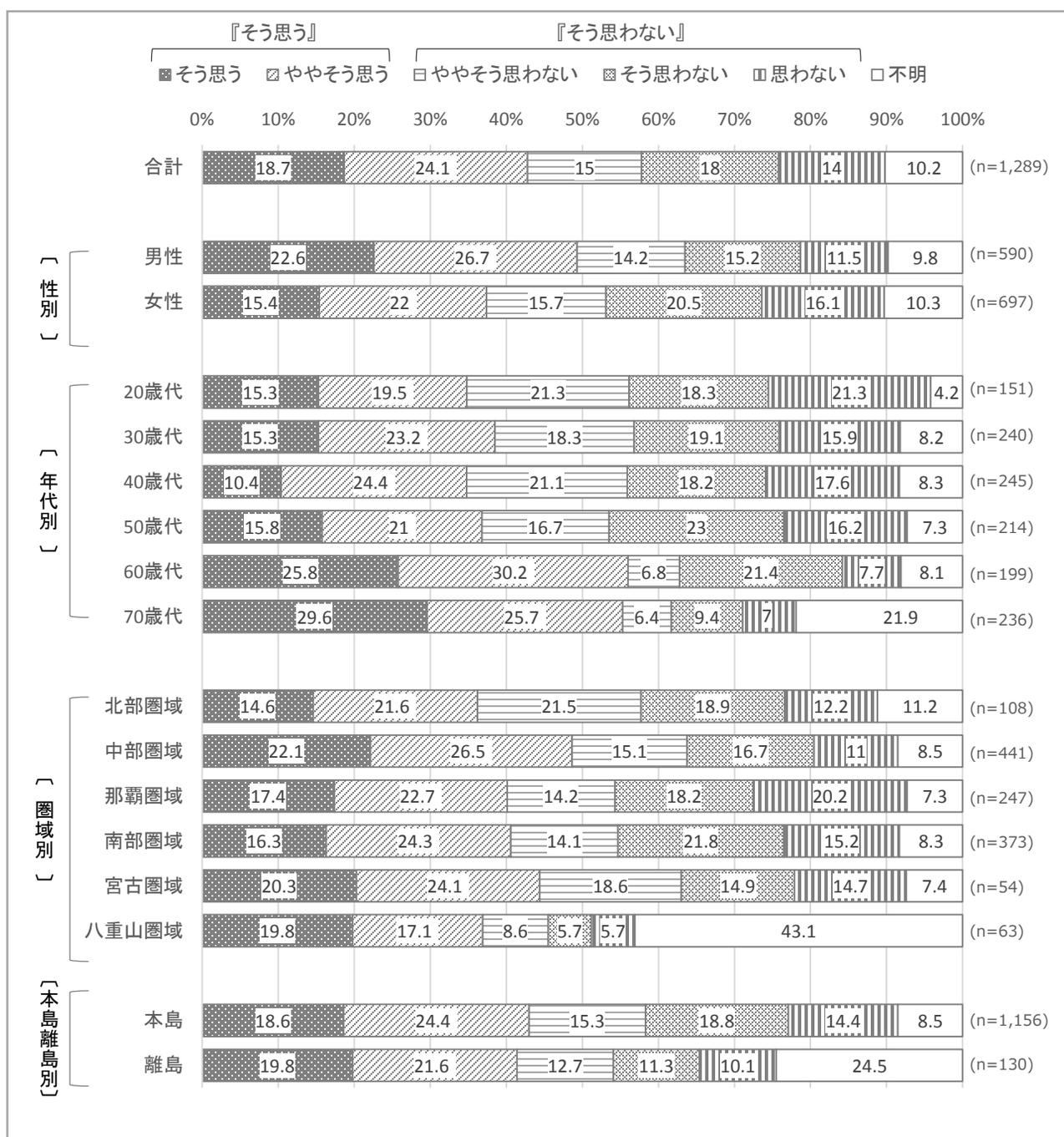
性別で見ると男性が『そう思う』が49.3%と女性の37.4%に比べ10ポイント以上高くなっている。

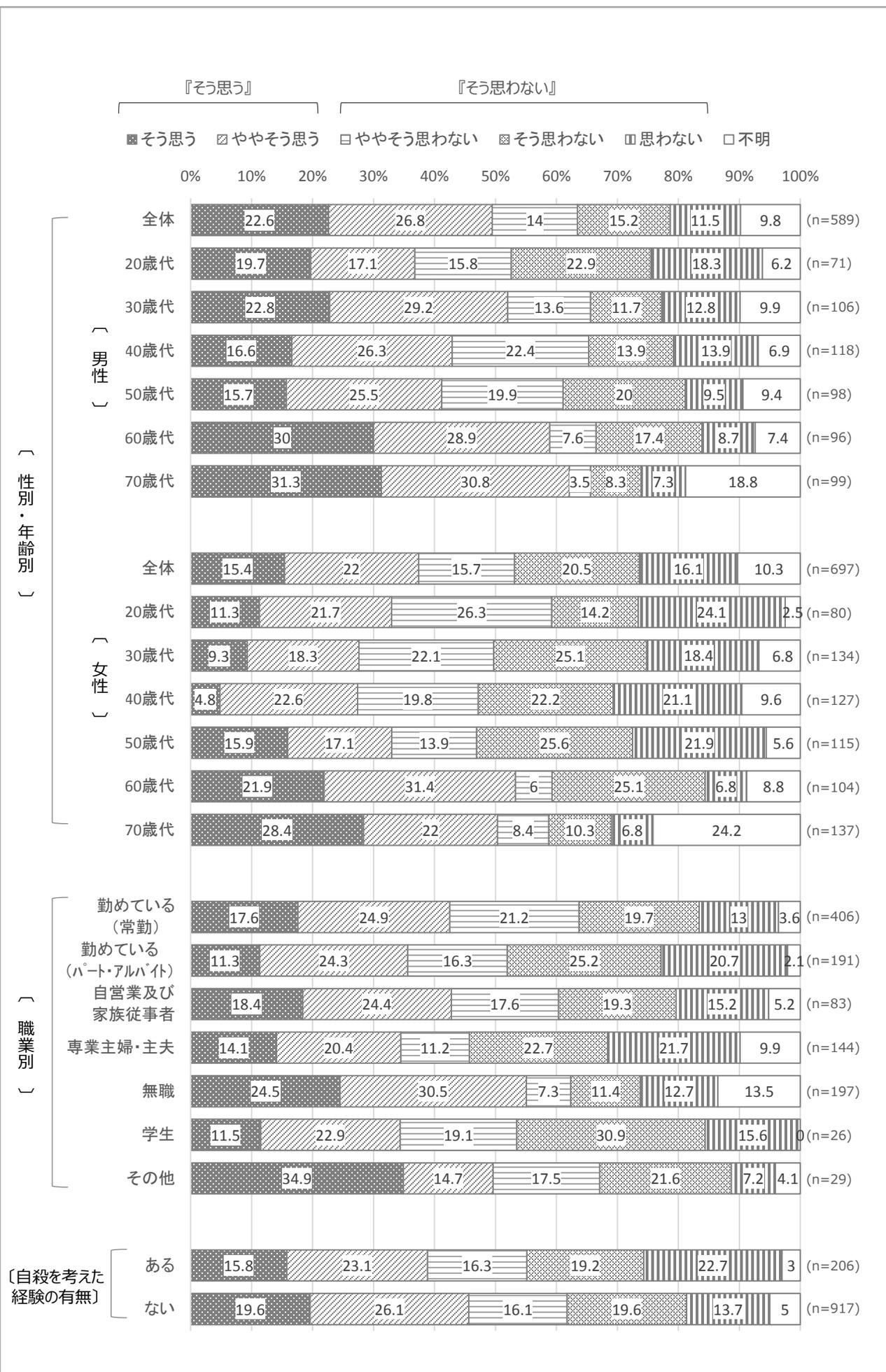
年齢別では20歳代から50歳代まで『そう思う』は35%前後で差は見られないが、60歳代で56.0%、70歳代で55.3%と高く、高齢者ほど「自殺は本人の弱さからおこる」と考えている。

圏域別では『そう思う』は中部圏域で高めになっている。

性別・年齢別で見ると60歳代男性で58.9%、70歳代男性で62.1%と約6割と男性の年配層で高くなった。女性でも60歳代は53.3%、70歳代は50.4%と高い。

自殺を考えたことがある方は『そう思う』38.9%、『そう思わない』58.2%、自殺を考えたことがない方は『そう思う』45.7%、『そう思わない』49.4%と自殺を考えたことがある方は「自分の弱さが原因」との考え方はそれ以外の方に比べ少ない。





m)自殺は本人が選んだことだから仕方ない

『そう思う』は20.8%、『そう思わない』は68.9%で『そう思わない』が約7割となった。

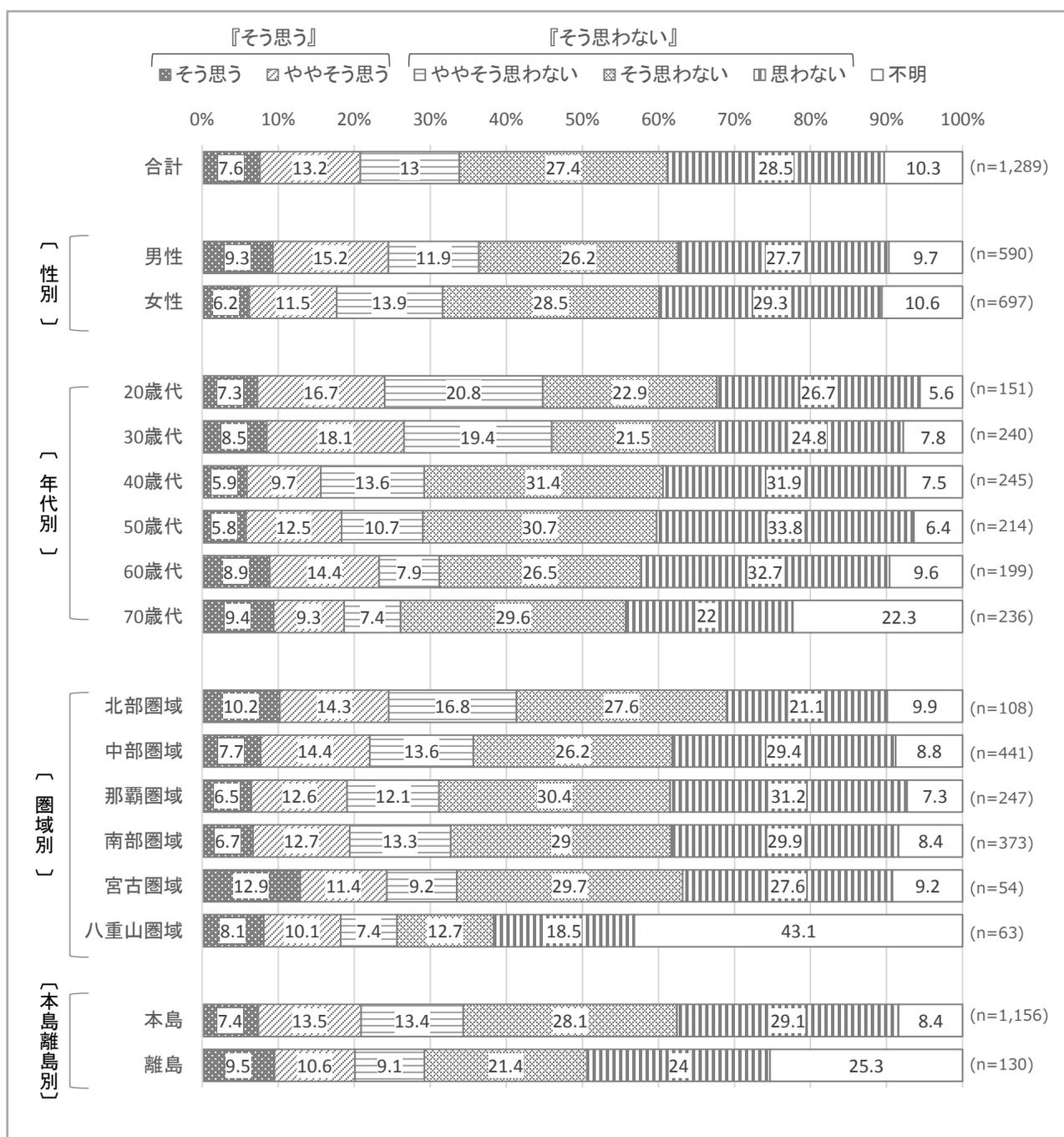
性別では男性が『そう思う』24.5%に対して、女性は17.7%と男性が高くなっている。

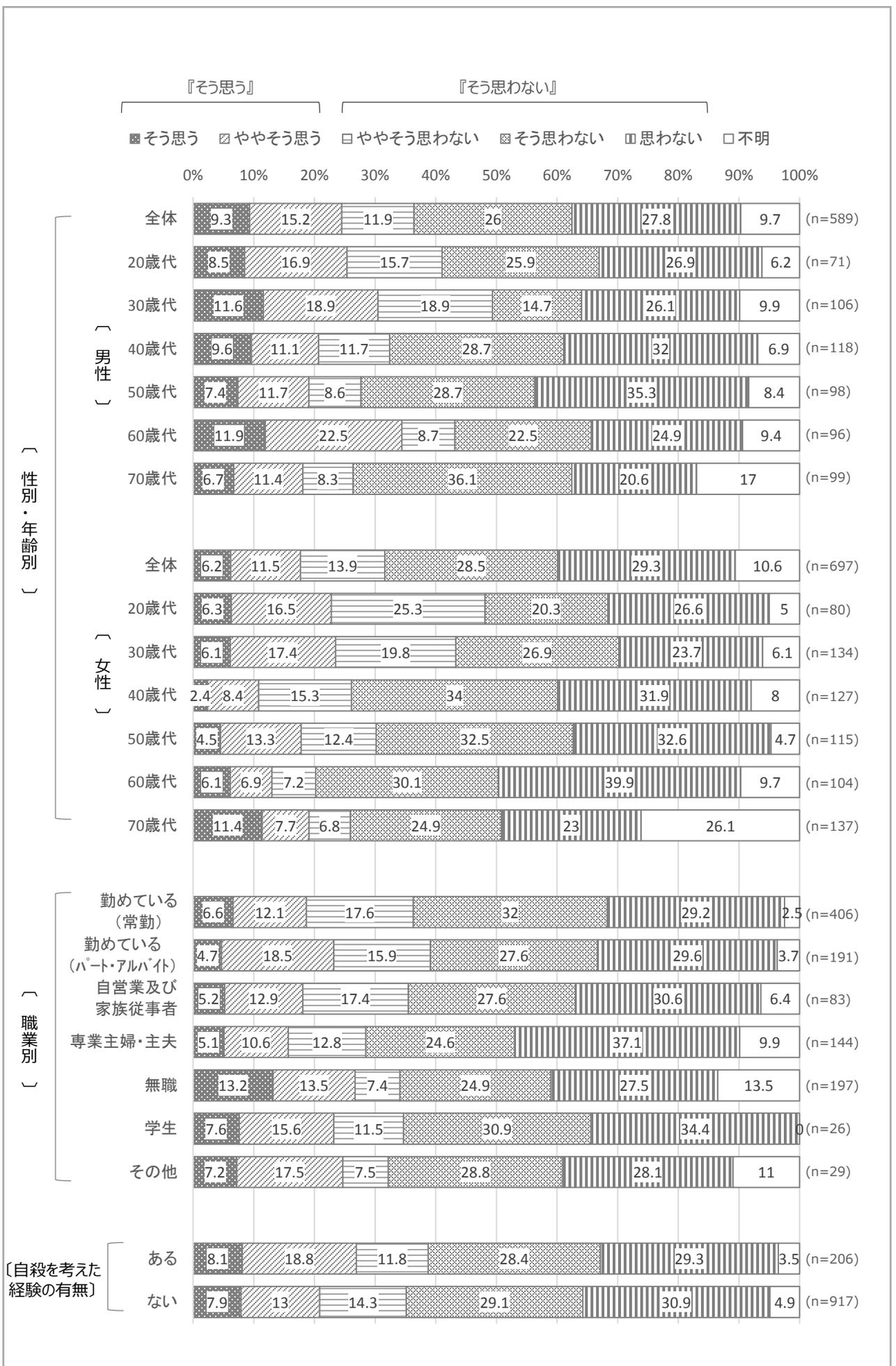
年齢別で見ると20歳代が『そう思う』24.0%、30歳代が26.6%と比較的若い層が「仕方がない」と考える傾向にある。

圏域では北部圏域と宮古圏域でやや『そう思う』が高い。

性・年齢では60歳代男性で『そう思う』が34.4%と最も高く、次いで30歳代男性の30.5%が高くなっている。

自殺を考えたことがある方は『そう思う』との回答は26.9%で、自殺を考えたことがない方(26.9%)より多い。





n)自殺を口にする人は、本当は自殺しない

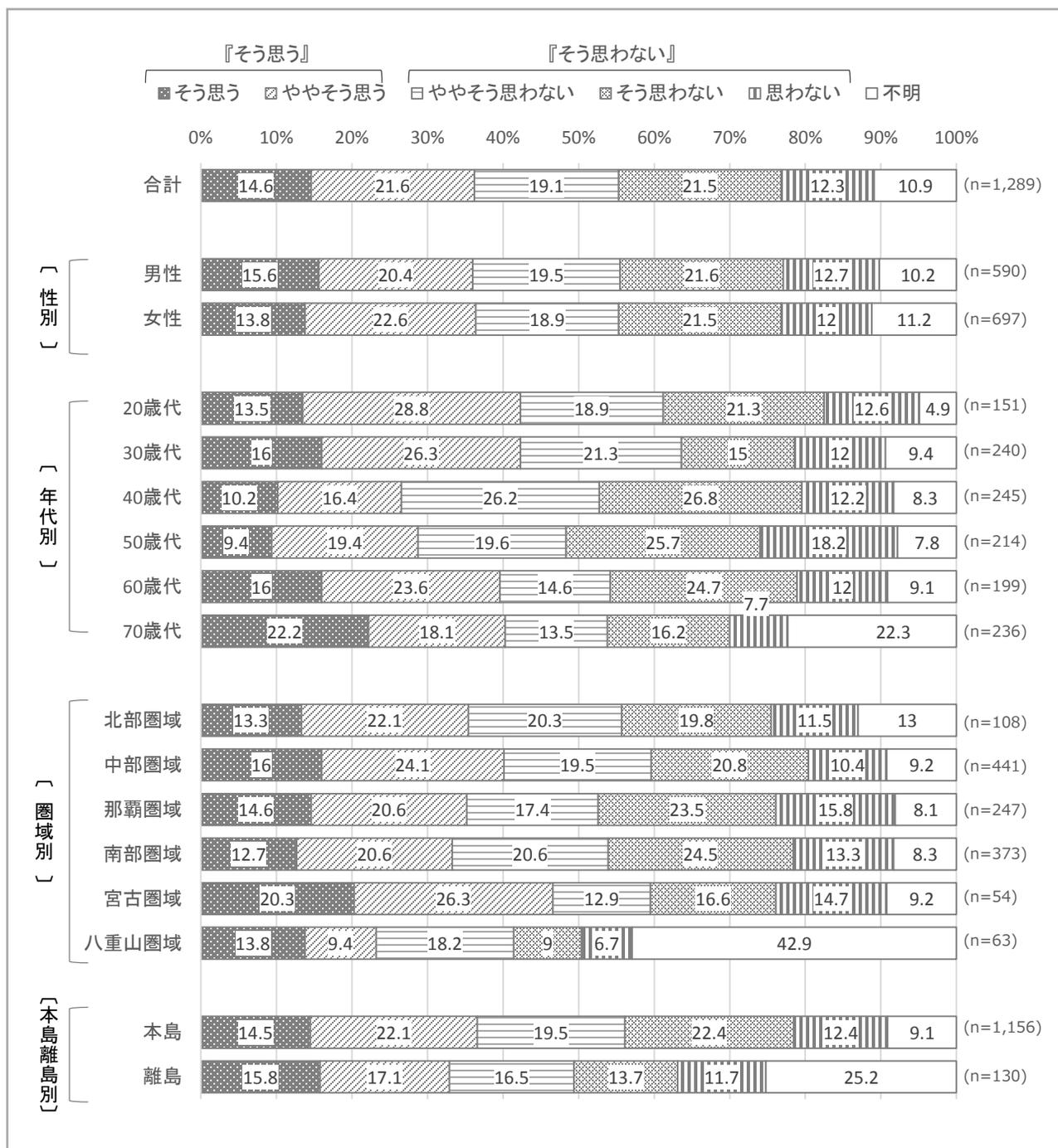
『そう思う』は36.2%、『そう思わない』は52.9%となり『そう思わない』が過半数を超えた。性別での差は見られない。

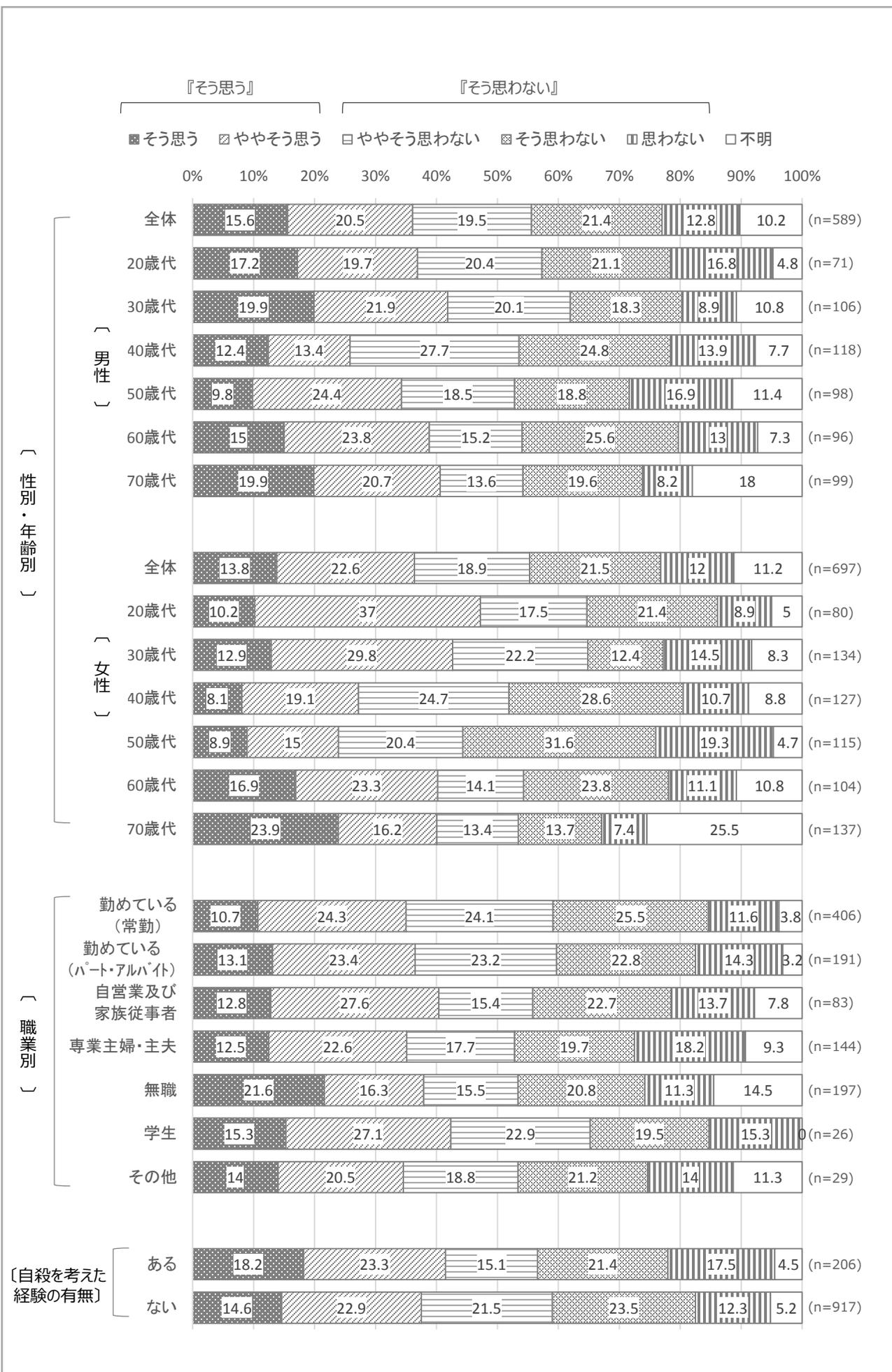
年齢別で見ると20歳代、30歳代で約4割、そこから40歳代、50歳代で15ポイントほど減少するが、また60歳代、70歳代で約4割に増えている。

圏域別で見ると宮古圏域で『そう思う』が46.6%と高めになっている。

性別・年齢別で見ると20代女性が『そう思う』が47.2%と最も高く、次いで30代女性の42.7%、30代男性41.8%、70代男性40.6%と続く。

自殺を考えたことがある方は41.5%とそうでない方に比べ若干高くなった。





o)自殺は恥ずかしいことである

『そう思う』は30.0%、『そう思わない』は58.8%となった。

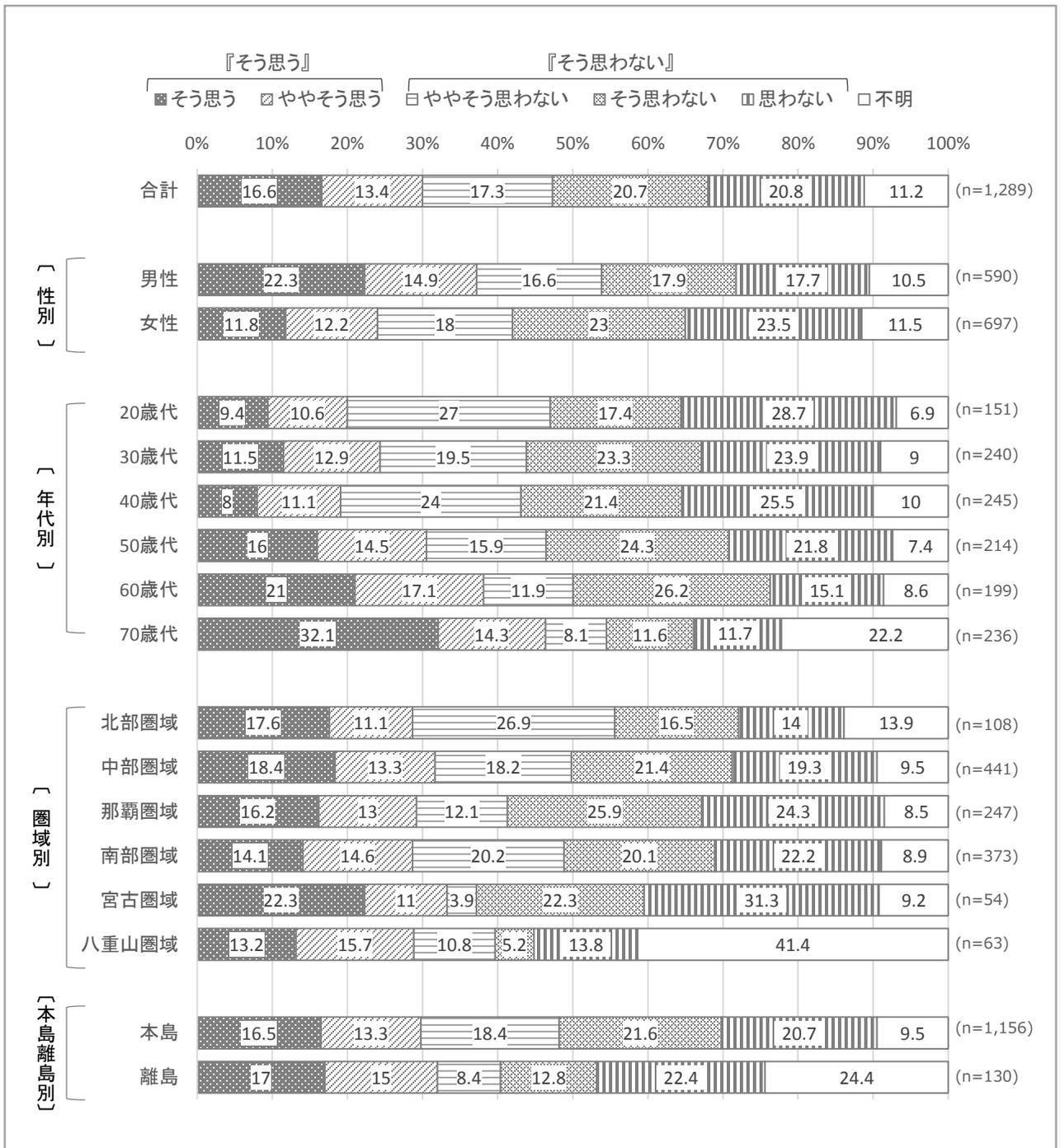
性別で見ると男性が『そう思う』が37.2%と女性（24.0%）より「自殺は恥ずかしい」という意識が強い。

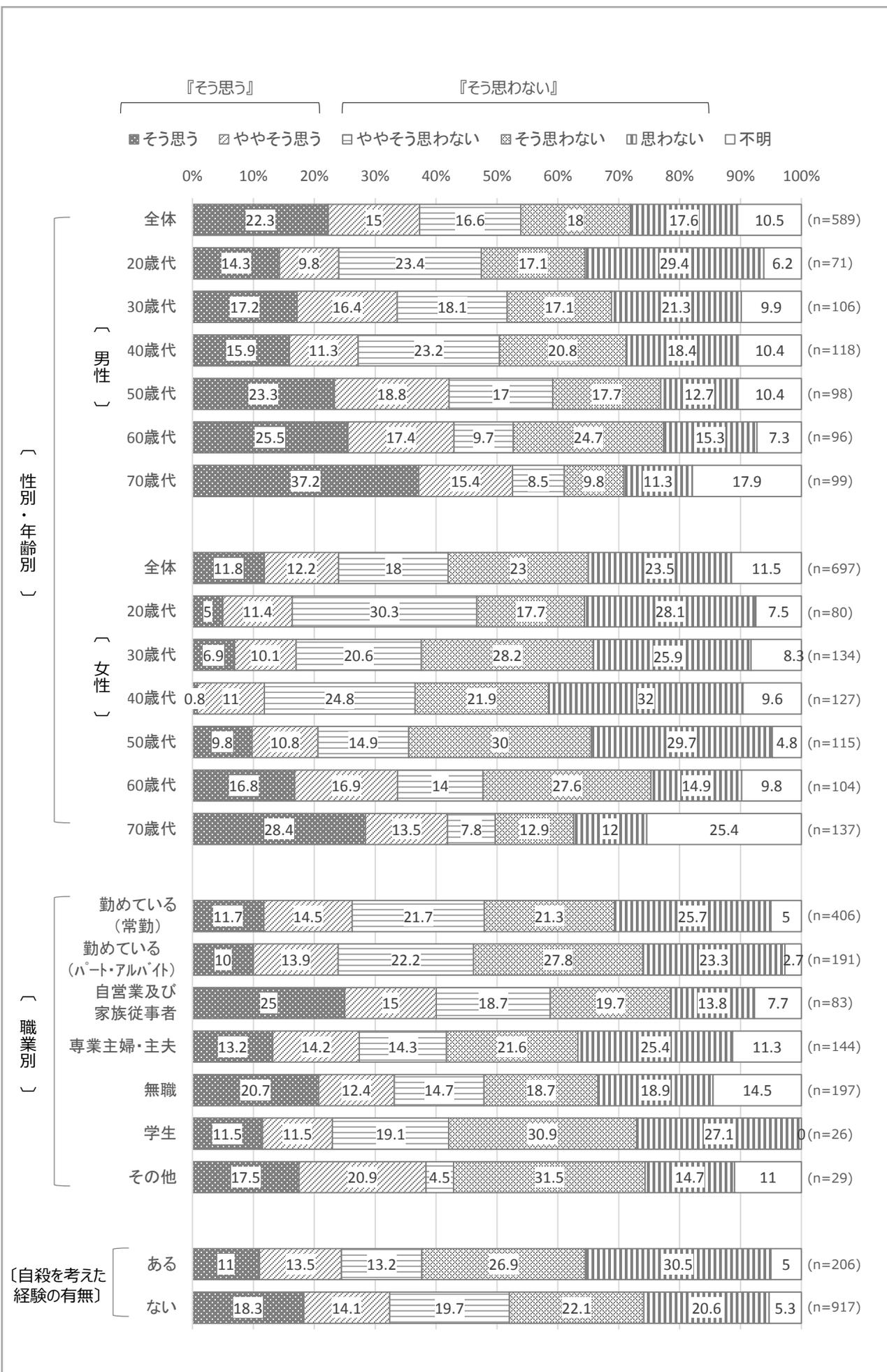
年齢別で見ると20歳代の20.0%から70歳代で46.4%と年代が高くなるほど『そう思う』が増えていく。

圏域では各圏域とも3割前後で大きな差は見られない。

性別・年齢別で見ても年代が高くなるほど『そう思う』が増え、男性では70歳代で52.6%、女性でも70歳代で41.9%となる。

自殺を考えたことがある方は『そう思う』24.5%、自殺を考えたことがない方は32.4%と、考えたある方は「自殺は恥ずかしいこと」という意識はやや低い。



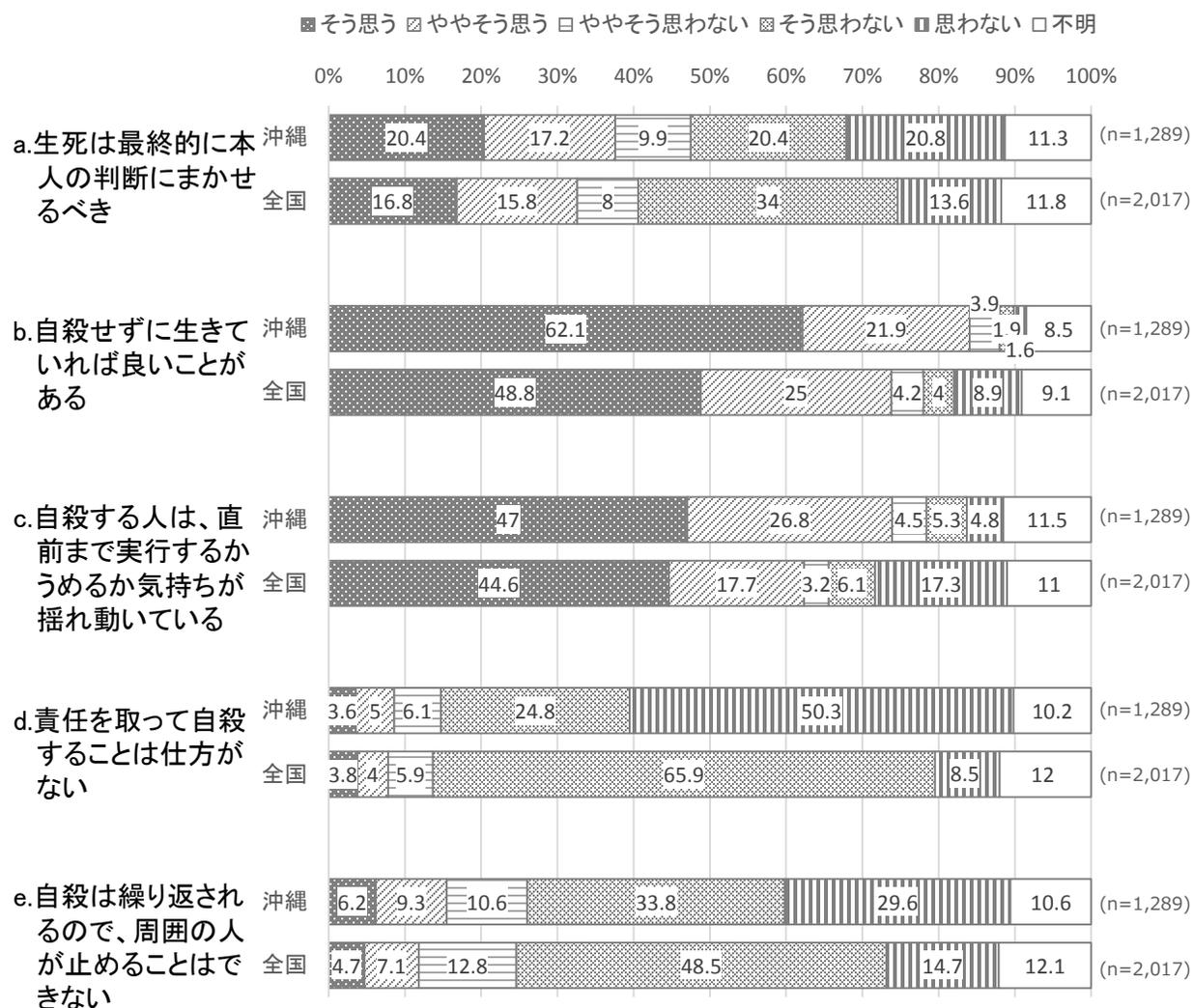


全国調査と自殺についての考え方を比べると「生死は最終的に本人の判断にまかせるべき」については『そう思う』は沖縄37.6%、全国32.6%と沖縄の方が高くなった。一方「自殺せずに生きていけば良いことがある」は沖縄が全国より高い。

※全国調査は選択肢が次の通りとなっているため比較の際は留意すること

1. そう思う
2. ややそう思う
3. ややそうそう思わない
4. そう思わない
5. わからない
- 無回答

■全国調査(「自殺対策に関する意識調査」内閣府自殺対策推進室)との比較



Ⅲ. 悩みやストレスについて

問9 あなたは、ふだんの生活で不満、悩み、苦勞、ストレスを感じることはありますか。(○を1つ)

普段の生活での不満や悩み、ストレスを感じるものが「大いにある」「多少ある」との回答は合わせて63.5%で県民の6割強が悩みやストレスを感じている。

性別で見ると男性59.1%、女性67.2%と女性の方がストレスを感じている。

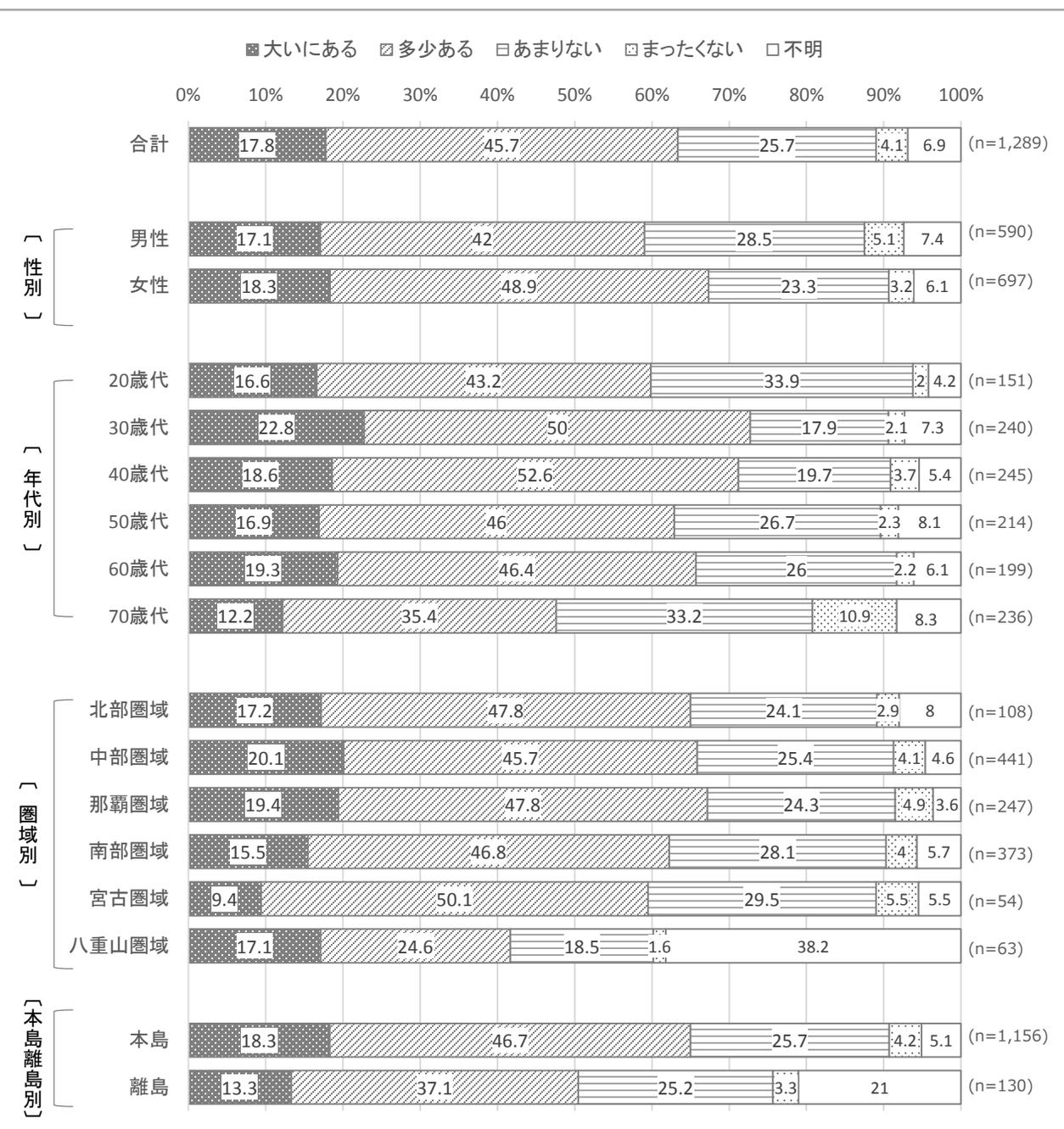
年齢別では30歳代が最多で72.8%、僅差で40歳代の71.2%が並んでいる。70歳代を除く他の年代でも約6割がストレスを感じている。

圏域別では北部圏域、中部圏域、那覇圏域、南部圏域の本島はそれぞれが6割を超えている。宮古圏域では59.5%、八重山圏域では41.7%である。

性別・年齢別で見ると30代女性が最も高く80.8%と8割、次いで40代女性の72.9%、50代女性の71.9%となっている。

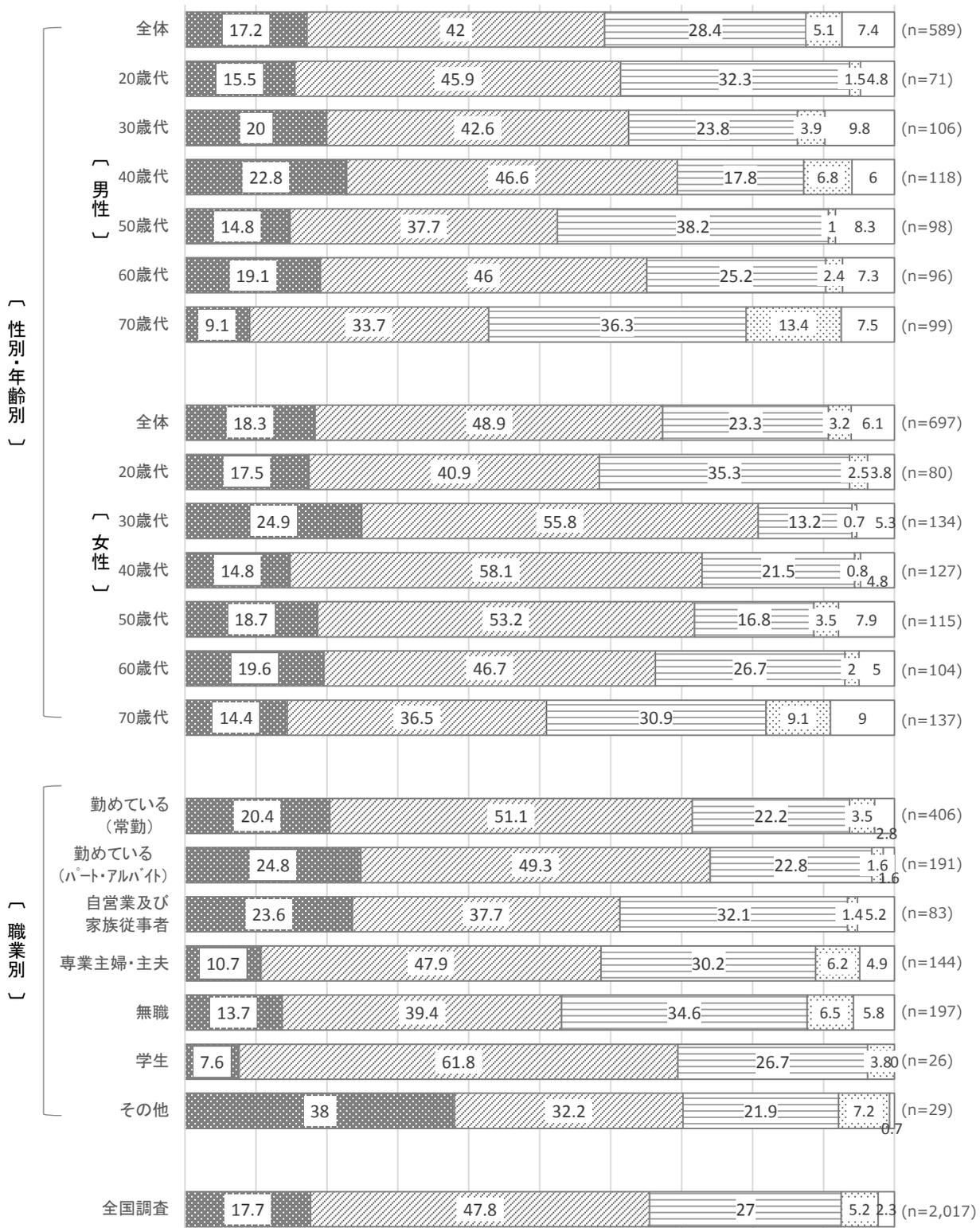
全国調査の65.5%に比べてもほぼ同様の結果となっている。

平成19年度調査と比較すると、ストレスがある方は72.7%から63.5%と約10ポイント減少している。



■ 大いにある ▨ 多少ある □ あまりない ▩ まったくない □ 不明

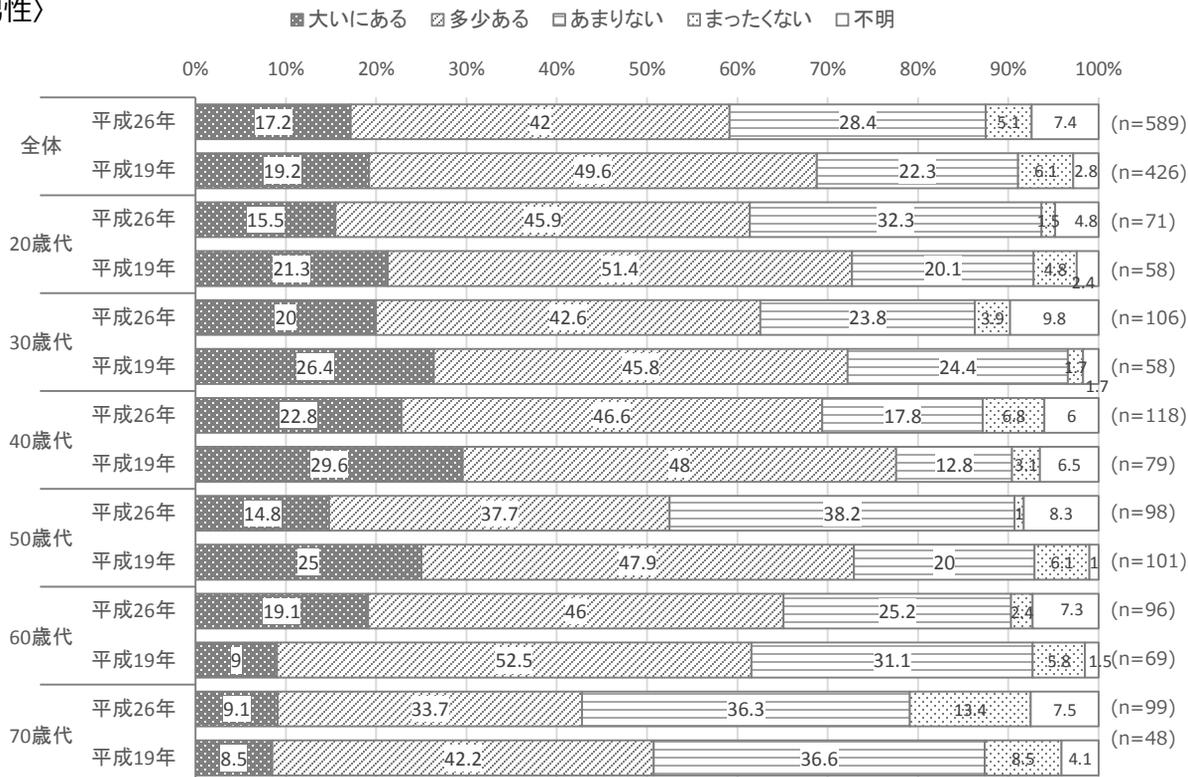
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



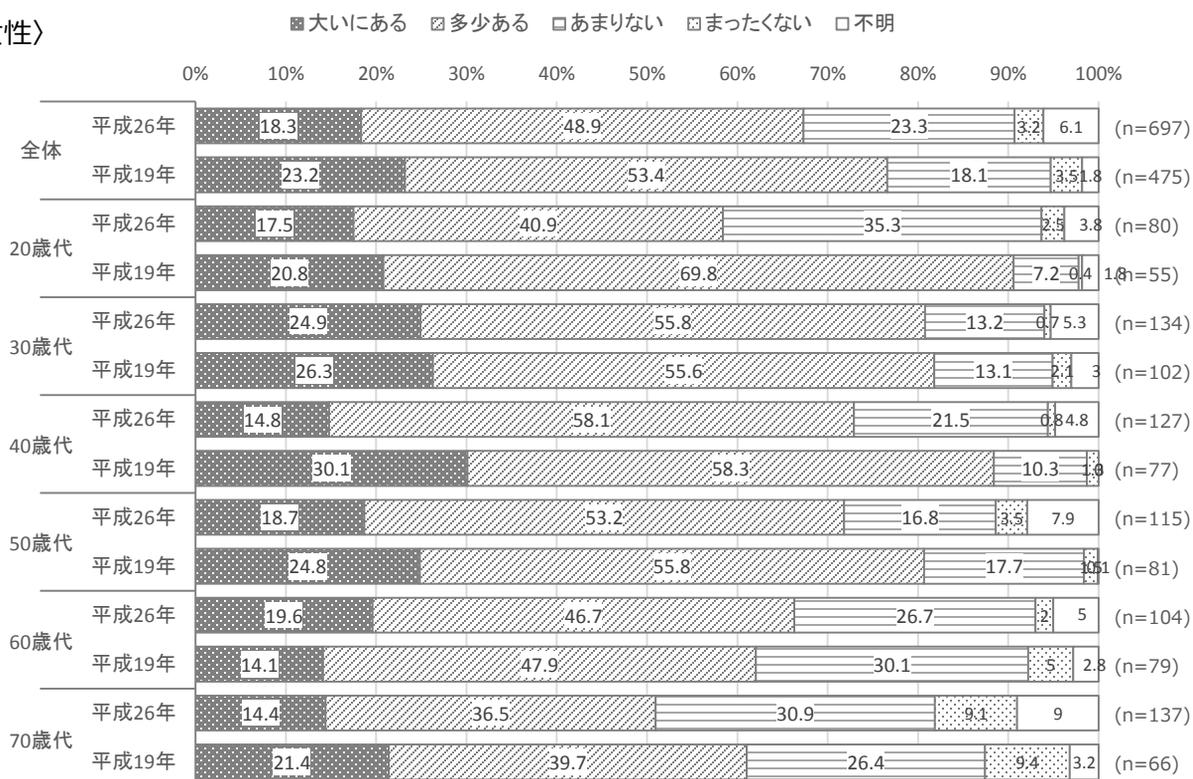
■平成19年調査(「沖縄県保健医療県民意識調査」との比較



〈男性〉



〈女性〉



付問9-1(問9で「大いにある」または「多少ある」を選んだ方のみ)
 それはどのような事柄が原因ですか。(〇をいくつでも)

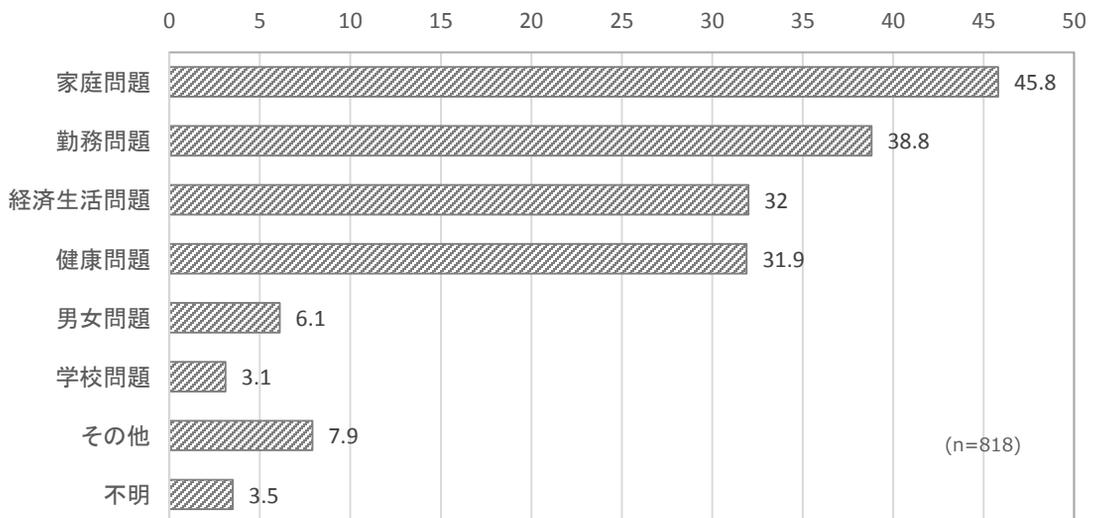
ストレスの原因としては「家庭問題」45.8%、「勤務問題」38.8%、「経済生活問題」32.0%、「健康問題」31.9%、「男女問題」6.1%、「学校問題」3.1%となっている。

性別で比較すると女性で「家庭問題」が57.4%と男性の30.3%に比べ2倍近くになっている。男性では「勤務問題」が44.8%で女性の34.4%より約10ポイント高くなった。

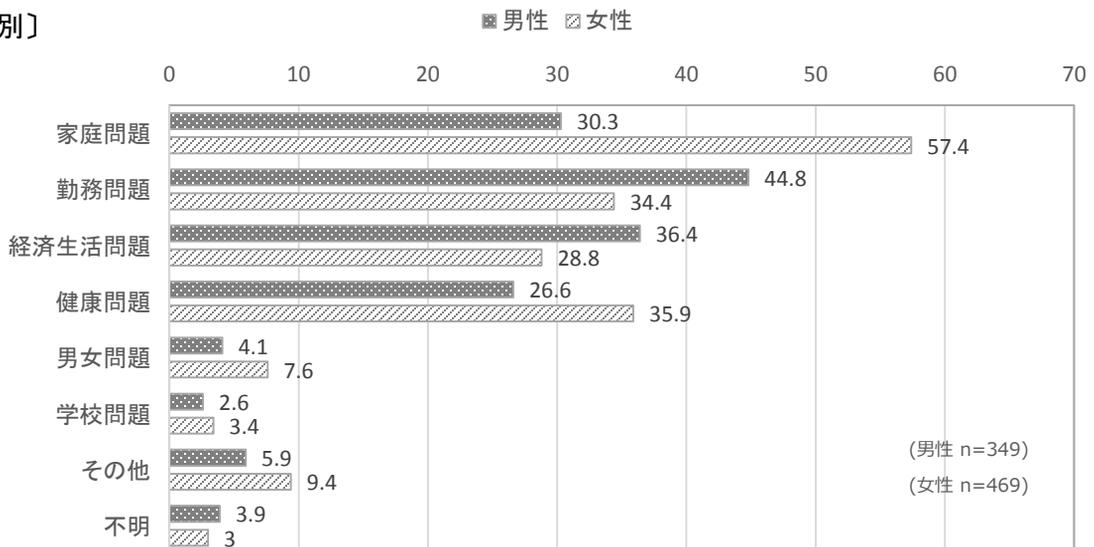
年齢別で見ると、「家庭問題」は30歳代が53.0%でピーク。また「勤務問題」は若いほど高く、逆に「健康問題」は年齢が上がるほど多くなっていく。

圏域別で見ると「家庭問題」は宮古圏域で高い数値を示した。

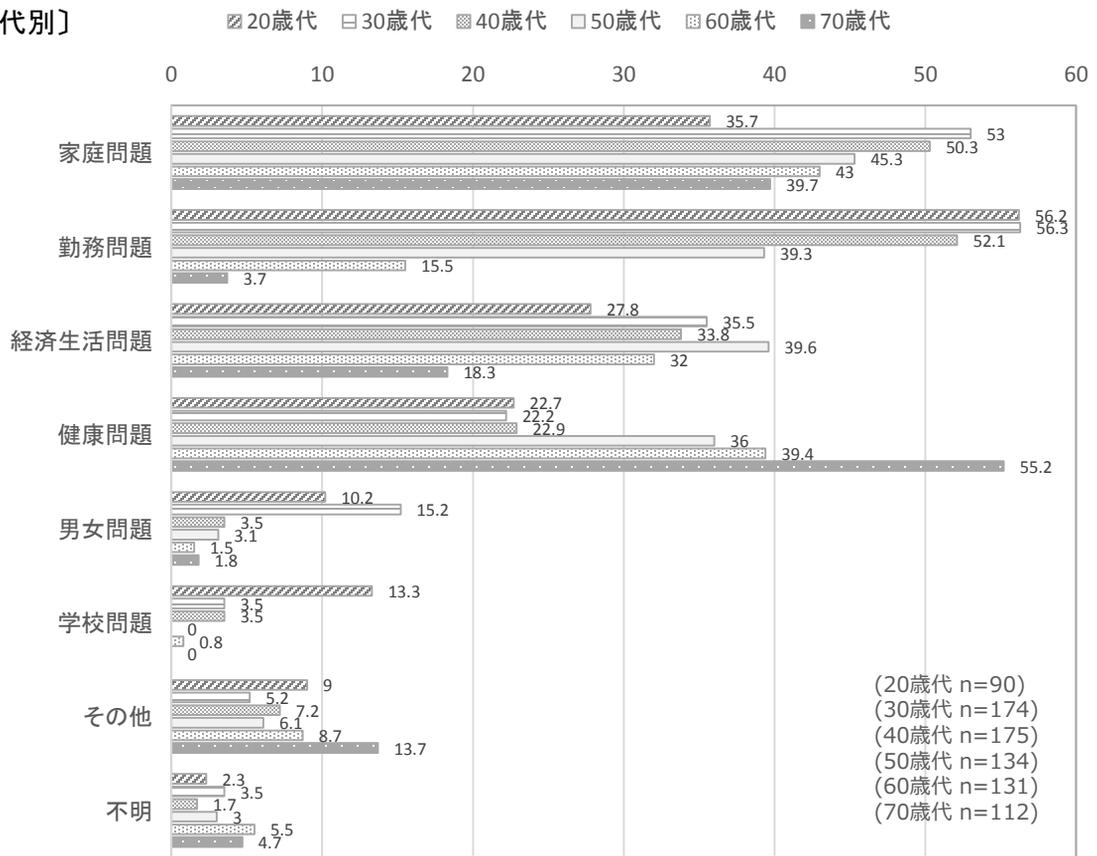
全国調査では1位「家庭問題」、2位「勤務問題」、3位「健康問題」、4位「経済生活問題」の順となっており、上位2位までは沖縄と同様で3位と4位の順番が逆になっている。



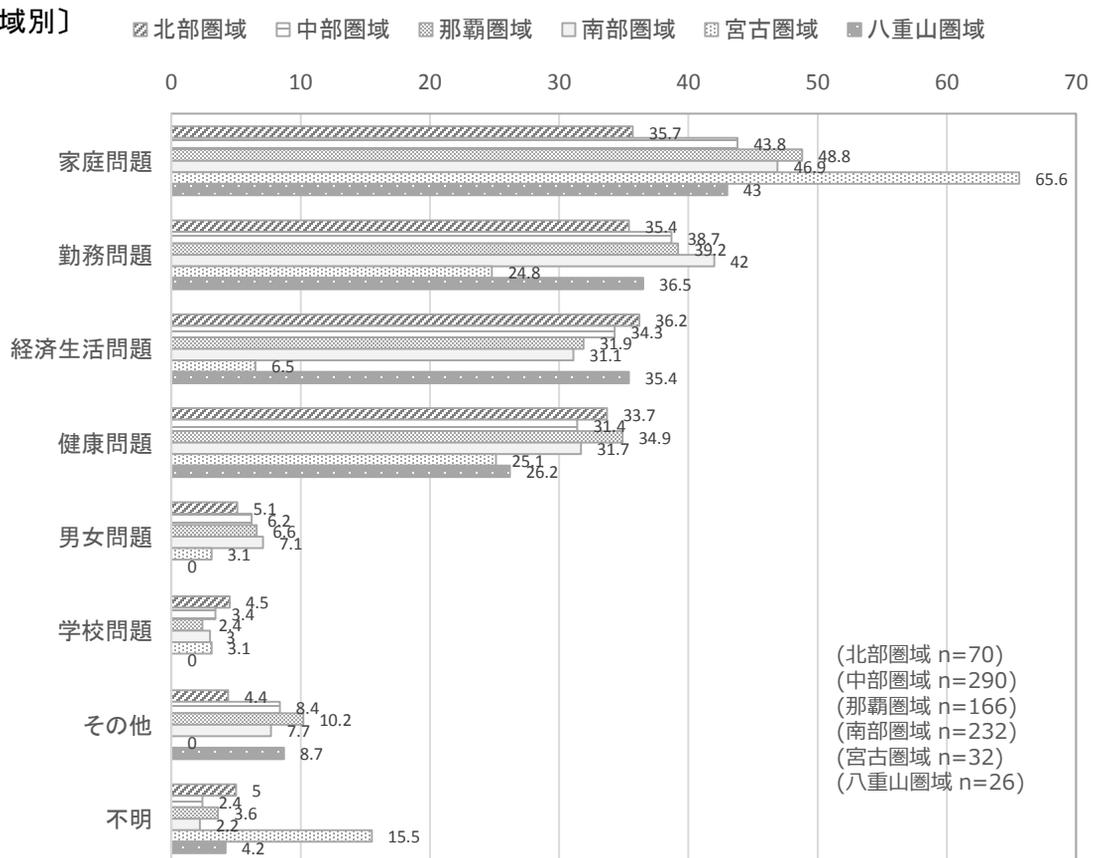
〔性別〕



〔年代別〕

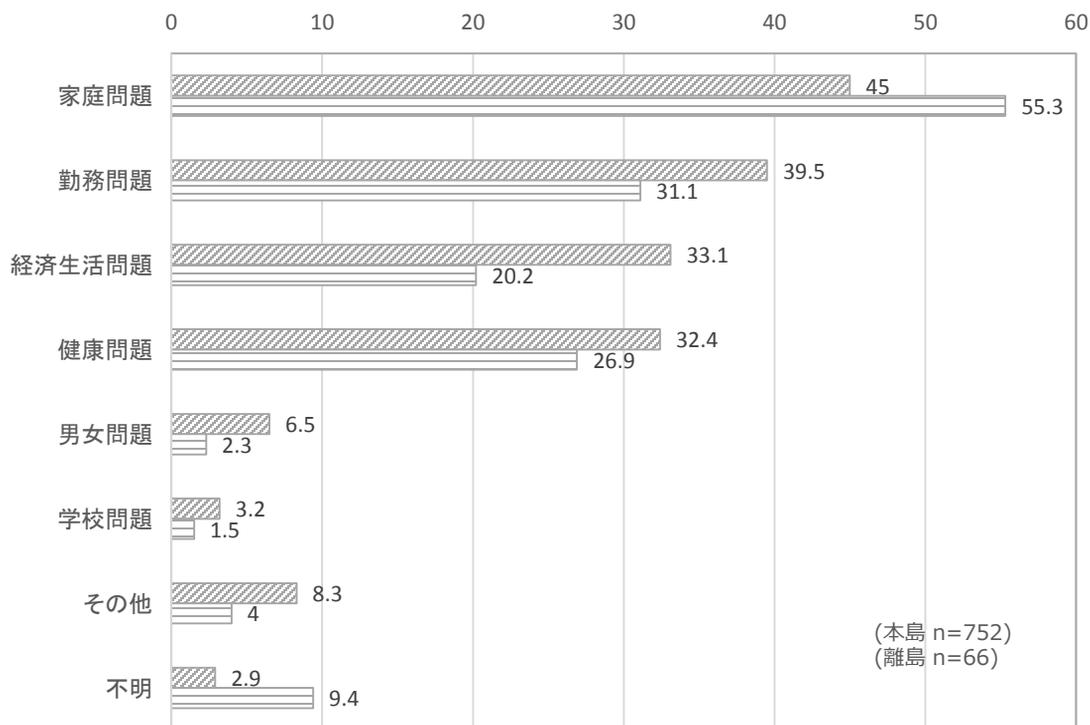


〔圏域別〕



〔本島／離島〕

■本島 □離島



〔性別・年代別／職業別／全国調査〕

		合計	家庭問題	勤務問題	経済生活問題	健康問題	男女問題	学校問題	その他	不明
男性	全体	349	30.3	44.8	36.4	26.6	4.1	2.6	5.9	3.9
	20歳代	44	14.1	62.9	29.8	18.9	6.8	13.7	6.8	4.8
	30歳代	67	41.4	66.5	36.6	16.8	13.8	1.7	4.7	3.2
	40歳代	82	37.3	61.3	41.2	15.1	-	2.5	5	-
	50歳代	52	23.2	46.5	38.8	23.6	2.3	-	4.1	3.9
	60歳代	62	24.5	13	39.3	38.3	1.6	-	6.9	8.2
	70歳代	42	33.3	4.7	26.2	59	-	-	9.7	5.2
女性	全体	469	57.4	34.4	28.8	35.9	7.6	3.4	9.4	3
	20歳代	47	56	50	26	26.2	13.3	12.9	10.9	-
	30歳代	108	60.1	50	34.8	25.6	16	4.6	5.6	3.7
	40歳代	93	61.8	44	27.3	29.8	6.6	4.4	9	3.2
	50歳代	83	59.1	34.7	40.1	43.8	3.6	-	7.4	2.4
	60歳代	69	59.8	17.8	25.3	40.5	1.5	1.5	10.3	3.1
	70歳代	70	43.6	3	13.4	52.9	2.9	-	16.2	4.4
職業	勤めている (常勤)	290	40.6	66.3	29.9	19.2	7.4	1.8	3.9	2.1
	勤めている (パート・アルバイト)	142	52.8	50.5	35.7	29.1	7.1	3.5	7.9	1.5
	自営業及び家族従事者	51	53.2	22.6	58.9	35	7.9	2	8.3	2
	専業主婦・主夫	85	65.5	2.4	20.6	45.7	2.5	1.2	7.2	4.8
	無職	105	38.5	5.7	33.7	52.8	1	1	13.6	5.8
	学生	18	22	22	22	27.5	17	49.5	28	6
	その他	21	49.3	34.1	24.4	50.7	5.4	4.9	9.8	-
全国調査	1321	44	42.9	26	35	5.5	3.1	8.3	0.2	

問10 あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。(○を1つ)

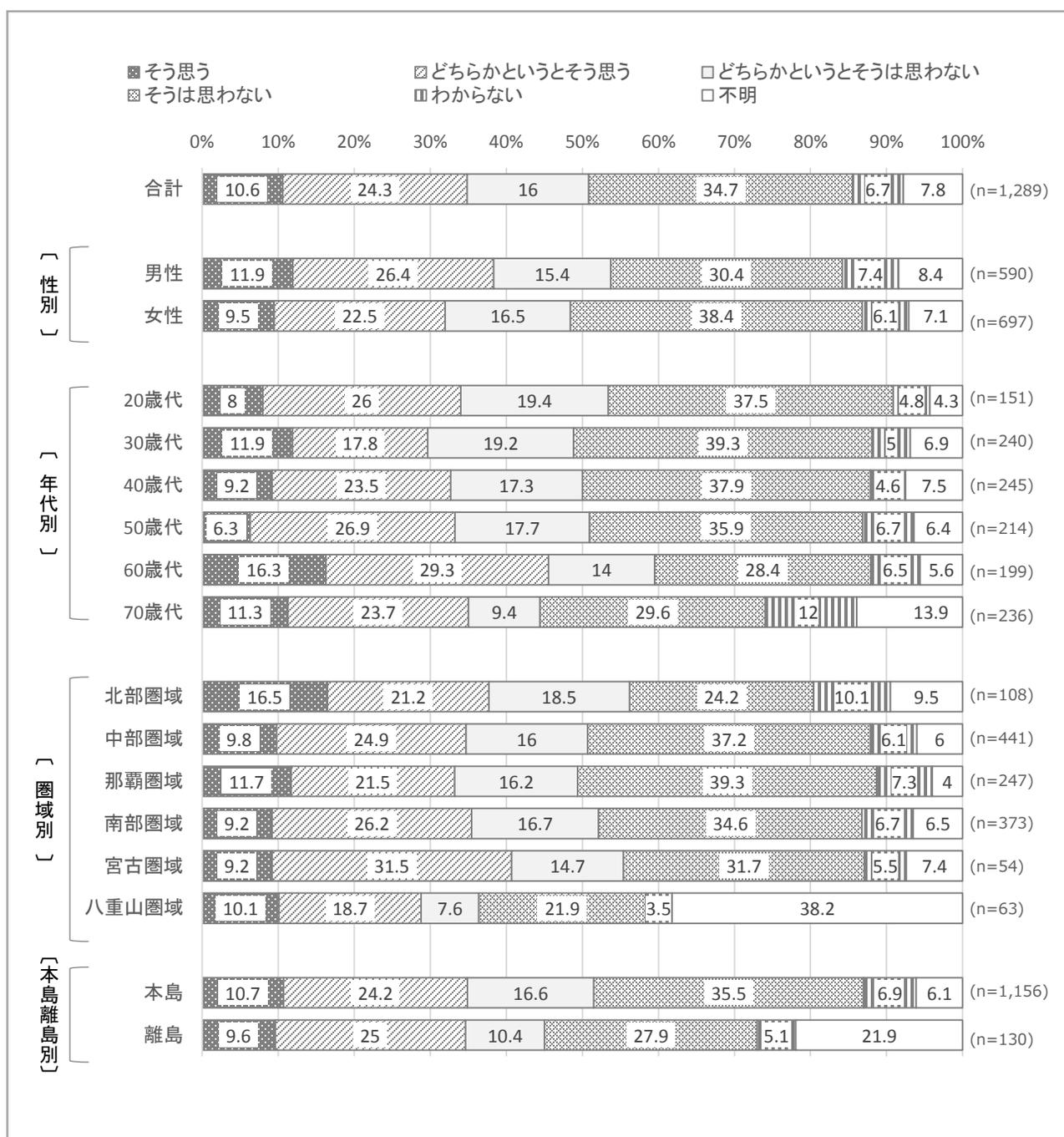
悩みやストレスについての相談をすることにためらいを感じるのは全体の34.9%で3人に1人が相談することにためらいを感じると回答。

性別で見ると男性では38.3%、女性は32.0%と男性が女性より相談することにためらいを感じると回答している。

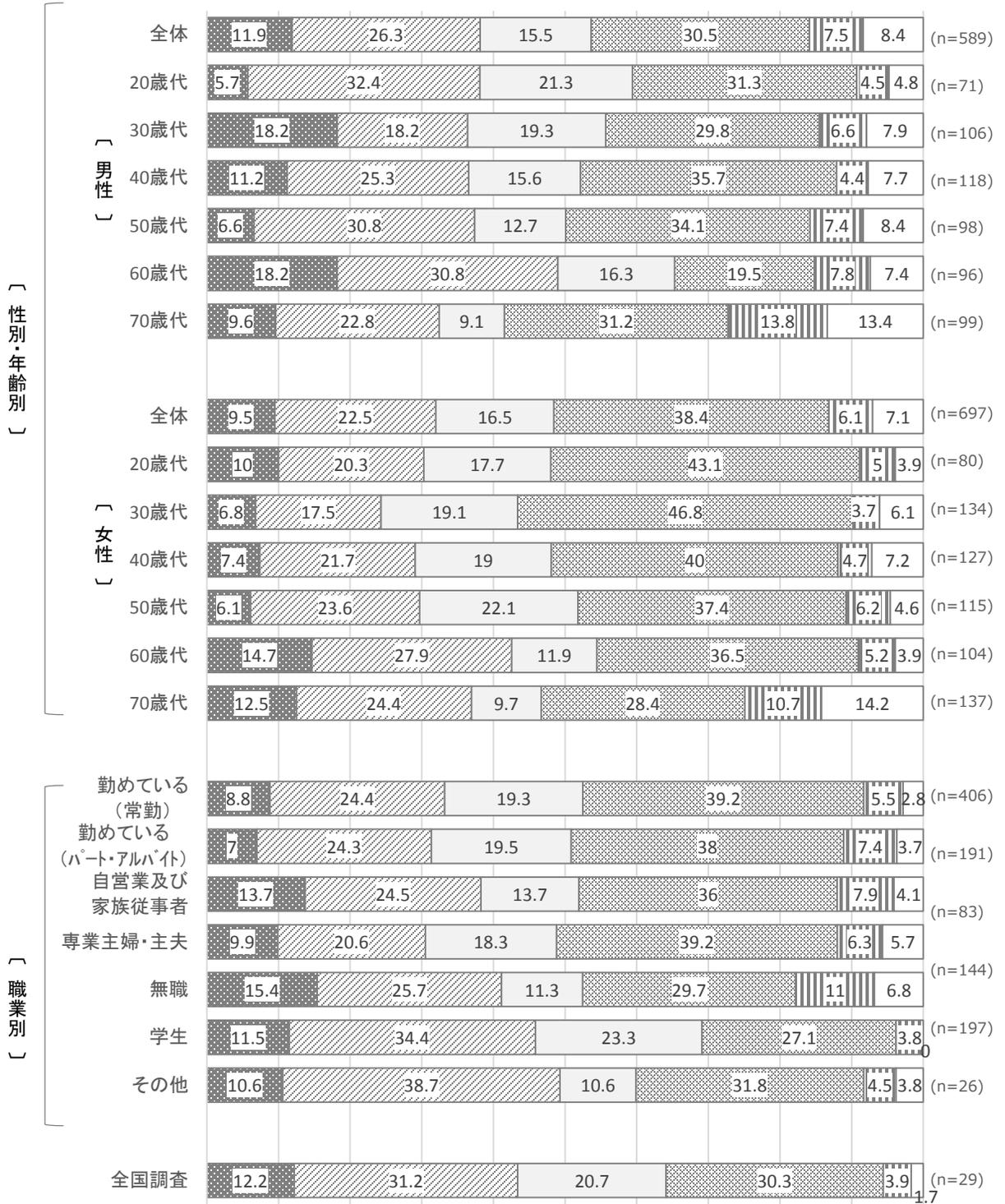
年齢別で見ると、20歳代で34.0%、30歳代で29.7%、40歳代で32.7%、50歳代で33.2%と3割前後で推移し、60歳代で45.6%と増加する。70歳代では35.0%に減少する。

圏域別でみると、八重山圏域が若干『そう思う』が少なくなっている。

全国調査では「ためらいを感じる」との回答は43.4%で沖縄に比べ約10ポイント多い。



■ そう思う ▨ どちらかというと思う □ どちらかというとは思わない
 ▩ そうは思わない ▤ わからない □ 不明
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



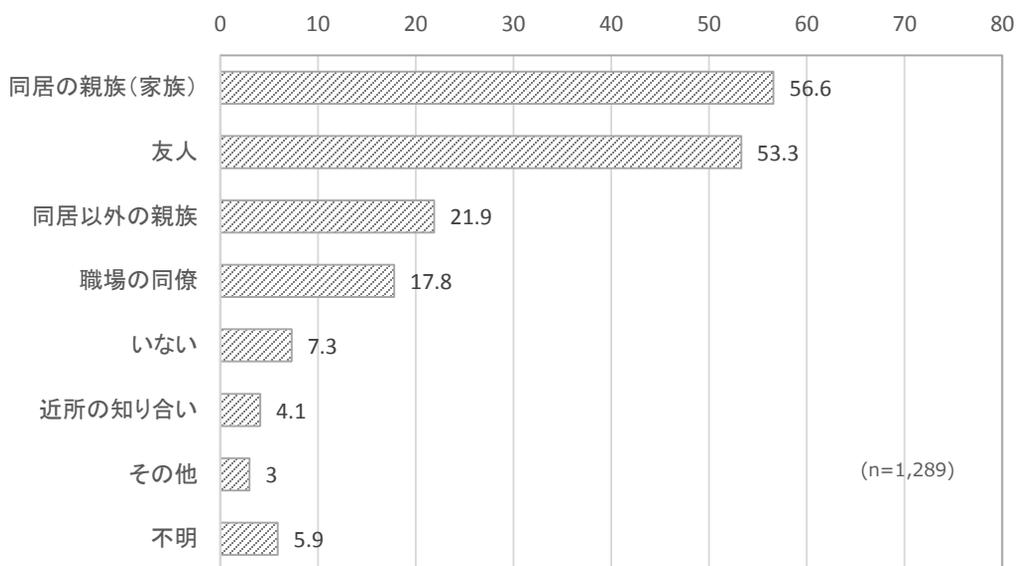
問11 あなたの不満や悩み、つらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はいますか。
(〇をいくつでも)

悩みを聞いてくれる人は「同居している親族（家族）」が56.6%で最も多く、僅差で「友人」が53.3%で並んでいる。3位は2位から30ポイント以上差が開き「同居以外の親族」21.9%、「職場の同僚」17.8%と続く。

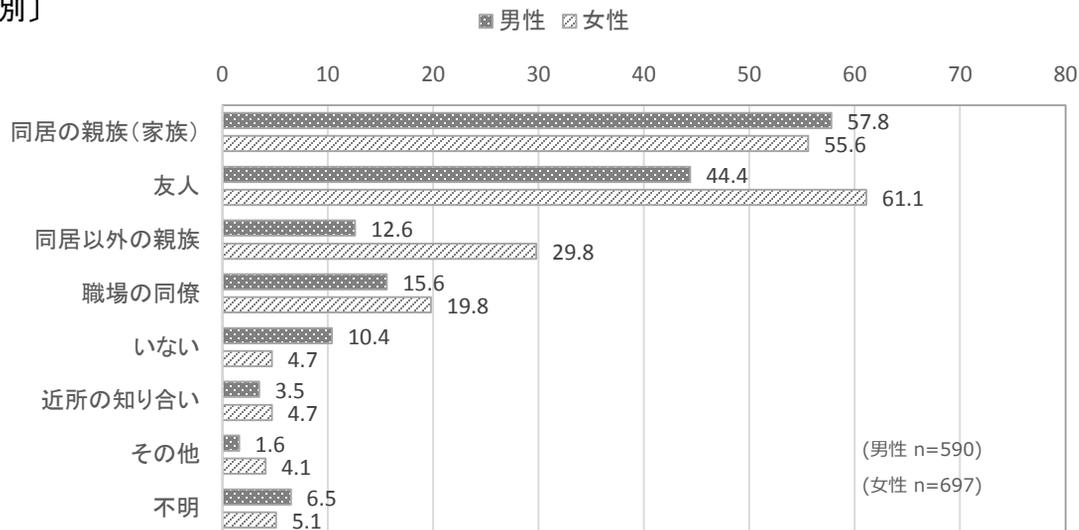
性別で見ると女性で「同居の親族（家族）」より「友人」が15ポイント以上多く、男女差が大きくなっているのが特徴である。

年齢別で見ると20歳代と30歳代では「同居の親族」より「友人」が多い。「友人」は20歳代の72.1%から年齢が上がるにつれて少なくなっていく、70歳代では34.8%となる。

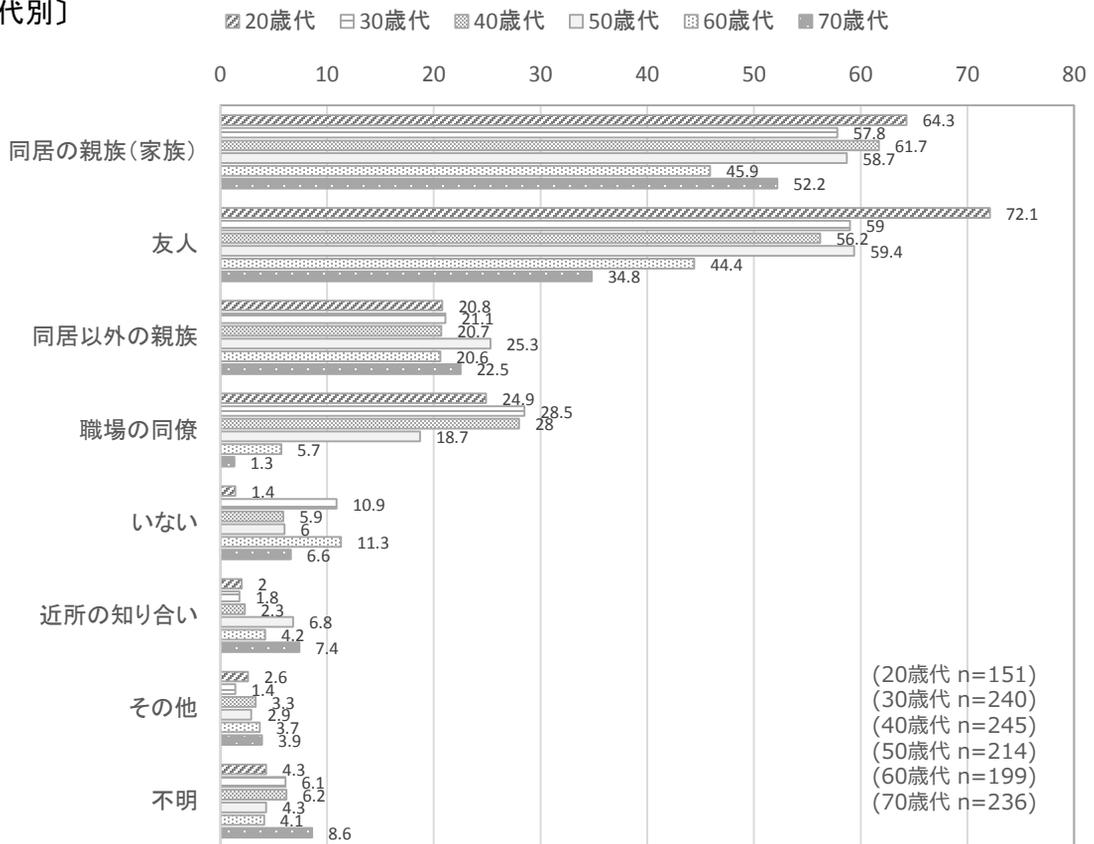
性別・年齢別で見ると30歳代男性、60歳代男性、70歳代男性で相談相手が「いない」との回答が1割を超えている。



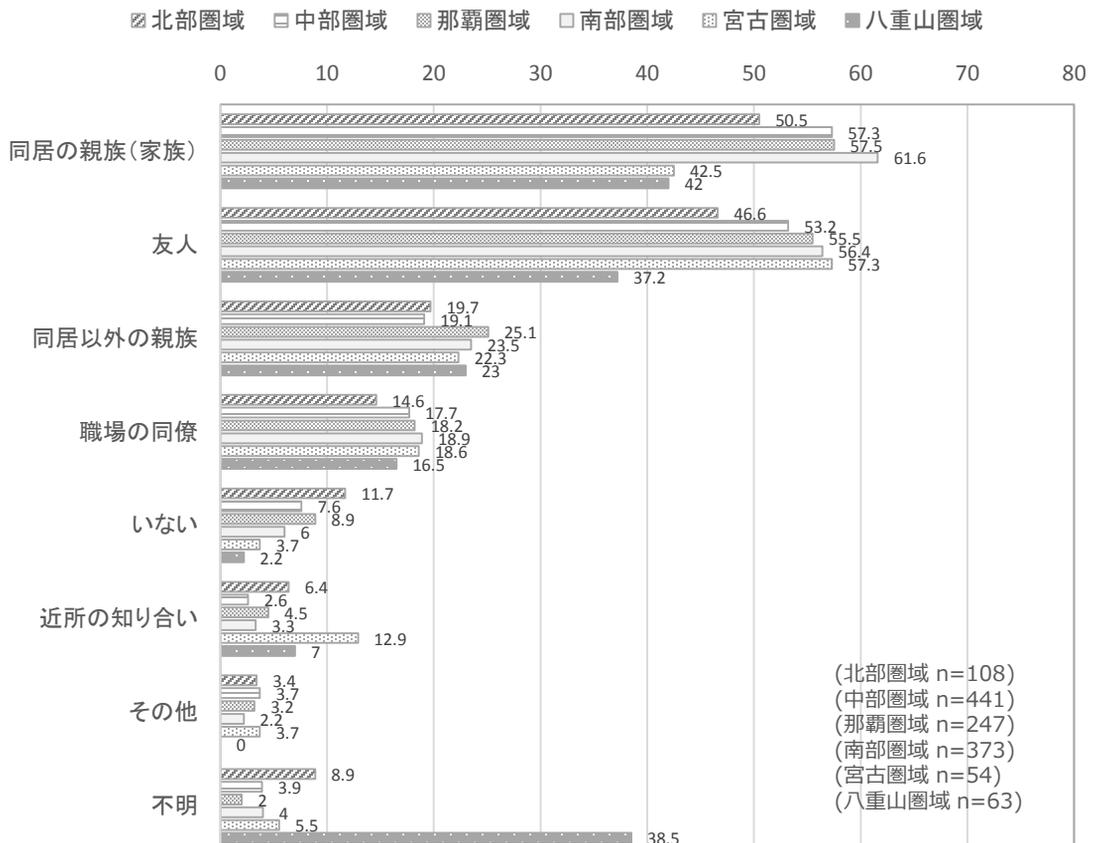
〔性別〕



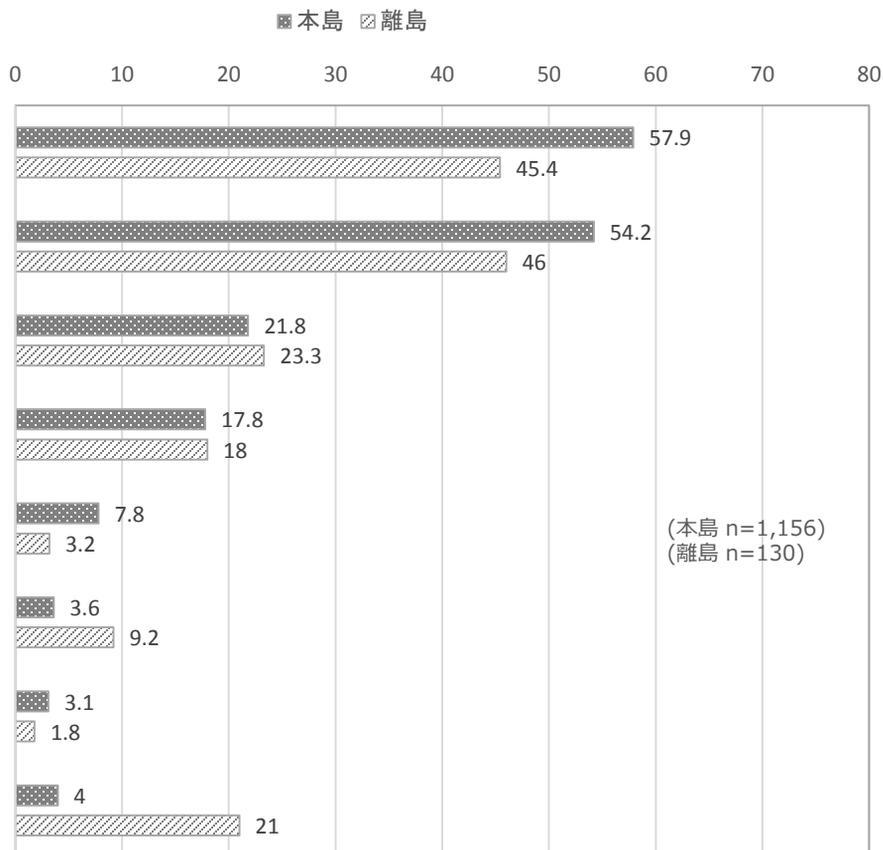
〔年代別〕



〔圏域別〕



〔本島／離島〕



〔性別・年代別／職業別／全国調査〕

		合計	同居の親族 (家族)	友人	同居以外の 親族	職場の同僚	近所の知り 合い	いない	その他	不明
男性	全体	590	57.8	12.6	44.4	15.6	3.5	10.4	1.6	6.5
	20歳代	71	63.8	62.4	15.5	21.5	-	0.1	1.4	4.9
	30歳代	106	58.5	45.1	11.7	22.2	2	15.2	-	8
	40歳代	118	64.5	48.6	11.1	23.3	2.8	8.7	3.4	6.9
	50歳代	99	59.4	48.8	12.4	17.6	6.4	7.7	1.2	6.3
	60歳代	96	40.9	36.4	11.7	6.3	3.3	16.2	2.2	5.3
	70歳代	99	59.3	28.2	13.3	1	5.8	11.6	1	7.2
女性	全体	697	55.6	61.1	29.8	19.8	4.7	4.7	4.1	5.1
	20歳代	80	64.8	80.8	25.4	27.9	3.8	2.5	3.8	3.8
	30歳代	134	57.3	70.1	28.7	33.5	1.6	7.5	2.5	4.6
	40歳代	127	59.1	63.1	29.6	32.3	1.8	3.4	3.2	5.6
	50歳代	115	58.2	68.5	36.4	19.6	7.1	4.6	4.3	2.7
	60歳代	104	50.5	51.8	28.7	5.1	4.9	6.8	5	3
	70歳代	137	47.1	39.5	29.1	1.5	8.5	3.1	6.1	9.7
職業	勤めている (常勤)	406	64.4	59.5	19.8	34.6	1.3	6.1	1.3	2
	勤めている (パート・アルバイト)	191	55.1	61.7	26.5	27	3.8	7.5	4.8	1.6
	自営業及び家族従事者	83	54.5	50.1	18.3	7.5	7.8	13.8	2.6	5.2
	専業主婦・主夫	144	71.7	59.9	36.1	1.4	7.1	2.1	4.2	4.3
	無職	197	47.7	41	21.6	1.1	4.5	11.9	3.2	4.2
	学生	26	65.3	73.3	22.9	11.5	-	-	-	-
	その他	29	40.4	38.4	21.9	17.5	7.5	10.6	10.3	3.4
全国調査		2017	67.6	53.1	31.9	21.4	8.7	6.1	3.5	1.2

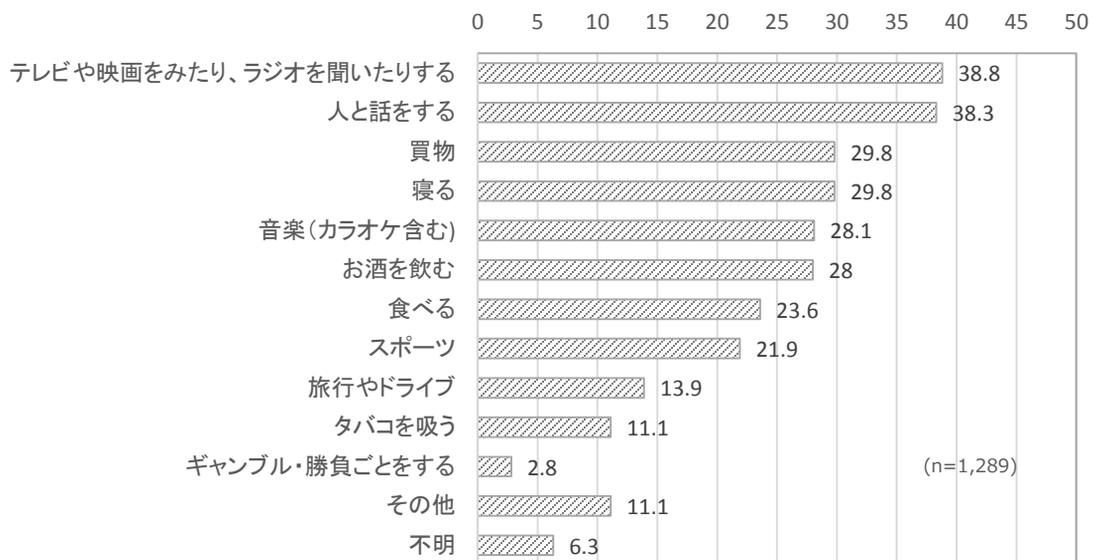
問12 あなたが、日常生活で悩みやストレスを解消するために、よく行うことはなんですか。
(〇をいくつでも)

ストレス解消法としては多いのは「テレビや映画をみたり、ラジオを聞いたりする」が38.8%、「人と話をする」が38.3%で並んでいる。次いで「買物」29.8%、「寝る」29.8%、「音楽」28.1%、「お酒を飲む」28.0%、「食べる」23.6%、「スポーツ」21.9%と続く。

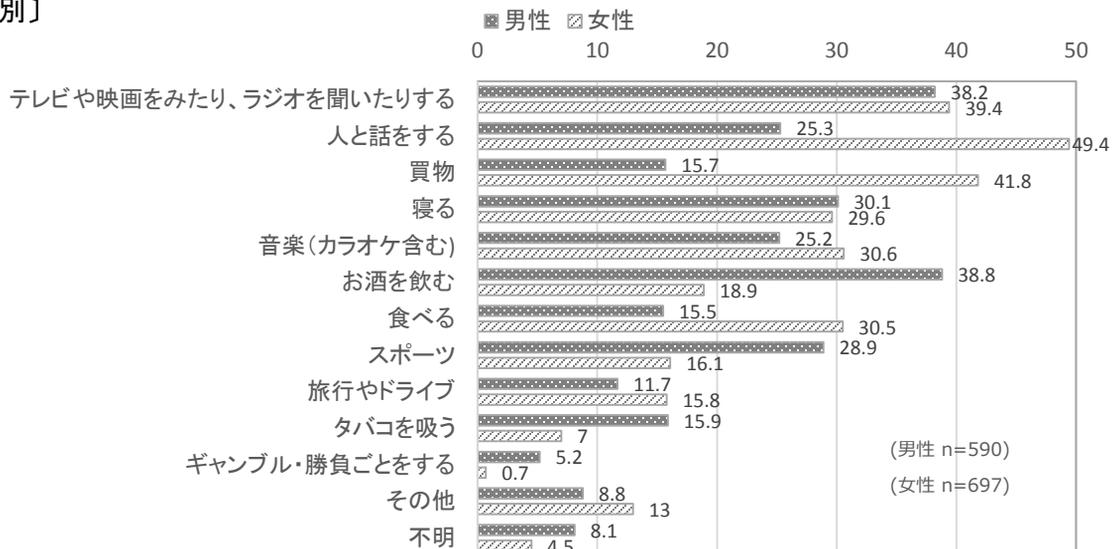
性別で見ると、男性は「お酒を飲む」が38.8%でトップ、2位は「テレビや映画..」の38.2%、女性では「人と話をする」が49.4%でトップ、2位が「買物」が41.8%となるなど男女で差が見られた。

年齢別では見ると、「テレビや映画」は50歳代、60歳代が多く、その他の項目では若いほど多くなる傾向が見られ、若いほど色々なストレス解消法を取っていることがわかる。中でも「音楽」は20歳代が突出している。

圏域別は特に特徴は見られない。



〔性別〕



〔年代別〕

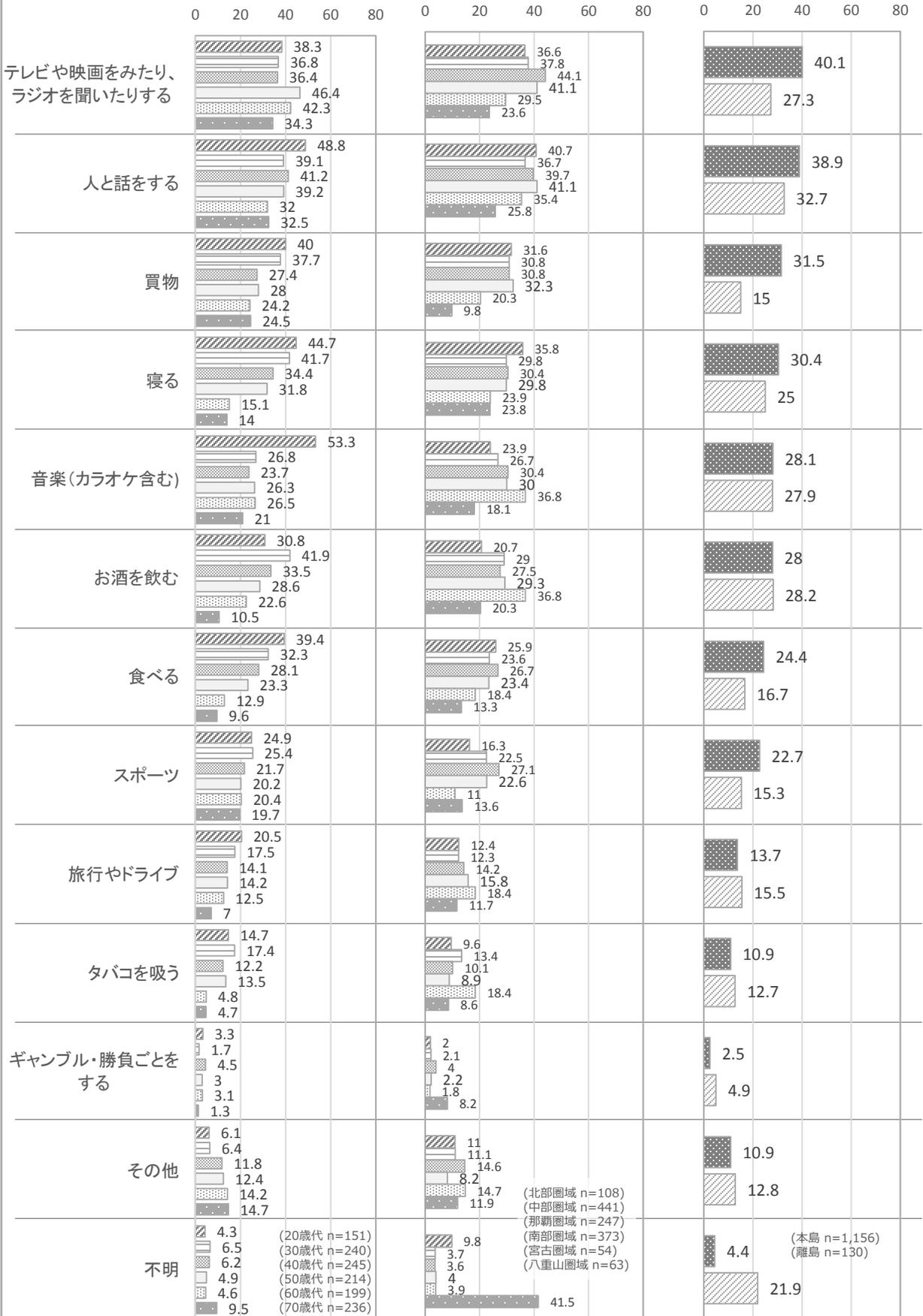
〔圏域別〕

〔本島／離島〕

20歳代
 30歳代
 40歳代
 50歳代
 60歳代
 70歳代

北部圏域
 中部圏域
 那覇圏域
 南部圏域
 宮古圏域
 八重山圏域

本島
 離島



〔性別・年代別／職業別〕

		合計	テレビや映画をみたり、ラジオを聞いたりする	人と話をする	買物	寝る	音楽(カラオケ含む)	お酒を飲む	食べる
男性	全体	590	38.2	25.3	15.7	30.1	25.2	38.8	15.5
	20歳代	71	37.2	35.5	25.5	49.5	45	32.9	32.4
	30歳代	106	38.5	27.8	24.7	39.5	22.8	50	24
	40歳代	118	34.6	27.9	13.1	31.9	19.4	44.7	13.9
	50歳代	99	47.1	25.1	13.3	33.2	25.8	42.4	12.4
	60歳代	96	44.1	17.2	6.7	11.2	20.3	36.5	8.6
	70歳代	99	28.8	20.2	13.2	18.4	24.9	22.9	6.3
女性	全体	697	39.4	49.4	41.8	29.6	30.6	18.9	30.5
	20歳代	80	39.2	60.8	53	40.4	60.8	28.9	45.6
	30歳代	134	35.3	48.1	48.1	43.5	29.9	35.5	38.8
	40歳代	127	38	53.5	40.5	36.7	27.8	23.1	41.2
	50歳代	115	45.7	51.3	40.6	30.6	26.8	16.8	32.7
	60歳代	104	40.6	45.6	40.3	18.8	32.3	9.7	17
	70歳代	137	38.4	41.4	32.6	10.8	18.2	1.5	12
職業	勤めている (常勤)	406	41.2	37.9	28.6	36.3	29.1	38.8	29.3
	勤めている (パート・アルバイト)	191	42.3	46.9	39.6	35.8	35.3	28.6	30.5
	自営業及び家族従事者	83	33.9	38.7	20	26.2	20	42.5	14.1
	専業主婦・主夫	144	35.9	48	46.9	23.8	26.9	11.2	26.8
	無職	197	41.1	33.8	20	18.1	19.7	15.5	13.9
	学生	26	50	58	34.4	69.5	76.7	30.5	45.8
	その他	29	49.3	28.4	34.9	34.9	25	21.2	21.9

		合計	スポーツ	旅行やドライブ	タバコを吸う	ギャンブル・勝負ごとをする	その他	不明
男性	全体	590	28.9	11.7	15.9	5.2	8.8	8.1
	20歳代	71	31.3	12.6	15.7	5.6	7.1	4.9
	30歳代	106	37.8	17.1	22	3.8	5.7	7.9
	40歳代	118	27	12.2	17.4	7.7	10.5	7.7
	50歳代	99	28.2	16.2	22.7	4.5	9.6	7.4
	60歳代	96	23.5	5.5	6.8	6.5	13	6.4
	70歳代	99	25.1	6.5	10.2	3	6.8	13.3
女性	全体	697	16.1	15.8	7	0.7	13	4.5
	20歳代	80	19	27.6	13.8	1.3	5.1	3.8
	30歳代	134	15.5	17.7	13.7	-	6.9	5.3
	40歳代	127	16.7	15.8	7.3	1.6	12.9	4.8
	50歳代	115	13.3	12.5	5.6	1.7	14.9	2.8
	60歳代	104	17.5	18.9	2.9	-	15.2	3
	70歳代	137	15.8	7.4	0.7	-	20.4	6.7
職業	勤めている (常勤)	406	29.8	19.9	14.2	4.2	7.9	2
	勤めている (パート・アルバイト)	191	18.5	10.1	9.6	1.6	11.7	2.6
	自営業及び家族従事者	83	20	11.3	20.2	4	12.9	5.2
	専業主婦・主夫	144	17.6	13.4	4.2	0.7	16	2.3
	無職	197	17.7	11.9	8.8	1.6	15.2	5.7
	学生	26	22.9	26.7	7.6	-	4.2	-
	その他	29	20.9	17.8	7.2	6.8	35.3	0.3

問13 あなたは、睡眠で十分な休養がとれていますか。(○を一つ)

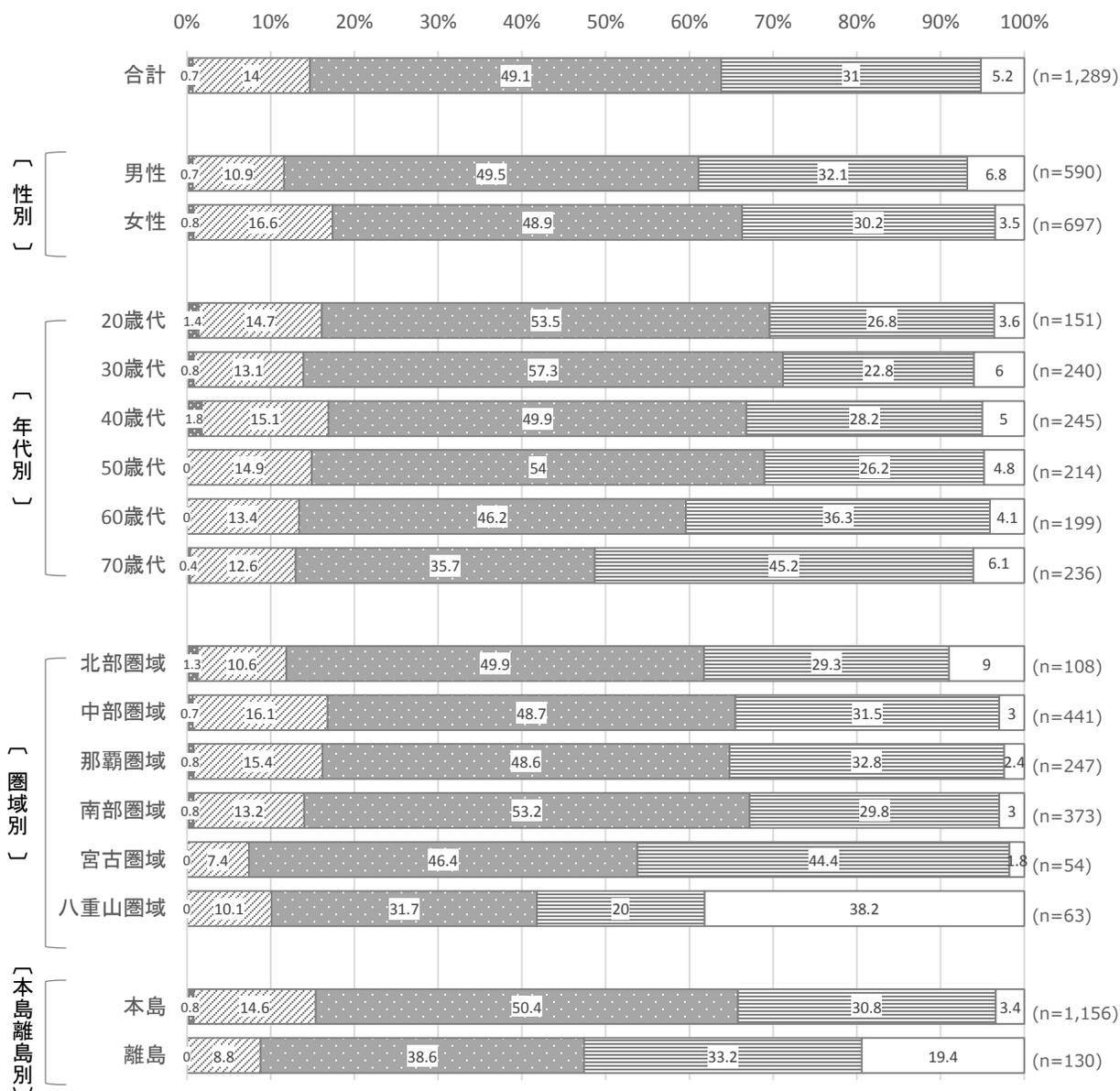
睡眠で休養が取れているか尋ねたところ、「まったく取れていない」は0.7%、「あまり取れていない」は14.0%で合わせて『睡眠で十分な休養が取れていない』は14.7%であった。逆に「まあまあ取れている」49.1%と「十分に取れている」31.0%を合わせた80.1%が『休養が取れている』と回答。性別では『取れていない』は男性11.6%、女性16.9%、『休養が取れている』では男性が81.6%、女性は79.1%という結果となり、若干女性の方が休養が取れていないと感じている。

年齢別で見ると、『取れてない』は20歳代16.1%、30歳代13.9%、40歳代16.9%、50歳代15.3%、60歳代13.4%、70歳代13.0%となっており、40歳代、50歳代でやや多くなる。

圏域で見ると中部圏域で16.9%、那覇圏域で16.2%と多めである。

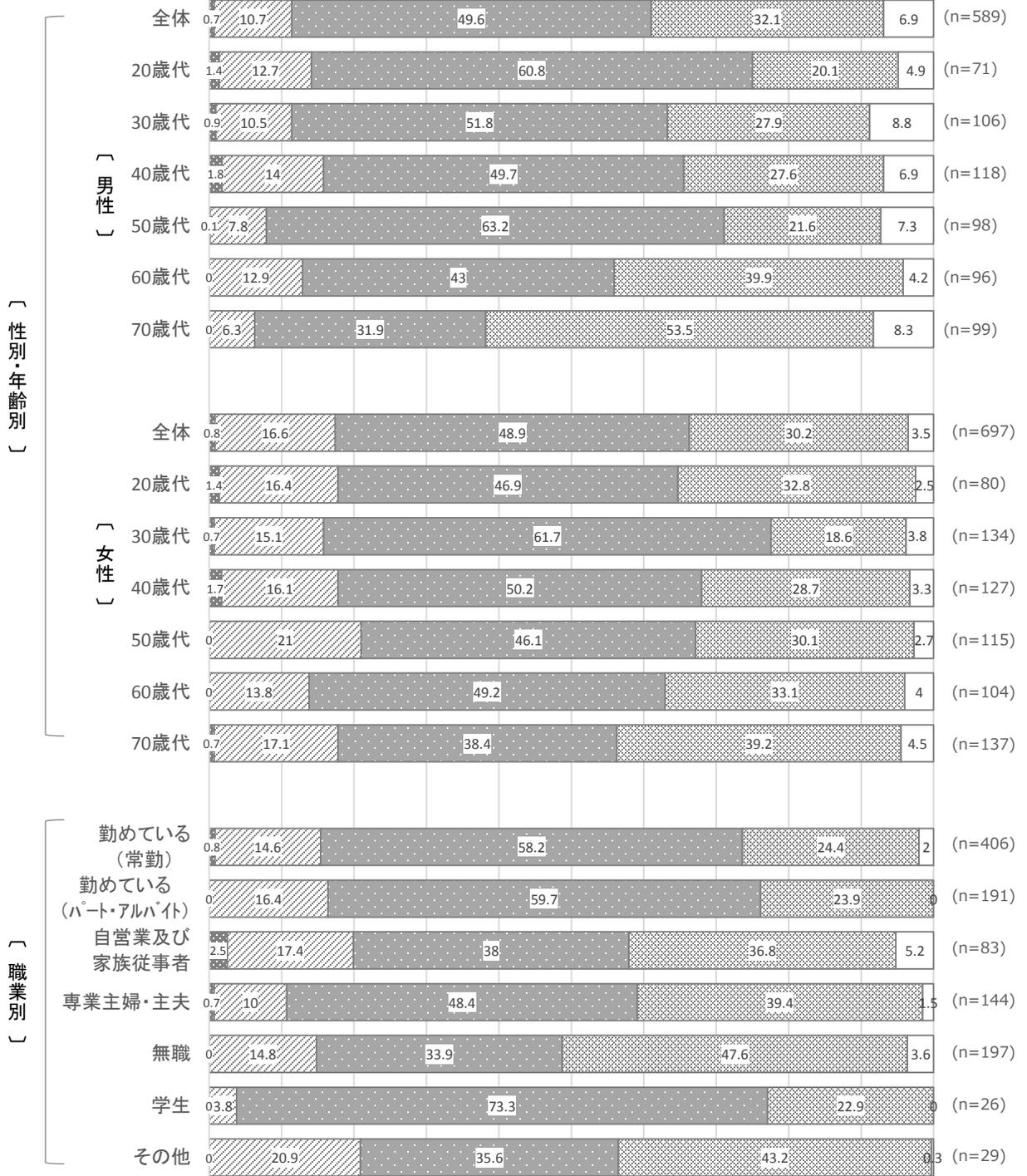
性・年齢で見ると、各層とも男性より女性が『休養が取れていない』との回答が多くなっており、50歳代女性が最も『取れていない』が多く21%、20歳代女性、40歳代女性、70歳代女性で17.8%が『取れていない』となった。

■まったく取れていない □あまり取れていない ■まあまあ取れている ▨十分に取れている □不明



■まったく取れていない □あまり取れていない ■まあまあ取れている ▨十分に取れている □不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

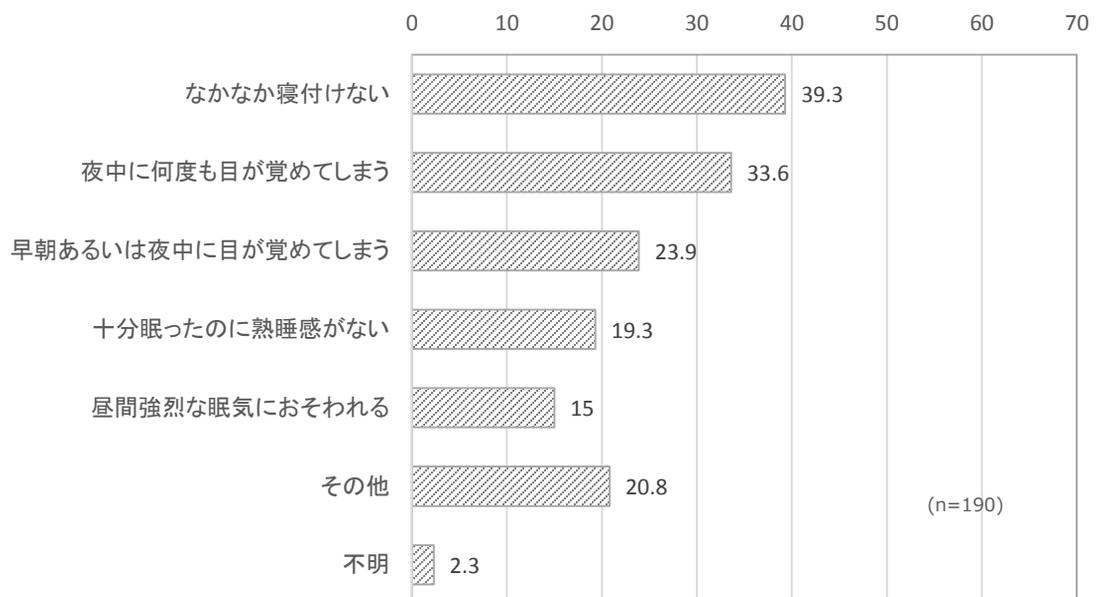


付問13-1(問13で「あまり取れていない」「まったく取れていない」を選んだ方のみ)
 それはどのような事柄が原因ですか(○をいくつでも)

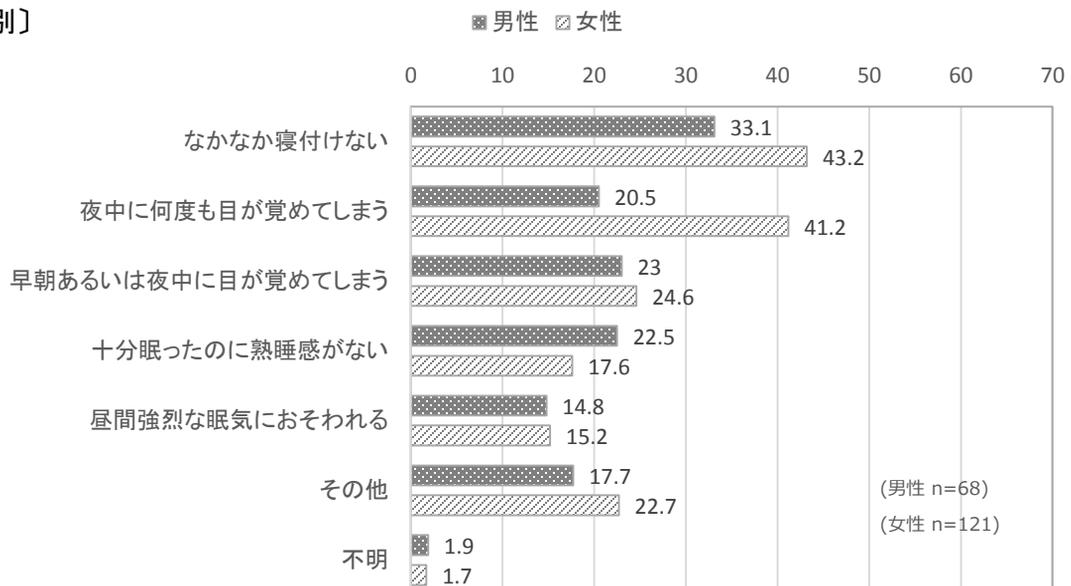
休養が取れていない理由としては「なかなか寝付けない」が39.3%で最も多く、「夜中に何度も目が覚めてしまう」が33.6%、「早朝あるいは夜中に目が覚めてしまう」が23.9%、「十分眠ったのに熟睡感がない」19.3%と続く。

性別で見ると、「なかなか寝付けない」「夜中に何度も目が覚めてしまう」は女性が多くなっている。

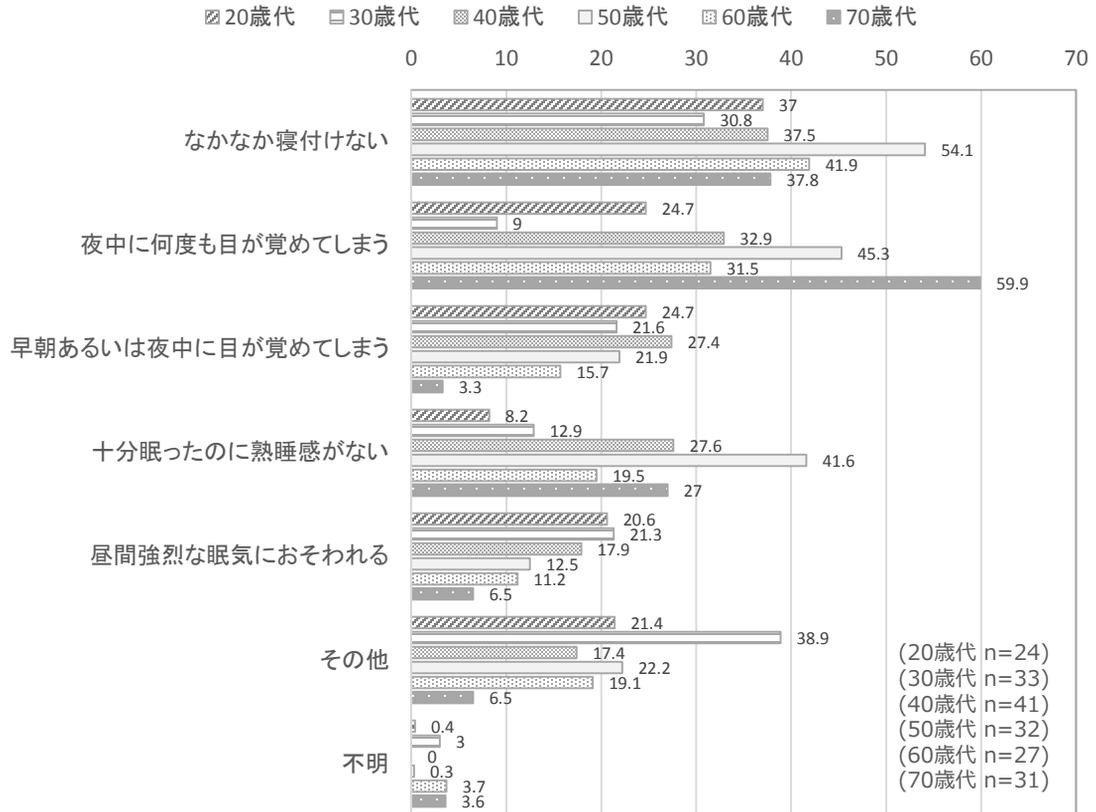
年齢別では、50歳代で「なかなか寝付けない」「夜中に何度も目が覚めてしまう」「早朝あるいは夜中に目が覚めてしまう」が高めになっており、70歳代では「夜中に何度も目が覚めてしまう」が59.9%と突出している。



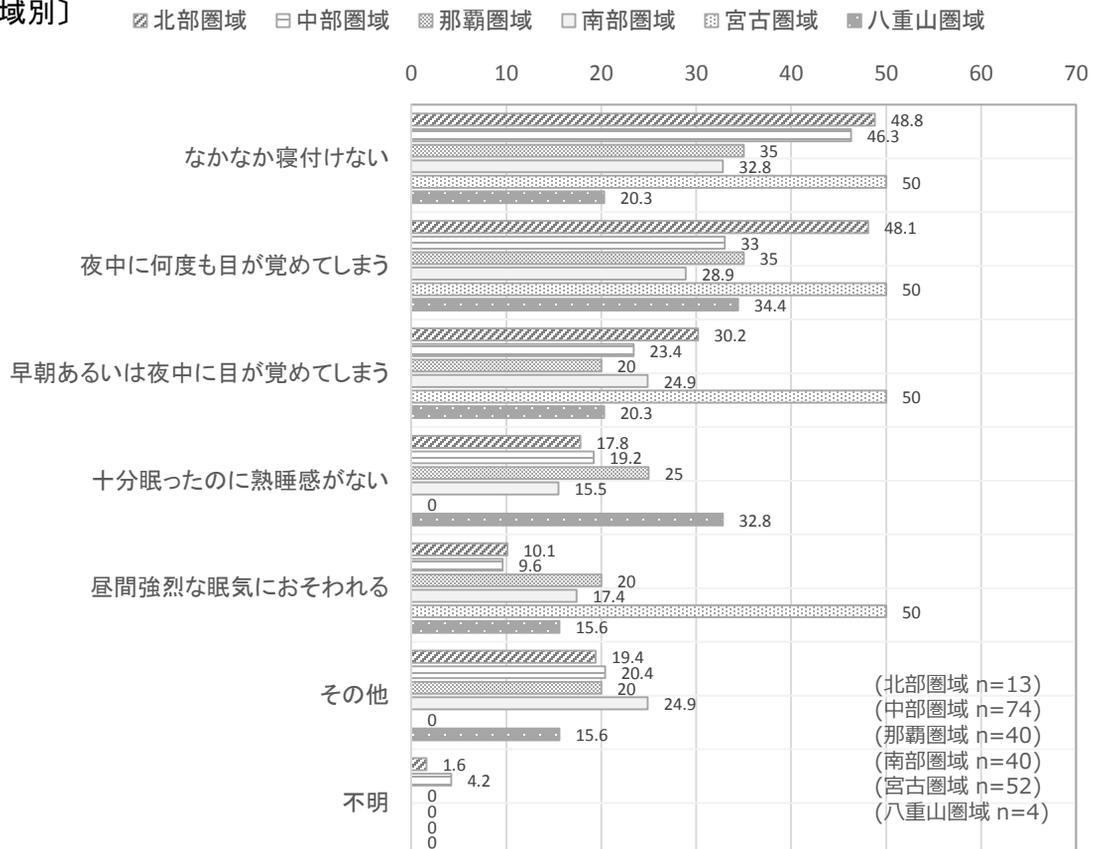
〔性別〕



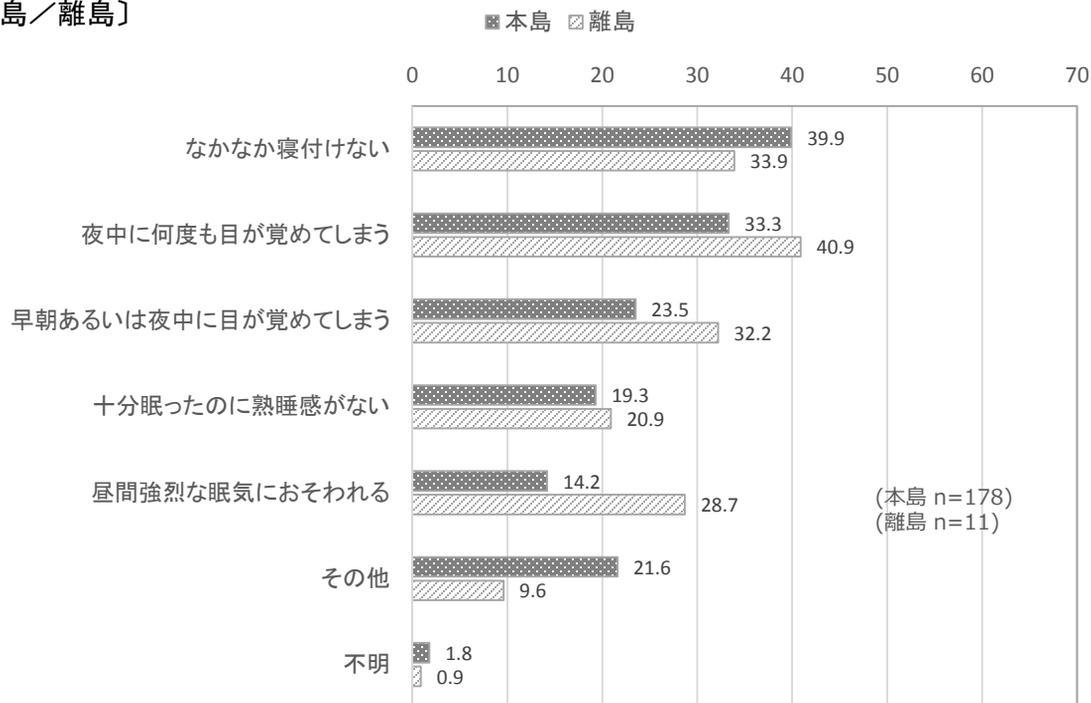
〔年代別〕



〔圏域別〕



〔本島／離島〕



〔性別・年代別／職業別〕

		合計	睡眠の問題							不明
			なかなか寝付けない	夜中に何度も目が覚めてしまう	早朝あるいは夜中に目が覚めてしまう	十分眠ったのに熟睡感がない	昼間強烈な眠気におそわれる	その他		
男性	全体	68	33.1	20.5	23	22.5	14.8	17.7	1.9	
	20歳代	10	39.6	-	-	39.6	19.8	19.8	1	
	30歳代	12	33.6	-	17.2	33.6	32.8	24.6	-	
	40歳代	19	32.3	33.9	22.6	27.4	16.7	5.9	-	
	50歳代	8	15.4	32.1	55.1	25.6	-	38.5	1.3	
	60歳代	12	41.9	17.7	17.7	9.7	8.1	16.1	8.1	
	70歳代	6	33.9	66.1	48.4	-	-	16.1	1.6	
女性	全体	121	43.2	41.2	24.6	17.6	15.2	22.7	1.7	
	20歳代	14	35.2	42.3	14.1	14.1	21.1	22.5	-	
	30歳代	21	29.2	14.2	10.4	24.1	19.3	47.2	4.7	
	40歳代	23	41.9	36.6	31.7	27.3	18.9	26.9	-	
	50歳代	24	66.5	49.6	37.6	20.7	20.7	21.1	-	
	60歳代	14	42	43.4	21	21	14	21.7	-	
	70歳代	25	38.8	62.9	29.8	8.2	16.3	4.1	4.1	
職業	勤めている (常勤)	63	34.4	21.8	21.8	26.1	14.7	21	1.8	
	勤めている (パート・アルバイト)	31	42	32.8	16.6	19.1	19.1	22.3	-	
	自営業及び家族従事者	17	44	19.3	25.3	19.3	30.7	31.3	-	
	専業主婦・主夫	15	40	40	32.9	19.4	12.9	40	-	
	無職	29	34.2	51.4	30.8	7.2	17.1	3.4	7.2	
	学生	1	100	-	-	-	-	-	-	
	その他	6	34.4	32.8	16.4	32.8	-	32.8	-	

IV. うつに関する意識についておたずねします

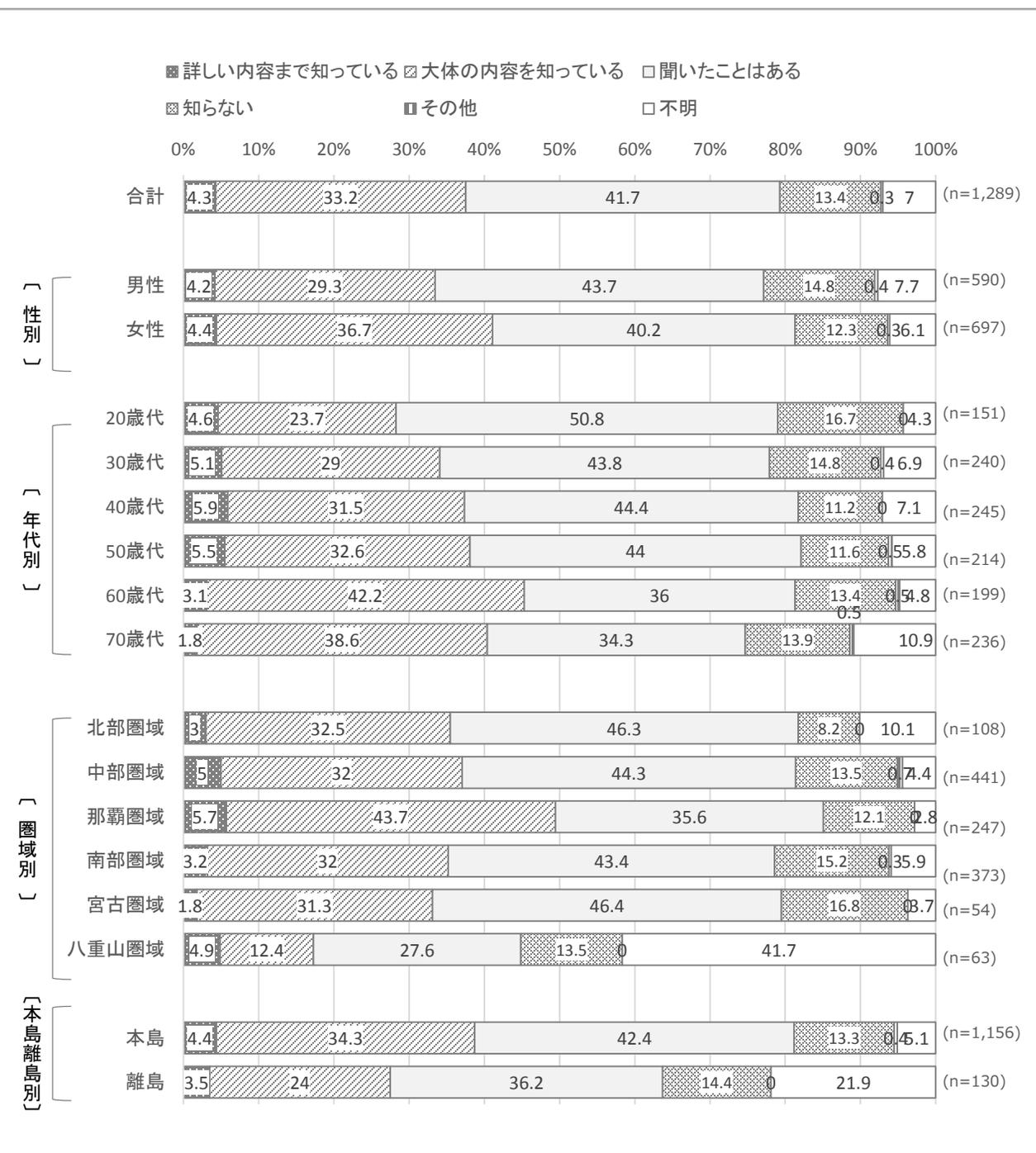
問14「うつ病・うつ病のサイン」という言葉を知っていましたか

うつ病のサインについては「詳しい内容まで知っていた」が4.3%、「大体的内容を知っている」33.2%、「聞いたことはある」が41.7%となっており、合わせて79.1%は何らかの形で『知っている』と回答している。

性別で見ると、男性で『知っている』は77.2%、女性は81.1%とやや女性の認知が多く、「詳しい内容まで知っている」と「大体的内容まで知っている」を合わせた『理解度』を見ると男性33.5%、女性41.1%と女性が高くなっている。

年齢別で見ると、『知っている』は年代間の差はあまりないが、「詳しい内容まで知っている」と「大体的内容まで知っている」までの『理解度』で見ると20歳代の28.3%から60歳代の47.7%まで年代が上がるにつれて高くなる。

圏域別では那覇圏域で『理解度』は49.4%と高くなった。



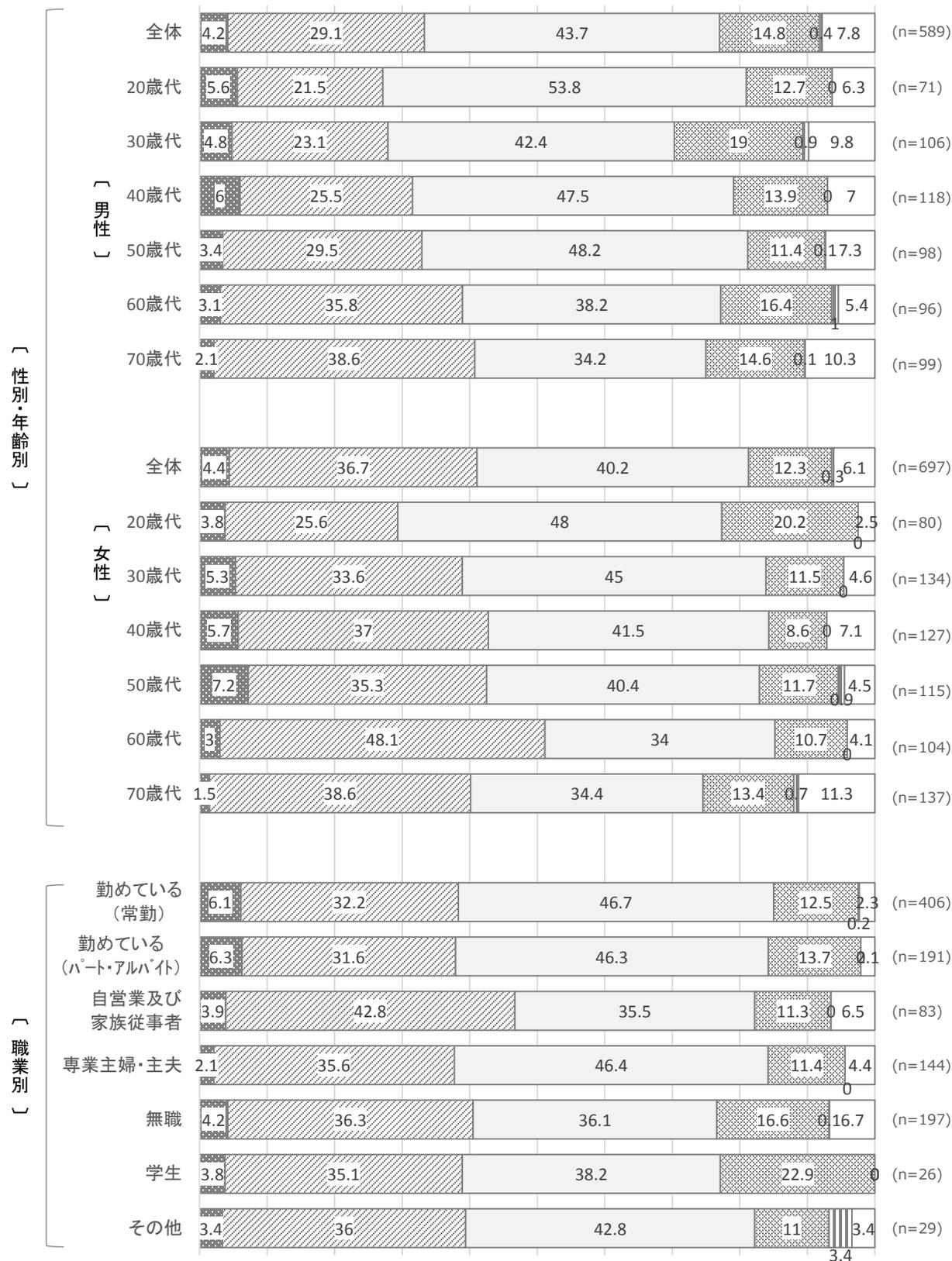
■ 詳しい内容まで知っている □ 大体の内容を知っている □ 聞いたことはある

▨ 知らない

■ その他

□ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



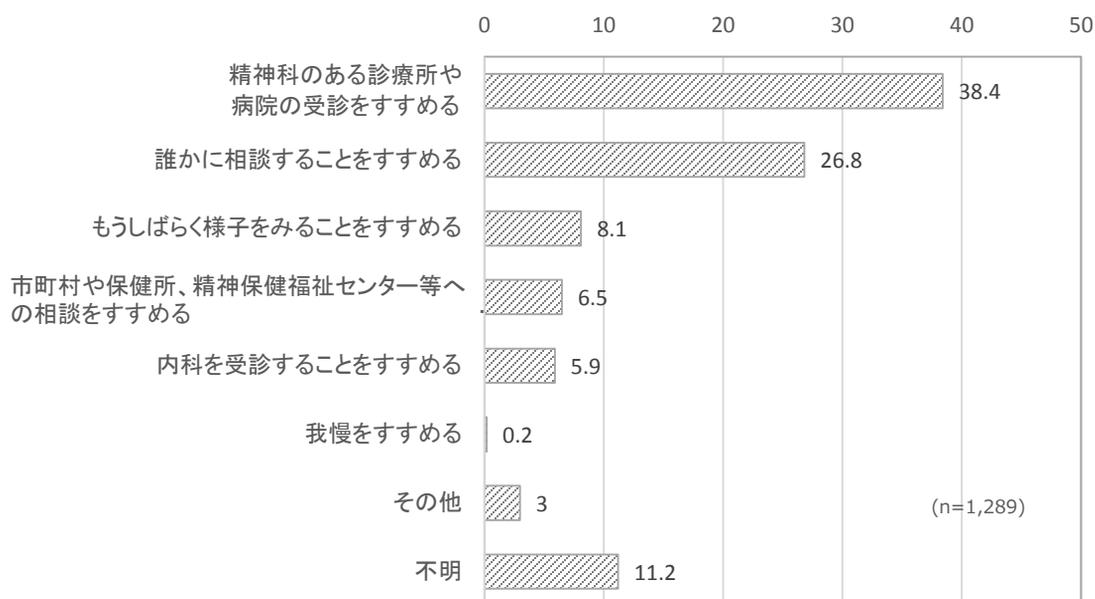
問15 もし仮に、あなたが、今あなたの家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、どうしますか。あなたのお考えに近いもの一つだけに○をつけて下さい。(○を1つ)

家族などの身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたときの対応としては、「精神科のある診療所や病院の受診をすすめる」が38.4%で最も多く、次いで「誰かに相談することをすすめる」となっている。

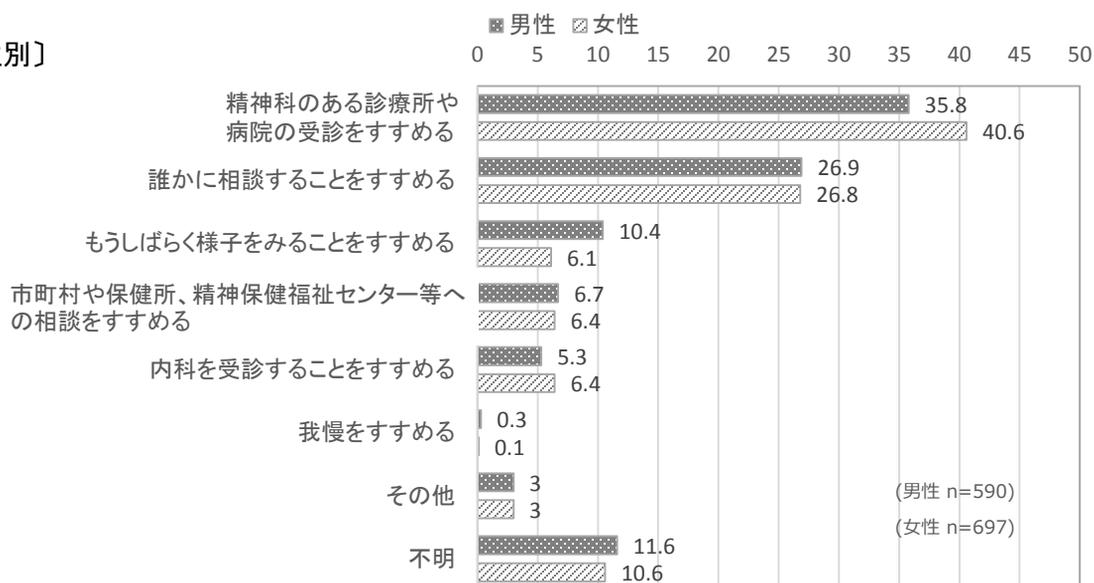
性別で見ると、女性が「精神科のある診療所や病院の..」が40.6%と男性より多くなっている。

年齢別で見ると、「精神科のある診療所や病院の..」は40歳代以上で約4割。「誰かに相談するようすすめる」は若いほど多くなる。

圏域別で見ると「精神科のある診療所や病院の..」は那覇圏域で多く、「誰かに相談する」は北部圏域で多い。

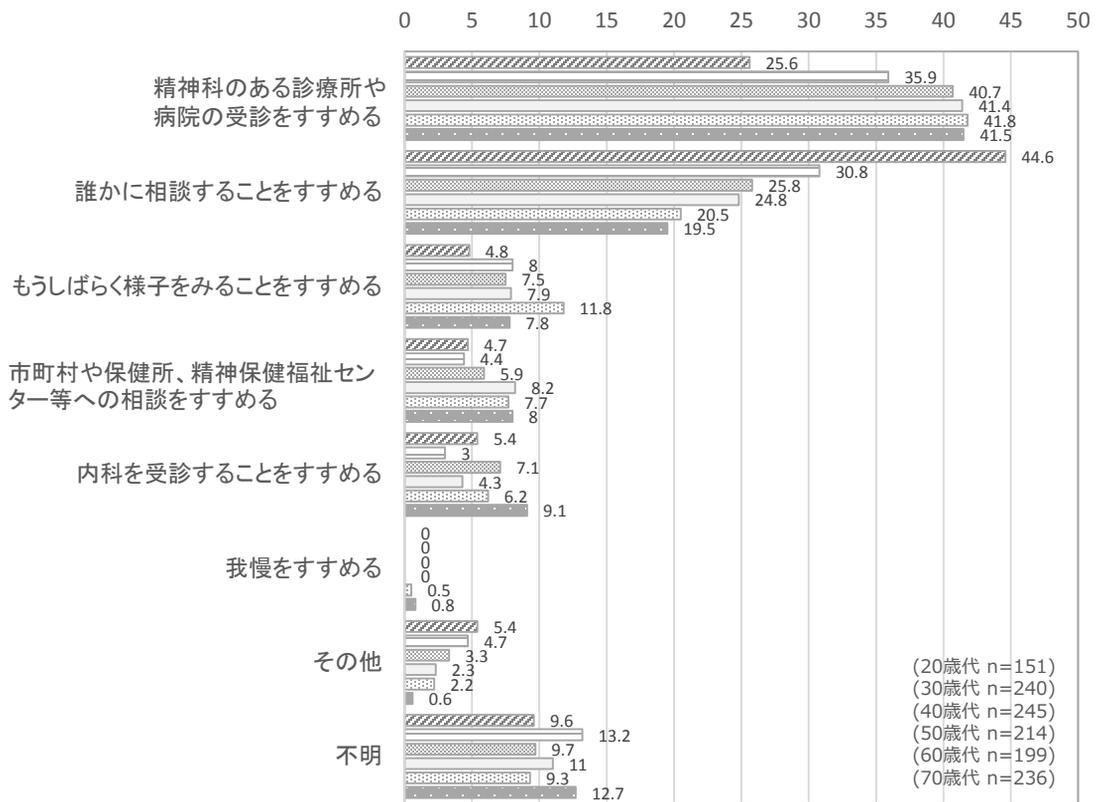


〔性別〕



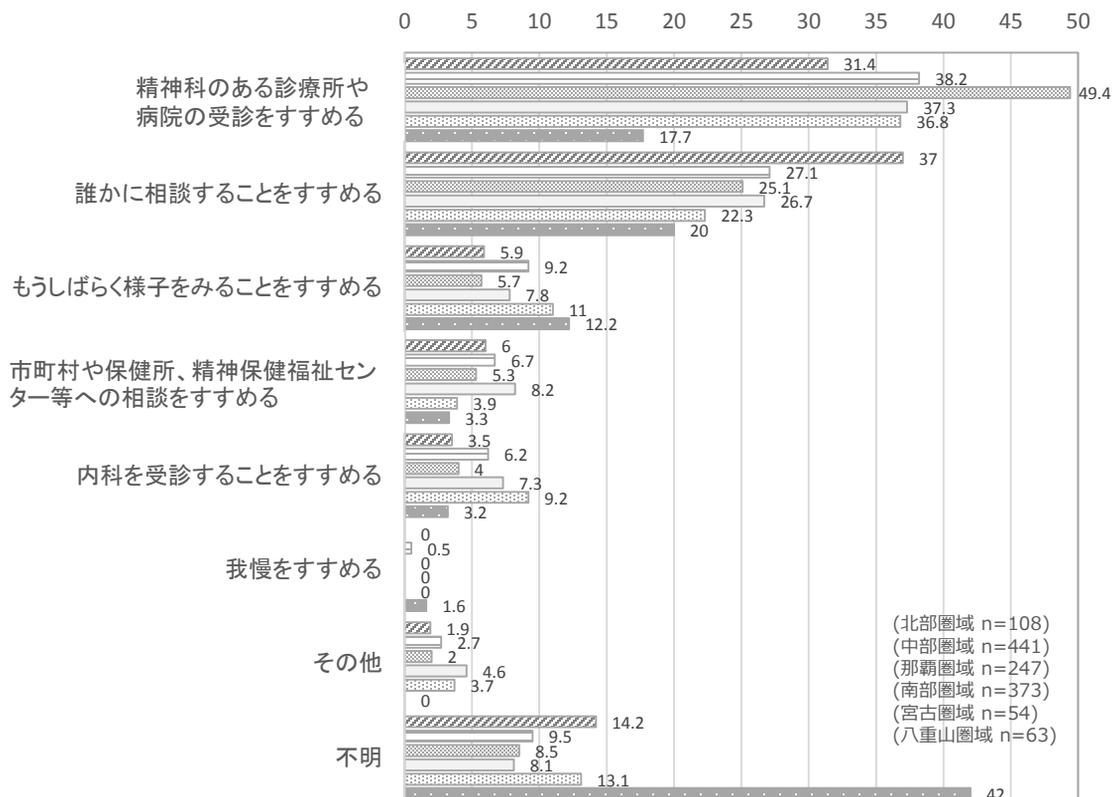
〔年代別〕

■ 20歳代 □ 30歳代 ▨ 40歳代 □ 50歳代 ▩ 60歳代 ■ 70歳代

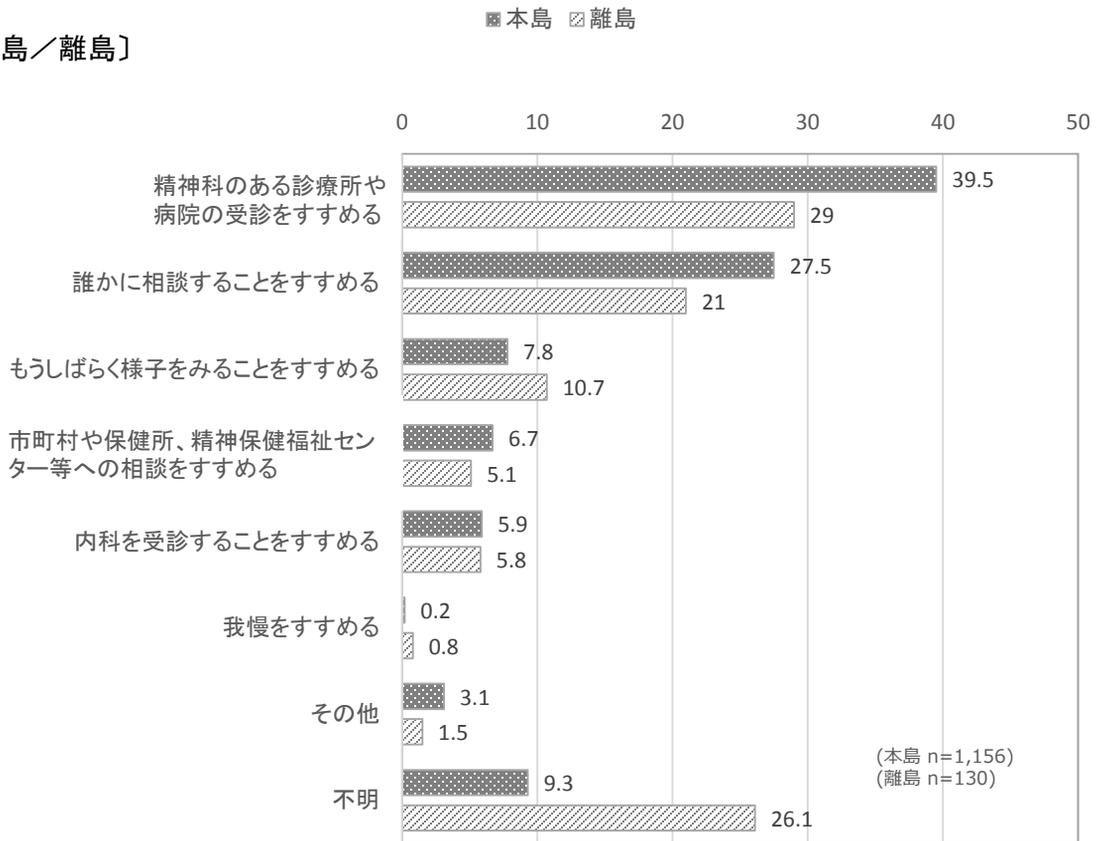


〔圏域別〕

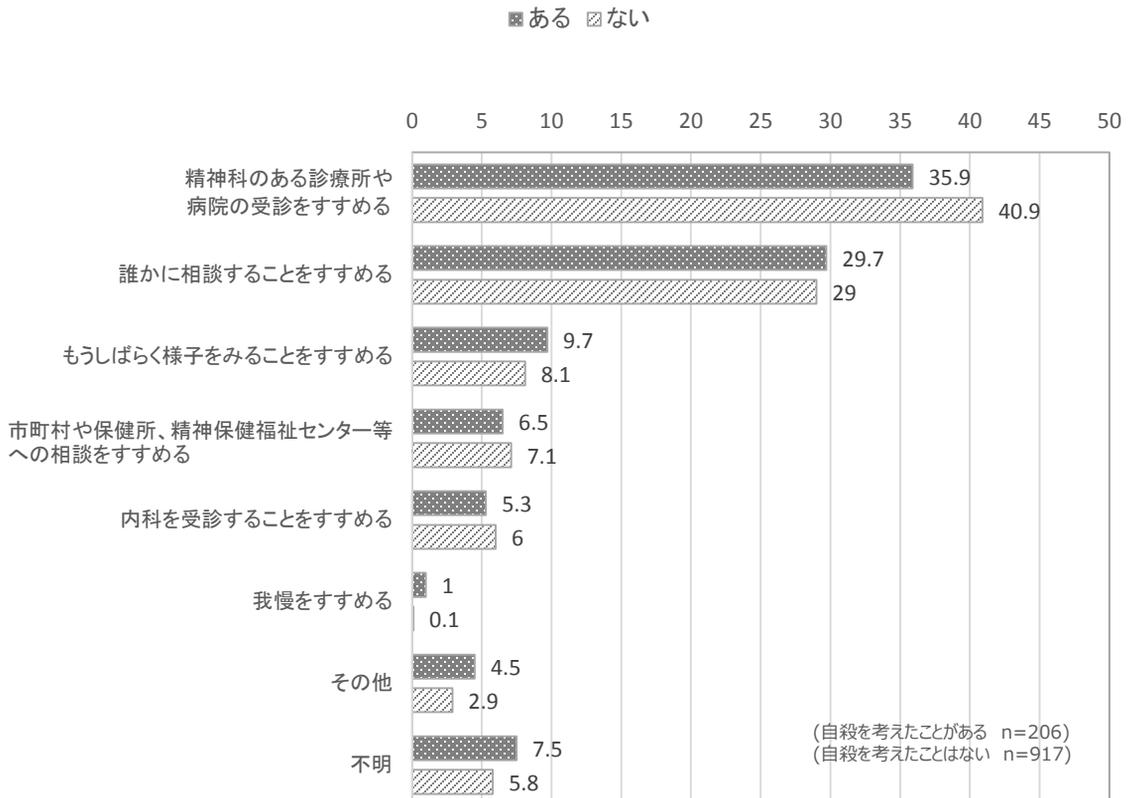
■ 北部圏域 □ 中部圏域 ▨ 那覇圏域 □ 南部圏域 ▩ 宮古圏域 ■ 八重山圏域



〔本島／離島〕



〔「自殺を考えた事がある方／ない方」〕



〔性別・年代別／職業別〕

			精神科のある診療所や病院の受診をすすめる	誰かに相談することをすすめる	もうしばらく様子を見ることをすすめる	市町村や保健所、精神保健福祉センター等への相談をすすめる	内科を受診することをすすめる	我慢をすすめる	その他	不明
男性	全体	590	35.8	26.9	10.4	6.7	5.3	0.3	3	11.6
	20歳代	71	21.5	48	2.9	7	5.7	-	4.3	10.5
	30歳代	106	25	32.5	14.2	4.2	3.9	-	4.8	15.4
	40歳代	118	37.2	24.9	9.8	7.8	3.7	-	5.1	11.4
	50歳代	99	41.1	27.1	11.9	4.5	4.2	-	2	9.3
	60歳代	96	45.7	16.4	15.1	6.4	4.4	1	1.3	9.7
	70歳代	99	41.6	17.5	6.4	10.4	10.3	1	0.2	12.6
女性	全体	697	40.6	26.8	6.1	6.4	6.4	0.1	3	10.6
	20歳代	80	29.2	41.6	6.4	2.6	5	-	6.3	8.9
	30歳代	134	44.5	29.5	3.1	4.5	2.2	-	4.6	11.5
	40歳代	127	43.9	26.7	5.5	4.1	10.2	-	1.6	8.1
	50歳代	115	41.7	22.8	4.4	11.5	4.4	-	2.6	12.5
	60歳代	104	38.2	24.3	8.8	9	7.8	-	3	9
	70歳代	137	41.4	20.9	8.8	6.3	8.2	0.7	0.9	12.7
職業	勤めている（常勤）	406	41.3	31.6	7.6	6	4.3	0.2	2.8	6.1
	勤めている（パート・アルバイト）	191	40.3	30	5.9	5.4	7.4	-	3.1	7.8
	自営業及び家族従事者	83	39.5	23.6	12.6	7.5	1.4	-	7.5	7.9
	専業主婦・主夫	144	43	24.5	7	5	8.3	-	4.2	8
	無職	197	41.5	22.7	9.3	8.2	7.6	0.5	1.7	8.5
	学生	26	23.3	53.8	7.6	7.6	3.8	-	-	3.8
	その他	29	39.7	14.4	7.2	14	10.6	-	3.8	10.3

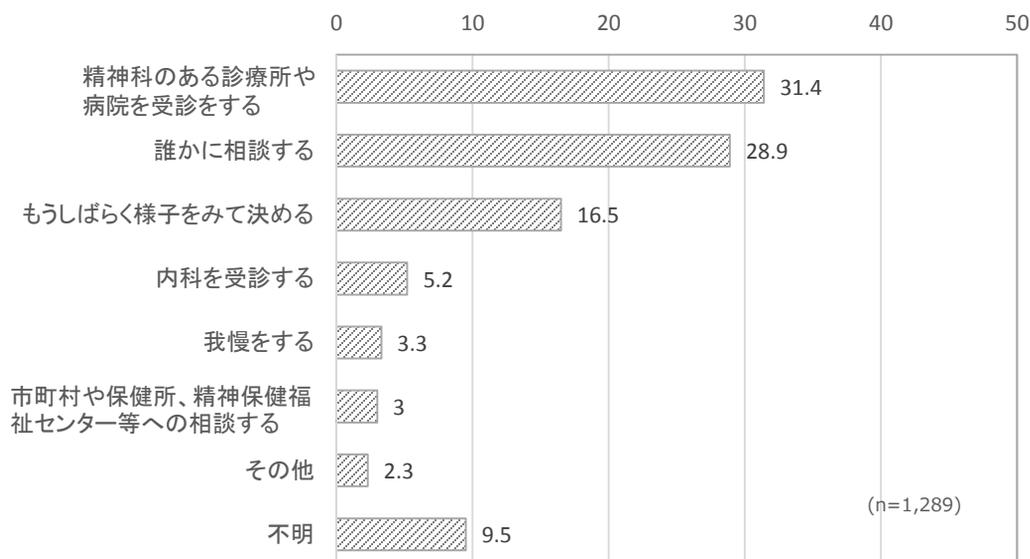
問16 もし仮に、あなたが、あなた自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、自ら精神科の病院へ相談に行こうと思いますか。あなたのお考えに近いもの一つだけに○をつけて下さい。(○を1つ)

自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたときの対応としては、問15の身近な人の場合の対応と同様「精神科のある診療所や病院を受診をすすめる」が最も多く31.4%、次いで「誰かに相談することをすすめる」が28.9%が多くなった。

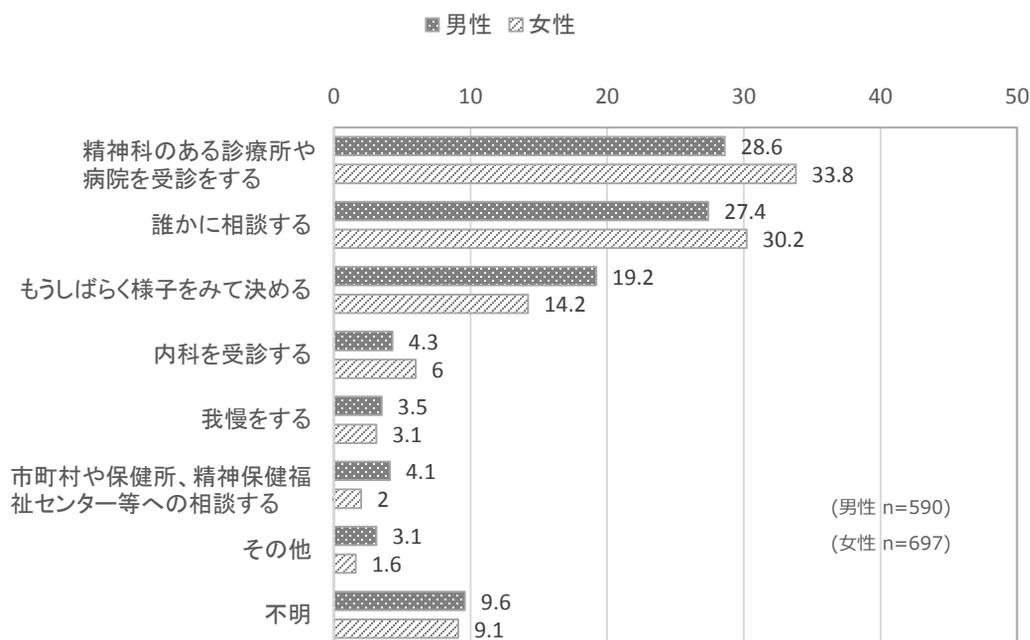
性別で見ると、女性が「精神科のある診療所や病院の..」と「誰かに相談する」は女性が多く、「もうしばらく様子を見る」では男性が多くなる。

年齢別で見ると「精神科のある診療所や病院の..」は50歳代以上で多くなっており、また「誰かに相談する」は若いほど多く、年配の方ほど減っていく傾向にある。

圏域別で見ると「精神科のある診療所や病院の..」は那覇圏域で多い。宮古圏域、八重山圏域では「精神科のある診療所や病院の..」「誰かに相談する」は他の圏域に比べ低い。宮古圏域は「もう少し様子を見る」が突出して多くなっている。

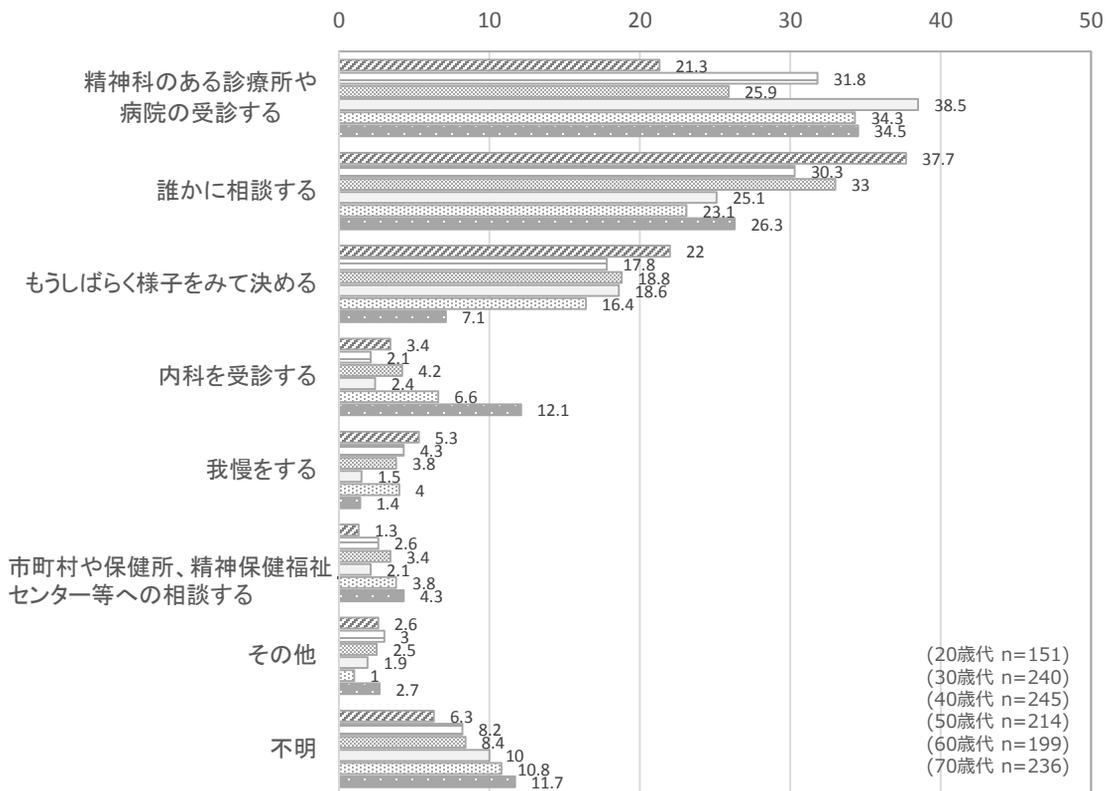


〔性別〕



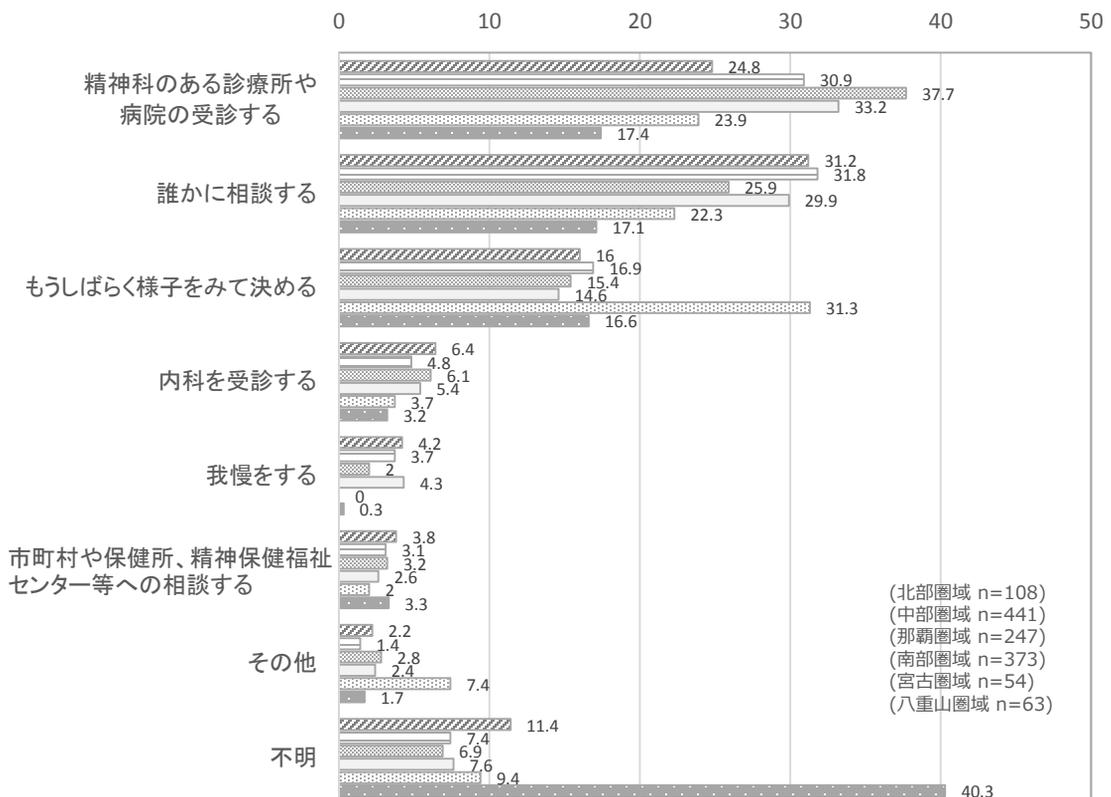
〔年代別〕

■ 20歳代 □ 30歳代 ▨ 40歳代 □ 50歳代 ▩ 60歳代 ■ 70歳代



〔圏域別〕

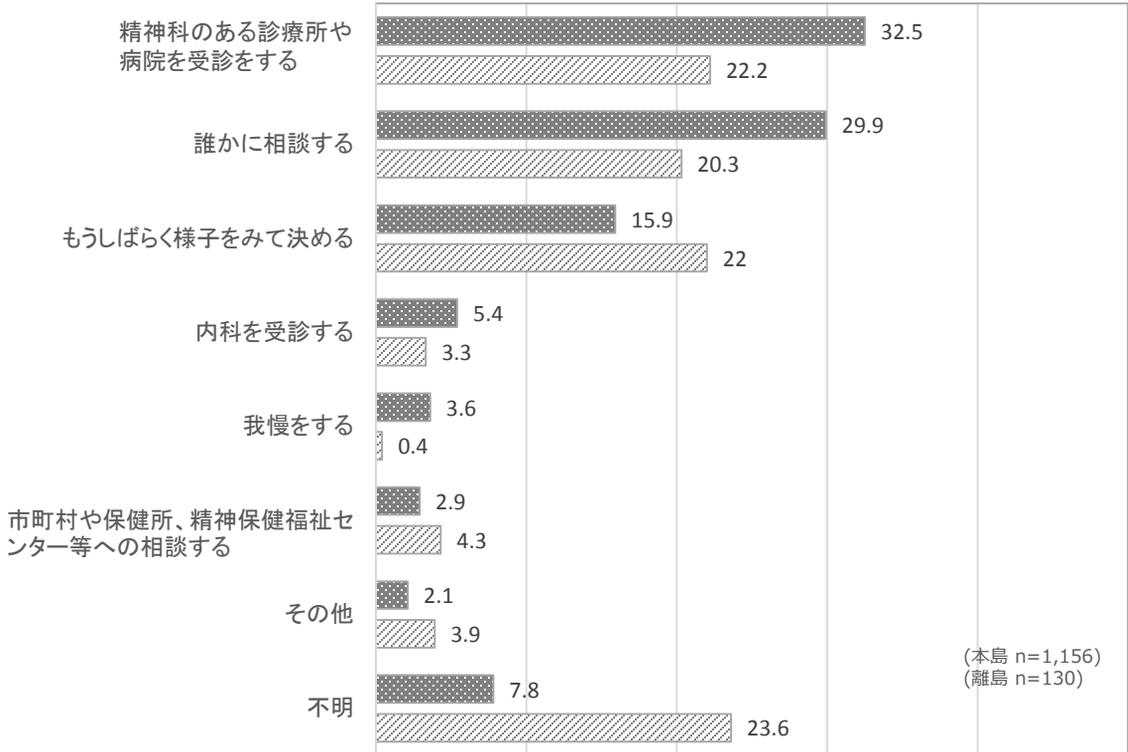
■ 北部圏域 □ 中部圏域 ▨ 那覇圏域 □ 南部圏域 ▩ 宮古圏域 ■ 八重山圏域



〔本島／離島〕

■ 本島 □ 離島

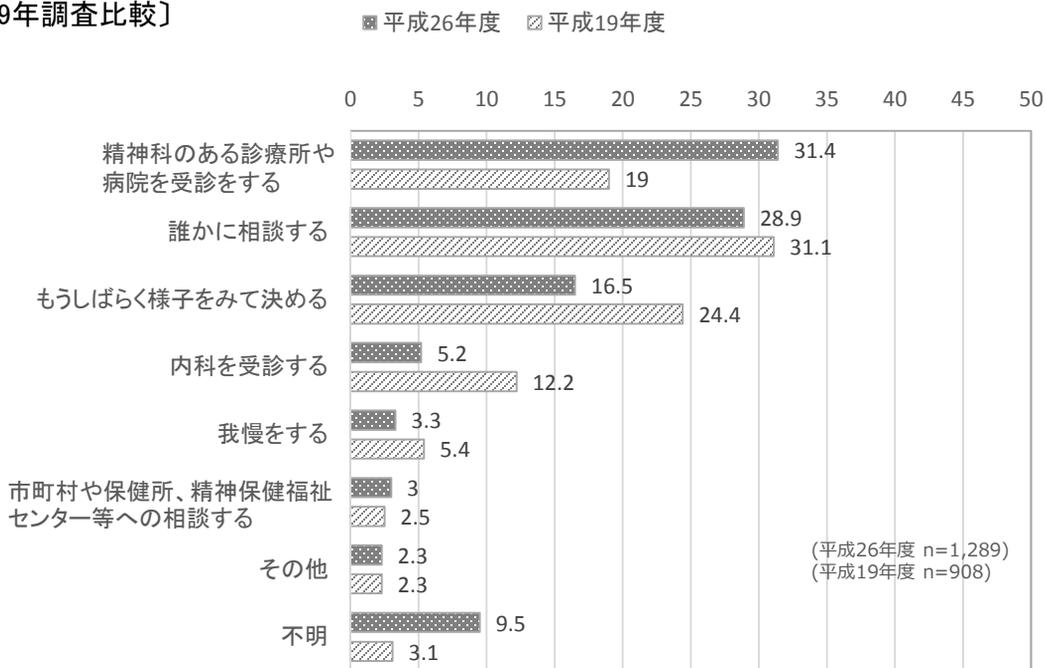
0 10 20 30 40 50



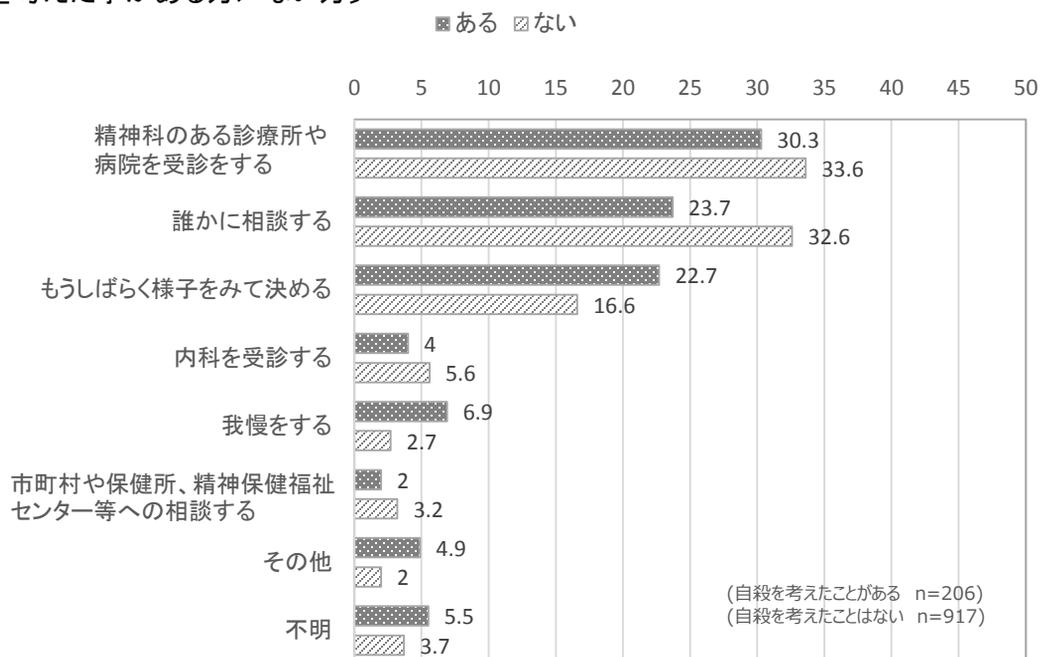
平成19年度と比較すると、「精神科のある診療所や病院を受診する」が19%から31.4%へと大きく増加、逆に「もうしばらく様子を見て決める」は24.4%から16.5%に減少しており、この7年間で専門機関への受診に対する抵抗感が低下している。

自殺を考えたことがある方は、ない方に比べて「精神科のある診療所や病院を受診をする」「誰かに相談する」が少なく、逆に「しばらく様子を見て決める」「我慢をする」は多くなっており、他者へ相談することが少ない傾向がある。

〔平成19年調査比較〕



〔「自殺を考えた事がある方／ない方」〕



〔性別・年代別／職業別〕

			精神科のある 診療所や 病院の受診 する	誰かに相談 する	もしばらく 様子をみて 決める	内科を受診 する	我慢をする	市町村や保 健所、精神 保健福祉セ ンター等へ の相談する	その他	不明
男性	全体	590	28.6	27.4	19.2	4.3	3.5	4.1	3.1	9.6
	20歳代	71	21.1	37.2	19.7	3.1	5.6	2.8	2.8	7.7
	30歳代	106	22.4	27.6	23.7	2.9	4.8	4	3.9	10.7
	40歳代	118	21.9	32.7	19.2	4.3	4.3	4.4	3.5	9.7
	50歳代	99	32.5	25.5	24.9	2.1	2.2	1.3	4.2	7.2
	60歳代	96	34.7	21.6	18.4	3.1	4.2	7.4	1	9.6
	70歳代	99	39.4	21.6	8.4	10.3	0.1	4.5	3.2	12.4
女性	全体	697	33.8	30.2	14.2	6	3.1	2	1.6	9.1
	20歳代	80	21.4	38.1	24.1	3.8	5		2.5	5.1
	30歳代	134	39.3	32.3	13	1.5	3.9	1.5	2.3	6.1
	40歳代	127	29.6	33.3	18.4	4.1	3.3	2.4	1.6	7.3
	50歳代	115	43.6	24.7	13.1	2.6	0.9	2.7		12.4
	60歳代	104	34	24.4	14.7	9.7	3.9	0.4	1	12
	70歳代	137	30.9	29.6	6.1	13.4	2.3	4.1	2.3	11.2
職業	勤めている（常勤）	406	31.7	31.5	21.1	3.1	3.1	2.7	3	3.8
	勤めている（パート・アルバイト）	191	34.8	32.5	18.9	3.2	3.2	1.6	2.6	3.1
	自営業及び家族従事者	83	30.4	26.4	23.7	0.2	4.9	2.5	3.7	8.1
	専業主婦・主夫	144	31.1	32.7	12.1	6.9	3.5	2.9	2.1	8.7
	無職	197	36.5	25.3	10.8	8.2	2.6	5.2	0.6	10.9
	学生	26	11.5	46.6	11.5	11.5	15.3			3.8
	その他	29	42.5	25	13.7	11.3	3.4	3.4	0.3	0.3

付問15, 16で(1我慢する または2もうしばらく様子を見て決めるを選んだ方のみ)
 どのような理由からですか。(〇をいくつでも)

「うつ病のサイン」がありながら「様子を見る」と回答した方に対してその理由を尋ねると、「自然に治るだろうから(32.8%)」「自分で解決できるだろうから(32.3%)」と考え、特に何もしなくてもいいと考えているようだ。次に「お金がかかるから」という理由が3番目に多くなっており、経済的な負担感も多くなっている。

性別で差がみられるのは「お金がかかる」「なんとなく」「仕事や家族の世話で忙しいから」「どこに相談すればいいかわからない」の理由で男性より女性が多くなっている。

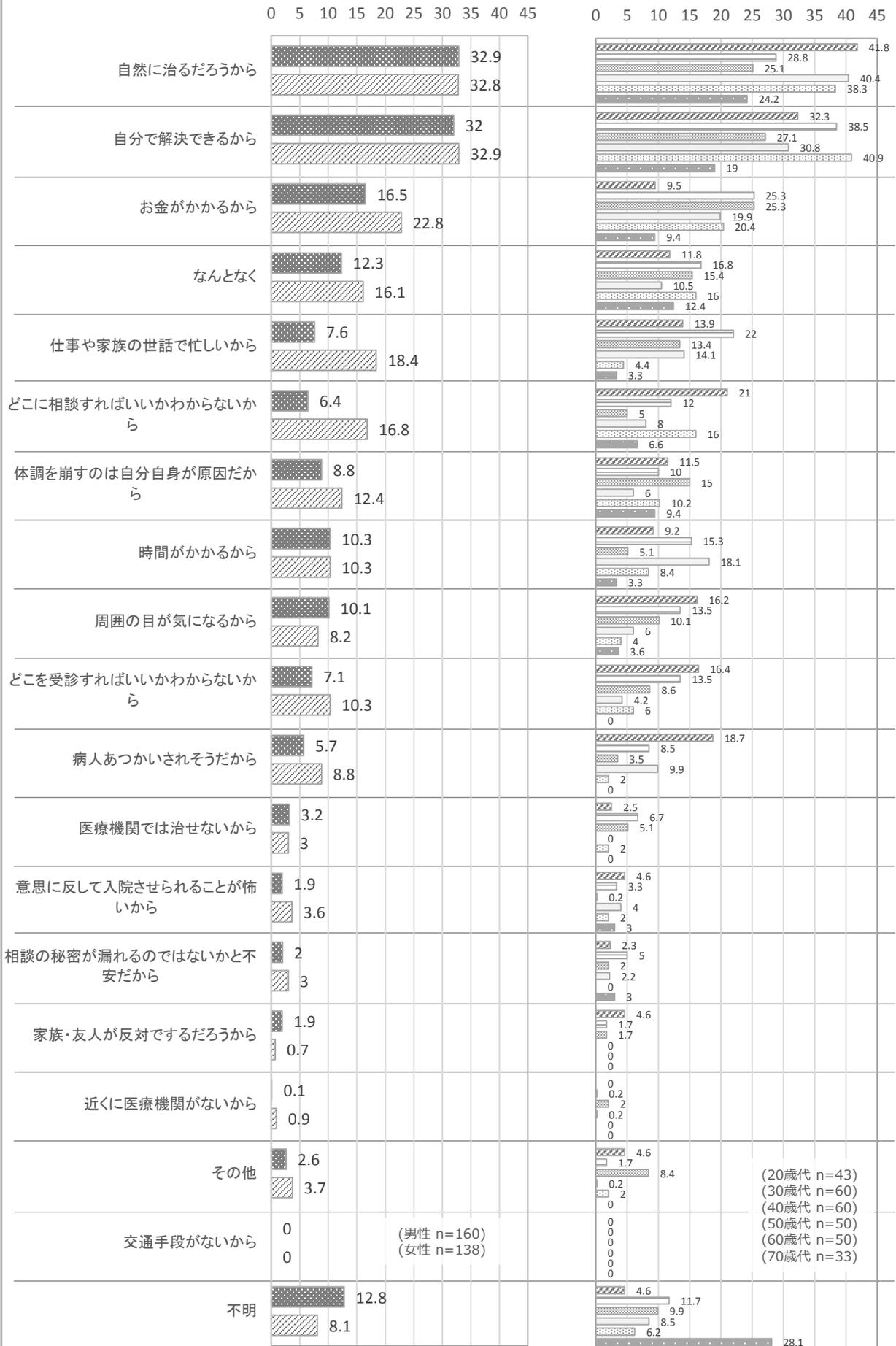


〔性別〕

■ 男性 □ 女性

〔年代別〕

■ 20歳代 □ 30歳代 ■ 40歳代
□ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代



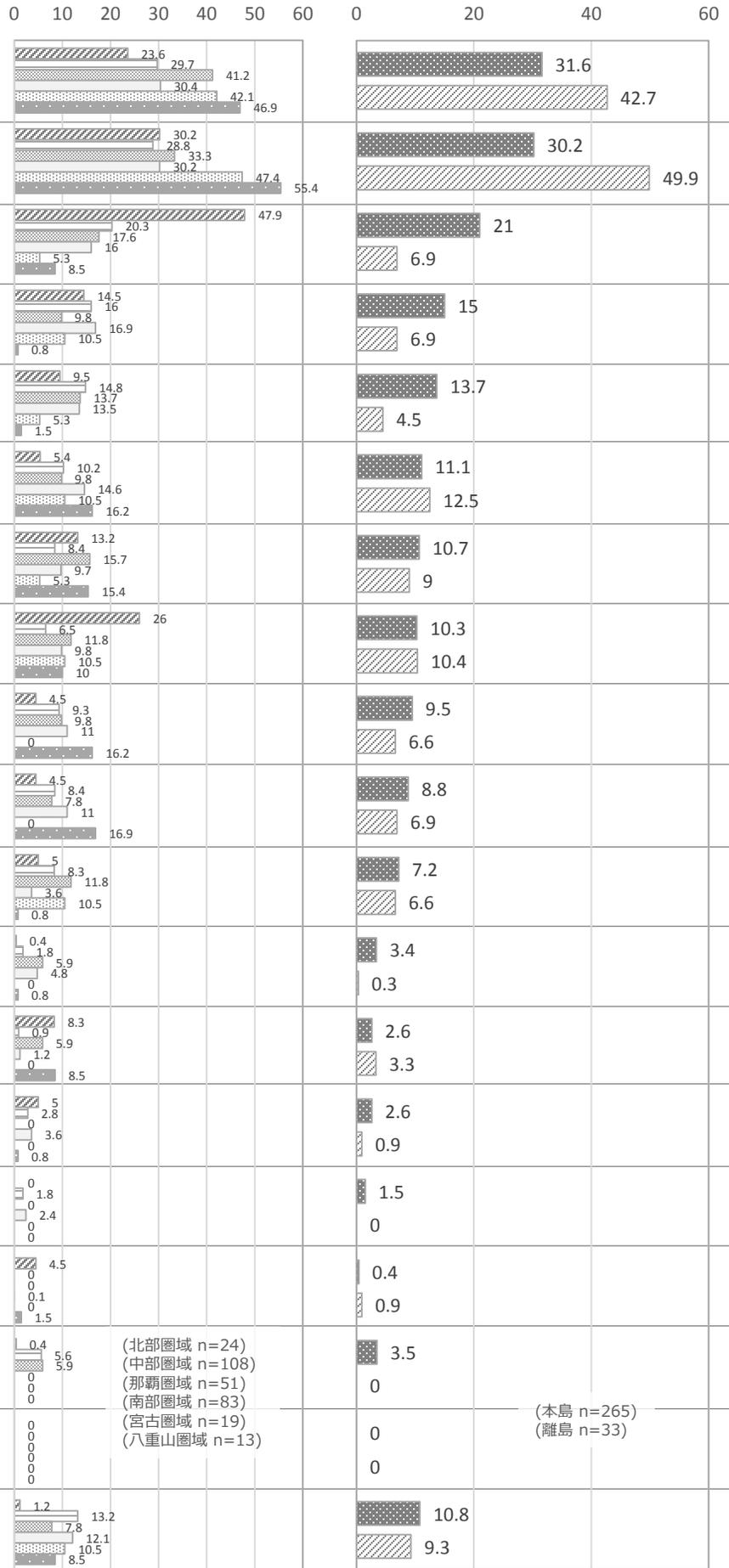
(20歳代 n=43)
(30歳代 n=60)
(40歳代 n=60)
(50歳代 n=50)
(60歳代 n=50)
(70歳代 n=33)

〔圏域別〕

- 北部圏域
- 中部圏域
- 那覇圏域
- 南部圏域
- 宮古圏域
- 八重山圏域

〔本島／離島〕

- 本島
- 離島



(北部圏域 n=24)
 (中部圏域 n=108)
 (那覇圏域 n=51)
 (南部圏域 n=83)
 (宮古圏域 n=19)
 (八重山圏域 n=13)

(本島 n=265)
 (離島 n=33)

〔性別・年代別／職業別〕

		合計	自然に治る だろうから	自分で解決 できるから	お金がかか るから	なんとなく	仕事や家族 の世話で忙 しいから	どこに相談 すればいい かわからな いから	体調を崩す のは自分自 身が原因だ から	時間がかか るから	周囲の目が 気になるか ら	どこを受診 すればいい かわからな いから
男性	全体	160	32.9	32.1	17.2	12.9	7.7	7.1	9.5	10.9	10.1	7.8
	20歳代	18	44.2	27.6	0.6	11	-	17.1	-	5.5	11	11.6
	30歳代	36	36	41.2	22.3	13.7	11	11.3	16.5	16.8	19.2	16.5
	40歳代	32	22.6	25.7	22.6	13.2	9.7	3.4	9.7	6.6	19.1	7.2
	50歳代	32	41.4	32.7	15.6	10.3	12.8	-	9.3	12.8	3.1	-
	60歳代	28	32.5	30.3	25.6	18.1	4	10.8	7.6	14.8	-	3.6
	70歳代	12	16	24.8	-	8.8	-	0.8	8	-	-	8
女性	全体	138	32.8	34.4	22.8	17.6	20.6	18.3	13.2	10.3	9.6	11.7
	20歳代	25	40.1	35.7	15.9	16.3	31.7	27.8	19.8	11.9	19.8	23.8
	30歳代	24	17.8	34.3	30.1	21.6	39	13.1	4.2	13.1	4.7	8.9
	40歳代	29	28	29	28.7	17.8	21.3	7	21.3	3.5	3.5	10.5
	50歳代	18	38.5	33	27.5	11	16.5	27.5	5.5	27.5	16.5	17
	60歳代	22	45.5	54.1	18.5	22.5	5	27	13.5	5	9	9
	70歳代	21	29.1	20.4	15	14.6	5.3	10.7	10.2	5.3	5.8	-
職業	勤めている（常勤）	109	30.7	29.9	16.8	13.2	13.8	8.4	7.4	12.9	12.9	12
	勤めている（パート・アルバイト）	45	41.9	33.5	26.4	17.6	22	24.2	15.6	9	11.2	19.8
	自営業及び家族従事者	27	37.8	45.6	18.5	15.6	15.9	3.7	15.2	4.8	-	3.7
	専業主婦・主夫	27	29.8	36.7	22.2	25.5	4	8	14.5	10.9	14.9	4.4
	無職	36	24.7	27.9	27.4	8.5	5.5	11.2	11	8.2	2.7	-
	学生	8	37.5	37.5	12.5	12.5	12.5	25	-	-	12.5	-
	その他	6	16.4	32.8	-	-	-	16.4	32.8	-	16.4	16.4

		合計	病人あつか いされそう だから	医療機関で は治せない から	意思に反し て入院させ られることが 怖いから	相談の秘密 が漏れるの ではないか と不安だか ら	家族・友人 が反対です るだろうから	近くに医療 機関がない から	その他	交通手段が ないから	不明
男性	全体	160	5.7	3.3	1.9	2	1.9	0.1	2.6	0.6	12.8
	20歳代	18	11	5.5	5.5	-	5.5	-	5.5	-	-
	30歳代	36	5.8	5.5	2.7	2.7	2.7	-	-	-	16.5
	40歳代	32	-	6.6	0.3	3.4	3.1	0.3	6.3	-	9.4
	50歳代	32	12.5	-	3.1	0.3	-	0.3	0.3	-	10
	60歳代	28	3.6	-	-	-	-	-	3.6	3.6	11.2
	70歳代	12	-	0.8	-	8	-	-	-	-	41.6
女性	全体	138	11	3	5.1	3.7	0.7	0.9	3.7	-	8.1
	20歳代	25	28.2	0.4	7.9	4	4	-	4	-	7.9
	30歳代	24	12.7	8.5	4.2	8.5	-	0.4	4.2	-	4.2
	40歳代	29	7.3	3.5	-	0.3	-	3.8	10.8	-	10.5
	50歳代	18	16.5	-	5.5	11	-	-	-	-	6
	60歳代	22	-	4.5	4.5	-	-	-	-	-	-
	70歳代	21	-	-	9.7	-	-	-	-	-	19.9
職業	勤めている（常勤）	109	7.4	2.8	1.8	2.8	2.7	0.2	3.8	-	9.2
	勤めている（パート・アルバイト）	45	8.8	4.4	4.4	2.2	2.2	2.2	4.4	-	4.4
	自営業及び家族従事者	27	4.1	3.7	-	4.1	-	-	4.1	-	11.5
	専業主婦・主夫	27	4	4	3.6	-	-	0.4	-	-	3.6
	無職	36	2.7	2.7	2.7	-	-	-	-	-	19.5
	学生	8	25	12.5	12.5	12.5	-	-	12.5	-	12.5
	その他	6	16.4	-	-	-	-	-	16.4	-	18

問17 自分でできるうつ病チェックです。最近2週間以上、ほとんど毎日続いている項目に○でお答え下さい。(あくまで、目安ですが、5項目のうち、2項目以上に「はい」があり、そのためにつらい気持ちになったり、毎日の生活に支障が出たりしている場合にはうつ病が疑われます。「もしかして 私らうつ病？」と気になる場合は、正しい判断を受けるために、早めに専門の精神科や診療内科を受診することが望ましいです。)

うつ病チェックを5つの項目で聞いて見たところ「はい」と回答した割合は「毎日の生活に充実感がない」が14.5%、「これまで楽しんでやれたことが、楽しめなくなった」が8.3%、「以前は楽に出来ていたことが、今ではおっくうに感じられる」が19.3%、「自分は役に立つ人間だとは思えない」が9.1%、「わけもなく疲れたような感じがする」が19.4%という結果となった。

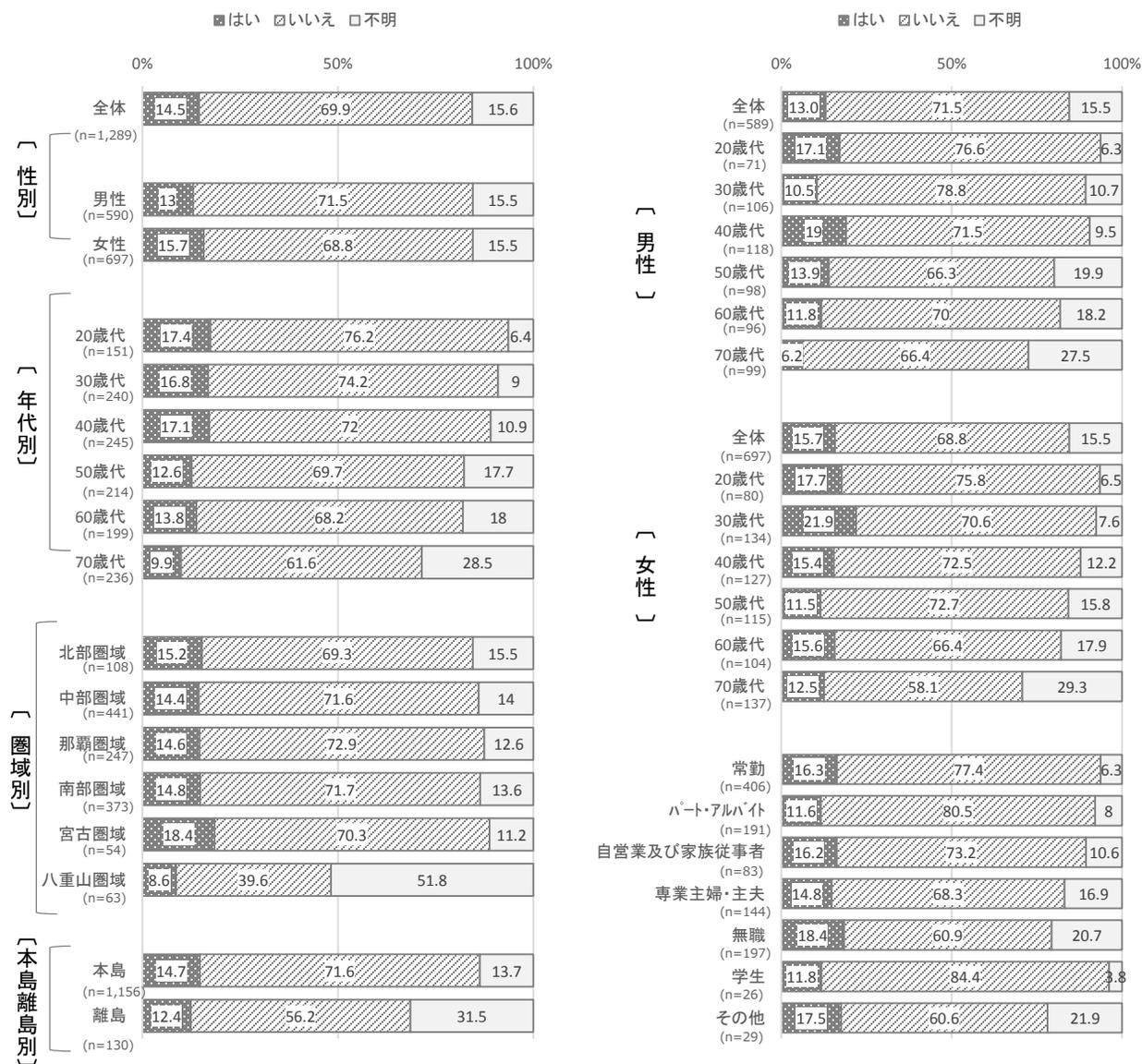
「毎日の生活に充実感がない」「わけもなく疲れたような感じがする」で若いほど「はい」と回答が多くなっており、「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる」は50歳代から増え始める。

平成19年度調査と比べると5つの項目すべてが「はい」の回答が減少している。

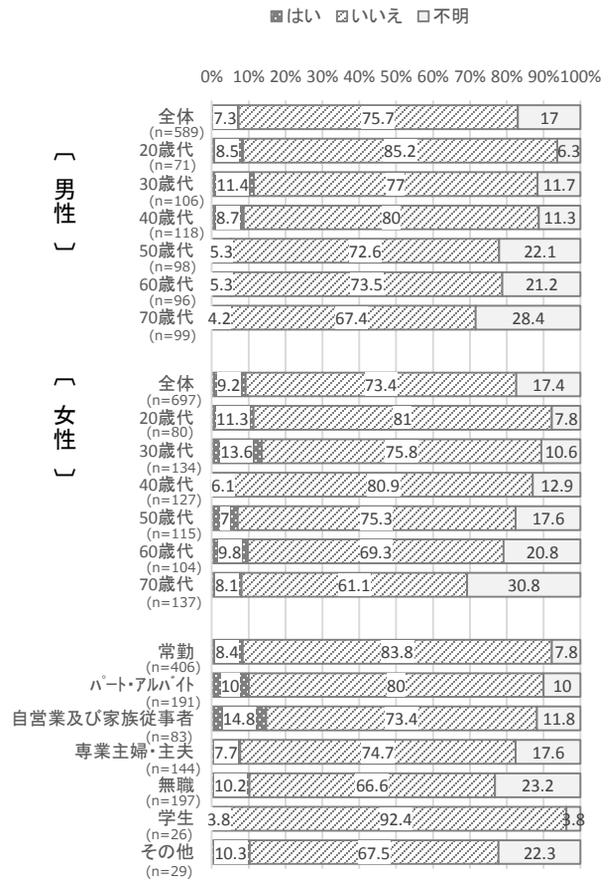
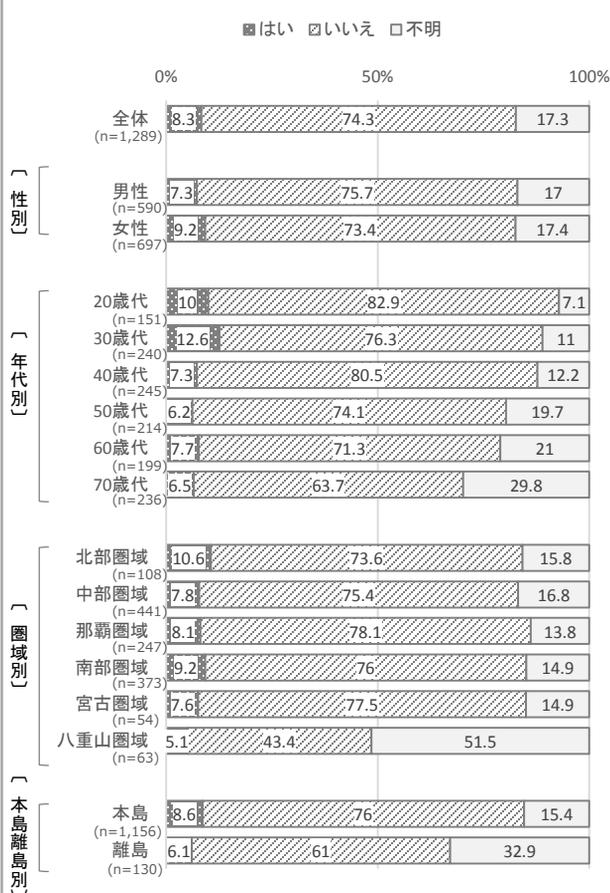
自殺を考えたことがある方は全ての項目で「はい」との回答が高くなっており、自殺を考えたことがない方との差が大きく開いている。

5つのチェック項目についていずれかの項目に該当すると回答しているのは全体の36.7%となる。そのうち複数の項目に該当している方は17.4%で、男性が13.9%、女性20.5%と女性が多くなっており、中でも20歳代で31.5%、30歳代で26.6%と若い層に多くなった。

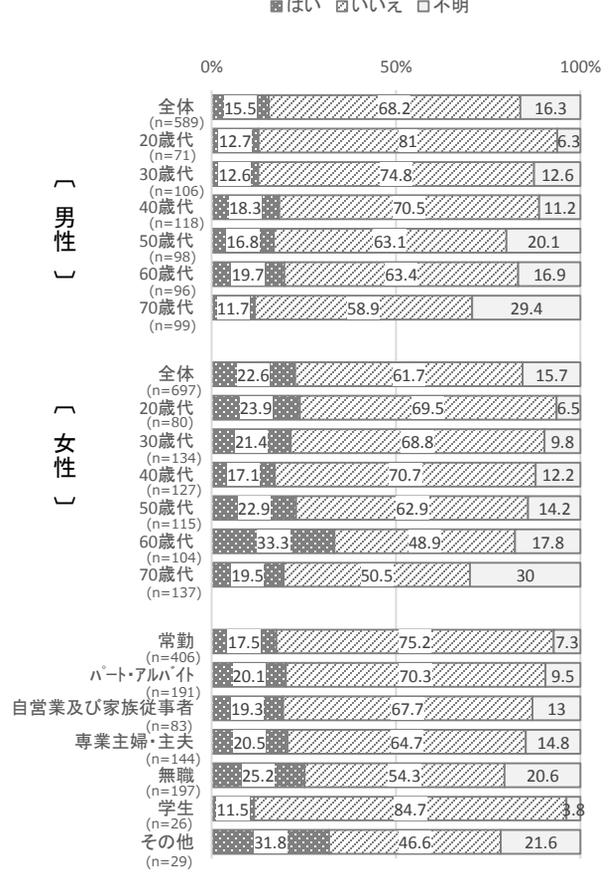
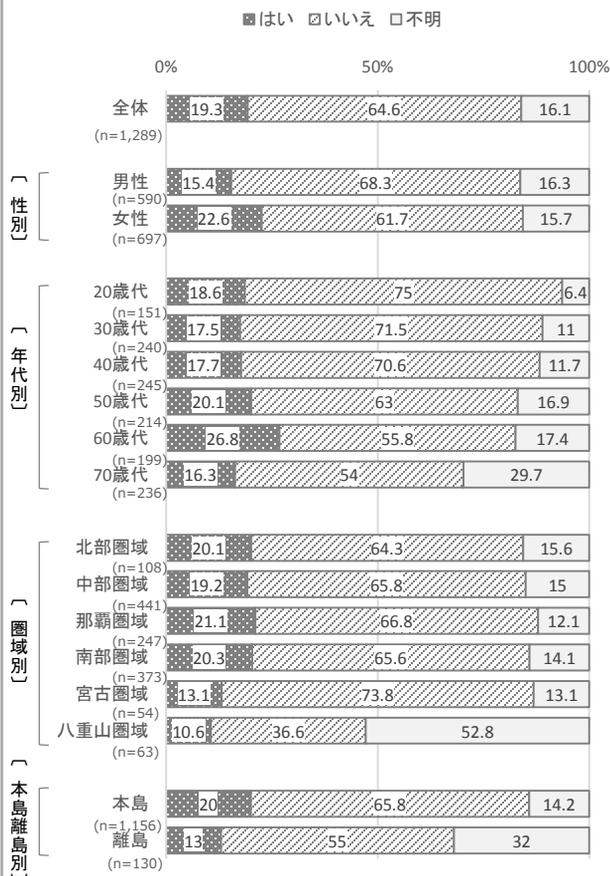
〈毎日の生活に充実感がない〉



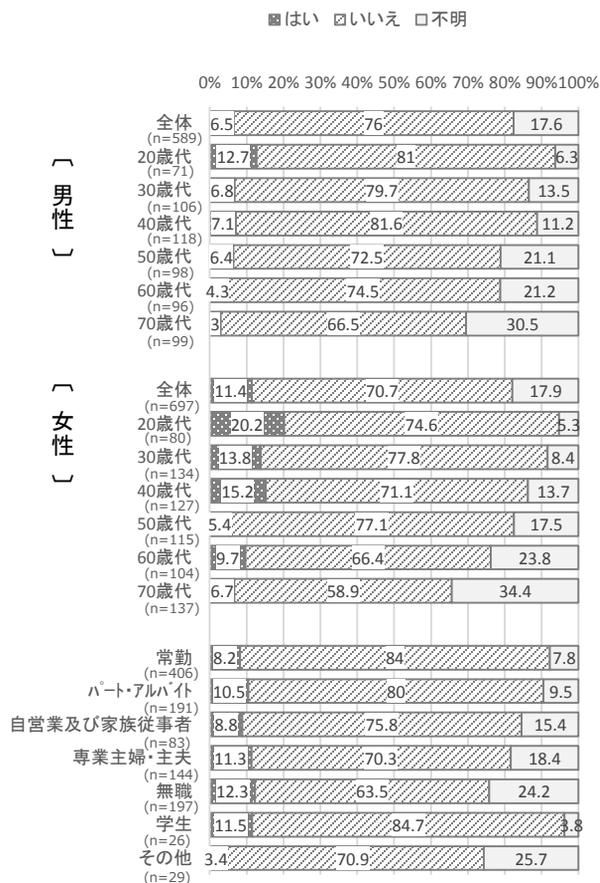
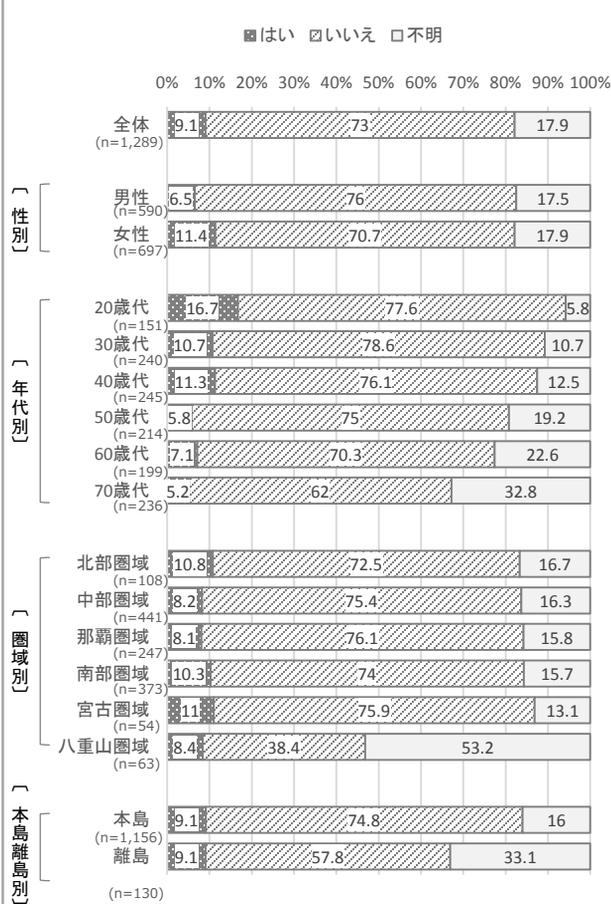
〈これまで楽しんでやれたことが、楽しめなくなった〉



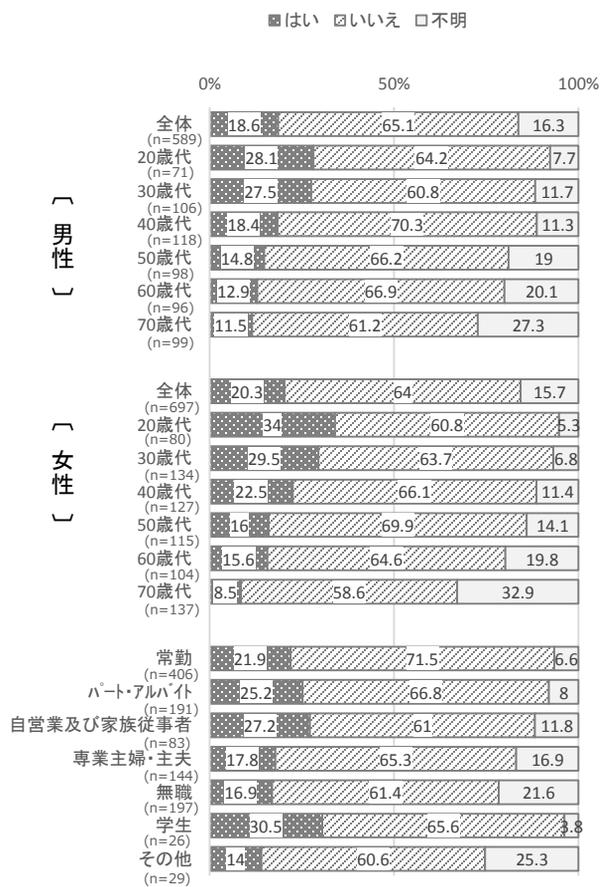
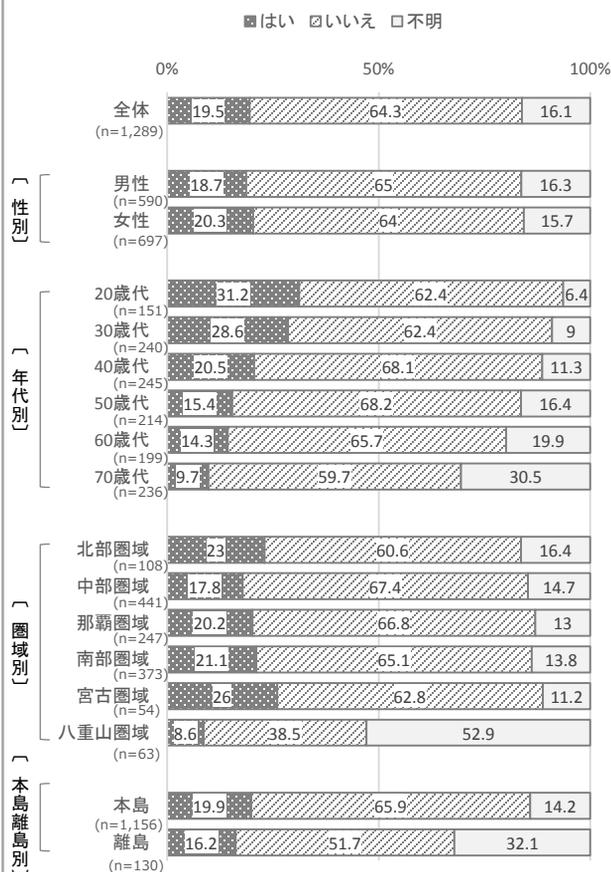
〈以前は楽に出来ていたことが、今ではおっくうに感じられる〉



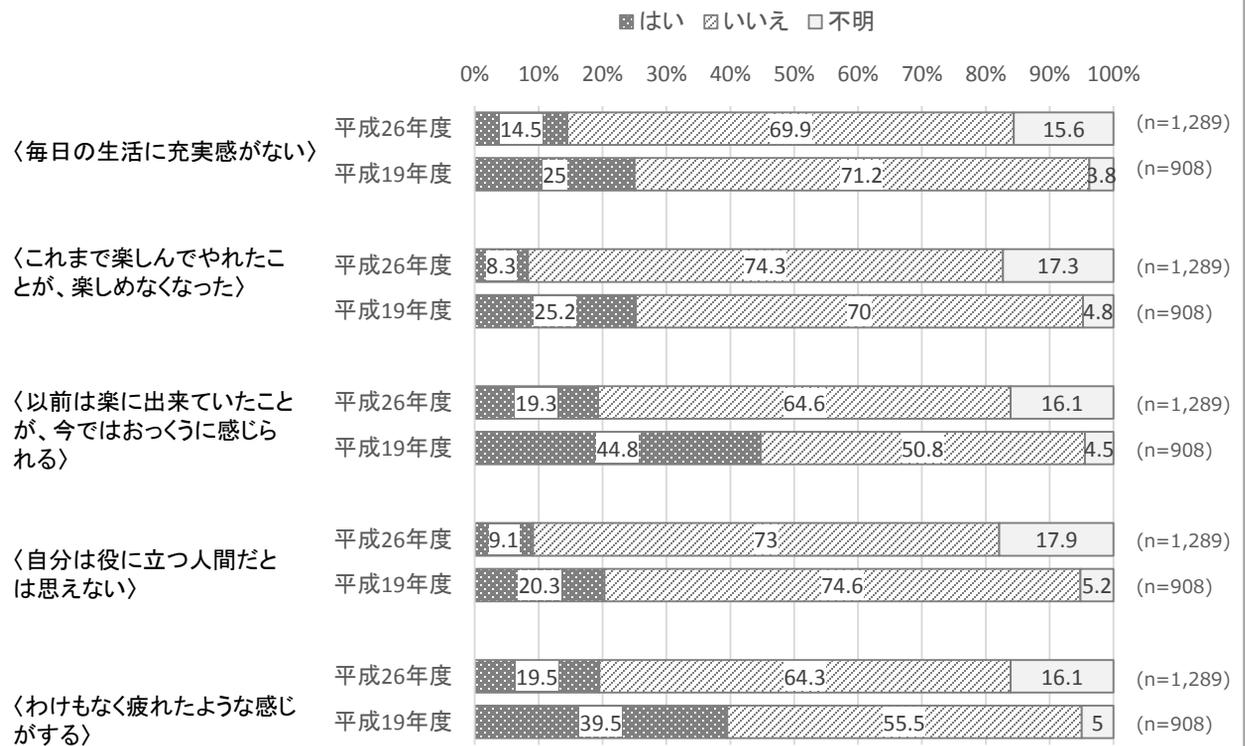
〈自分は役に立つ人間だとは思えない〉



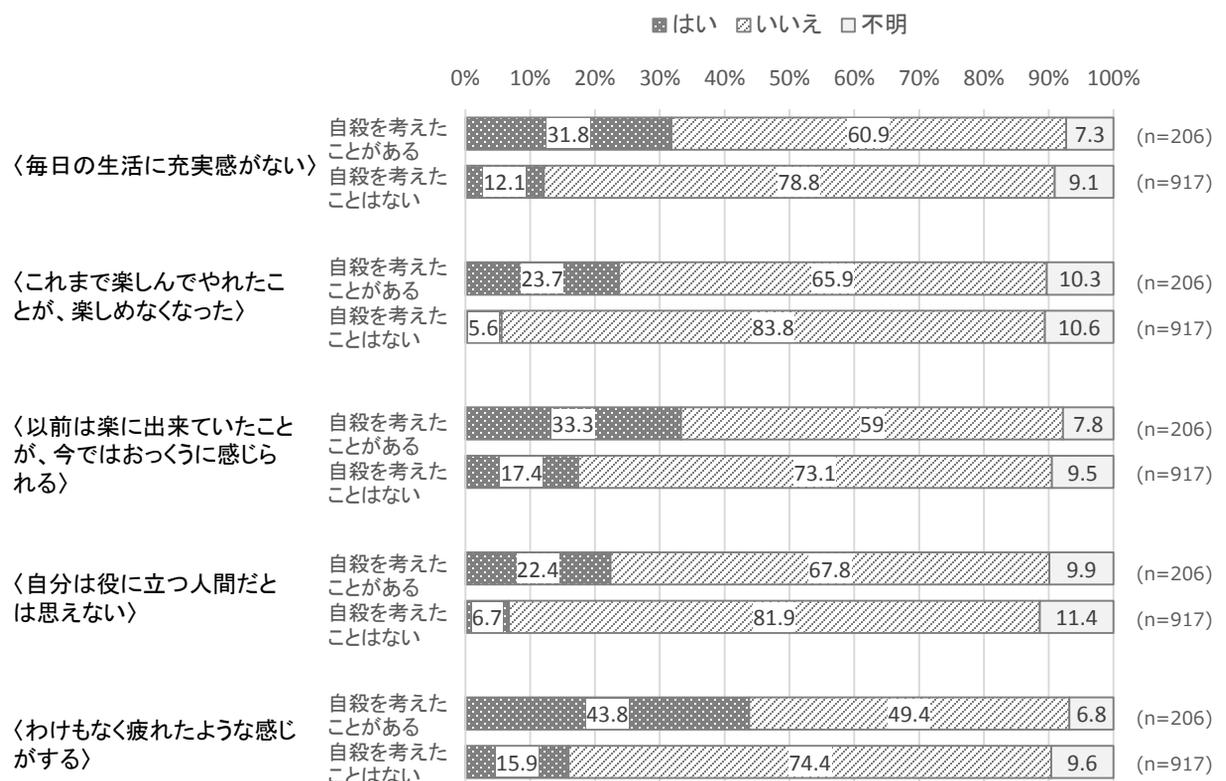
〈わけもなく疲れたような感じがする〉



〔平成19年度調査比較〕

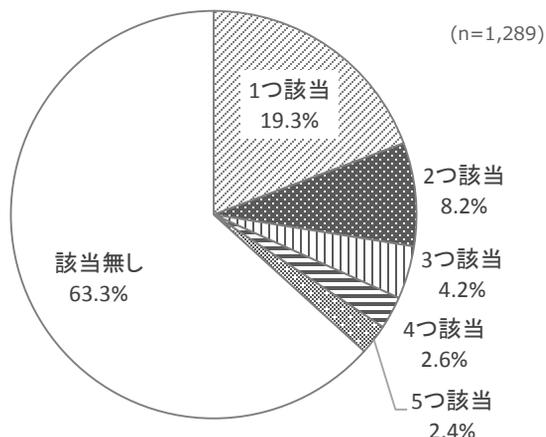


〔自殺を考えたことがある方／ない方〕

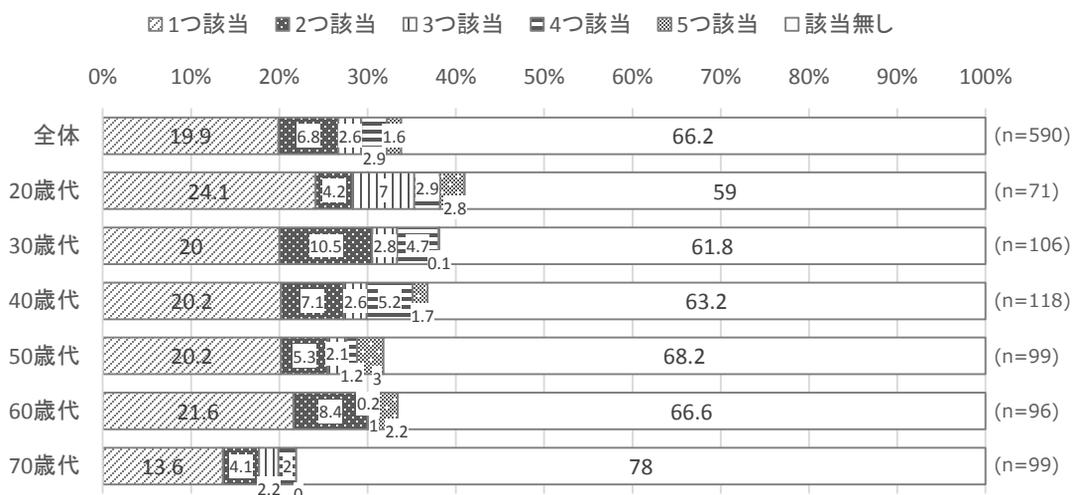


〔うつ病チェック(該当件数集計)〕

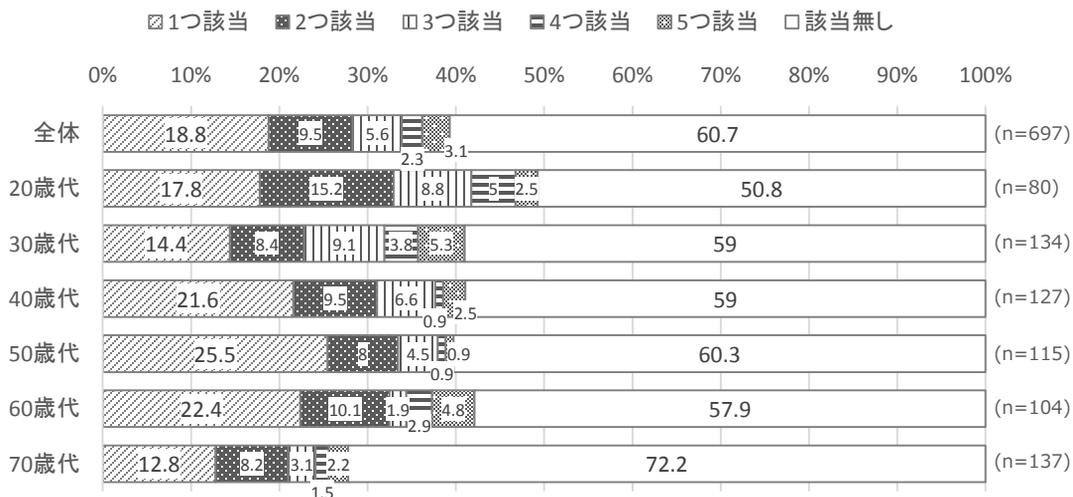
No.	該当数	件数	(全体)%
1	1つ該当	248	19.3
2	2つ該当	106	8.2
3	3つ該当	55	4.2
4	4つ該当	34	2.6
5	5つ該当	31	2.4
	該当無し	816	63.3
	N (%ベース)	1289	100



男性



女性



V. 自殺に関する意識について

問18 あなたは、これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがありますか。

今までに本気で自殺を考えたことがあるか尋ねたところ、「自殺をしたいと思ったことがある」との回答は16.0%となっている。

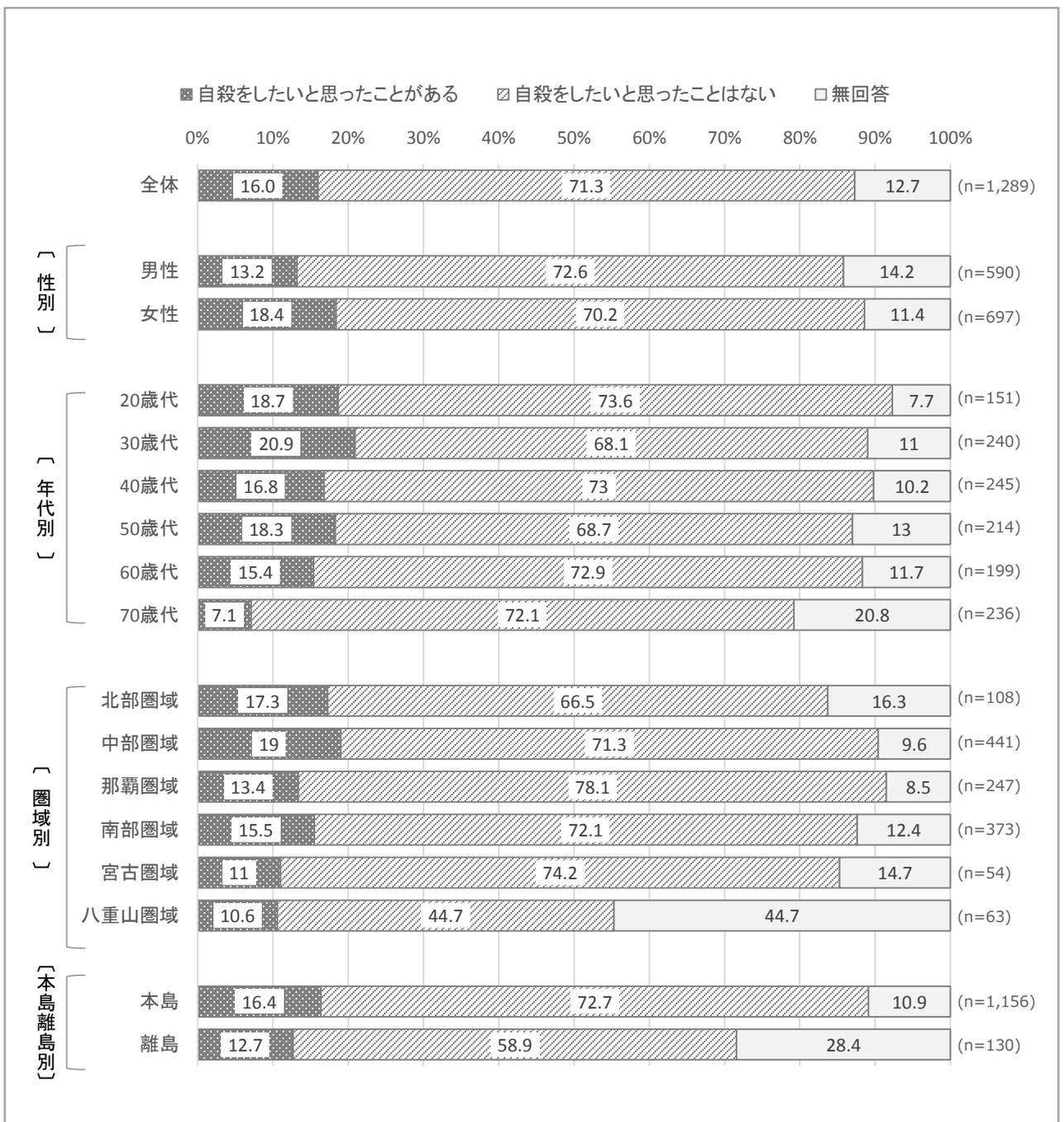
性別で見ると、男性が「ある」が13.2%に対して、女性は18.4%と女性がやや高くなっている。

年齢別で見ると、「ある」は30歳代20.9%で最も高く、次に20歳代の18.7%、50歳代が18.3%と続いている。

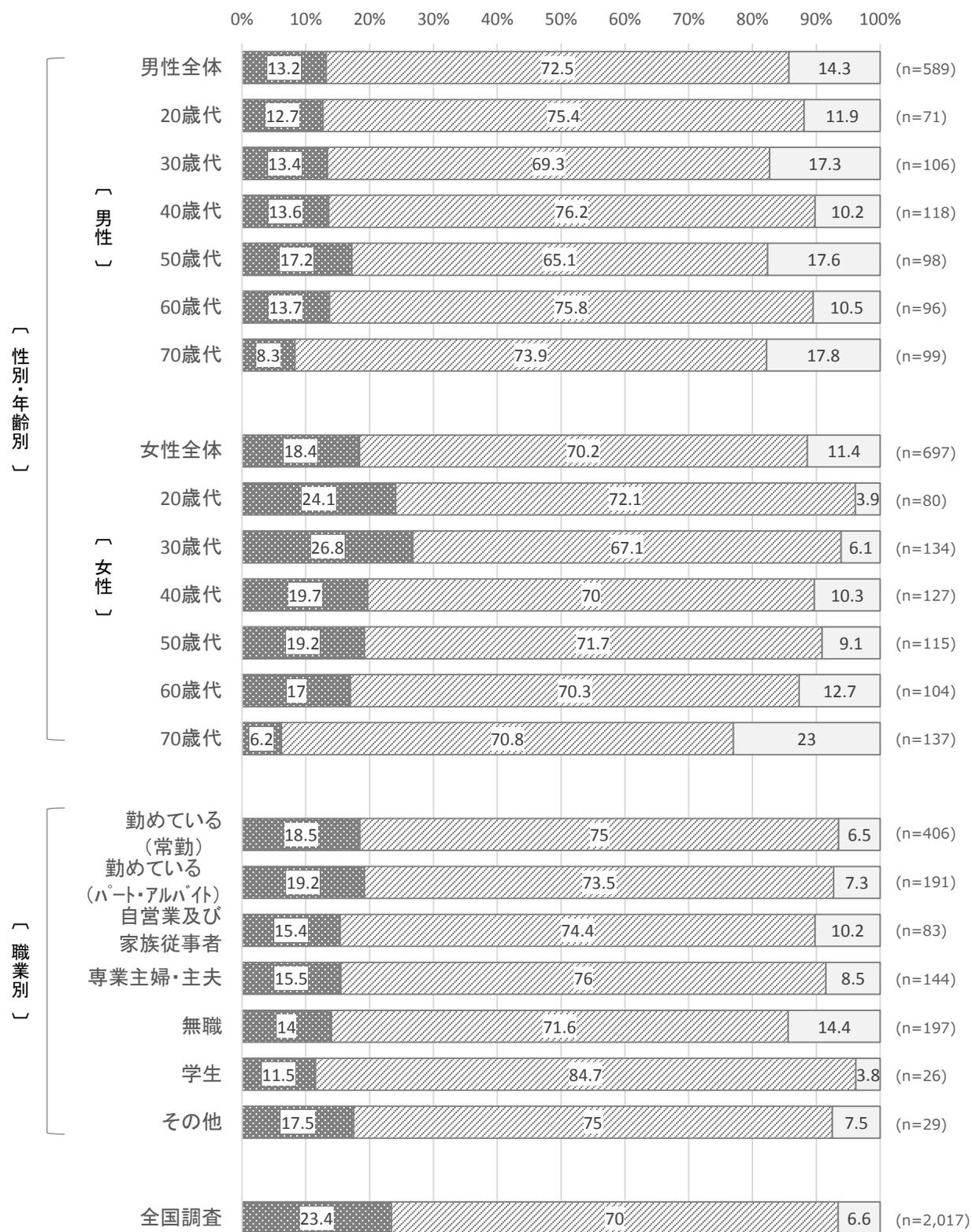
圏域別で見ると中部圏域が19%で最も高く、北部圏域(17.3%)、南部圏域(15.5%)、那覇圏域(13.4%)と続いている。

性別・年齢別で見ると女性は30歳代26.8%、20歳代24.1%と、20代30代女性の約4人に1人が「自殺を考えたことがある」ことになる。男性は50歳代が一番高く17.2%となっている。

全国調査では23.4%となっており、沖縄は全国より低い。



■ 自殺をしたいと思ったことがある ▨ 自殺をしたいと思ったことはない □ 無回答



自殺に関する意識についておたずねします。

※問18で「自殺を考えたことがある」と回答した方への質問

付問18-1 最近1年以内に自殺したいと思ったことがありますか。(○を1つ)

過去に自殺を考えたことがある方に、最近1年以内に自殺したいと思ったか尋ねたところ、22.6%が「はい」と回答。

性別では男性が27.7%、女性が20.0%となっている。

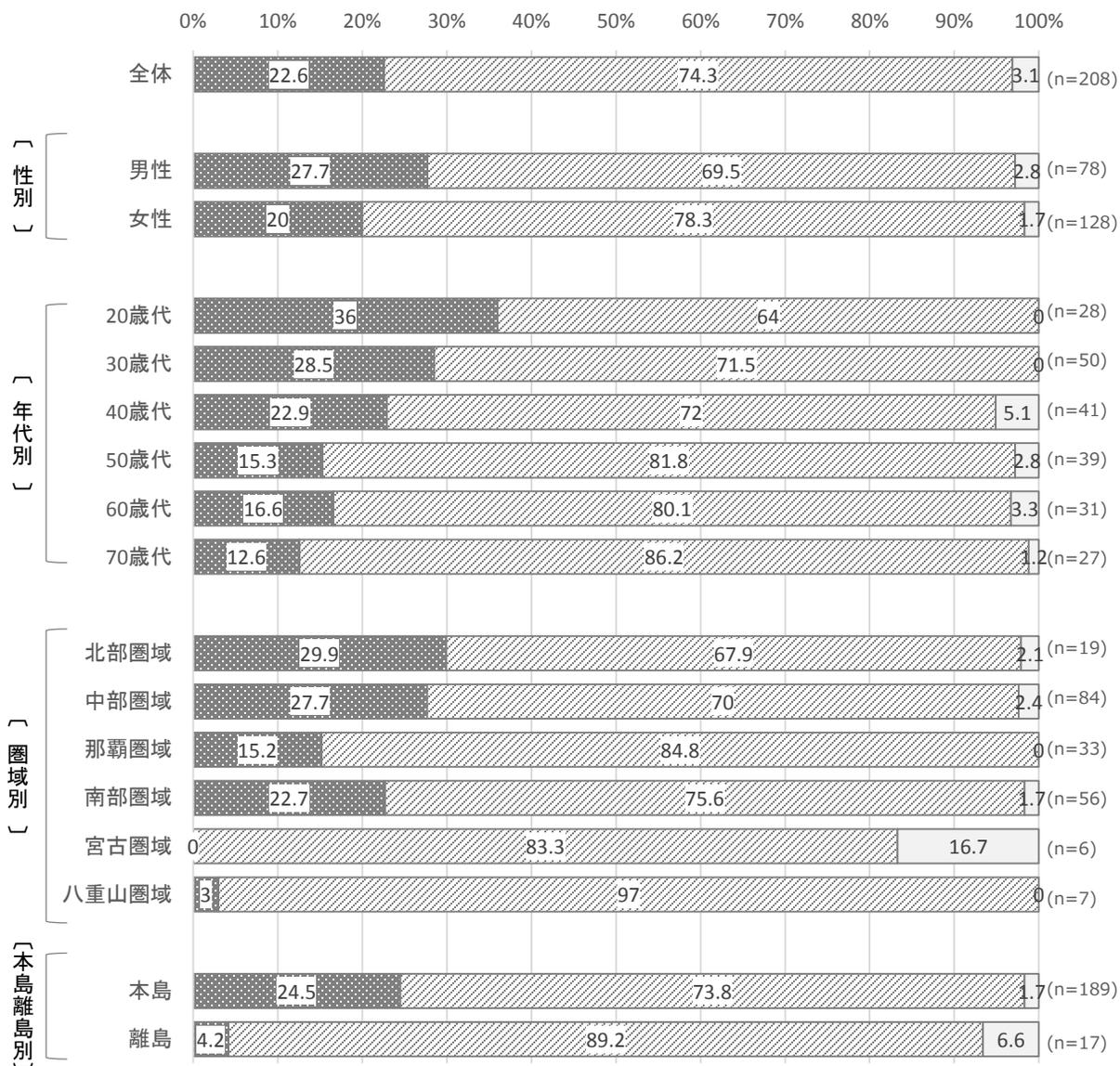
年齢別では、20歳代が36.0%と3人に1人とかかなり高い数値となっている。30歳代以上は年代が上がるにつれて少なくなっている。

圏域別で見る「はい」は北部圏域29.9%、中部圏域27.7%、南部圏域22.7%、那覇圏域15.2%となる。

性別・年齢別で見ると20歳代男性で56.0%、30歳代男性が35.7%、40歳代男性が33.1%と高くなっている。

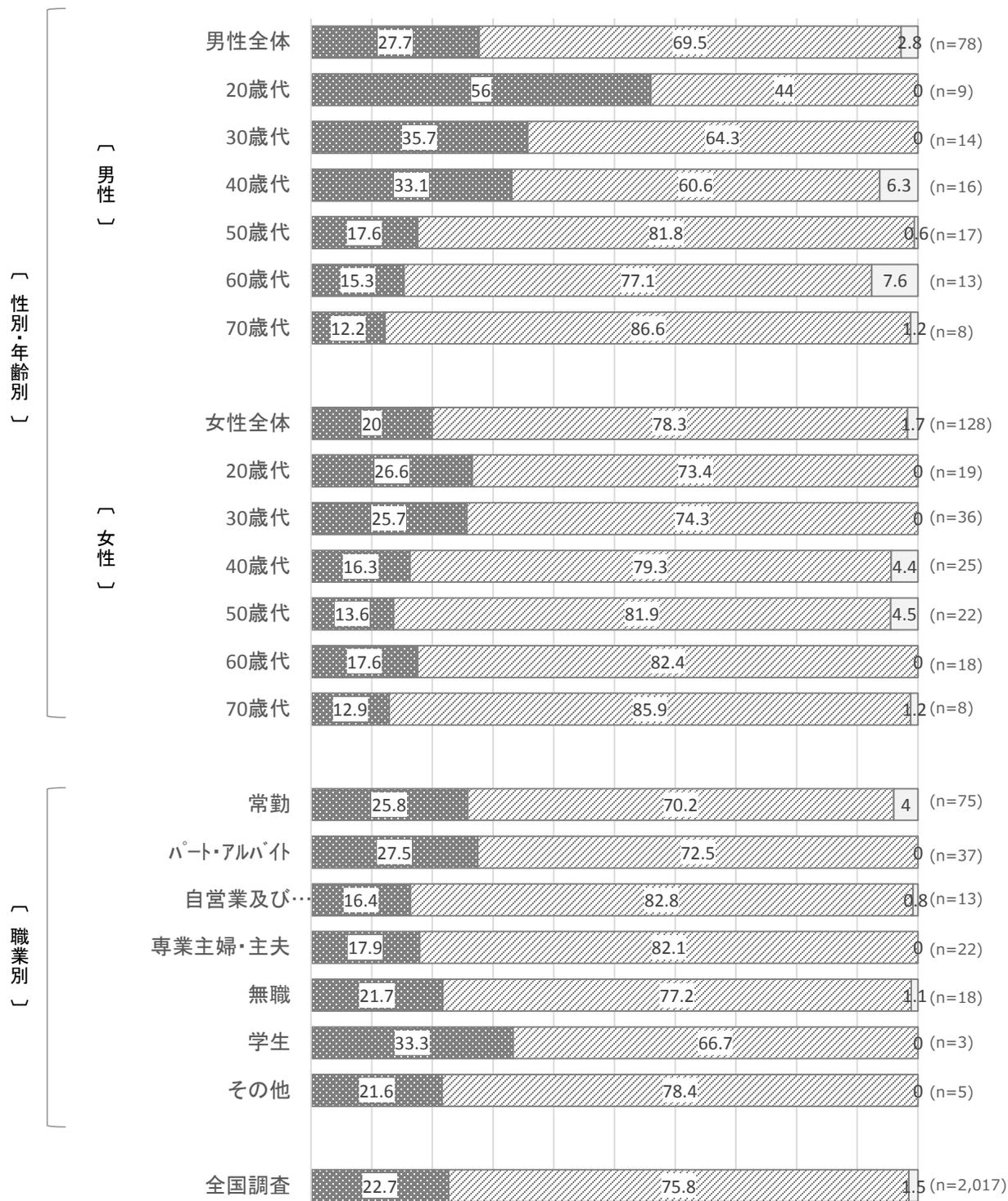
全国調査では22.7%となっており、ほぼ全国と同じ数値となった。

■はい □いいえ □不明



■はい □いいえ □不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※問18で「自殺を考えたことがある」と回答した方への質問

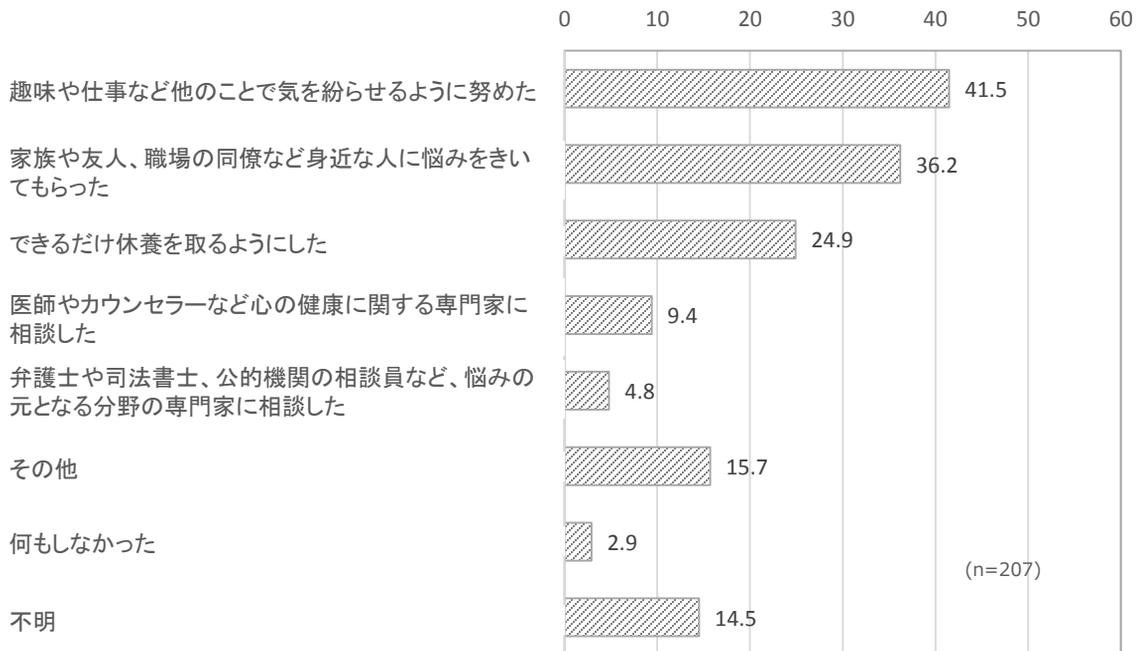
付問18-2 そのように考えたとき、どのようにして乗り越えましたか。(〇をいくつでも)

自殺したいとの思いをどのように乗り越えたかを尋ねると、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が41.5%で最も多く、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」(36.2%)、「できるだけ休養を取るようにした」(24.9%)、「医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した」(9.4%)と続いている。

性別では「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が男性で、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」、「できるだけ休養を取るようにした」は女性が多くなっている。

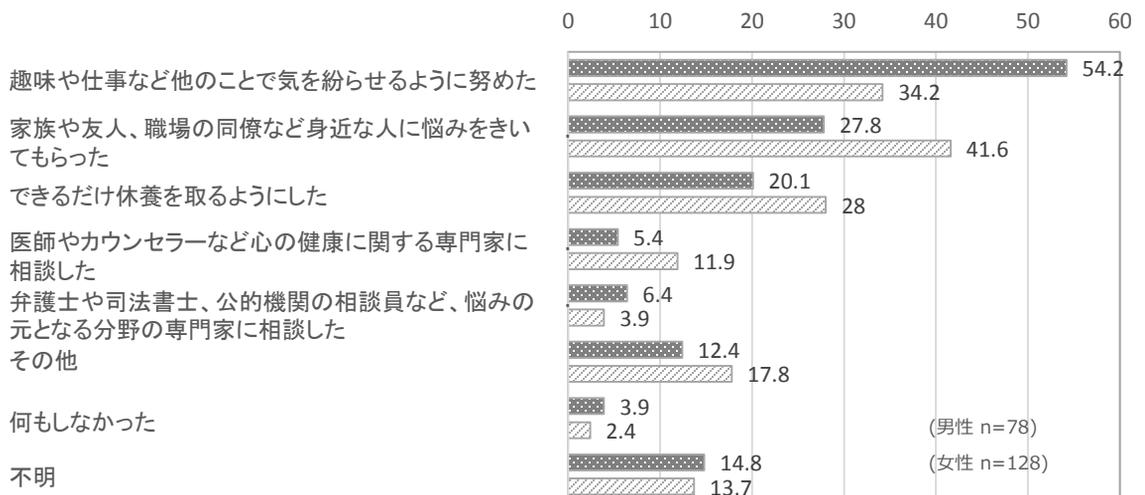
年齢別で見ると、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」は20代から40代の若い層が多く、50歳代以上は急減する。

全国調査でも「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」と「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」が上位2位で回答も集中している。



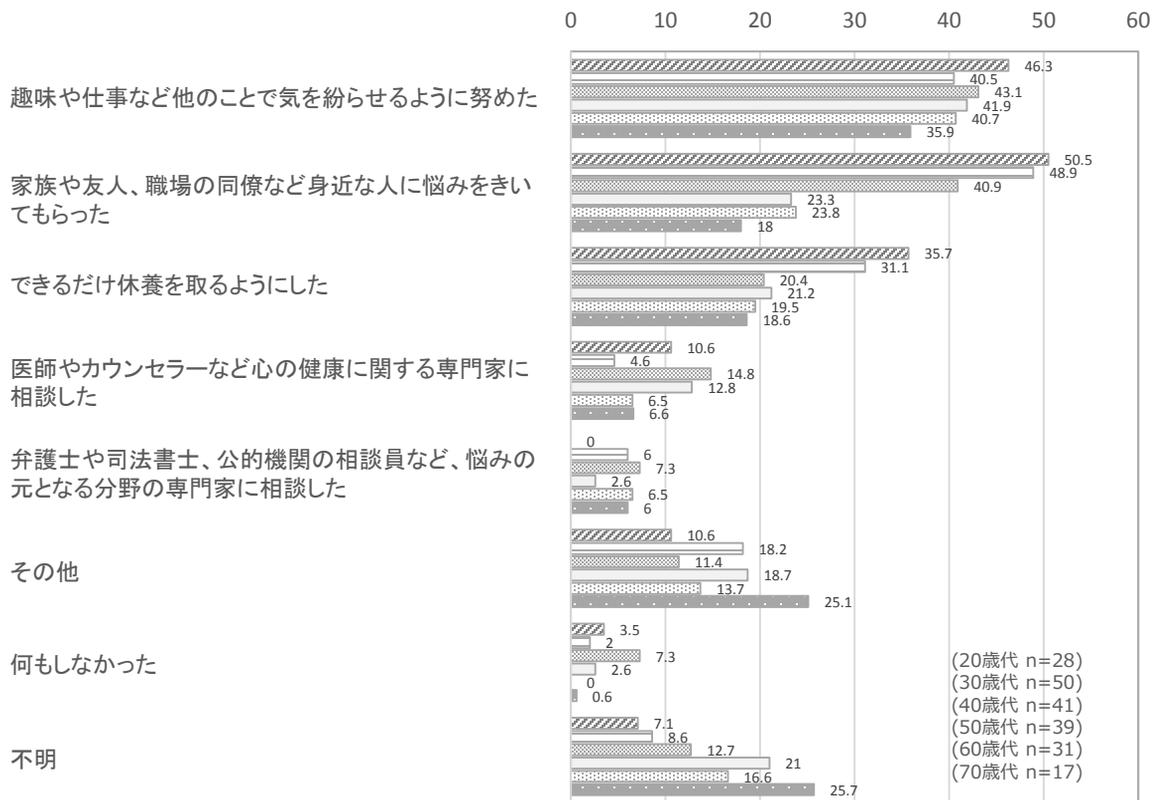
〔性別〕

■ 男性 □ 女性



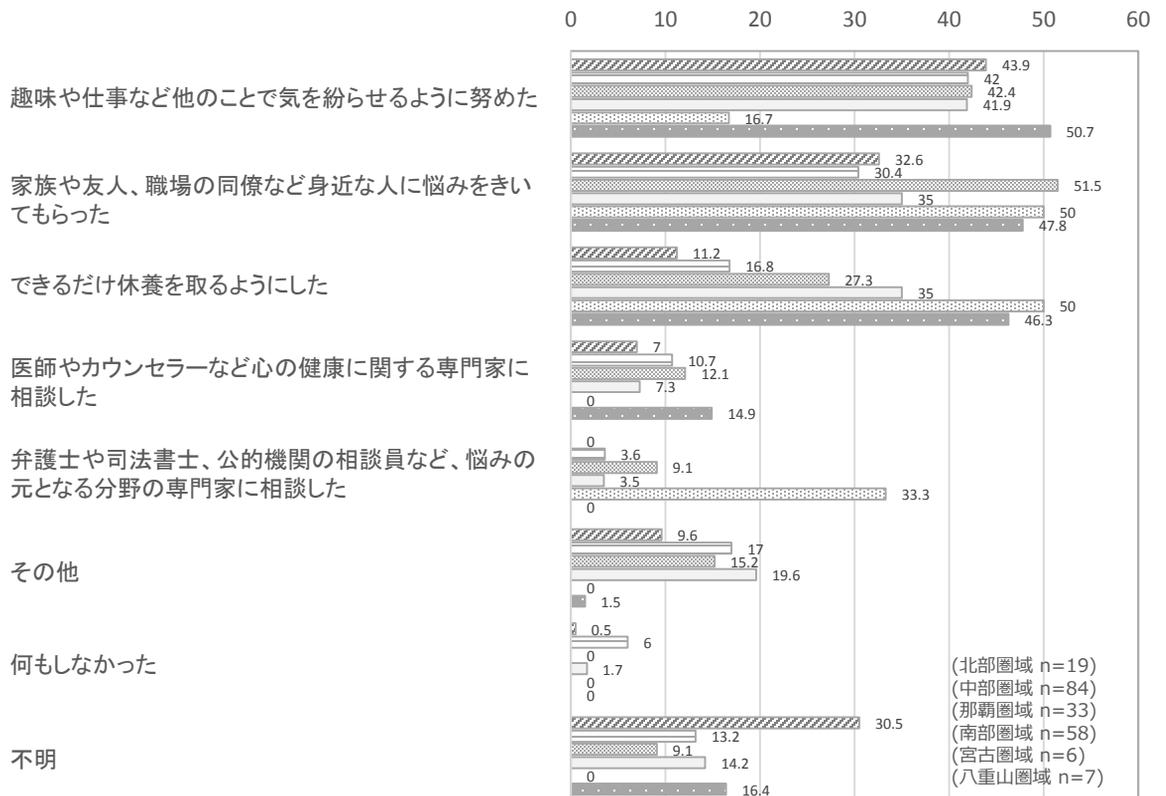
〔年代別〕

20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代



〔圏域別〕

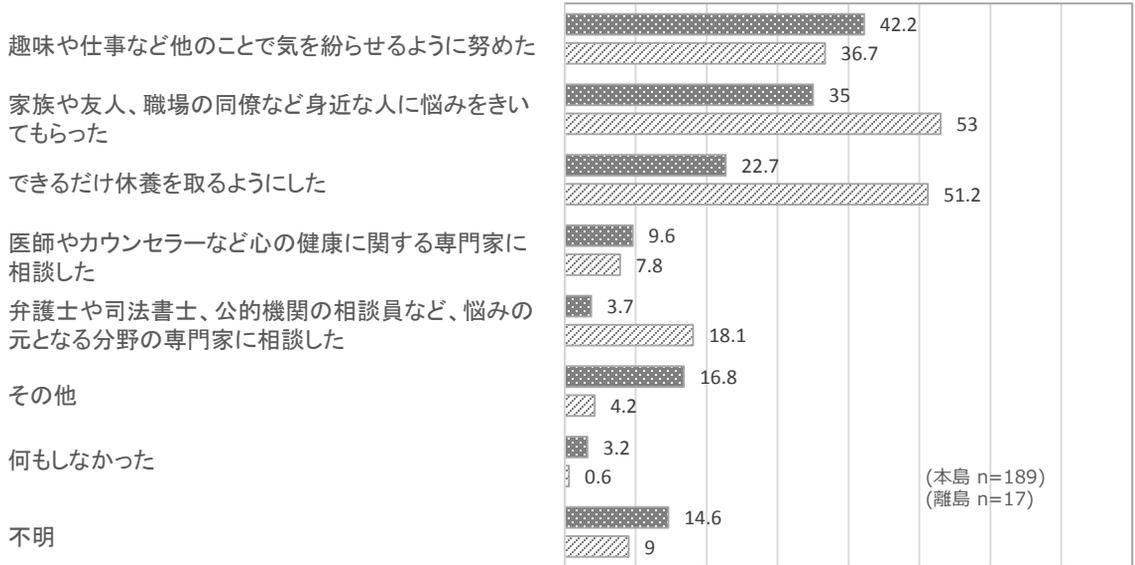
北部圏域 中部圏域 那覇圏域 南部圏域 宮古圏域 八重山圏域



〔本島／離島〕

■ 本島 □ 離島

0 10 20 30 40 50 60 70 80



〔性別・年代別／職業別／全国調査〕

		趣味や仕事など他のことで気を紛らせるように努めた	家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みをきいてもらった	できるだけ休養を取るようにした	医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した	弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの元となる分野の専門家に相談した	その他	特に何もなかった	不明	
男性	全体	78	54.2	27.8	20.1	5.4	6.4	12.4	3.9	14.8
	20歳代	9	54.9	34.1	33	22	-	22	-	11
	30歳代	14	63.6	43.4	43.4	1.4	-	21	-	0.7
	40歳代	16	46.9	51.9	6.9	-	6.3	1.9	12.5	12.5
	50歳代	17	67.1	5.9	7.6	5.9	5.9	1.8	5.9	24.7
	60歳代	13	38.9	15.3	22.9	-	15.3	15.3	-	15.3
	70歳代	8	48.8	12.2	12.2	12.2	12.2	24.4	-	26.8
女性	全体	128	34.2	41.6	28	11.9	3.9	17.8	2.4	13.7
	20歳代	19	42.2	58.3	37	5.2	-	5.2	5.2	5.2
	30歳代	36	31.3	51.1	26.3	5.9	8.4	17	2.8	11.7
	40歳代	25	40.6	33.9	29.1	24.3	8	17.5	4	12.7
	50歳代	22	22.6	36.7	31.7	18.1	-	31.7	-	18.1
	60歳代	18	42	30.1	17	11.4	-	12.5	-	17.6
	70歳代	8	23.5	23.5	24.7	1.2	-	25.9	1.2	24.7
職業	勤めている (常勤)	75	46.2	37	25.9	2.8	8	16.7	4	11.1
	勤めている (パート・アルバイト)	37	36	55	28.1	8.4	5.4	8.7	5.7	13.9
	自営業及び家族従事者	13	57	25	32	23.4	7.8	8.6	7.8	1.6
	専業主婦・主夫	22	27.7	31.7	32.6	22.3	-	13.4	-	22.8
	無職	28	36.6	25.4	11.6	11.2	-	22.8	-	18.8
	学生	3	66.7	66.7	33.3	-	-	33.3	-	-
	その他	5	39.2	21.6	21.6	21.6	-	19.6	-	-
全国調査	472	38.6	38.8	18	8.5	2.3	16.1	13.8	10.8	

問19 あなたの周りで自殺をした方はいらっしゃいますか。(〇をいくつでも)

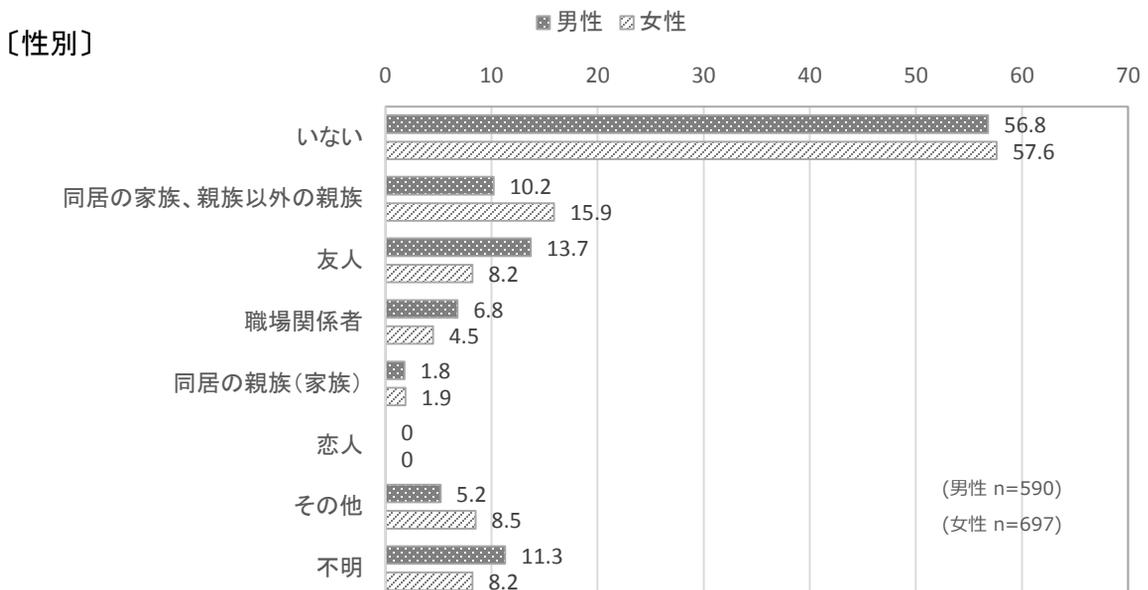
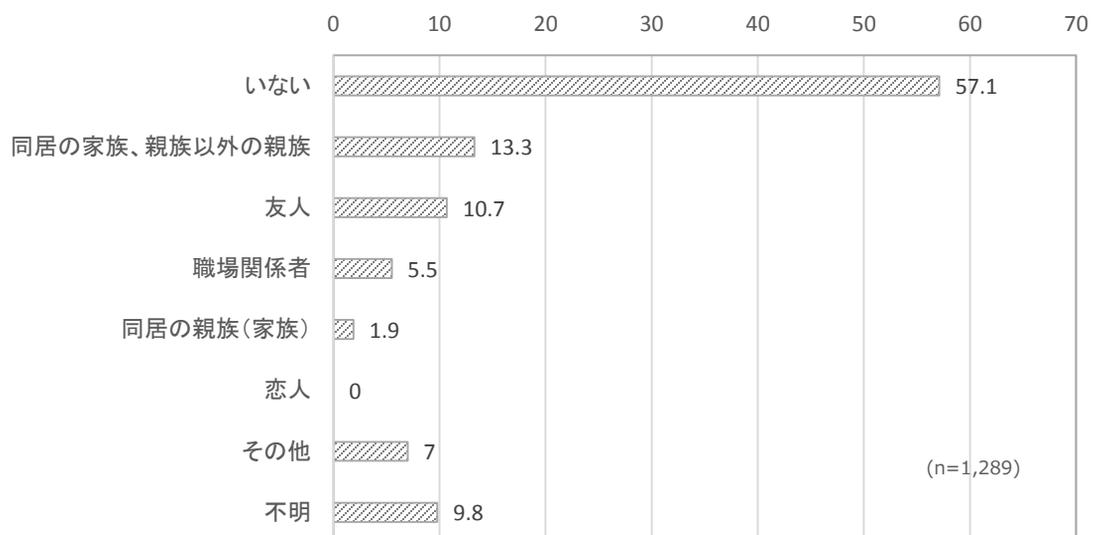
自分の周りに自殺した方がいるか尋ねると「いない」が57.1%であった。不明回答の9.8%を合わせて考えると、約3割の方が身近に自殺した方がいると推測される。具体的には「同居の家族、親族以外の親族」が13.3%、「友人」が10.7%、「職場関係者」が5.5%となっている。

性別でもほぼ同様の傾向である。

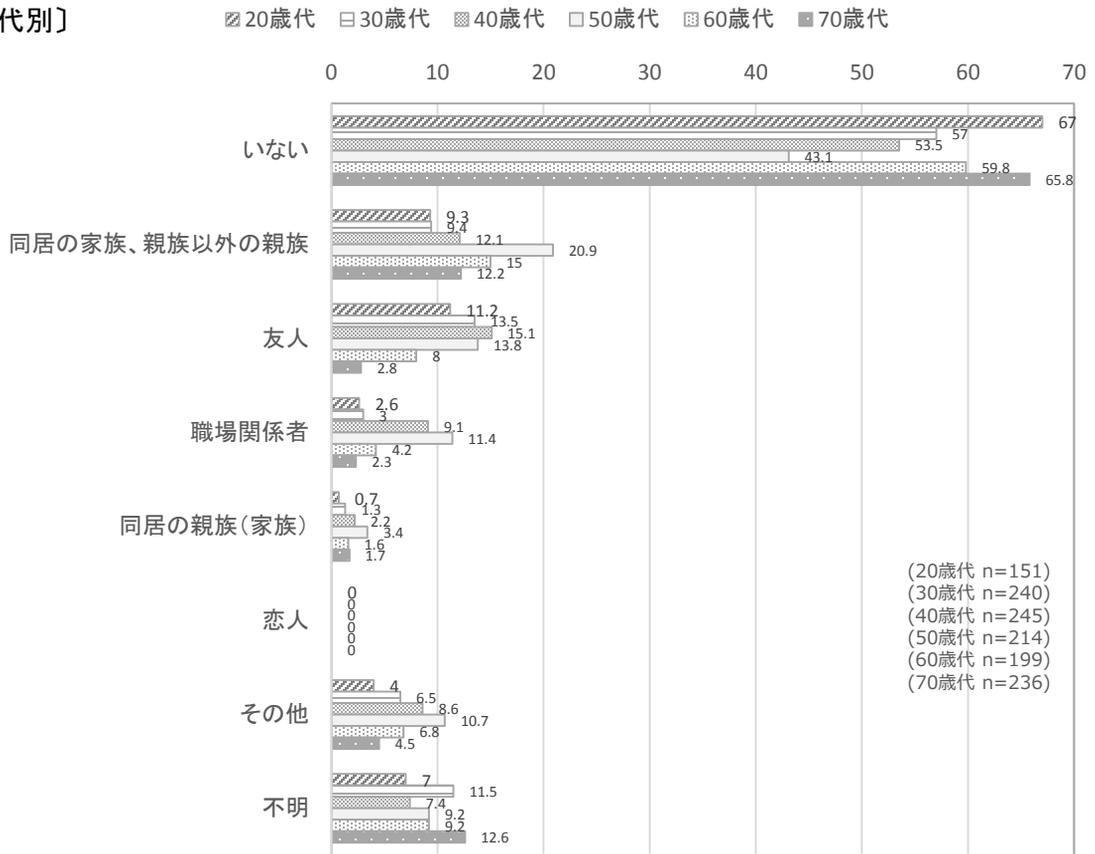
年齢別で見ると50歳代で「同居以外の親族」「職場関係者」「その他」などに身近に自殺した方が多くなっている。

圏域別ではあまり違いはない。

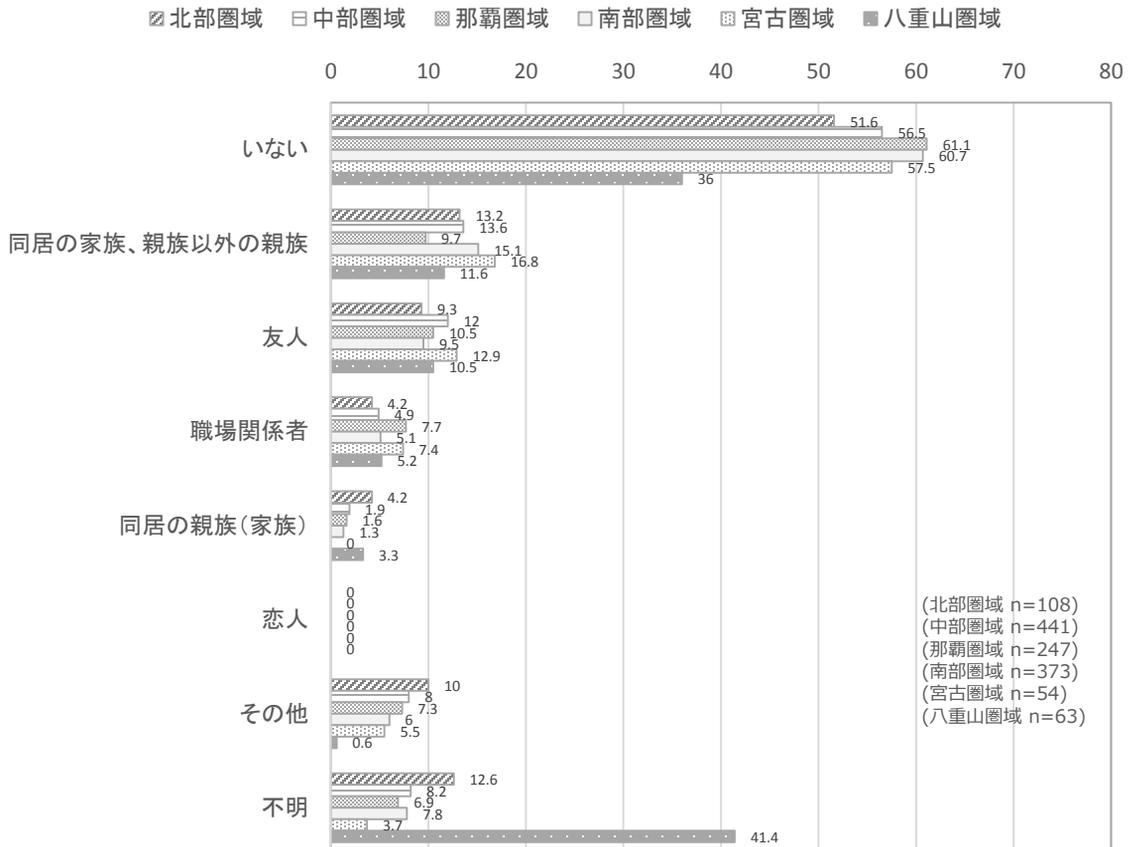
全国調査でもほぼ同様な結果となっており、全国との違いは見られない。



〔年代別〕

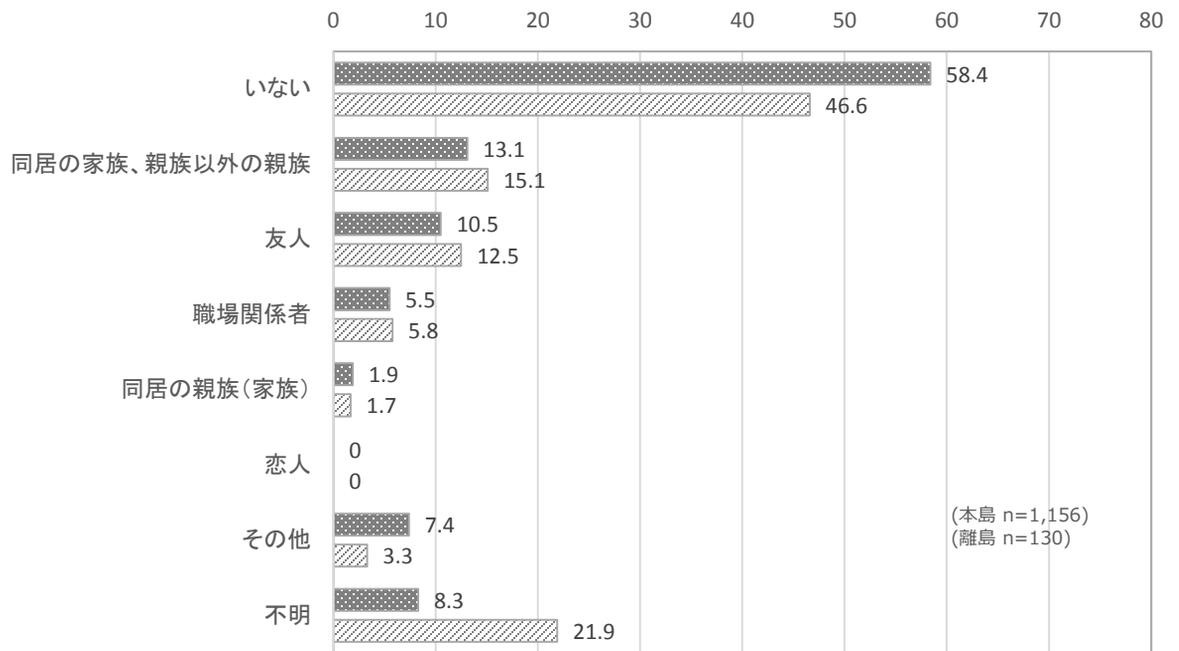


〔圏域別〕



〔本島／離島〕

■ 本島 □ 離島



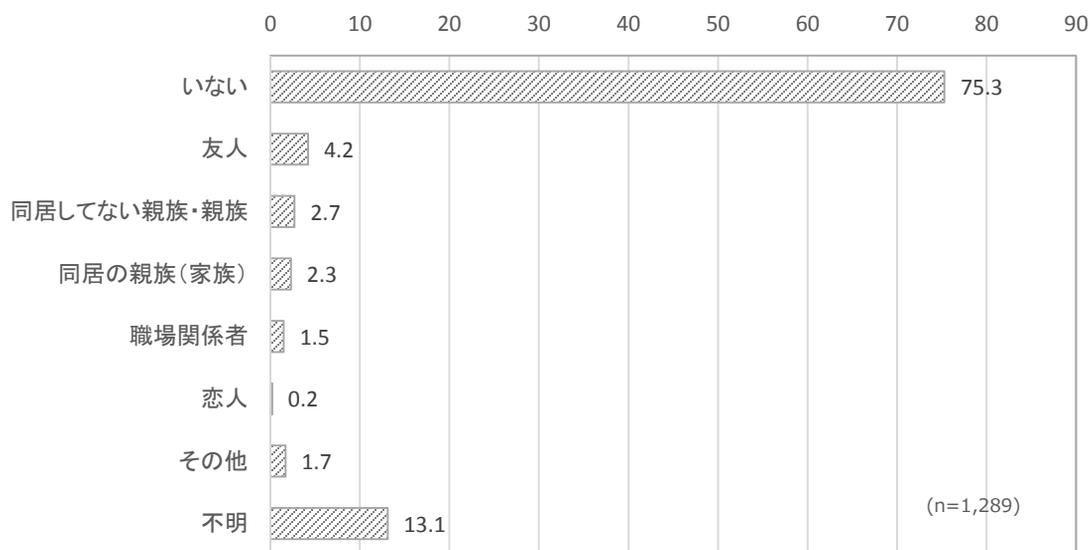
〔性別・年代別／職業別／全国調査〕

		いない	同居の家族、親族以外の親族	友人	職場関係者	同居の親族(家族)	恋人	その他	不明
男性	全体	590	56.8	10.2	13.7	6.8	1.8	5.2	11.3
	20歳代	71	71	1.5	11.2	2.8	2.8	0.1	10.5
	30歳代	106	59	0.1	12.7	2.8	6	4	16.4
	40歳代	118	51.2	2.6	20	12	9.7	7.3	8.6
	50歳代	99	43.8	4.3	21.5	10.4	15.7	9.7	10.3
	60歳代	96	57.4	2.2	10	8.8	13.3	3.3	8.6
	70歳代	99	63.8		5.2	2.3	11.2	5.2	13.4
女性	全体	697	57.6	15.9	8.2	4.5	1.9	8.5	8.2
	20歳代	80	63.4		11.3	2.5	15.2	7.5	3.9
	30歳代	134	55.5	2.3	14.1	3.1	12.1	8.5	7.6
	40歳代	127	55.7	1.7	10.6	6.4	14.4	9.8	6.4
	50歳代	115	42.6	2.7	7.1	12.3	25.4	11.5	8.3
	60歳代	104	62.1	1	6.2		16.7	10	9.8
	70歳代	137	67.3	2.9	1	2.3	13	4.1	12
職業	勤めている (常勤)	406	55.5	1.9	15	7.8	15	8.1	4.8
	勤めている (パート・アルバイト)	191	56.1	1.6	12.2	7.4	16.3	5.3	4.3
	自営業及び家族従事者	83	48.9	2.5	17.6	5.2	14.8	13.1	6.6
	専業主婦・主夫	144	62.4	1.4	4.4	4.2	16.8	7.8	7.2
	無職	197	62.2	2	6.8	3.6	13	4.9	10.7
	学生	26	73.3		15.3			7.6	3.8
	その他	29	67.8	3.4	13.7		11	11	3.4
全国調査	2017	56.2	12.2	10.5	9.9	2.3	0.1	10.9	5.8

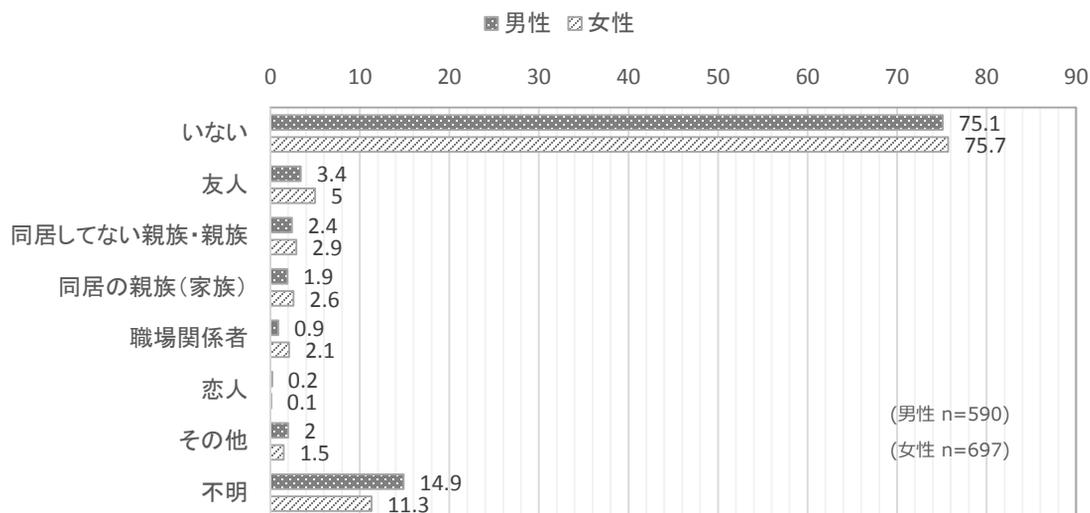
問20 あなたの周りで自殺未遂をした方はいらっしゃいますか。(〇をいくつでも)

身の回りで自殺未遂をした方については「いない」が75.3%。いる方の内訳は「友人」4.2%、「同居していない親族・家族」2.7%、「同居の親族(家族)」2.3%、「職場関係者」1.5%、「恋人」0.2%となっている。

この質問では各属性間での差はほぼ見られない。



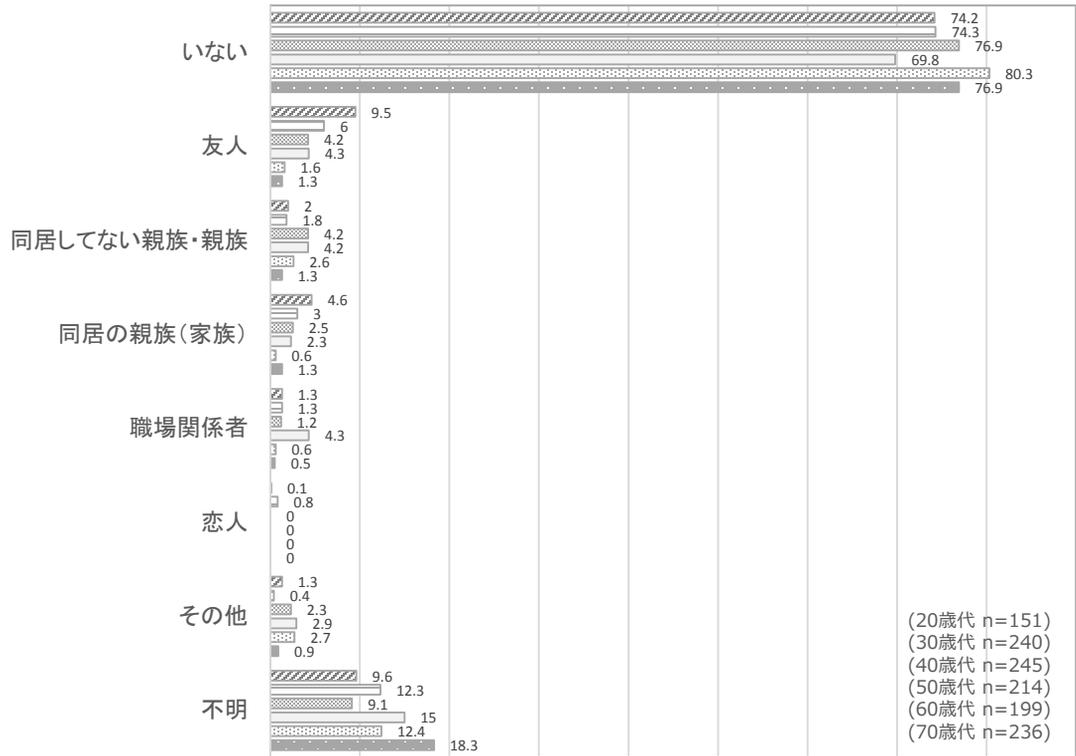
〔性別〕



〔年代別〕

20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代

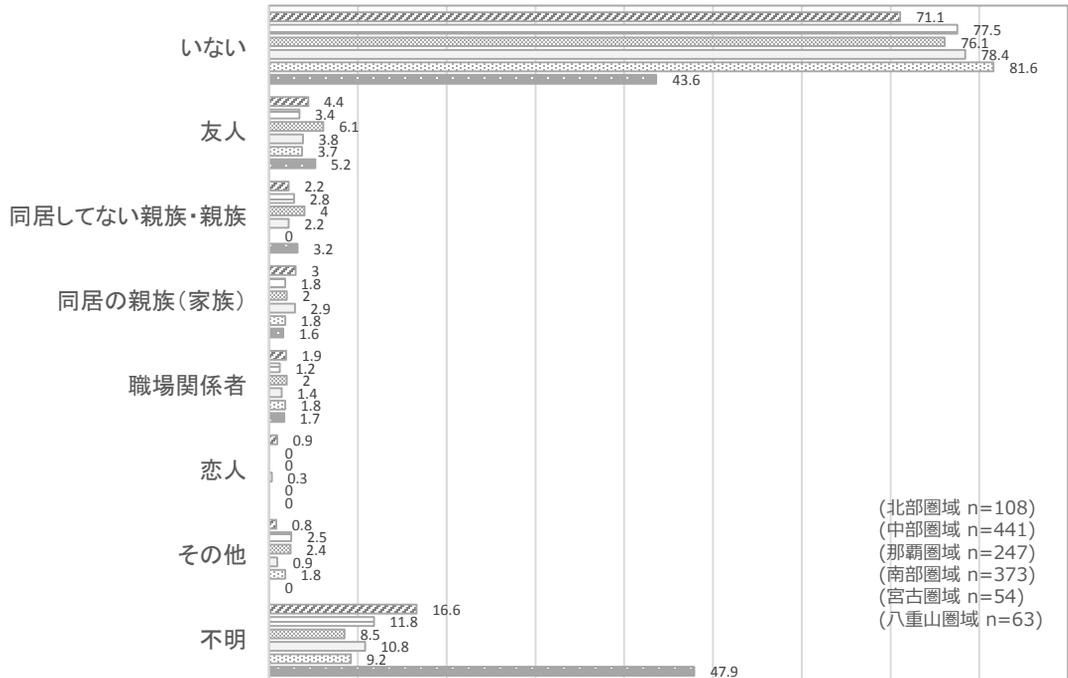
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90



〔圏域別〕

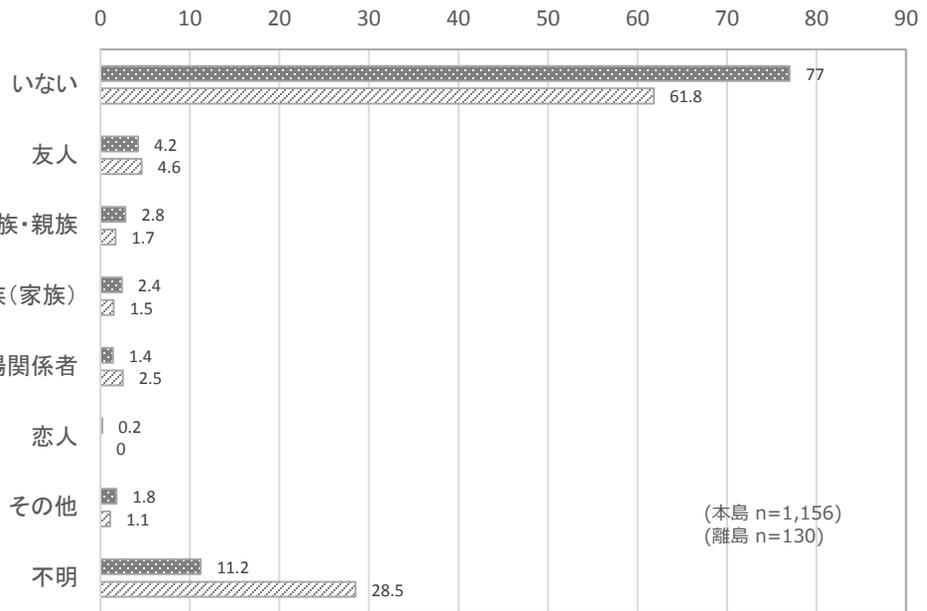
北部圏域 中部圏域 那覇圏域 南部圏域 宮古圏域 八重山圏域

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90



〔本島／離島〕

■ 本島 □ 離島



〔性別・年代別／職業別〕

		合計	いない	友人	同居してない親族・親族	同居の親族(家族)	職場関係者	恋人	その他	不明
男性	全体	590	75.1	3.4	2.4	1.9	0.9	0.2	2	14.9
	20歳代	71	73.7	4.5	-	7	-	0.1	1.4	13.3
	30歳代	106	75.8	4	1.9	-	1	0.9	0.9	15.5
	40歳代	118	79.1	1.8	1.9	3.4	0.9	-	2.8	10.3
	50歳代	99	65.3	6.2	5.1	2	3.1	-	4.3	18
	60歳代	96	77.2	3.2	4.3	-	0.1	-	1.4	13.9
	70歳代	99	78.2	1	1	-	-	-	1.1	18.7
女性	全体	697	75.7	5	2.9	2.6	2.1	0.1	1.5	11.3
	20歳代	80	74.6	14	3.8	2.5	2.5	-	1.3	6.4
	30歳代	134	73.1	7.6	1.8	5.3	1.6	0.7	-	9.8
	40歳代	127	74.8	6.5	6.4	1.6	1.6	-	1.8	8.1
	50歳代	115	73.6	2.7	3.5	2.6	5.2	-	1.7	12.4
	60歳代	104	83	-	1	1.1	1	-	3.9	11.1
	70歳代	137	76	1.5	1.5	2.2	0.9	-	0.7	18
職業	勤めている (常勤)	406	77.8	2.9	3.3	2.7	1.8	0.3	2.3	9.7
	勤めている (パート・アルバイト)	191	77.3	8.9	2.1	3.1	2.6	0.5	1	5.3
	自営業及び家族従事者	83	72.9	4	3.6	3.6	2.5	-	0.5	12.9
	専業主婦・主夫	144	80.9	3.6	2.1	0.1	1.4	-	0.7	11.2
	無職	197	77.4	4.1	3	0.5	0.5	-	2.1	13.9
	学生	26	88.2	4.2	-	3.8	-	-	-	3.8
	その他	29	72.6	3.4	3.4	3.4	-	-	10.3	13.7

問21 あなたが、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが一番良いと思いますか。(〇を1つだけ)

身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときにどう対応するか尋ねたところ、「ひたすら耳を傾けて聞く」が最も高く34.1%、次に『「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する』14.1%、『「死んではいけない」と説得する』12.7%、『「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す』10.7%などの順となっている。

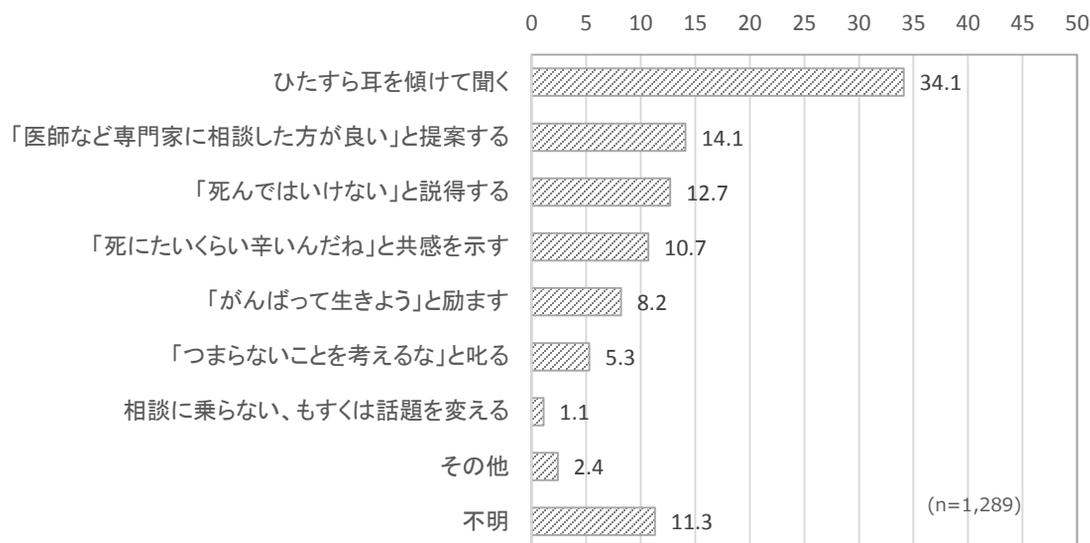
性別では「ひたすら耳を傾けて聞く」は女性が多く、『「死んではいけない」と説得する』は男性が多い。

年齢別では「ひたすら耳を傾けて聞く」は若いほど高く、『「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する』は年代が高いほど多くなる傾向にある。

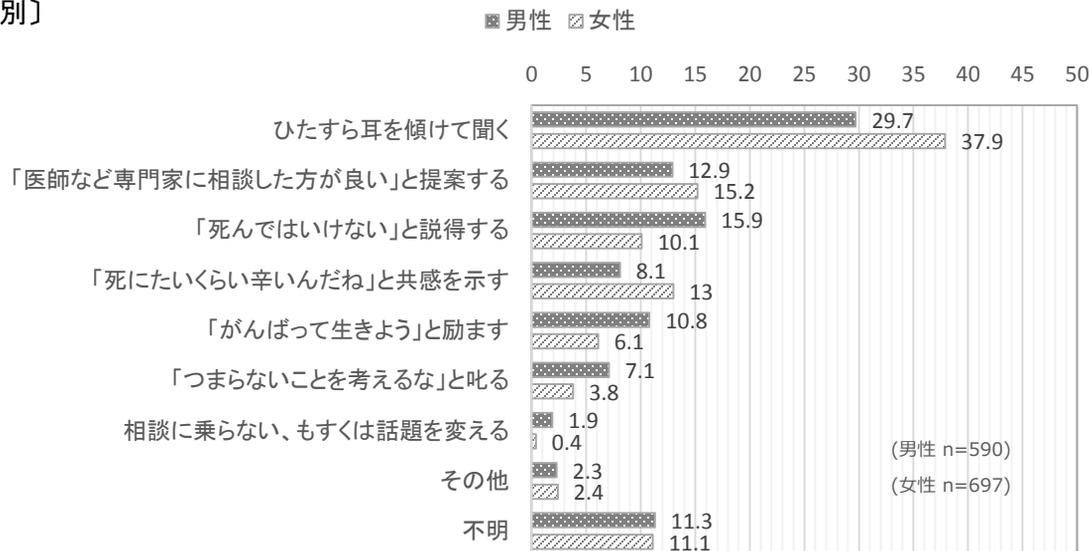
圏域別での違いは特に見られない。

自殺を考えたことがある方は「ひたすら耳を傾けて聞く」、「死にたいくらい辛いんだねと共感を示す」との回答が多くなっている。

全国調査と比較すると沖縄は『「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する』が高めになっている。

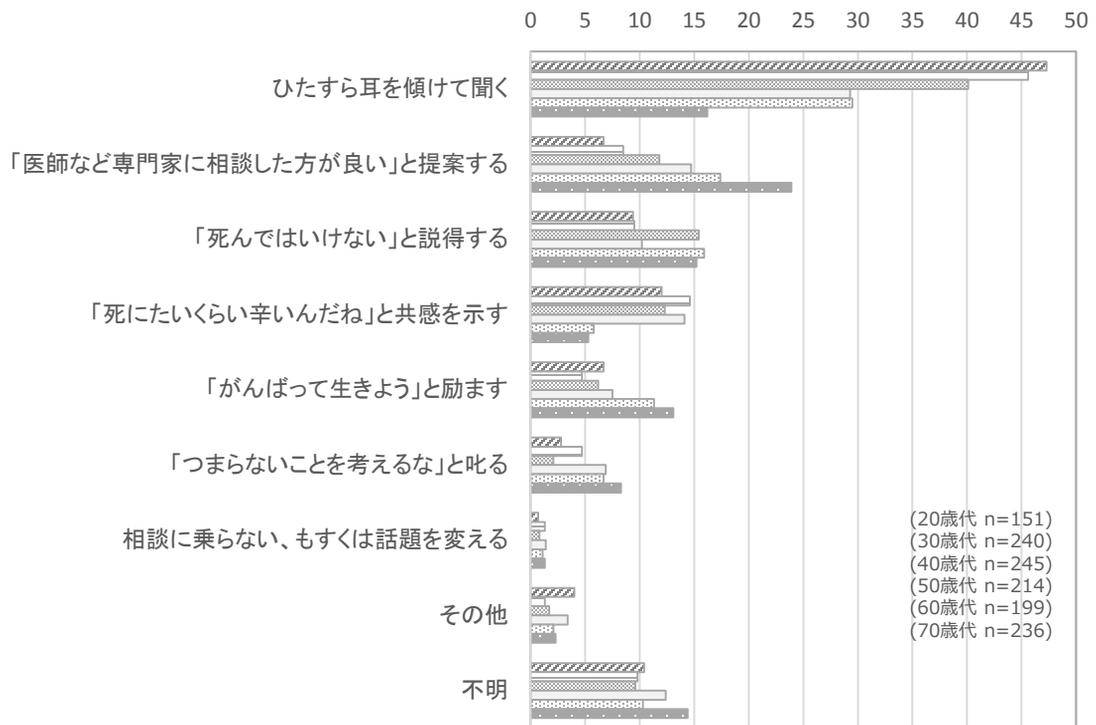


〔性別〕



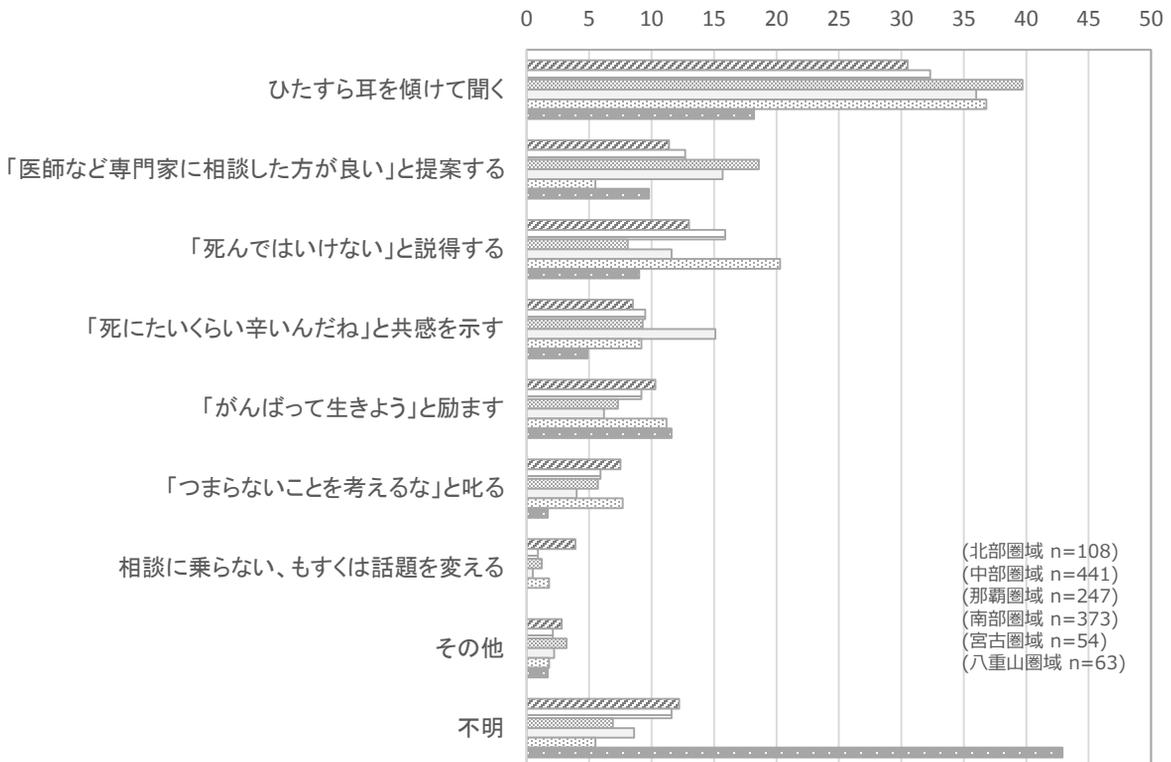
〔年代別〕

20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代



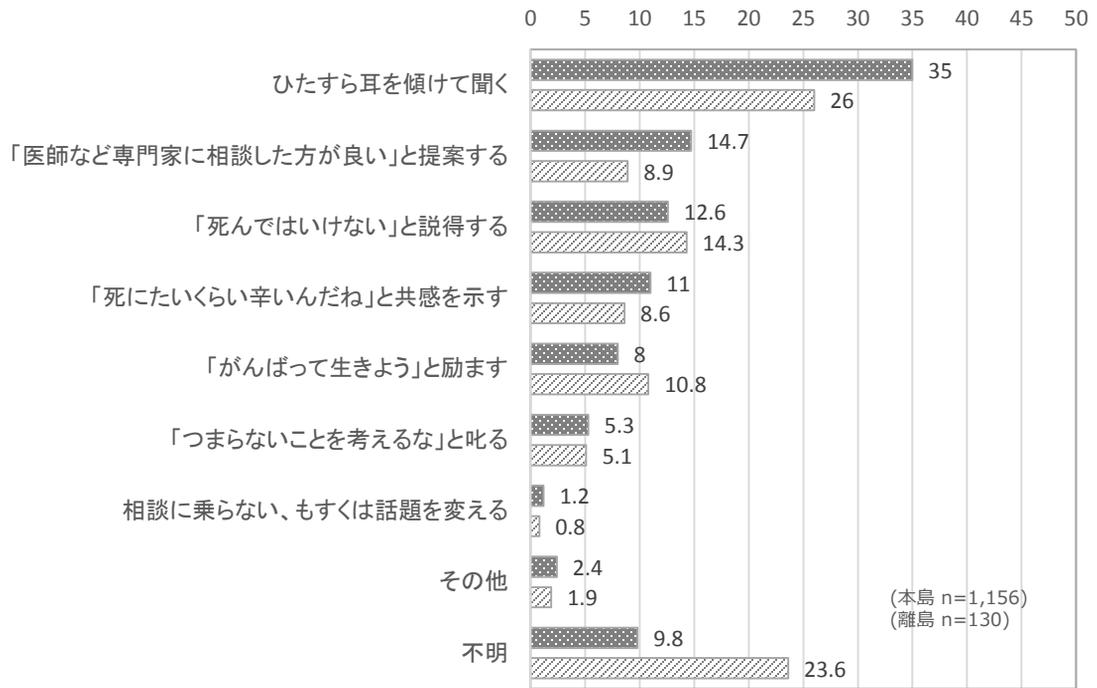
〔圏域別〕

北部圏域 中部圏域 那覇圏域 南部圏域 宮古圏域 八重山圏域



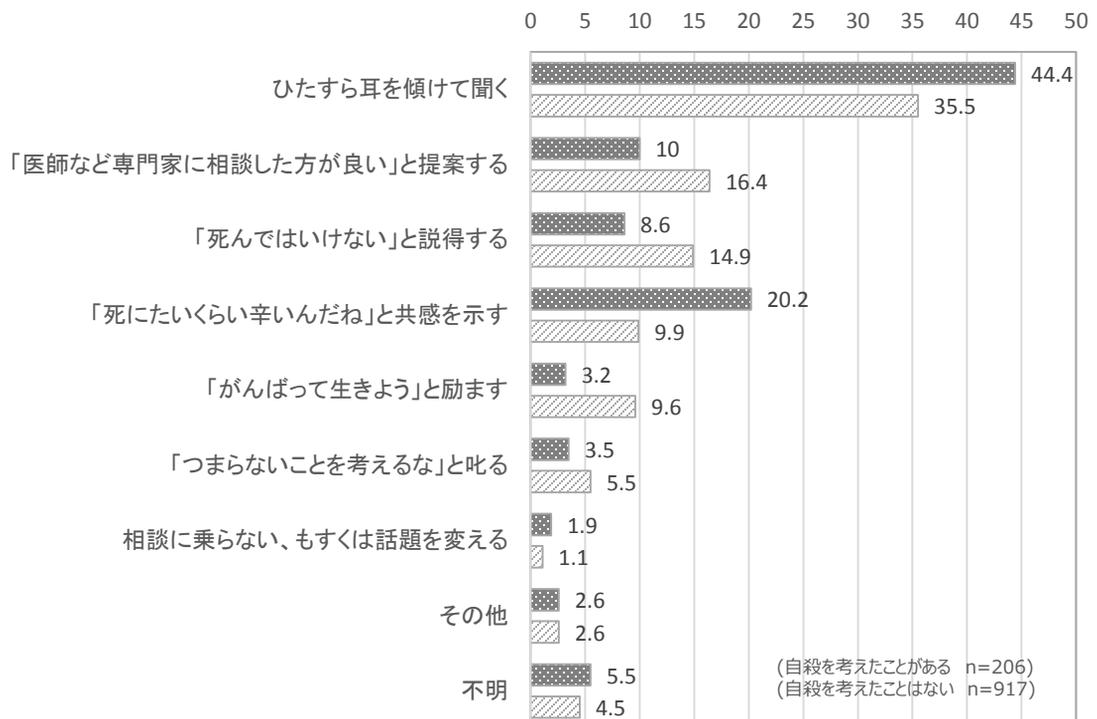
〔本島／離島〕

■ 本島 □ 離島



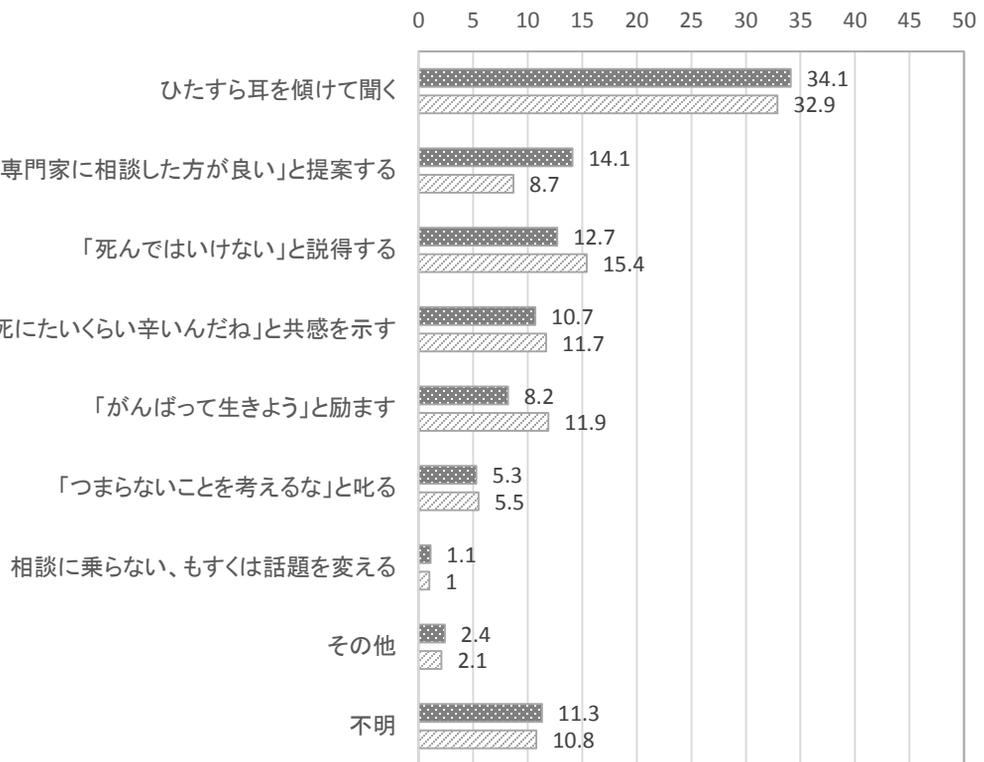
〔自殺を考えたことがある方／ない方〕

■ 自殺を考えたことがある □ 自殺を考えたことはない



〔全国調査との比較〕

■ 沖縄調査 □ 全国調査



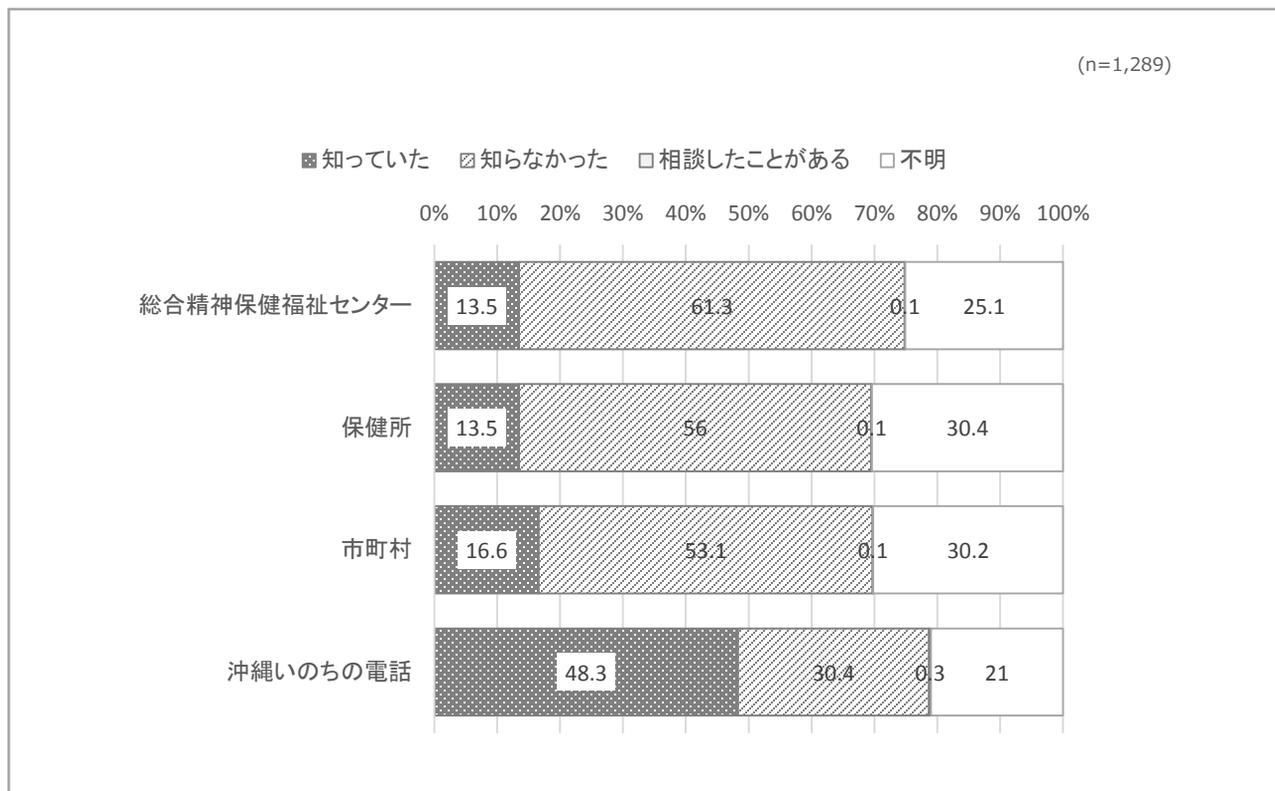
〔性別・年代別／職業別／全国調査〕

		合計	ひたすら耳を傾けて聞く	「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する	「死んではいけない」と説得する	「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す	「がんばって生きよう」と励ます	「つまらないことを考えるな」と叱る	相談に乗らない、もすぐは話題を変える	その他	不明
男性	全体	590	29.7	12.9	15.9	8.1	10.8	7.1	1.9	2.3	11.3
	20歳代	71	42.4	2.8	15.4	12.6	5.9	3.2	-	4.3	13.4
	30歳代	106	39.1	7.9	10.6	8.6	7.6	8.6	3	2.8	11.7
	40歳代	118	31.9	10.7	22.6	11.3	8.5	3.6	0.9	1.8	8.8
	50歳代	99	25.5	13.2	9.5	10.2	13	10.8	3	2.2	12.5
	60歳代	96	29.4	17.1	19	3.2	11.7	8.6	2.2	1.1	7.6
	70歳代	99	12.6	23.9	17.5	2.2	17.4	7.5	2	2.2	14.6
女性	全体	697	0.4	10.1	3.8	6.1	13	15.2	37.9	2.4	11.1
	20歳代	80	51.8	10.2	4	11.4	7.5	2.5	1.3	3.8	7.6
	30歳代	134	50.8	9.1	8.5	19.3	2.3	1.6	-	0.1	8.3
	40歳代	127	47.6	12.7	8.7	13.3	4.2	0.8	0.8	1.6	10.4
	50歳代	115	32.6	16	10.9	17.4	2.9	3.5	-	4.4	12.4
	60歳代	104	29.6	17.6	13	8.2	10.9	4.9	-	3	12.7
	70歳代	137	18.7	23.9	13.6	7.5	10.1	8.8	0.7	2.4	14.2
職業	勤めている（常勤）	406	38.4	12.6	13.3	13.9	7.4	5.4	1	1.9	6
	勤めている（パート・アルバイト）	191	49	7.6	10	18	4.3	1.6	-	2.7	6.8
	自営業及び家族従事者	83	34.5	14.8	17.3	10.2	7.6	0.1	4.8	5.2	5.4
	専業主婦・主夫	144	33.7	20.2	12.8	9.2	9.2	2.8	-	2.8	9.3
	無職	197	25.9	16.6	15.6	7.8	11.9	8.3	1.5	2.6	9.8
	学生	26	46.2	11.5	7.6	7.6	3.8	4.2	-	7.6	11.5
	その他	29	38.4	21.6	7.2	10.3	7.5	0.3	-	3.4	11.3
全国調査	2017	32.9	8.7	15.4	11.7	11.9	5.5	1	2.1	7	

VI.相談窓口について

問22 あなたは、自殺や自殺未遂者に関して「総合精神保健福祉センター」、「保健所」、「市町村」、「沖縄いのちの電話」等でも相談を受けていることをご存知ですか。(〇を一つ)

自殺や自殺未遂の相談窓口の認知を尋ねたところ、最も知られていたのは「沖縄いのちの電話」で48.3%と半数の方に認知されている。「総合精神保健センター」(13.5%)、「保健所」(13.5%)、「市町村」(16.6%)は1割台となっている。

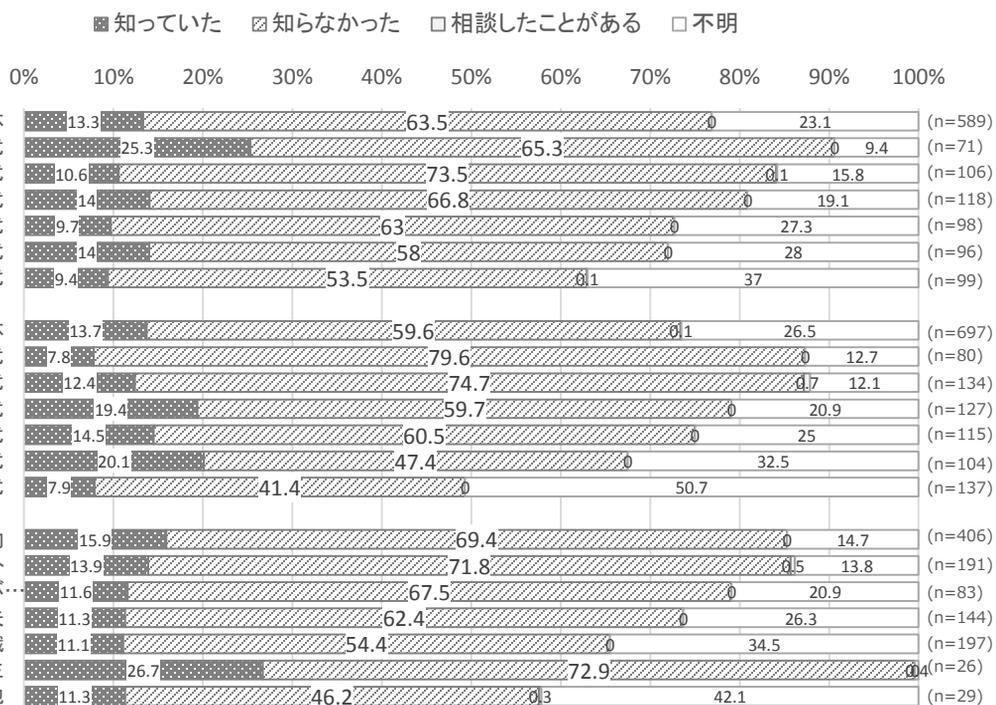
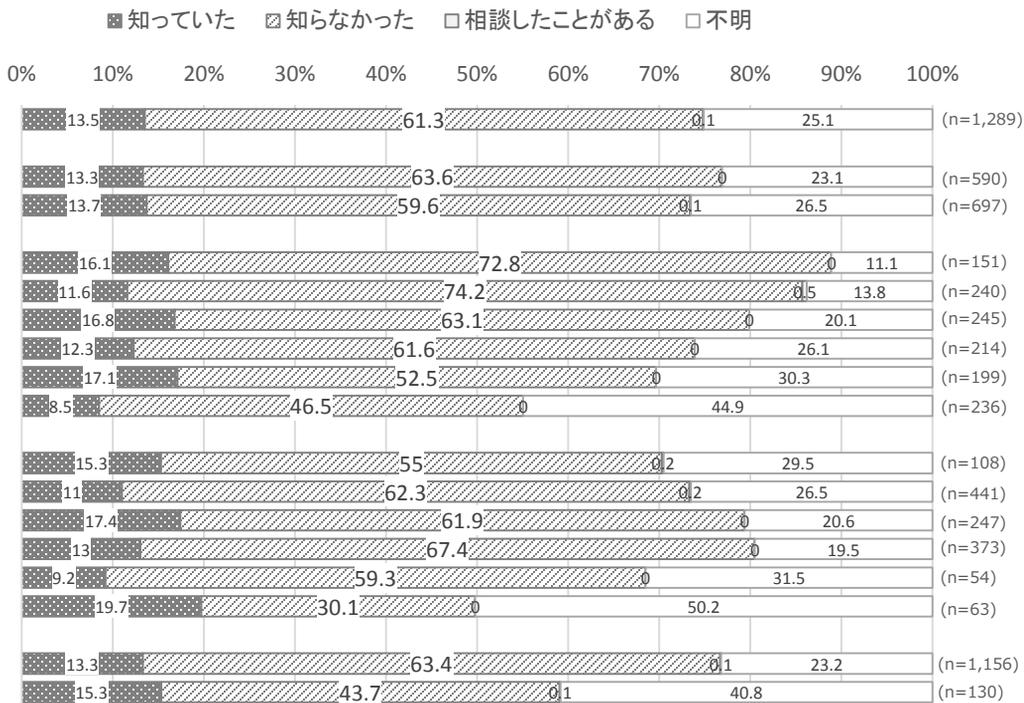


「総合精神保健福祉センター」の認知率は13.5%。

男女差はなく、年代別でもバラつきがある。

圏域で見ると那覇圏域で17.4%と他の圏域に比べるとやや高い。

〈総合精神保健福祉センター〉



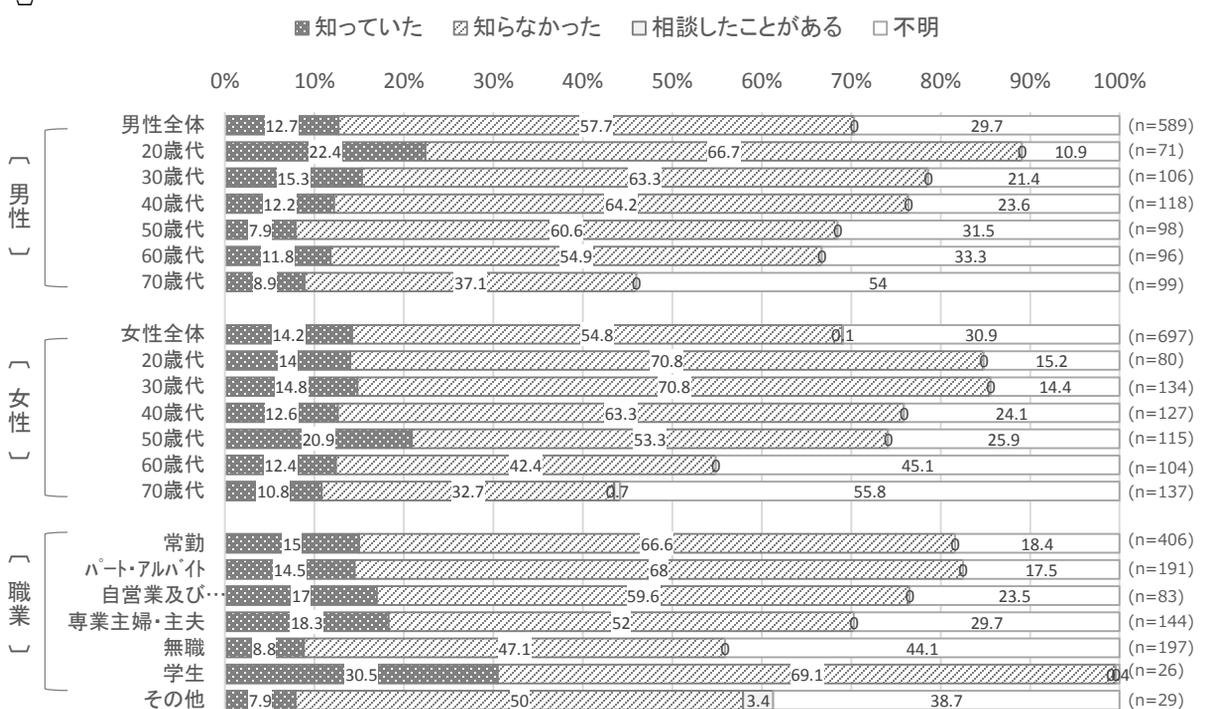
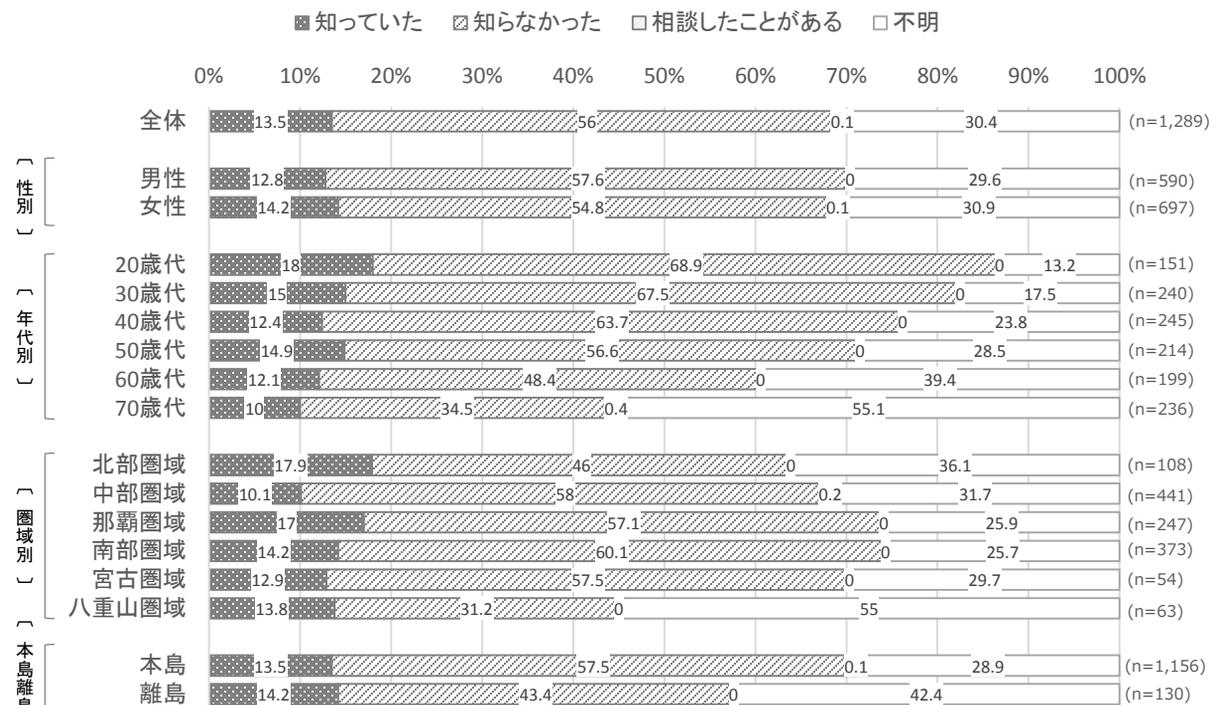
保健所の認知率は13.5%。

男女別での差はない。

年代別では若い層の認知がやや高くなっている。

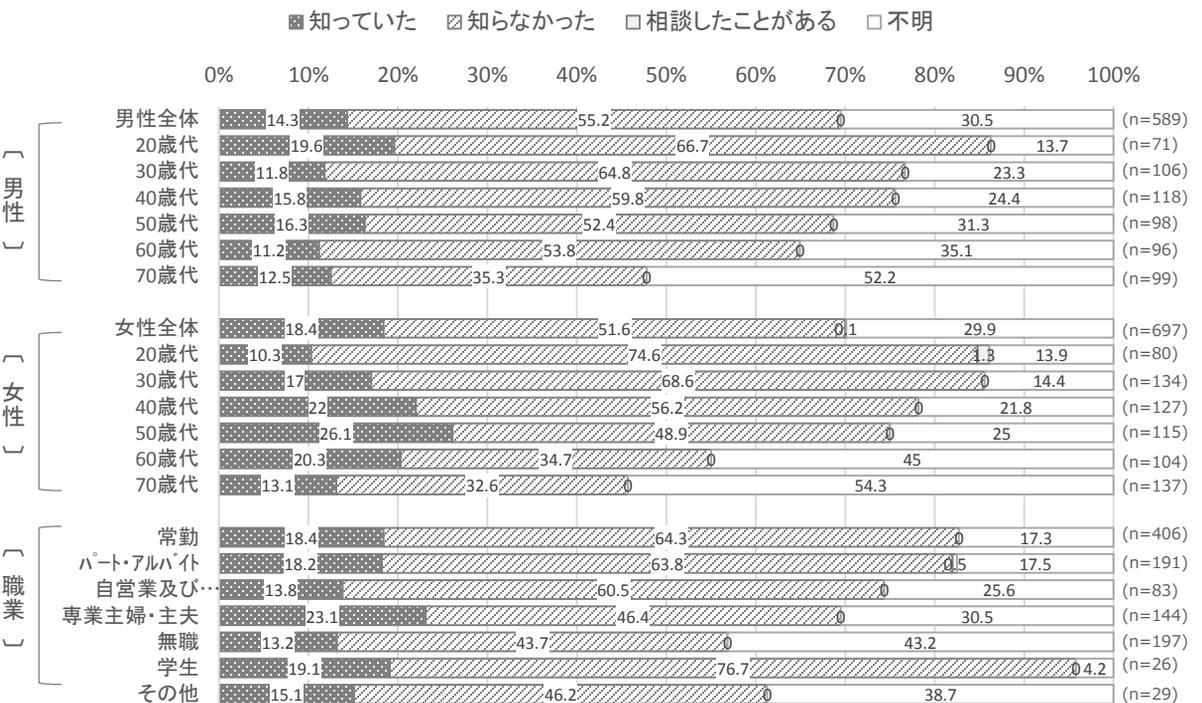
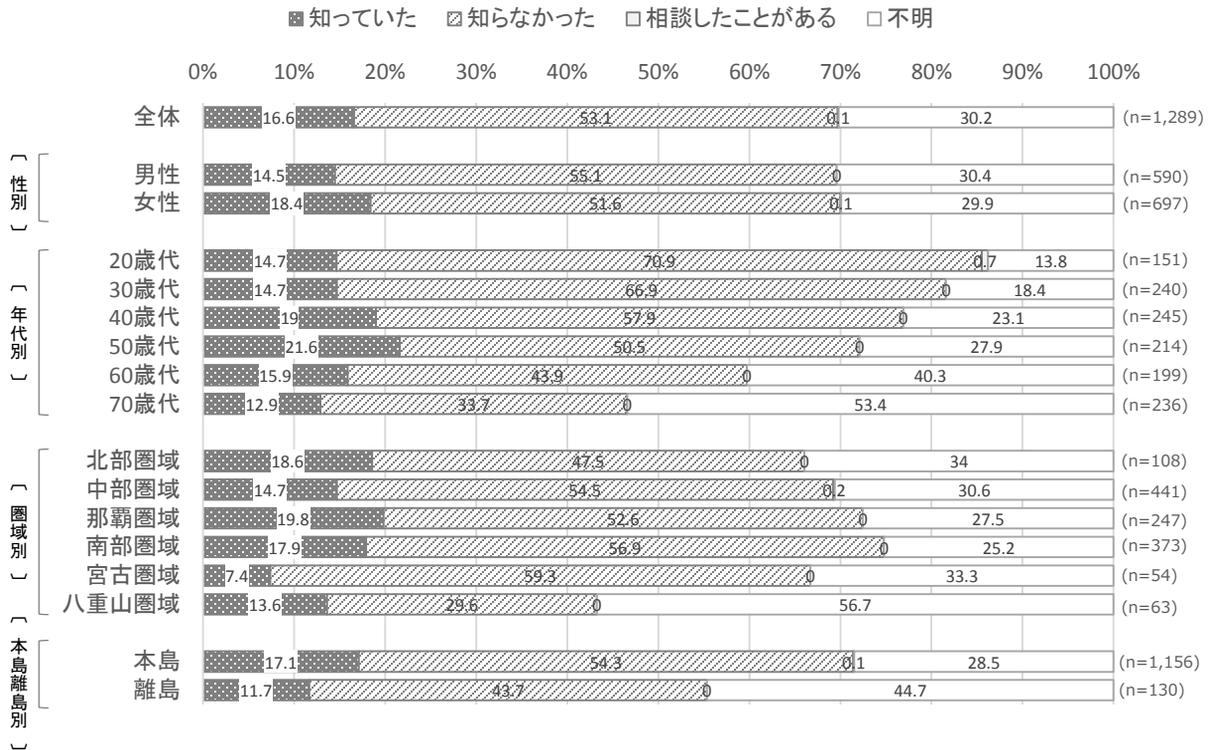
圏域別では北部圏域が最も高く、次いで那覇圏域が高くなっている。

〈保健所〉



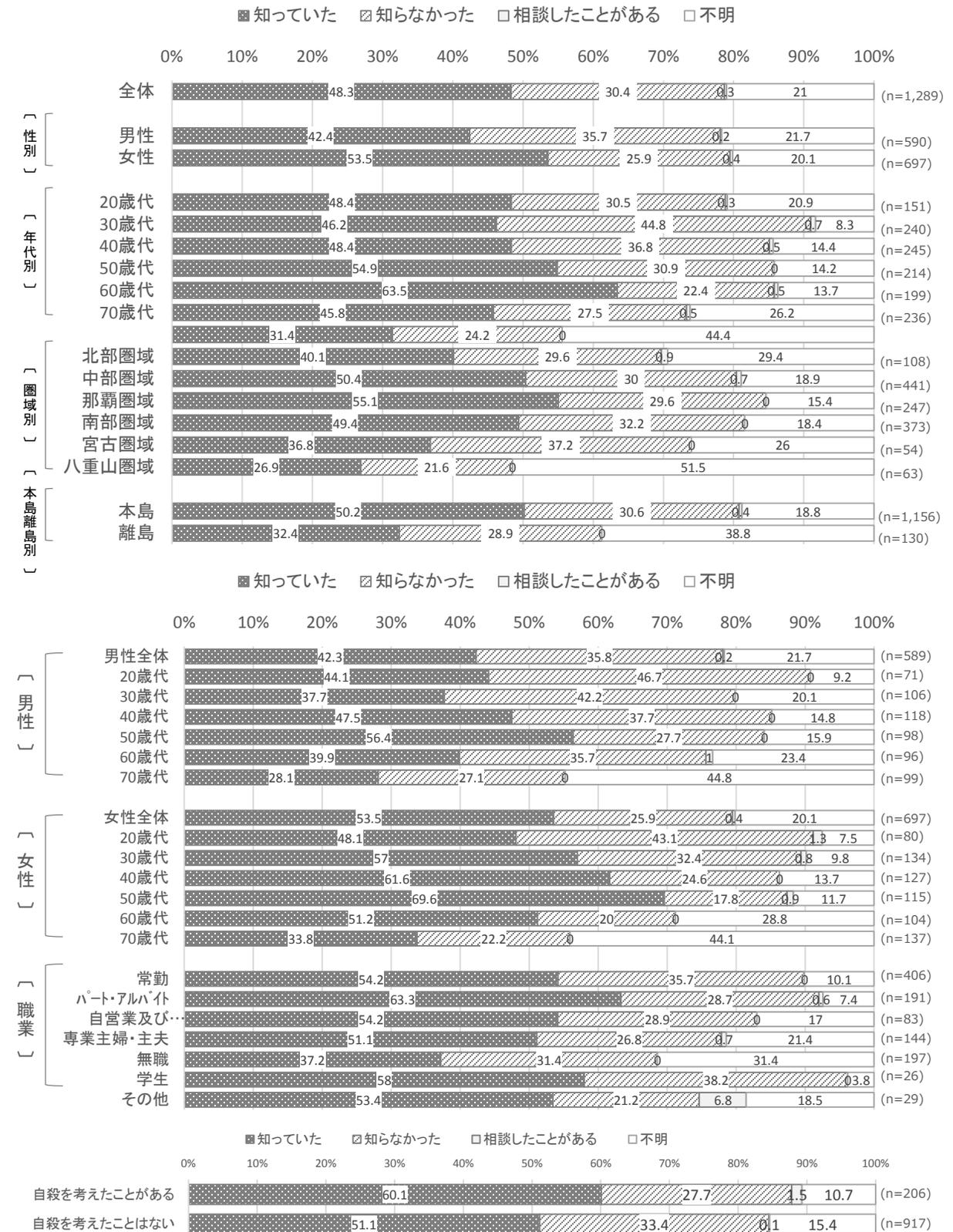
市町村の相談窓口の認知率は16.6%。
 性別ではやや女性が高めになっている。
 年代別では20歳代の14.7%から50歳代の21.6%まで年齢が上がるにつれて高くなる。
 圏域別では那覇圏域が19.8%で最も高くなっており、次いで北部圏域、南部圏域となる。宮古圏域が7.4%と他圏域に比べると低い。

〈市町村〉



沖縄のいのちの電話の認知率は48.3%と半数に近い認知率で各施設中では圧倒的に認知率が高い。性別では男性42.4%、女性53.5%と女性の認知がより高くなっている。年代別では60歳代が63.5%で6割を超え最も高く、50歳代も5割を超えている。圏域別では那覇圏域と中部圏域で5割を超えている。一方宮古圏域と八重山圏域は本島に比べ低くなっている。自殺を考えたことがある方における認知率は6割と全体に比べても高い。

〈沖縄いのちの電話〉



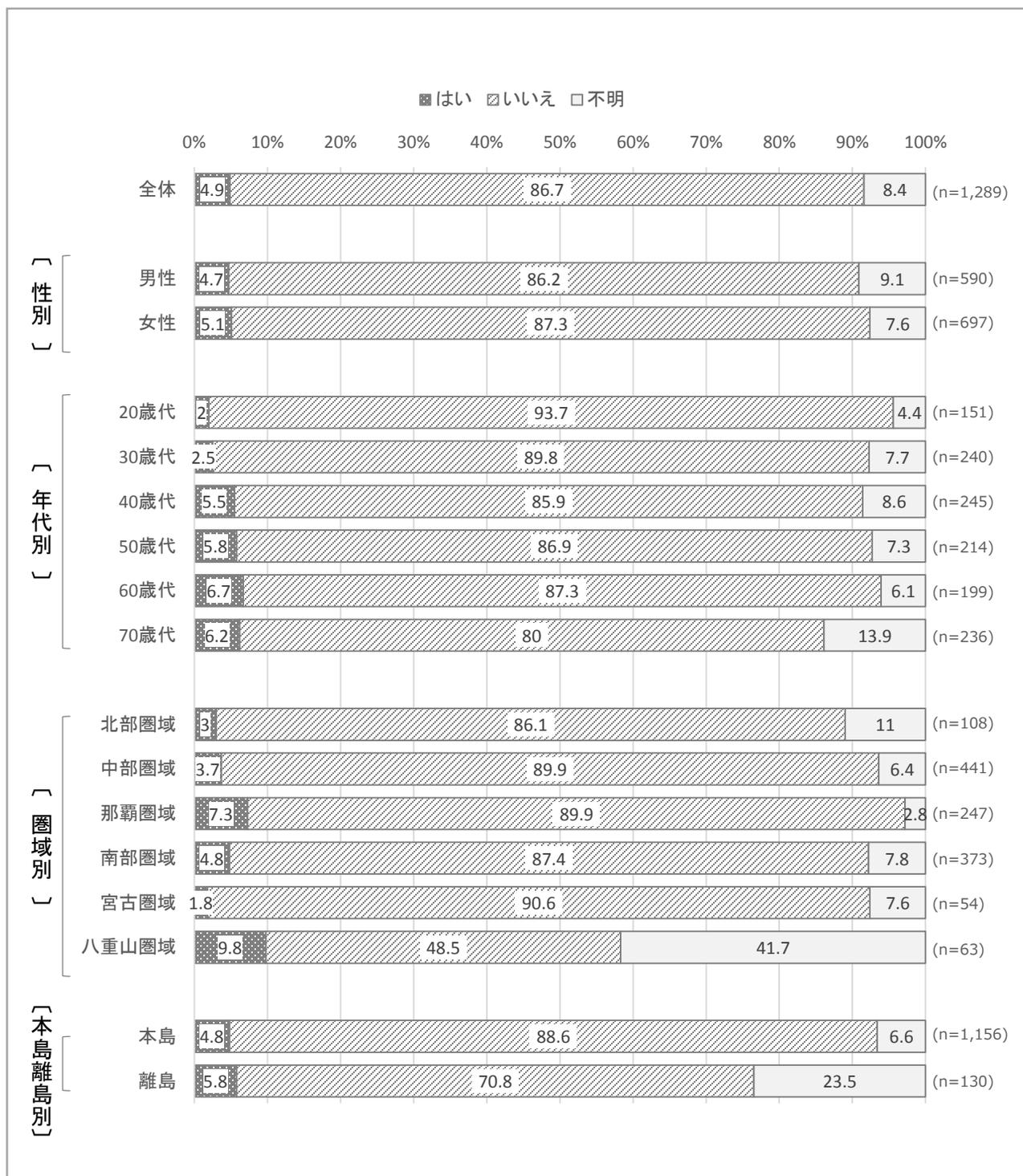
問23 あなたは、総合精神保健福祉センター内で自死遺族支援の一環として「自死遺族の分かち合いの会」が開かれていることをご存知ですか。(○を1つ)

総合精神保健福祉センターにおいて開かれている自死遺族支援策の「自死遺族の分かち合いの会」についての認知を聞いたところ、「はい」4.9%でほとんど知られていないことがわかった。

性別での差はほぼ見られない。

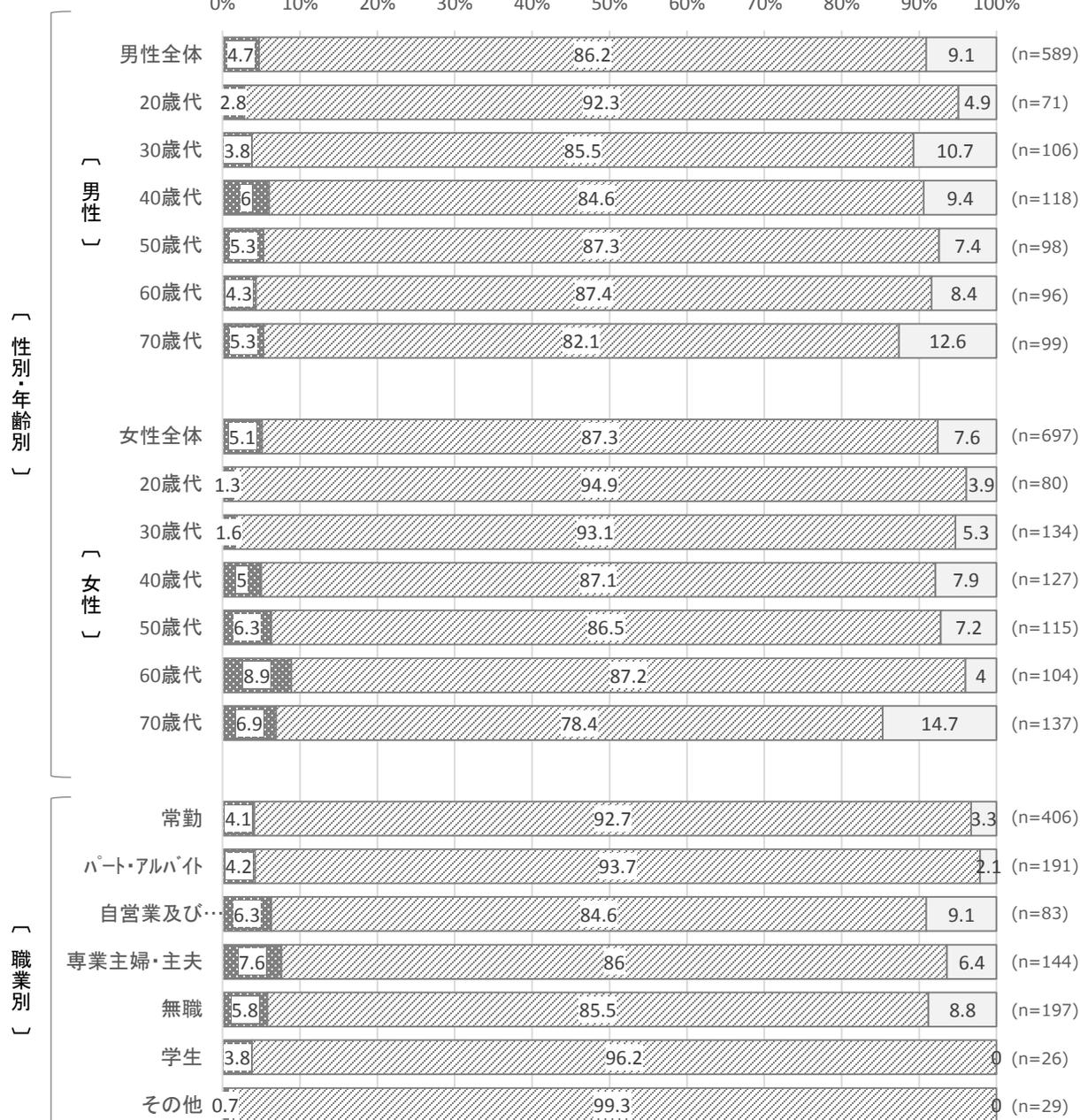
年齢別では年齢が高いほど多くはなるが、最も高い60歳代でも6.7%である。

圏域別では八重山圏域と那覇圏域が高くなっている。



■ はい □ いいえ □ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

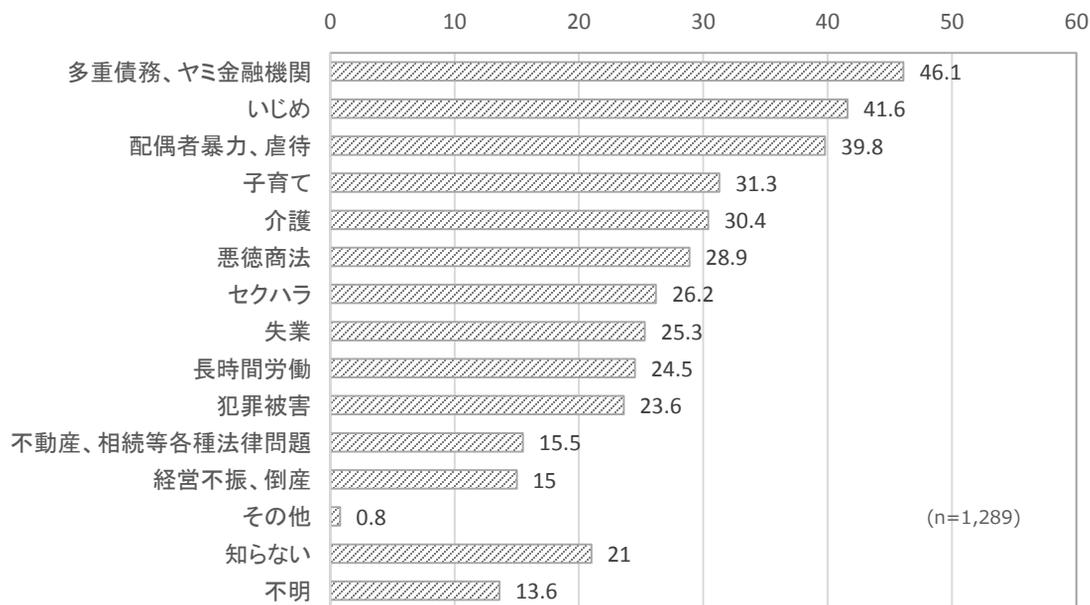


問24 あなたは、精神的に追い込まれるおそれのある社会的要因の中で、それぞれに相談窓口があることをご存知ですか。(〇をいくつでも)

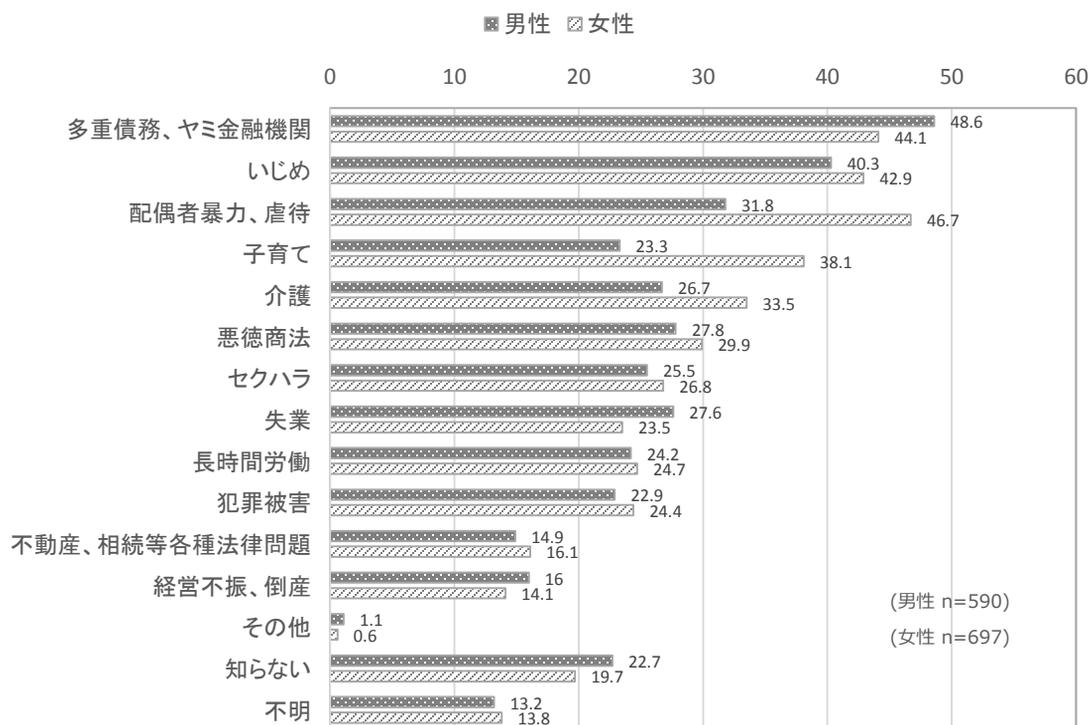
次に悩みやトラブルの内容毎に相談窓口が設置されていること知っているかを尋ねたところ、最も認知されていたのは「多重債務、ヤミ金融機関」で46.1%であった。以下、「いじめ」41.6%、「配偶者暴力、虐待」39.8%、「子育て」31.3%、「介護」30.4%、「悪徳商法」28.9%、「セクハラ」26.2%、「失業」25.3%などが続く。

性別で見ると、男性は「多重債務、ヤミ金融機関」がトップ、女性は「配偶者暴力、虐待」がトップとなっている。

年齢別で見ると、「多重債務、ヤミ金融機関」は50歳代が多く、「いじめ」は20歳代から50歳代、「配偶者暴力、虐待」では40歳代、50歳代、「介護」は年齢が高くなるに従い多くなるなど、年齢毎の特徴が見られる。



〔性別〕

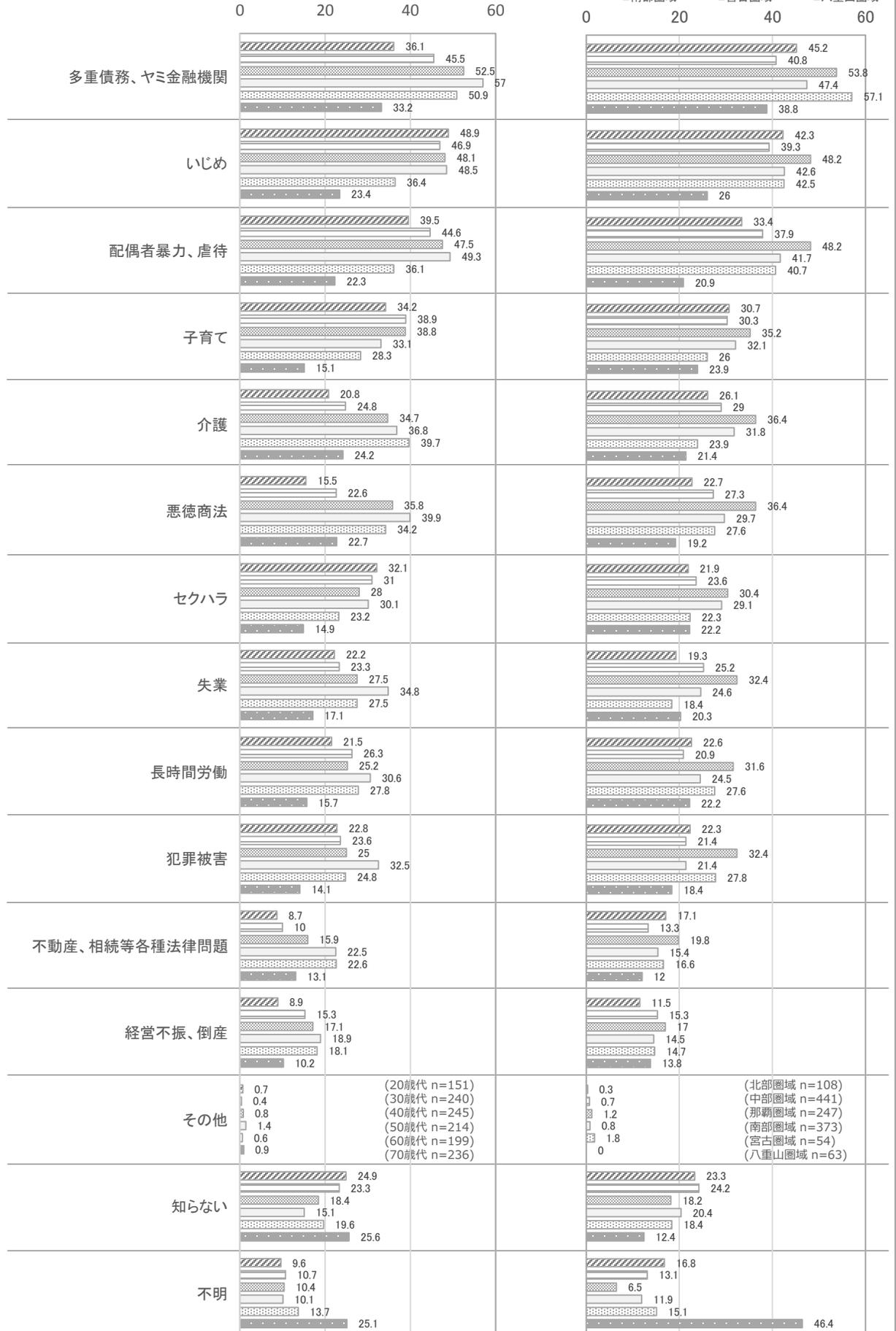


〔年代別〕

20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代

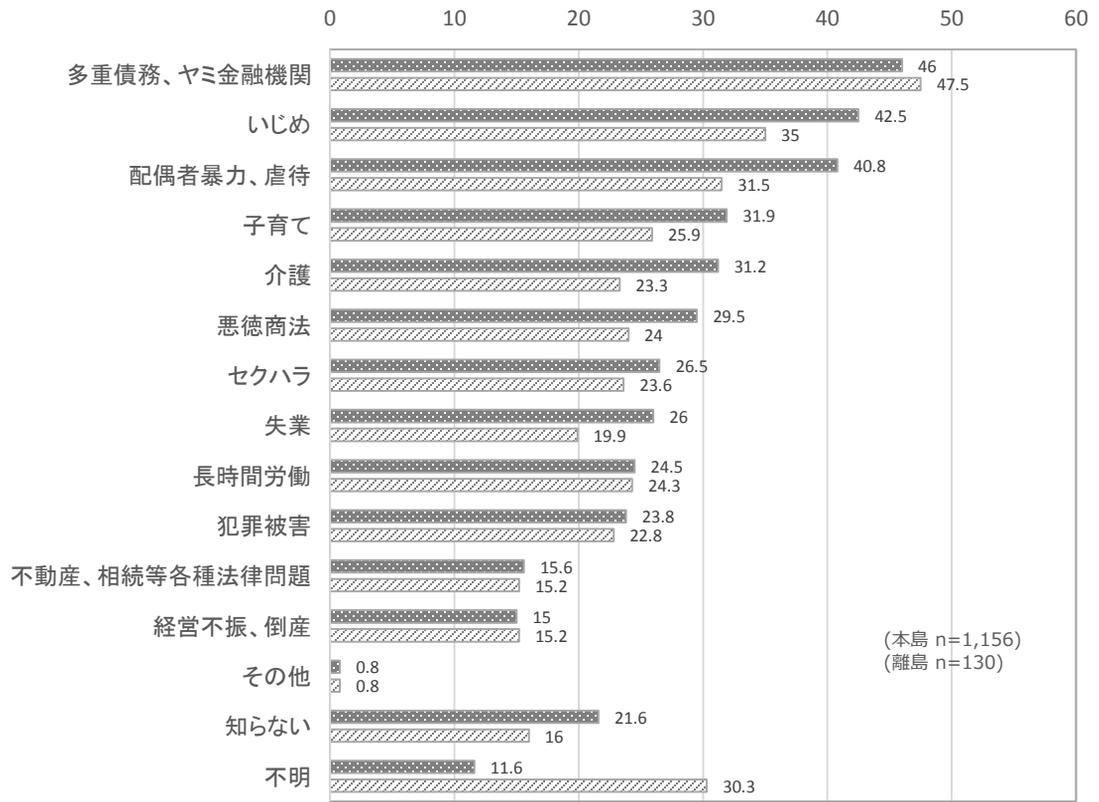
〔圏域別〕

北部圏域 中部圏域 那覇圏域
南部圏域 宮古圏域 八重山圏域



〔本島／離島〕

■ 本島 □ 離島



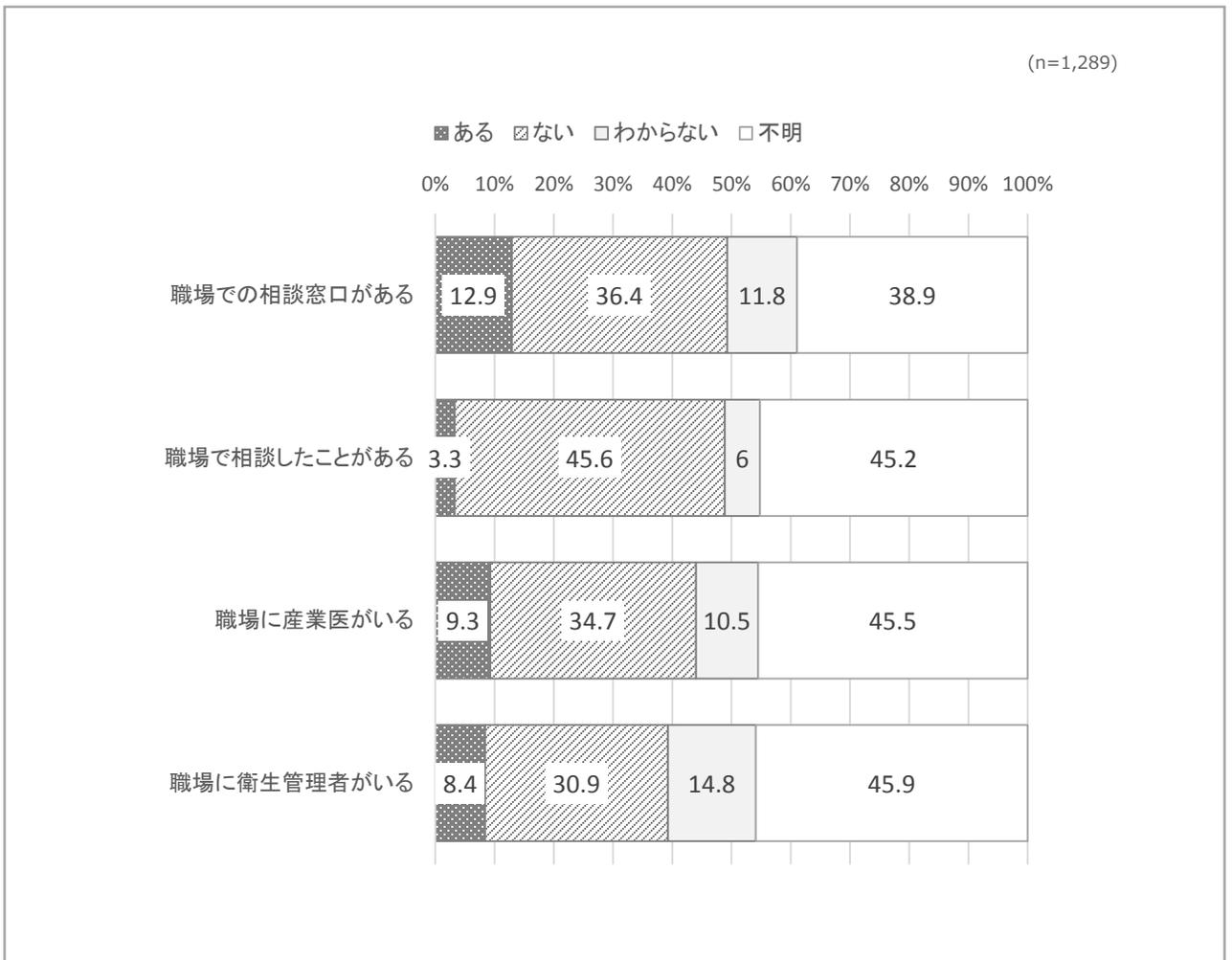
〔性別・年代別／職業別〕

		合計	多重債務、 機関 ヤミ金融	いじめ	配偶者暴力、 虐待	子育て	介護	悪徳商法	セクハラ
男性	全体	590	48.6	40.3	31.8	23.3	26.7	27.8	25.5
	20歳代	71	41.3	48.4	34.4	24.3	15.8	9	28.5
	30歳代	106	45.2	45.1	32.4	23.2	23.4	25.8	25.8
	40歳代	118	56	44	36.8	32.1	33	35.5	29.3
	50歳代	99	58.6	50.1	40.6	24.1	28.3	36.7	31.1
	60歳代	96	51.6	35.6	28.9	24.5	35.6	32	22.4
	70歳代	99	36.5	18.9	17.6	10.6	20.9	22	16.5
女性	全体	697	44.1	42.9	46.7	38.1	33.5	29.9	26.8
	20歳代	80	31.5	49.4	44.1	43	25.3	21.4	35.3
	30歳代	134	45.7	48.3	54.3	51.4	26	20.1	35.3
	40歳代	127	49.2	51.8	57.3	45	36.3	36.2	26.9
	50歳代	115	55.7	47.1	56.6	40.7	44.1	42.6	29.3
	60歳代	104	50.2	37.1	42.8	31.8	43.5	36.3	23.8
	70歳代	137	30.9	26.6	25.7	18.3	26.5	23.3	13.8
職業	勤めている（常勤）	406	52.5	47.4	45.8	35.7	29.5	28.4	33.3
	勤めている（パート・アルバイト）	191	52.5	48.8	54	41.8	32.4	36.5	31.2
	自営業及び家族従事者	83	54.3	42	38.3	29.5	32.1	35.7	22.9
	専業主婦・主夫	144	43.4	47.1	43.5	38	36.5	30.7	22.5
	無職	197	42.9	31.8	31.1	21.3	34.3	30	21.3
	学生	26	38.5	73.3	46.6	34.7	26.7	19.5	35.1
	その他	29	36.6	22.3	32.2	28.8	28.4	18.8	18.2

		失業	長時間労働	犯罪被害	不動産、 法律問題 相続等各種	経営不振、 倒産	その他	知らない	不明
男性	全体	27.6	24.2	22.9	14.9	16	1.1	22.7	13.2
	20歳代	25.7	25.6	24.2	10.1	11.6	1.4	26.9	7.7
	30歳代	22	24.8	21.2	8.8	16.3	-	27.6	14.7
	40歳代	33.5	30.4	24.1	13.8	22.4	0.9	18.7	13
	50歳代	35.6	23.7	31.3	25	20.2	1.1	17.1	10.6
	60歳代	30.4	27.8	22.3	19.2	15	1	16.3	11.5
	70歳代	17.6	12.6	14.7	12.4	8.4	2.1	30.9	20.1
女性	全体	23.5	24.7	24.4	16.1	14.1	0.6	19.7	13.8
	20歳代	19	17.8	21.6	7.5	6.4	-	23.1	11.3
	30歳代	24.3	27.5	25.5	10.9	14.5	0.7	19.8	7.6
	40歳代	22	20.3	25.9	17.8	12.3	0.8	18.2	7.9
	50歳代	34.2	36.5	33.5	20.4	17.9	1.7	13.4	9.6
	60歳代	24.9	27.8	27	25.7	20.9	0.2	22.8	15.7
	70歳代	16.7	17.9	13.7	13.6	11.5	0.1	21.8	28.7
職業	勤めている（常勤）	28	28.9	25.9	14.9	14.4	1	19.7	7.8
	勤めている（パート・アルバイト）	32.1	30.9	27.5	19.1	16.9	0.5	19.5	4.8
	自営業及び家族従事者	24.4	23.2	24.2	17.2	21.8	-	25.2	7.9
	専業主婦・主夫	19.5	21	26.7	14.1	16.2	-	18.4	14.9
	無職	25	23.4	18.8	18	12.6	2.1	24.4	19.1
	学生	38.5	22.9	53.8	19.1	15.3	-	15.3	-
	その他	21.6	21.6	12	11.3	11.3	3.8	31.5	4.1

問25あなたの職場で、あなたの悩みやストレスを相談する窓口がありますか(○を1つ)

職場における悩みの相談窓口の設置環境などを聞いたところ、「職場での相談窓口がある」と回答したのは12.9%、「職場で相談したことがある」は3.3%、「職場に産業医がいる」は9.3%、「職場に衛生管理者がいる」は8.4%であった。



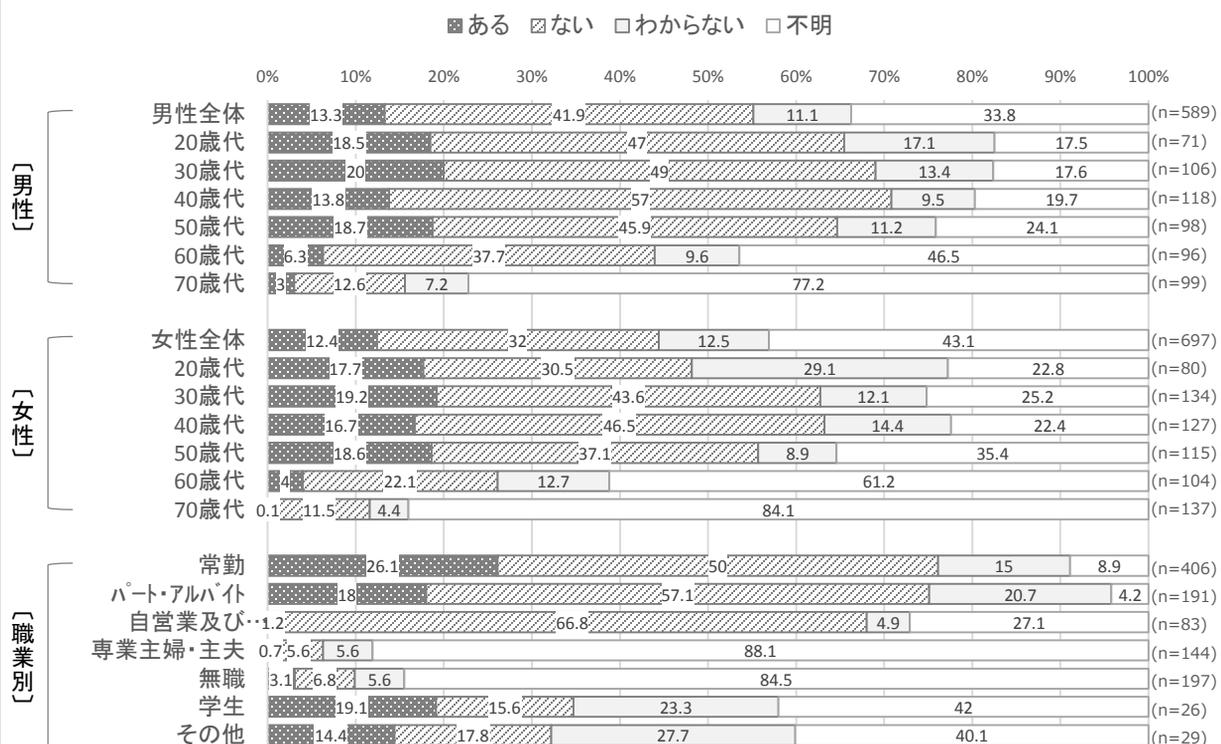
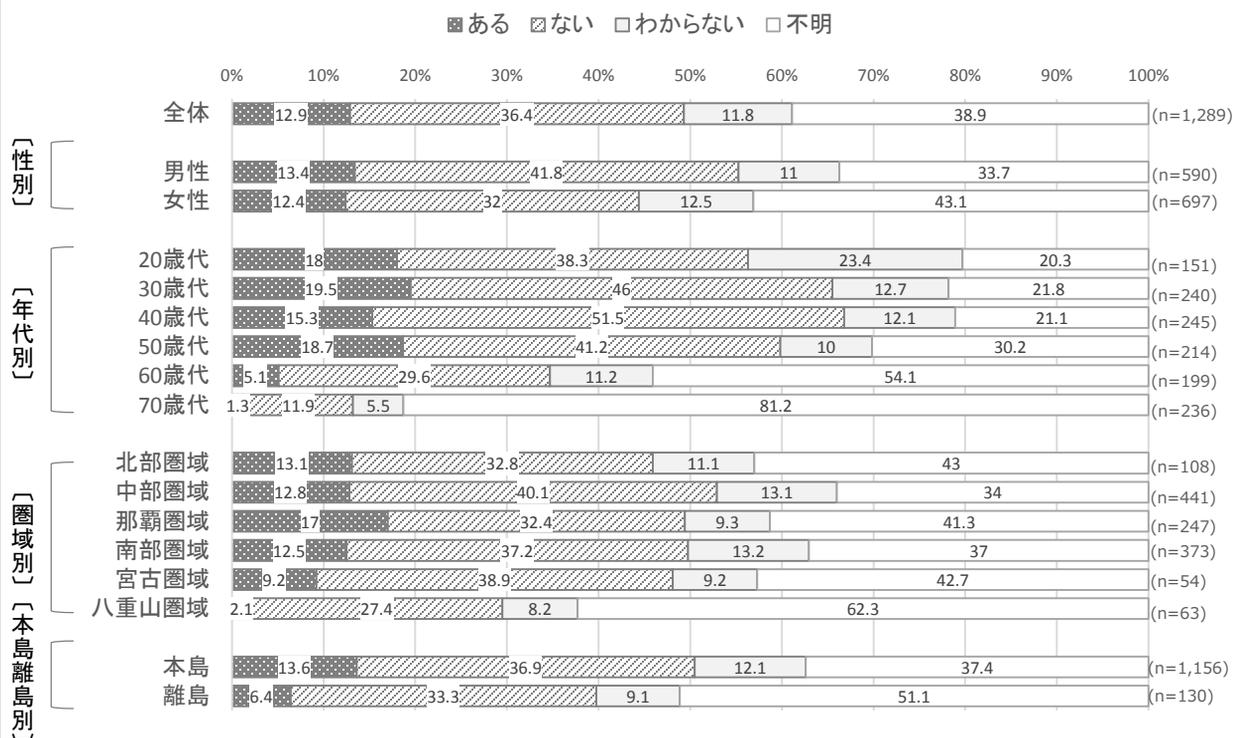
「職場での相談窓口がある」は12.9%。

性別では「ある」との回答は同じ程度だが、「わからない」「不明」は女性が多い。

年齢別で見ると、20歳代から50歳代は似たように結果となっている。

圏域別では那覇圏域で「ある」が多い。

〈職場での相談窓口がある〉

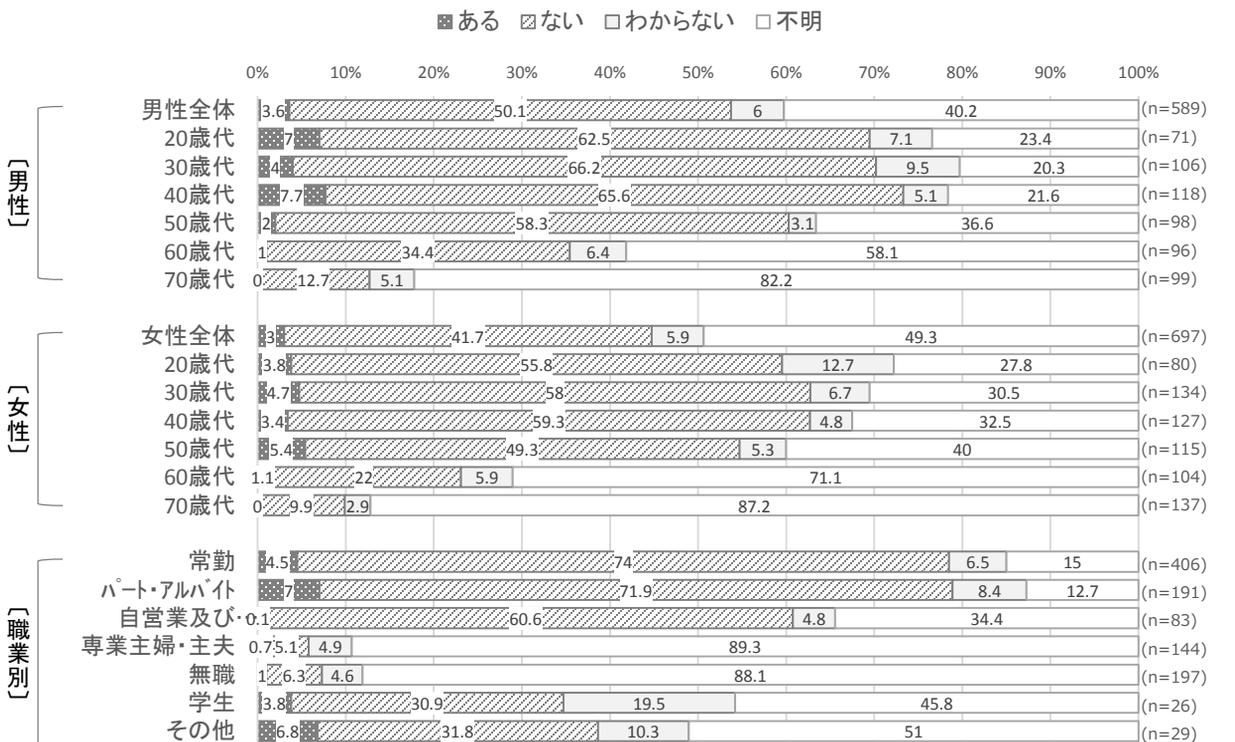
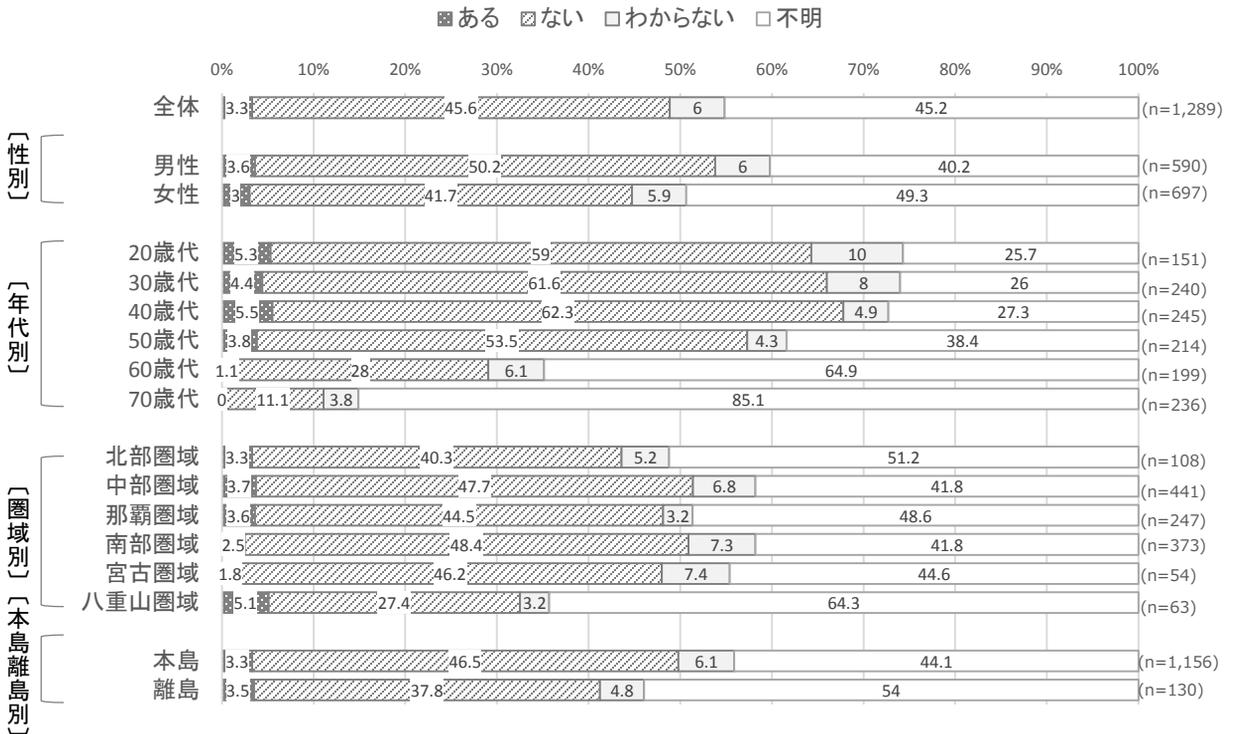


職場での相談経験は3.3%と職場で相談する者はかなり少ない。

男性で3.6%、女性で3.0%とほぼ同率

年代別では20歳代が5.3%、40歳代が5.5%とやや多くなっている。

〈職場で相談したことがある〉



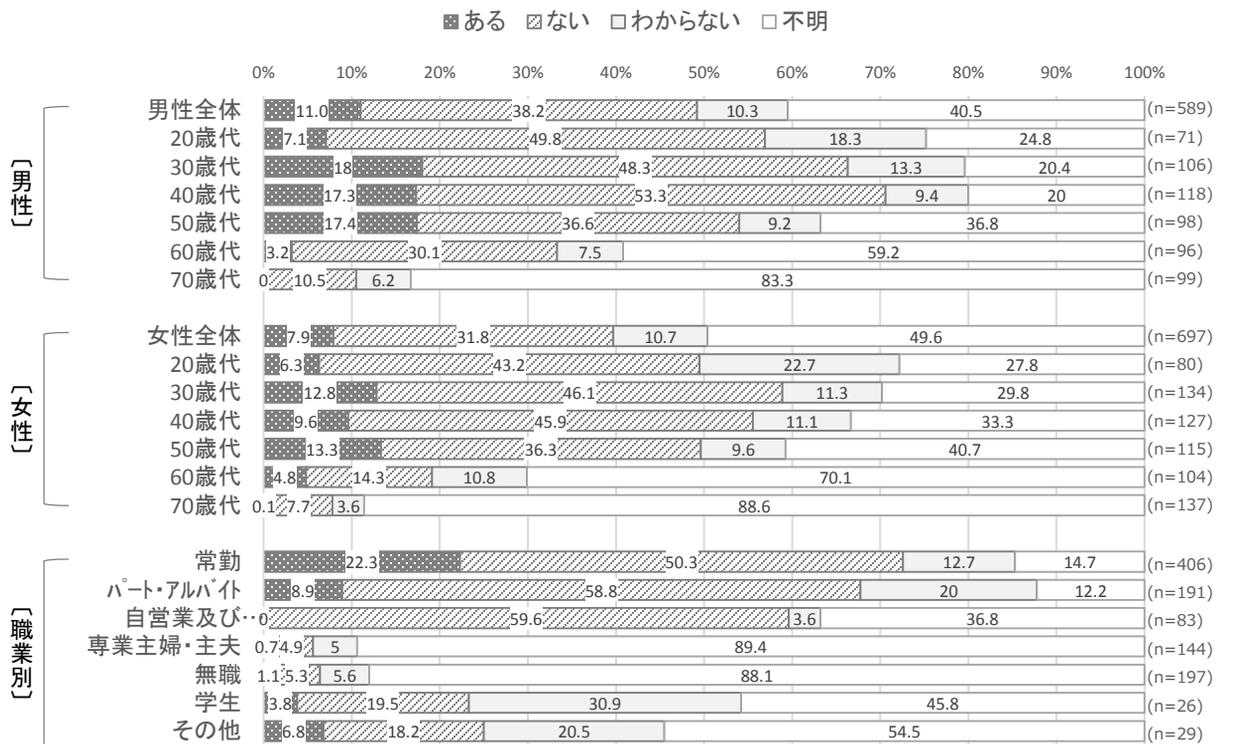
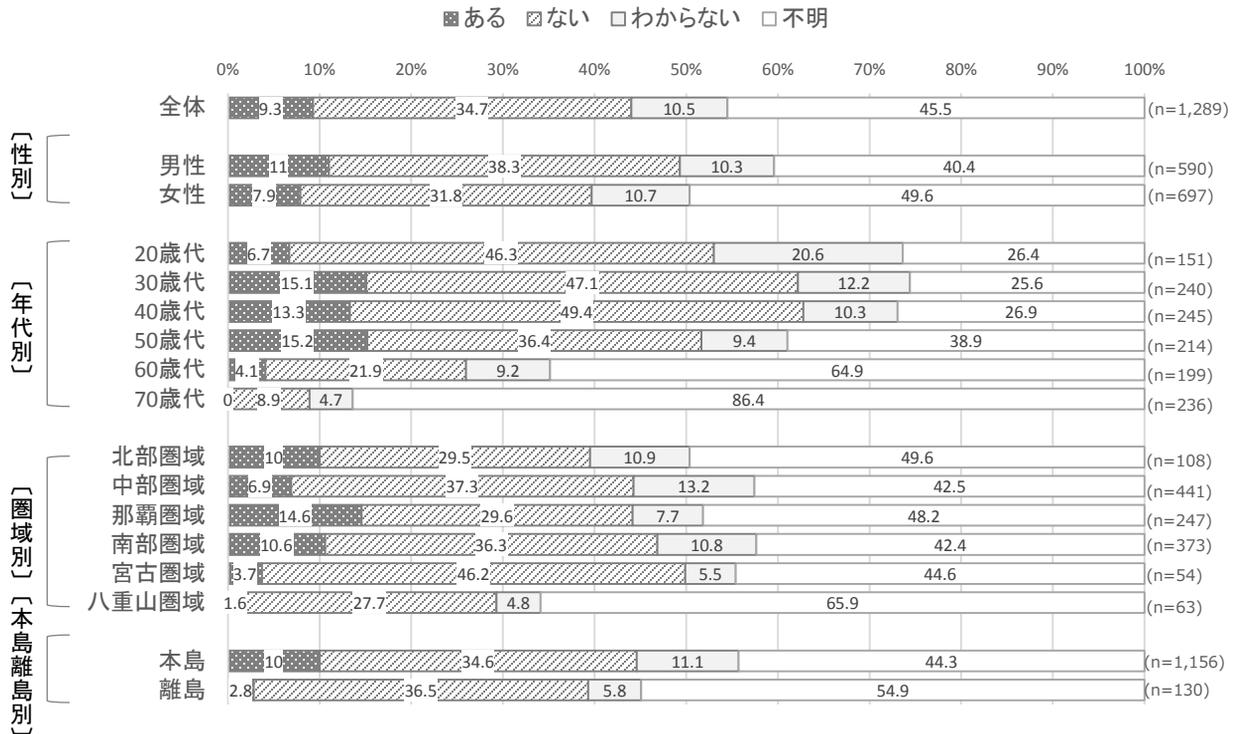
職場に産業医がいると回答したのは9.3%。

男性では11%、女性では7.9%。

年齢別では30歳代から50歳代で15%前後と高めになっている。

圏域別では那覇圏域が最も高く14.6%、次いで南部圏域10.6%、北部圏域10.0%。宮古圏域、八重山圏域は少ない。

〈職場に産業医がいる〉



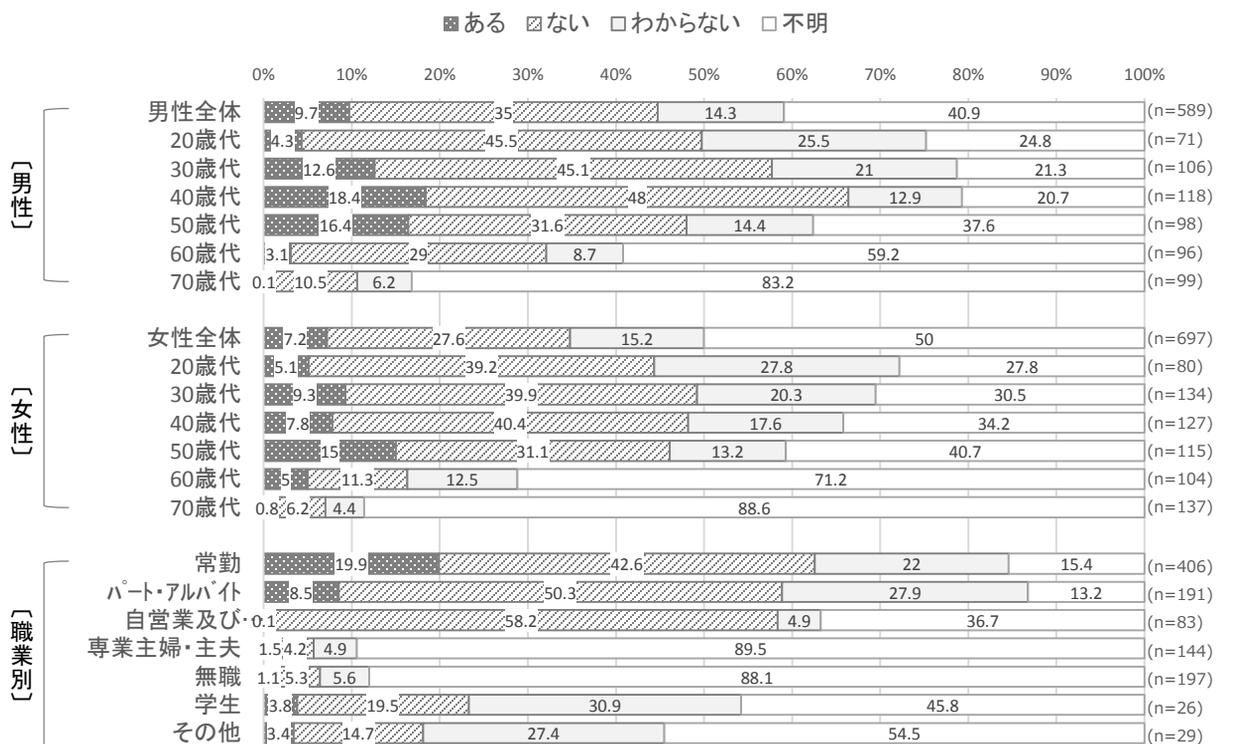
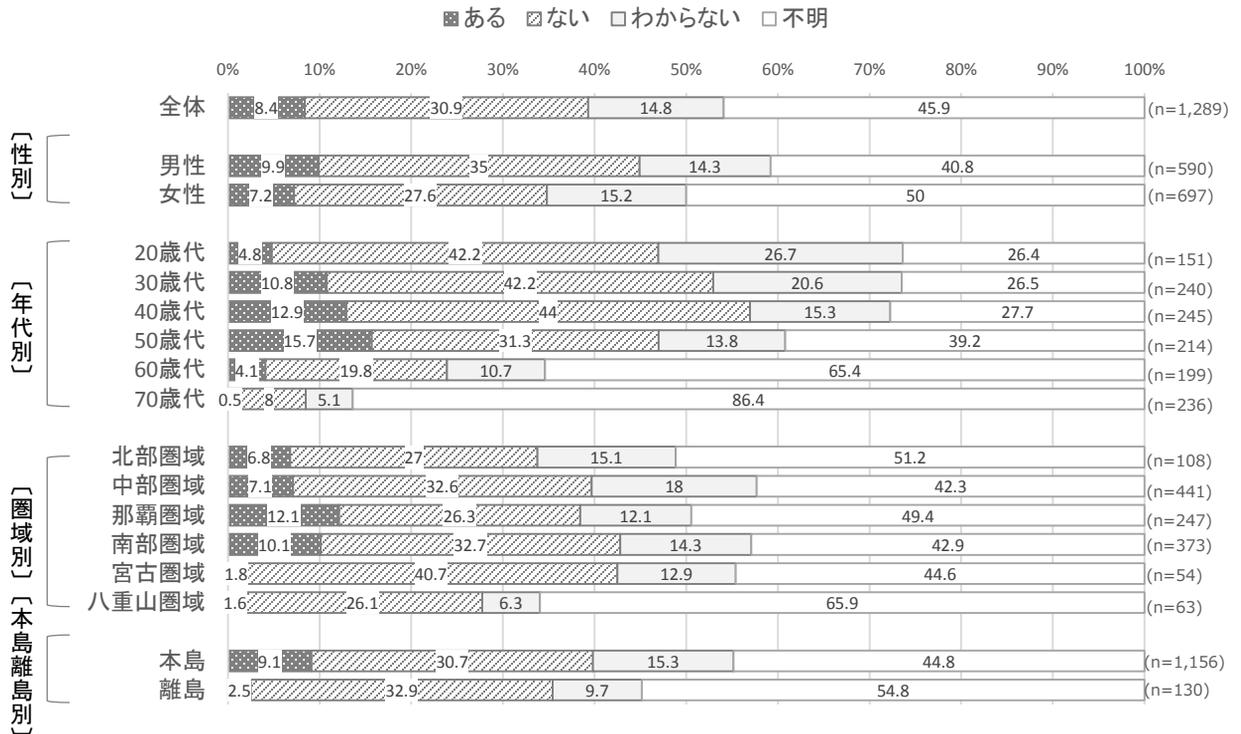
職場に衛生管理者がいると回答したのは8.4%。

男性では9.9%、女性は7.2%が「ある」と回答。

年代別では、50歳代でピークとなる、若年層は「わからない」が多く認知不足となっている。

圏域別では那覇圏域が最も「ある」が多い。

〈職場に衛生管理者がいる〉



問26-1 あなたは、かかりつけ医がありますか。またかかりつけ医にあなたの悩みや、ストレスを相談しますか。それぞれの項目について、該当するものを○で囲んで下さい

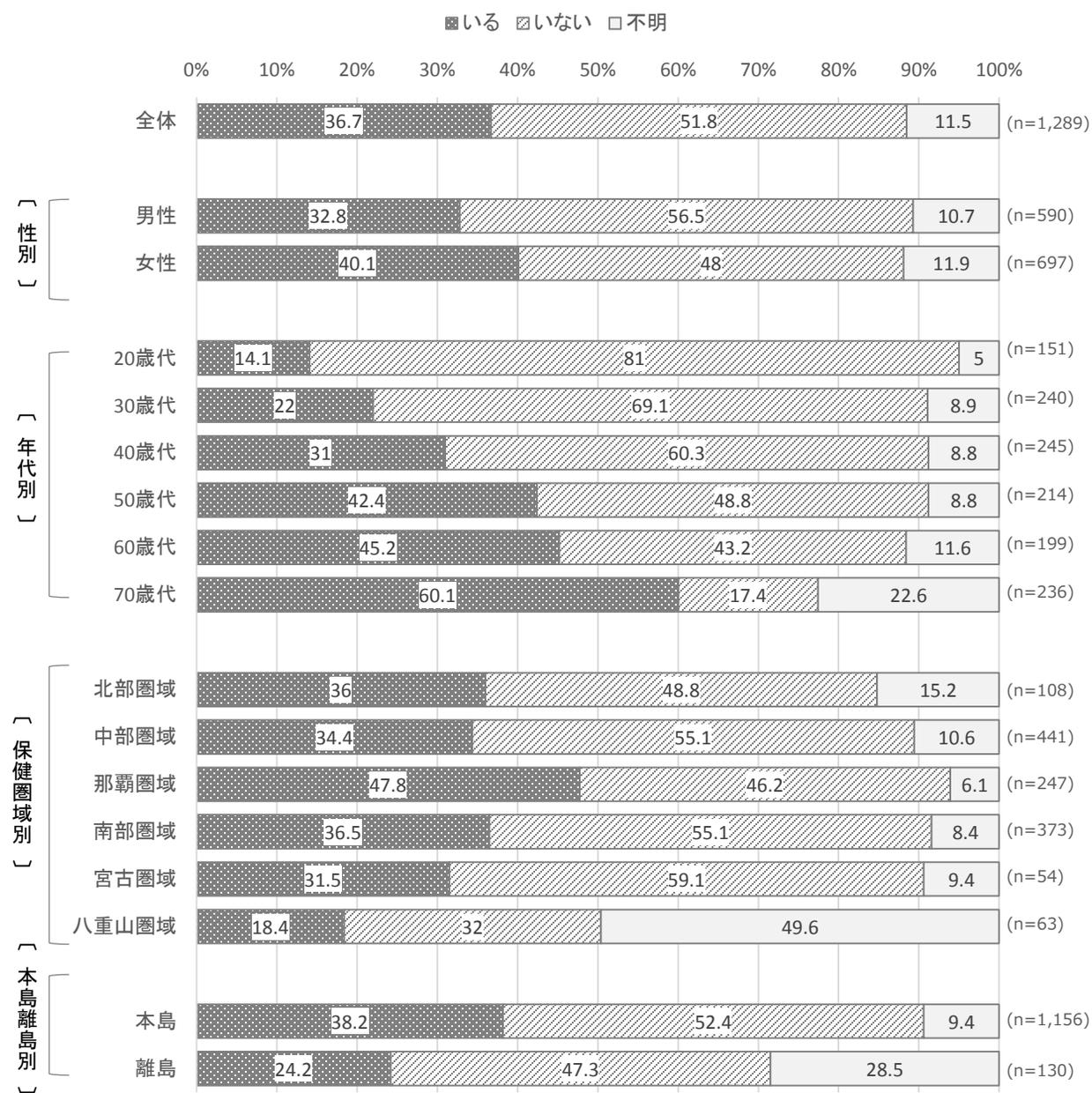
自分のかかりつけ医が「いる」と回答したのは36.7%で3人に1人である。

性別では男性で32.8%、女性で40.1%と女性で多くなっている。

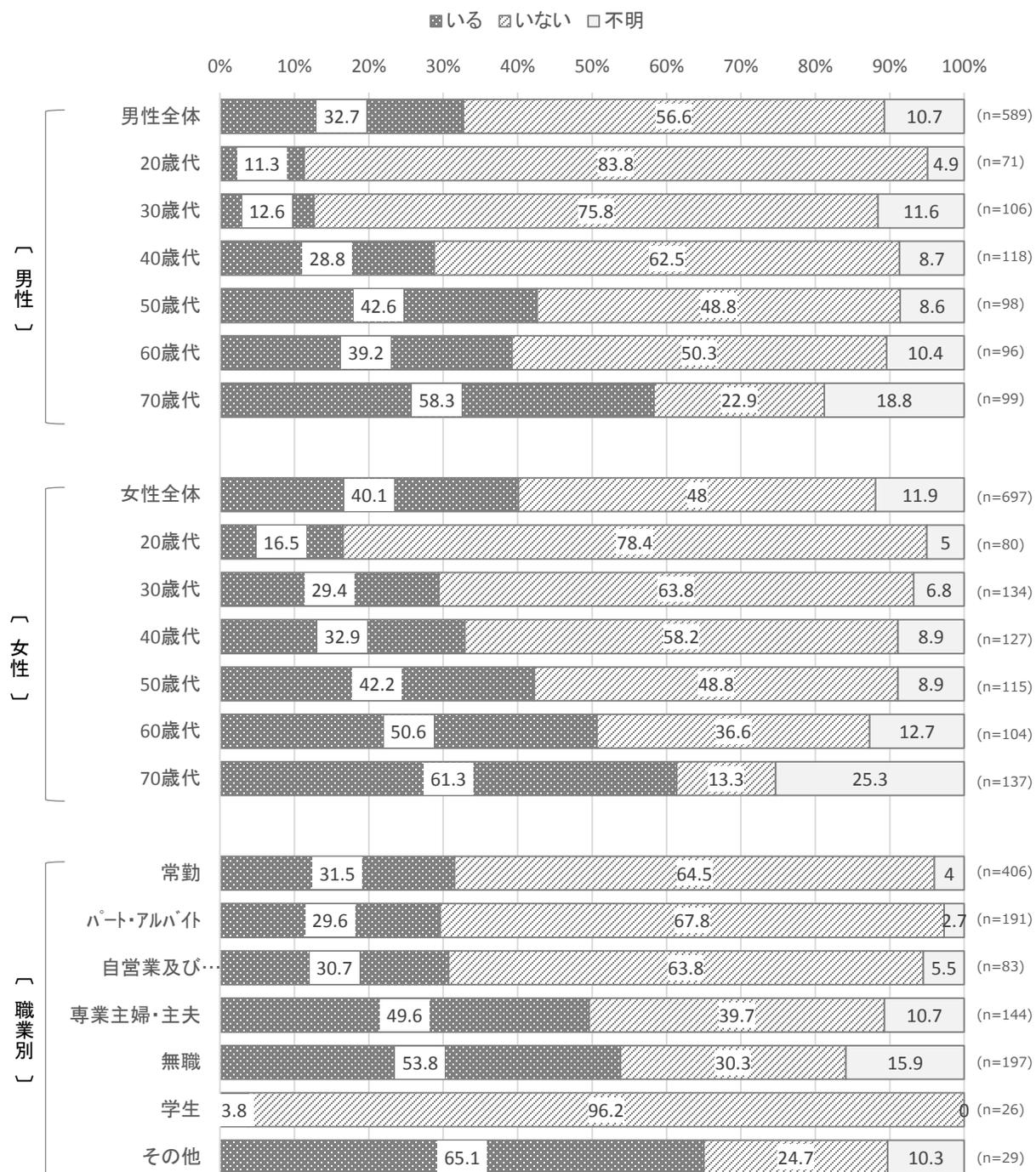
年齢別で見ると、20歳代の14.1%から70歳代の60.1%まで、年代が高くなるほどかかりつけ医が「いる」との回答が増える。

圏域別では那覇圏域が47.8%と半数がかかりつけ医がおり、以下南部圏域が36.5%、北部圏域36.0%、中部圏域34.4%、宮古圏域31.5%、八重山圏域18.4%となる。

〈かかりつけ医がいる〉



〈かかりつけ医がいる〉



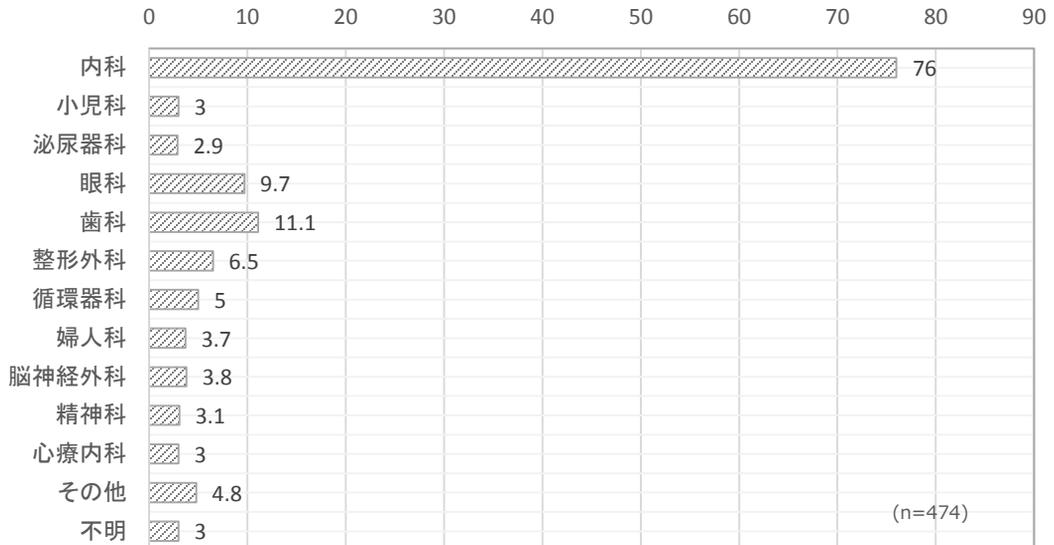
問26-2 あなたは、かかりつけ医がありますか。またかかりつけ医にあなたの悩みや、ストレスを相談しますか。それぞれの項目について、該当するものを○で囲んで下さい

かかりつけ医がいる方の資料科目は「内科」に集中しており76.0%となっている。

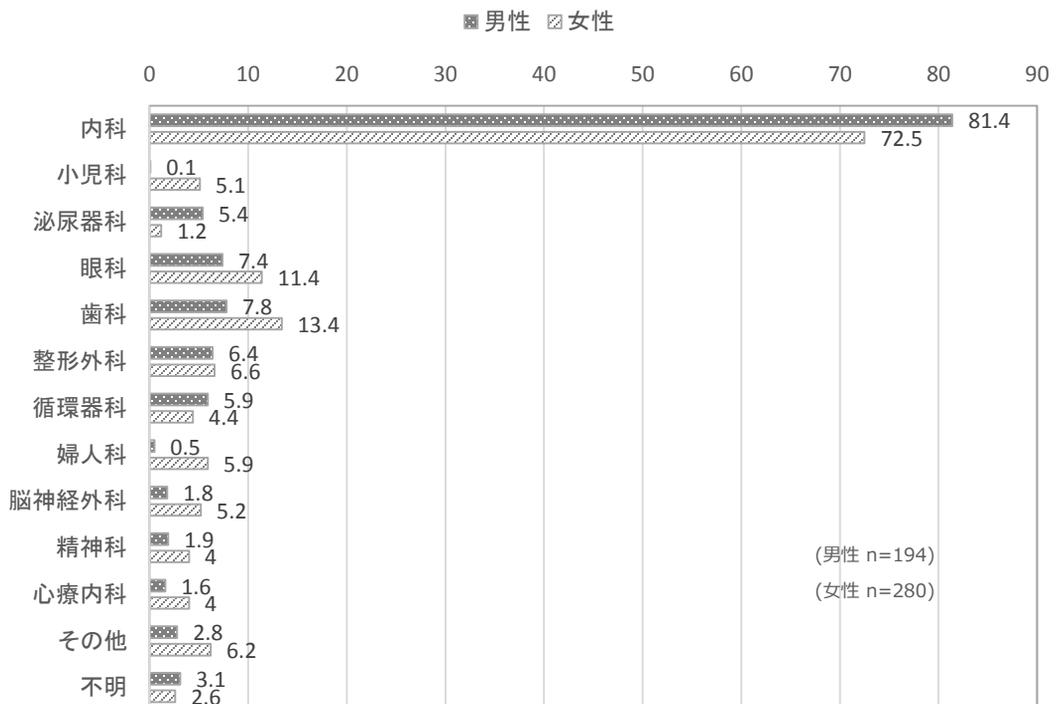
男女とも「内科」が最多である。

年代別ではどの年代も「内科」が最も多く、年齢が高いほど多くなっている。

〈かかりつけ医の診療科〉



〔性別〕



〔年代別〕

〔圏域別〕

〔本島／離島〕

■ 20歳代 □ 30歳代 ▨ 40歳代 □ 50歳代 ▨ 60歳代 ■ 70歳代

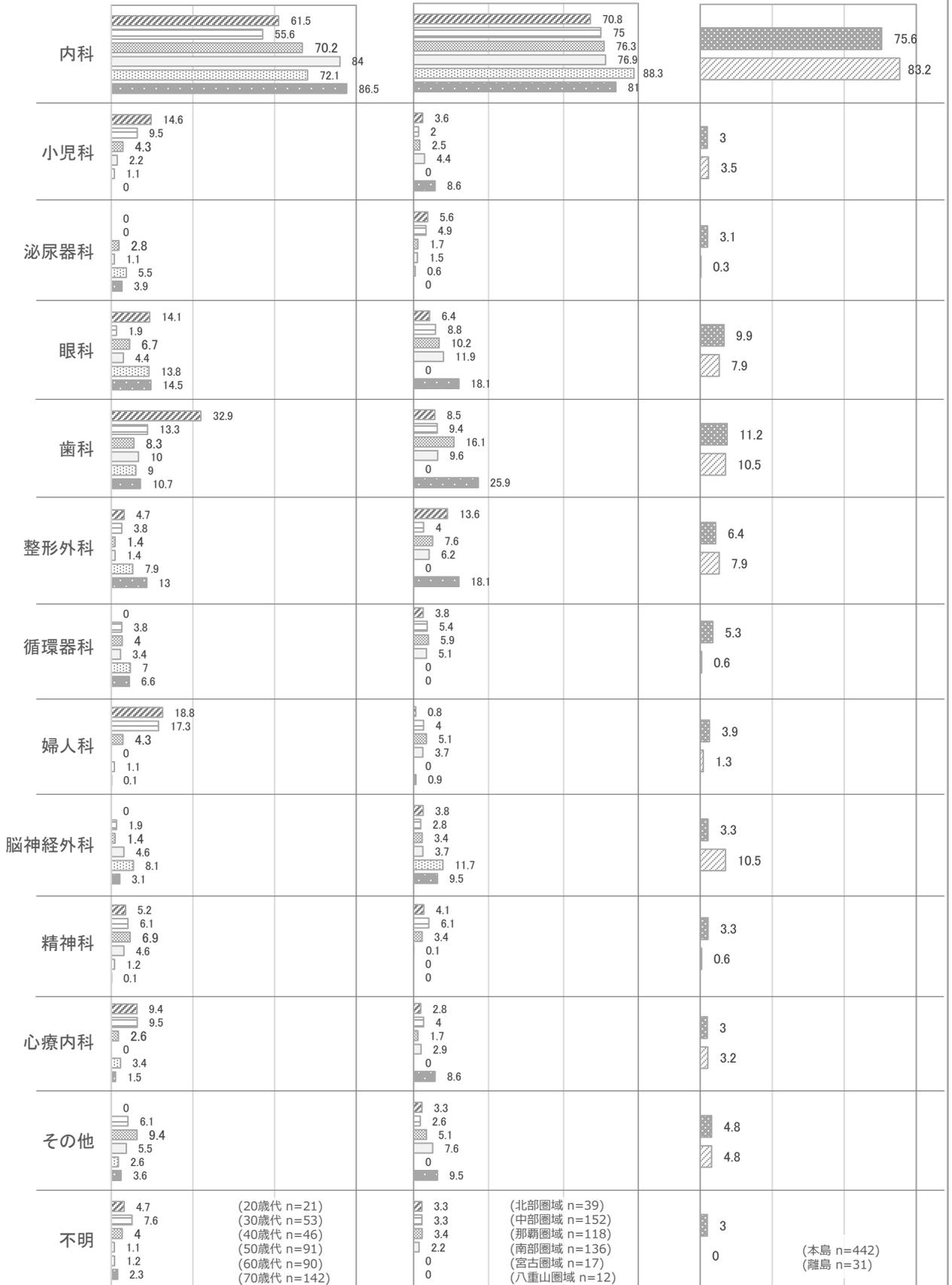
▨ 北部圏域 □ 中部圏域 ▨ 那覇圏域
□ 南部圏域 □ 宮古圏域 ■ 八重山圏域

■ 本島 □ 離島

0 30 60 90

0 30 60 90

0 30 60 90



〔性別・年代別／職業別〕

		合計	内科	歯科	眼科	整形外科	循環器科	脳神経外科	婦人科
男性	全体	194	81.4	7.8	7.4	6.4	5.9	1.8	0.5
	20歳代	8	37	13.6	13.6	-	-	-	-
	30歳代	13	68.7	14.9	-	7.5	7.5	-	7.5
	40歳代	34	75.2	2.9	5.9	2.9	2.9	3.2	-
	50歳代	42	87.1	5	-	3.1	2.6	5.2	-
	60歳代	38	80.3	2.7	5.9	8	10.6	0.3	-
	70歳代	58	90.5	15.8	15.8	10.4	7.5	0.2	-
女性	全体	280	72.5	13.4	11.4	6.6	4.4	5.2	5.9
	20歳代	13	76.5	45.5	15.2	7.6	-	-	30.3
	30歳代	39	51.1	15.3	2.5	2.5	2.5	2.5	23.2
	40歳代	42	66.2	12.6	7.4	0.2	4.8	-	7.9
	50歳代	49	81.3	14.6	8.2	-	4.1	4.1	-
	60歳代	53	66.3	15.4	19.4	7.8	6.3	13.7	1.9
	70歳代	84	83.7	9.6	18.5	19.5	7.1	5.1	0.2
職業	勤めている（常勤）	128	75.2	12.1	7.1	3.3	5.6	3.3	9.6
	勤めている（パート・アルバイト）	56	69.6	19.6	8.8	1.8	5.3	-	5.3
	自営業及び家族従事者	25	82.4	7.8	20.4	4.3	0.4	0.4	0.4
	専業主婦・主夫	72	80.3	11.2	9.8	4.2	4.2	4.2	2.8
	無職	106	77.4	5.8	9.7	10.5	5.9	4.9	-
	学生	1	100	-	-	-	-	-	-
	その他	19	58.9	10.5	11.6	11.1	5.8	6.3	-

		小児科	精神科	心療内科	泌尿器科	その他	不明
男性	全体	5.1	4	4	1.2	6.2	2.6
	20歳代	-	13.6	24.7	1.2	-	12.3
	30歳代	-	8.2	-	-	0.7	14.9
	40歳代	0.3	0.3	2.9	3.2	9.1	-
	50歳代	-	5	-	2.4	2.4	2.4
	60歳代	-	0.3	0.3	8	0.5	2.7
	70歳代	-	0.2	-	9.2	1.7	1.7
女性	全体	6.3	5.2	4.1	4	6.2	2.6
	20歳代	23.5	-	-	-	-	-
	30歳代	15.3	7.9	12.7	-	7.9	5.1
	40歳代	7.6	12.1	2.4	2.4	9.5	7.1
	50歳代	4.1	4.5	-	-	8.2	-
	60歳代	1.9	1.9	5.7	5.7	4	0.2
	70歳代	-	-	2.5	0.4	4.9	2.6
職業	勤めている（常勤）	1.8	2.4	1.6	0.9	3.2	2.4
	勤めている（パート・アルバイト）	7.1	8.8	7.1	1.8	5.5	-
	自営業及び家族従事者	3.9	-	-	-	8.6	3.9
	専業主婦・主夫	8.4	1.4	1.4	1.4	8.5	4.2
	無職	-	4.9	3.9	5.9	2	4
	学生	-	-	-	-	-	-
	その他	5.3	1.6	5.8	5.8	5.8	5.3

問26-3 かかりつけ医に相談しますか。

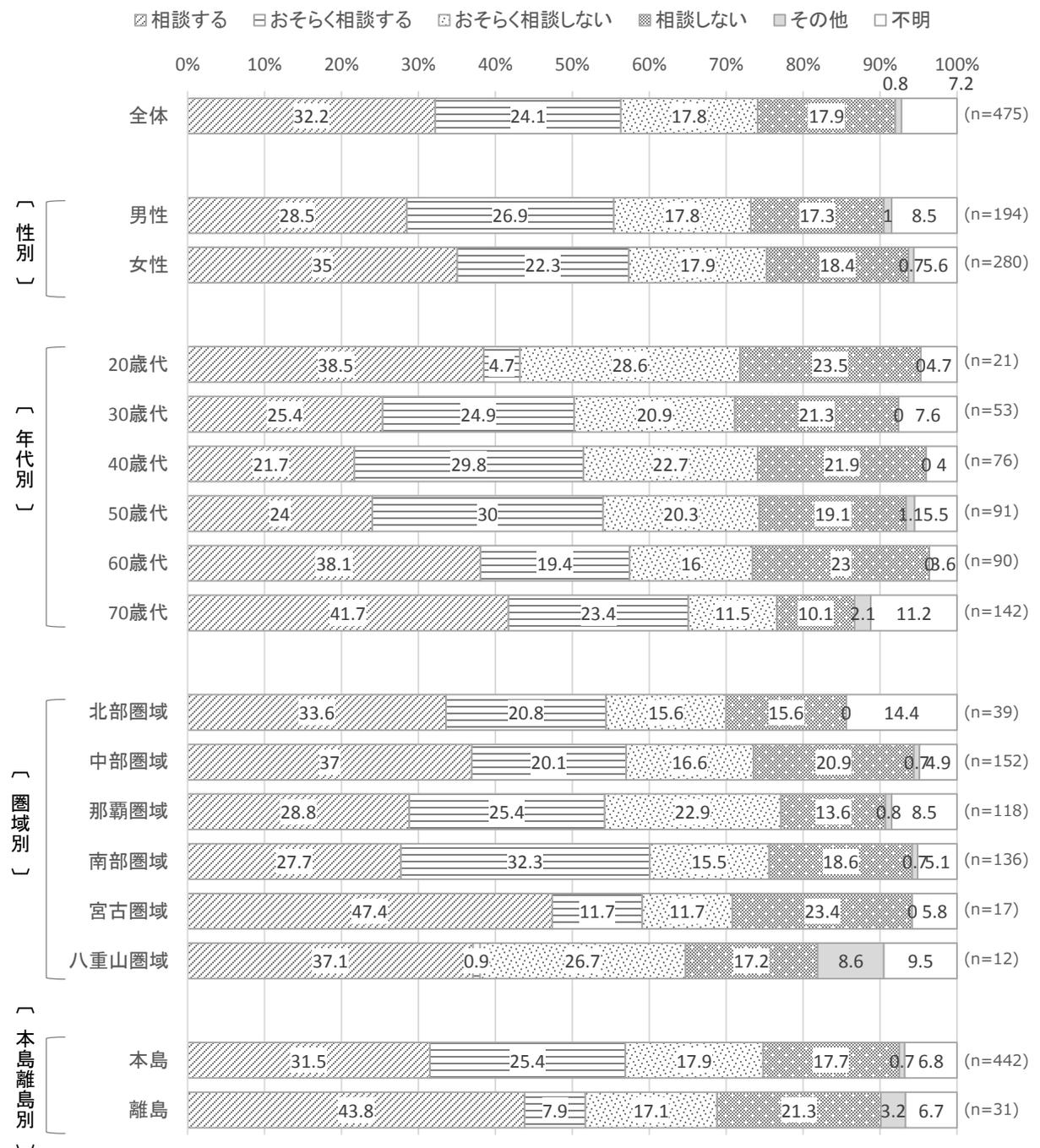
かかりつけ医に悩みやストレスを相談するか尋ねたところ、「相談する」は32.3%、「おそらく相談する」が24.1%で合わせて56.3%が『相談する』と回答している。

性別では『相談する』は男性55.4%、女性は57.3%でやや女性が多い。

年齢別で見ると、『相談する』は年齢が上がるにつれて高くなり、70歳代では65.1%となる。

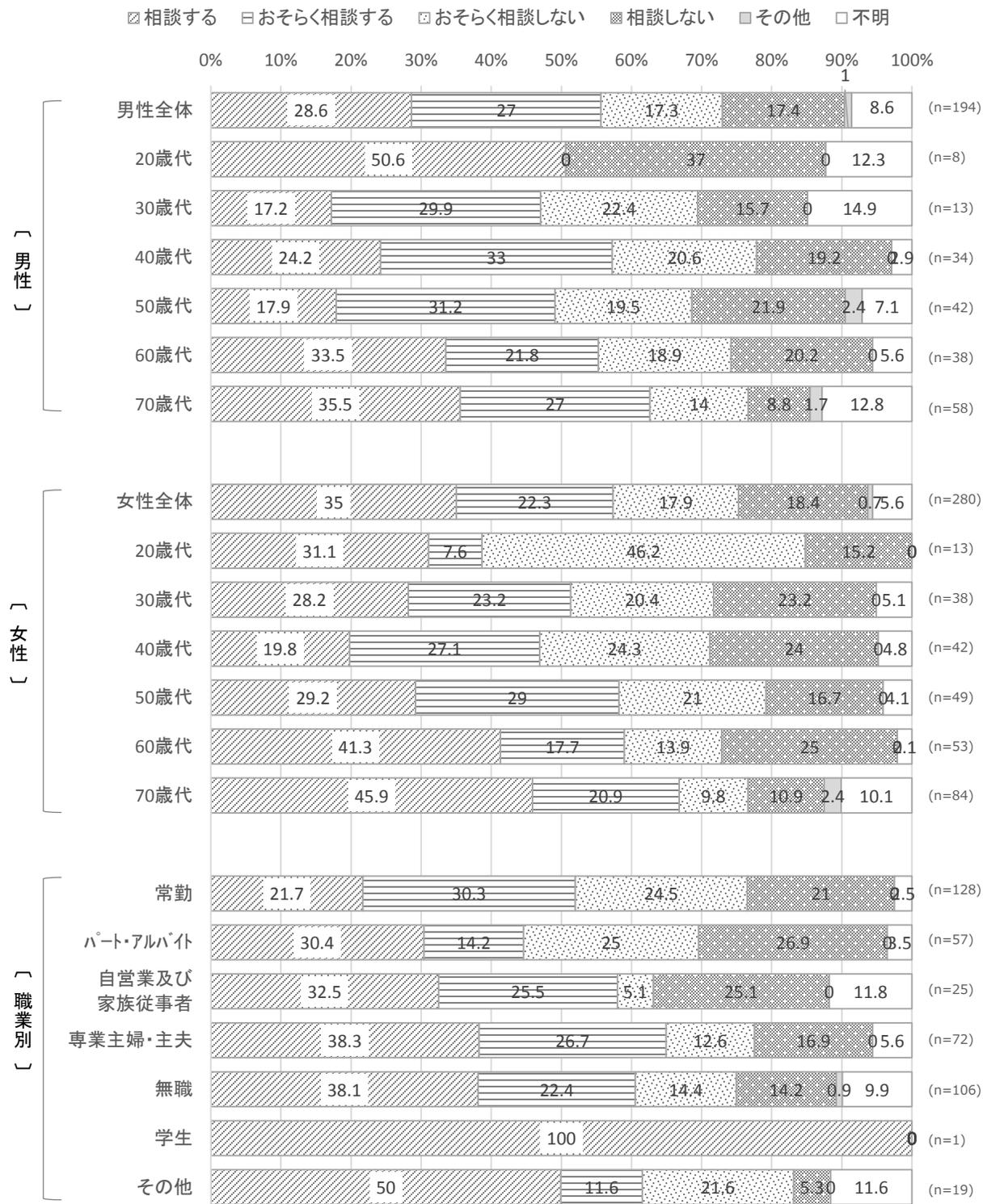
圏域別ではほとんどの地区で5割台だが、八重山圏域だけが4割弱と低めになった。

〈かかりつけ医に相談する〉



性・年齢で見ると70歳代の男女が6割を超えて『相談する』と回答。

〈かかりつけ医に相談する〉



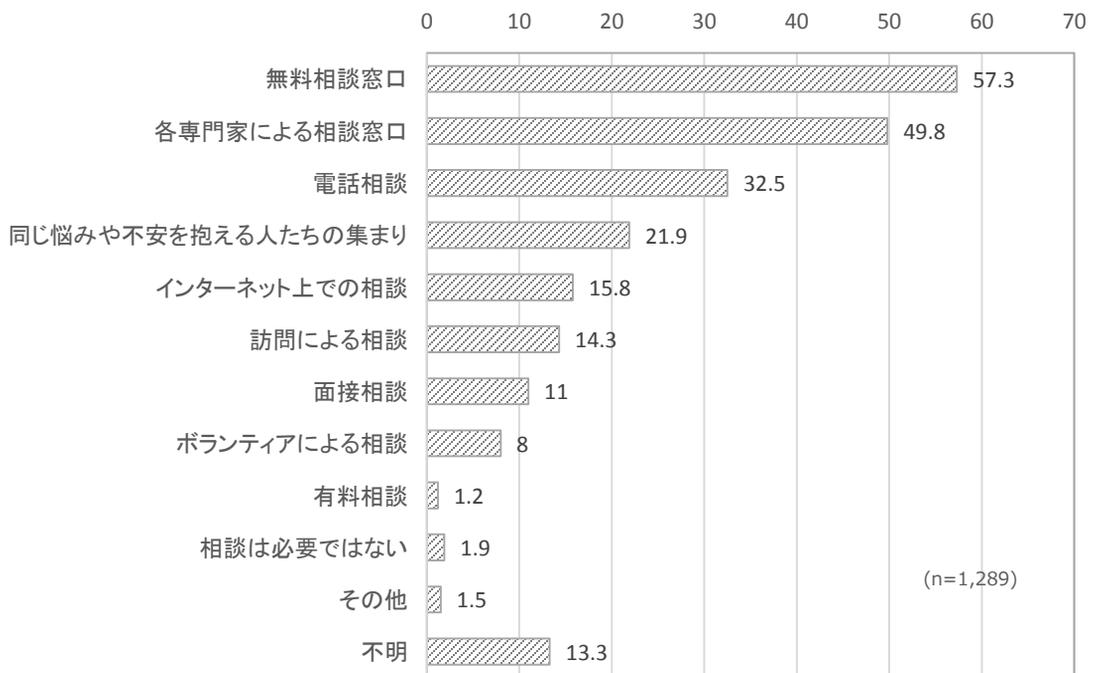
問27 あなたは、どのような相談窓口があればよいと思いますか。(〇をいくつでも)

どのような相談窓口があればいいか尋ねたところ、「無料相談窓口」が57.3%で最も多く、次いで「各専門家による相談窓口」49.8%、「電話相談」32.5%、「同じ悩みや不安を抱える人たちの集まり」21.9%、「インターネット上での相談」15.8%、「訪問による相談」14.3%と続く。

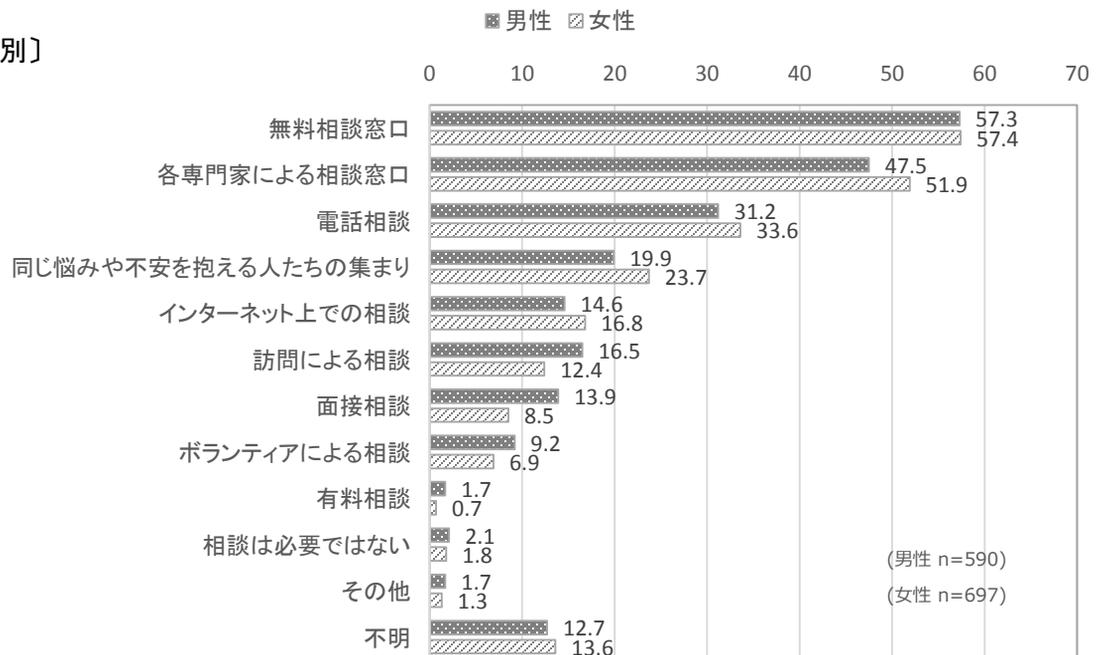
性別では差は見られない。

年代別では若いほど「無料相談窓口」や「インターネット上での相談」が多くなっている。

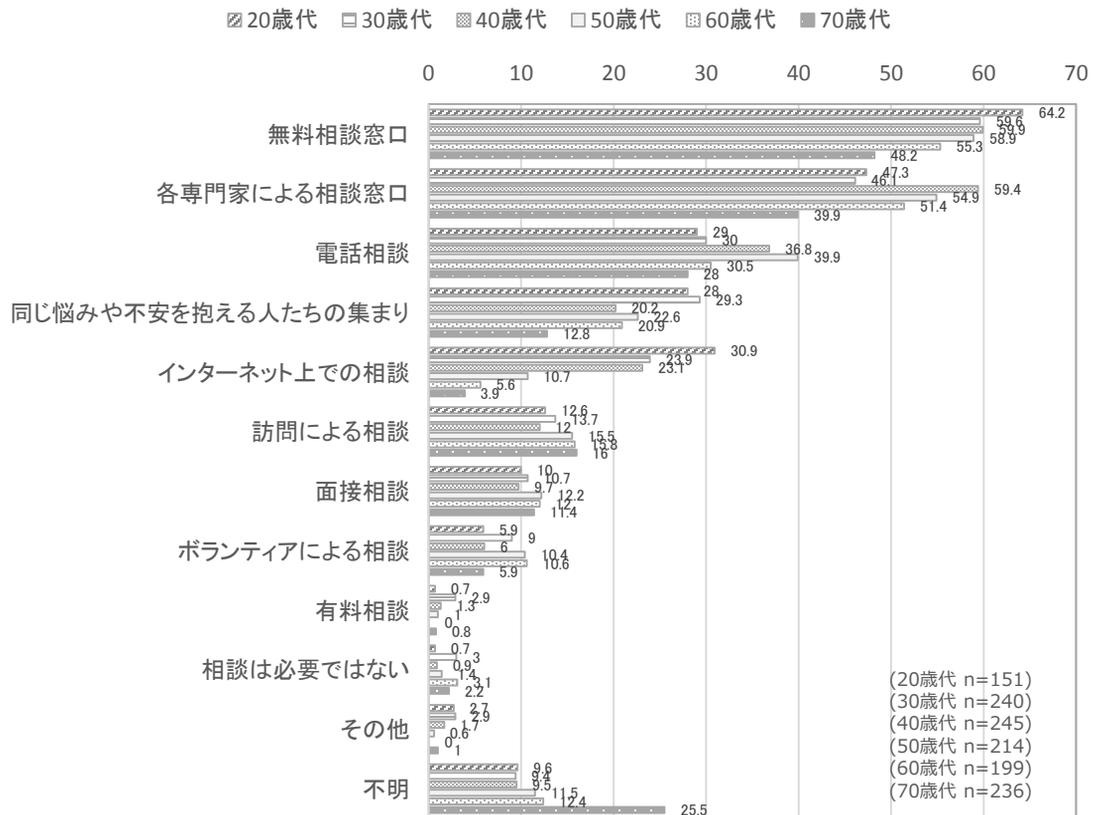
自殺を考えたことがある方は「無料相談窓口」「同じ悩みや不安を抱える人たちの集まり」がそれ以外の方より多くなっている。



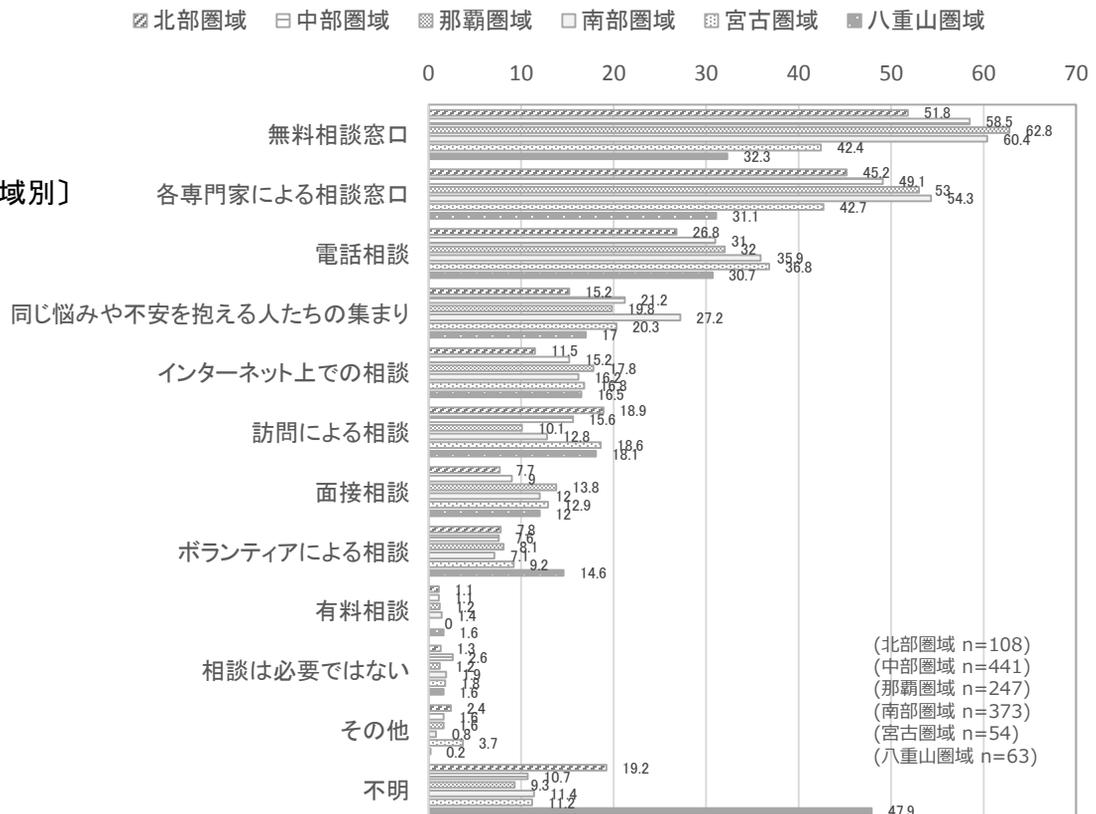
〔性別〕



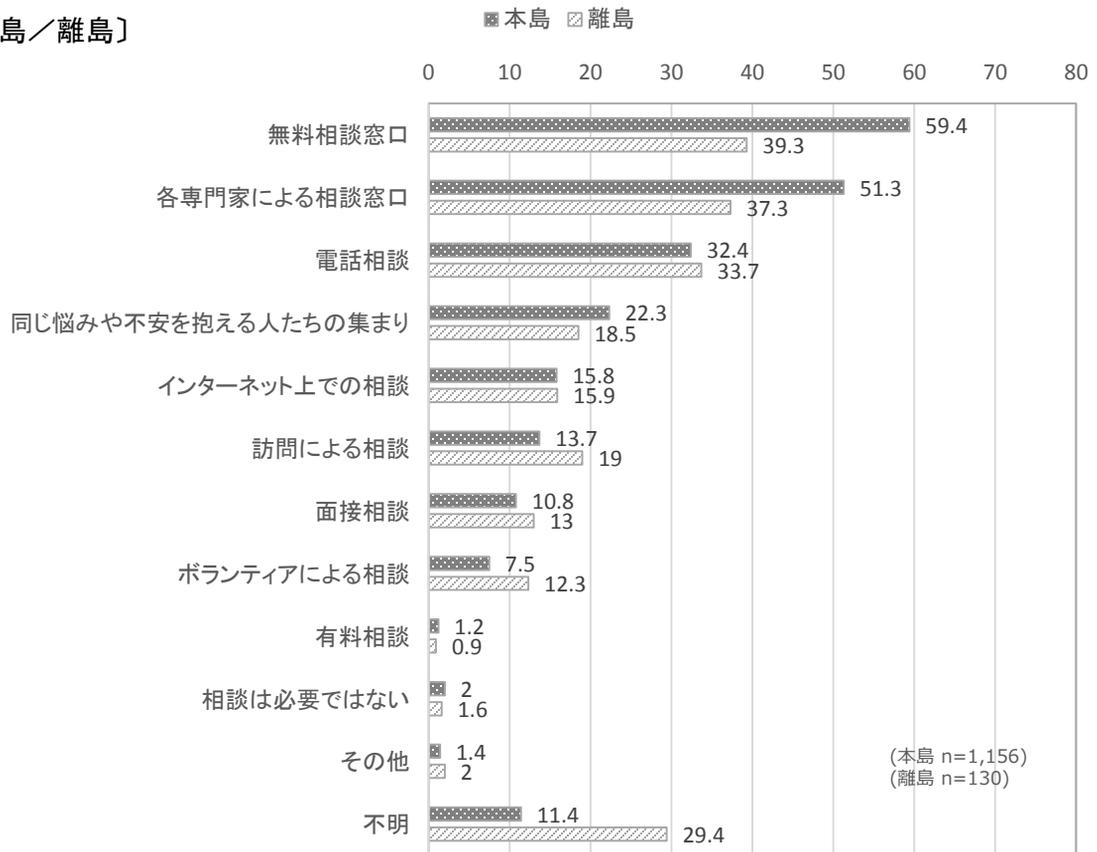
〔年代別〕



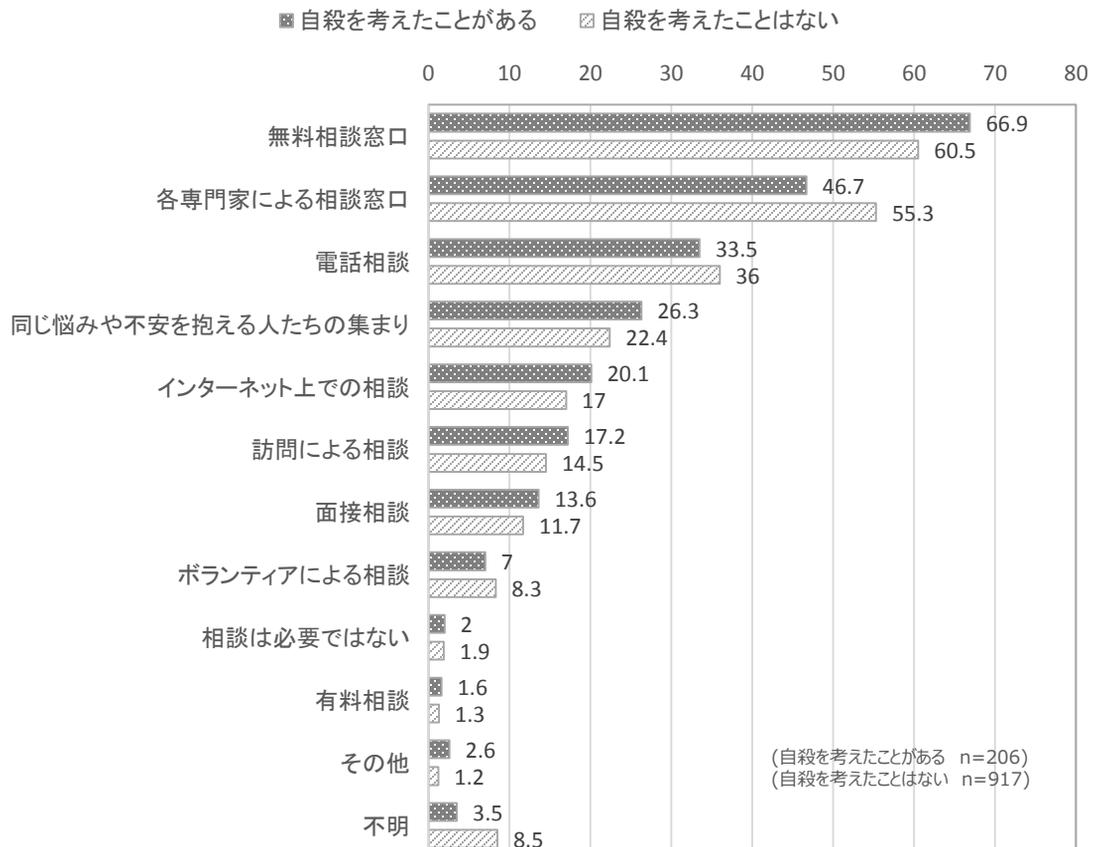
〔圏域別〕



〔本島／離島〕



〔自殺を考えたことがある方／ない方〕



〔性別・年代別／職業別〕

		合計	無料相談窓口	各専門家による相談窓口	電話相談	同じ悩みや不安を抱える人たちの集まり	インターネット上の相談	訪問による相談	面接相談	ボランティアによる相談	有料相談
男性	全体	590	57.3	47.5	31.2	19.9	14.6	16.5	13.9	9.2	1.7
	20歳代	71	66.6	48.1	36.9	25.5	21.5	16.9	12.6	7	-
	30歳代	106	54.4	38.7	30.9	28.7	22.1	15.4	12.4	10.6	4.7
	40歳代	118	58.1	59.8	35.9	20	21.9	10.9	12.9	9.5	2.6
	50歳代	99	61.6	50.1	32.9	21	13.8	18.9	14	10.4	1.1
	60歳代	96	53.5	45.2	24	16.8	3.1	21.5	17.1	10.5	-
	70歳代	99	51.9	41.8	27.6	8.5	5.2	16.7	14.6	6.5	1
女性	全体	697	57.4	51.9	33.6	23.7	16.8	12.4	8.5	6.9	0.7
	20歳代	80	62	46.6	21.9	30.3	39.2	8.8	7.8	5	1.3
	30歳代	134	63.7	51.9	29.3	29.7	25.3	12.3	9.3	7.7	1.5
	40歳代	127	61.6	59	37.6	20.3	24.2	13	6.7	2.7	0.2
	50歳代	115	56.6	59.1	45.9	24	8	12.5	10.6	10.4	0.9
	60歳代	104	56.9	57.2	36.5	24.7	7.8	10.6	7.2	10.7	-
	70歳代	137	45.5	38.4	28.3	15.9	2.9	15.5	9	5.5	0.7
職業	勤めている（常勤）	406	63.8	58.1	36.6	24.9	22.1	13.8	11.6	9.1	2
	勤めている（パート・アルバイト）	191	67.2	55.5	33	26.4	20.3	13.9	9.6	5.3	1
	自営業及び家族従事者	83	55.2	51.9	32	25	14.8	16.6	16.7	7.3	2.4
	専業主婦・主夫	144	54.1	54.7	34.3	27.7	11.4	14.1	7.8	9.1	-
	無職	197	50.1	41.3	28.4	15.7	7.6	18.4	11.1	6.9	-
	学生	26	84.4	45.8	42.7	30.9	49.6	15.3	11.5	11.5	3.8
	その他	29	52.7	56.5	45.5	25	17.1	14.4	18.5	13.7	-

		相談は必要ではない	その他	不明
男性	全体	2.1	1.7	12.7
	20歳代	1.4	1.4	7.7
	30歳代	3.9	3.8	12.7
	40歳代	0.9	1.7	9.5
	50歳代	2	1.1	10.4
	60歳代	3.2	-	11.8
	70歳代	1.1	2.1	23.6
女性	全体	1.8	1.3	13.6
	20歳代	-	3.9	11.3
	30歳代	2.2	2.2	6.8
	40歳代	0.9	1.7	9.6
	50歳代	1	0.2	12.3
	60歳代	2.9	-	13
	70歳代	3	0.2	26.8
職業	勤めている（常勤）	1.6	1.8	5.8
	勤めている（パート・アルバイト）	2.6	1.6	2.6
	自営業及び家族従事者	-	3.7	11.6
	専業主婦・主夫	0.7	0.7	16.2
	無職	2.6	0.6	21.6
	学生	-	0.4	7.6
	その他	0.3	0.3	3.4

VII. 自殺対策・予防について

問28 あなたは普段、仕事や学業以外で、メディアにどれくらい接触しますか。
それぞれの項目に最もあてはまるものに○をつけて下さい。(それぞれに○を一つ)

メディアの接触状況としては「テレビ」が最も多く「ほぼ毎日」が7割である。以下「新聞」の「毎日」が43.8%、「インターネット」の「毎日」が31.6%、「ラジオ」の「毎日」が28.9%となる。

「新聞」は40歳代以上で「毎日」が急増する。

「テレビ」は30歳代から50歳代で7割を超え、「ラジオ」は50歳代が多い。

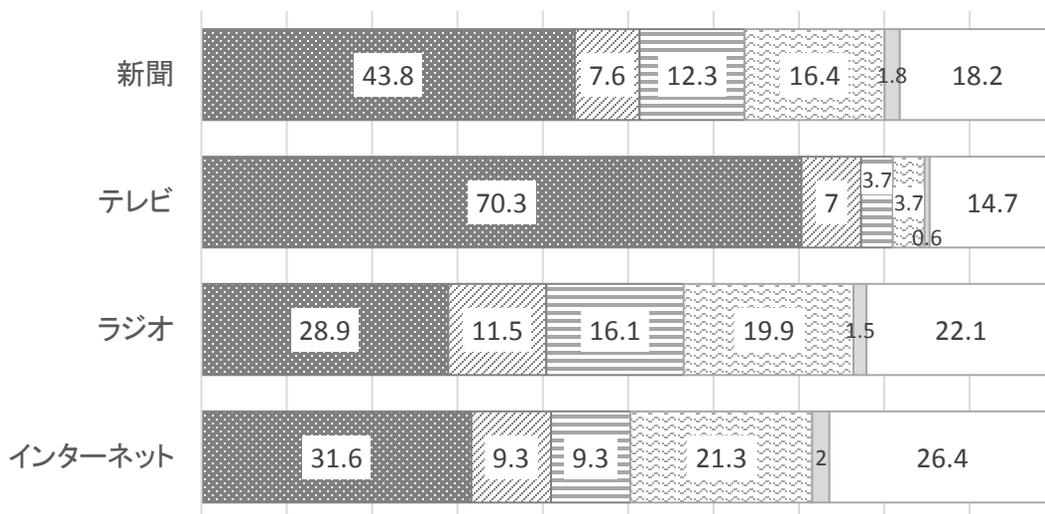
「インターネット」は若いほど多く20歳代で59.4%、30歳代で56.2%が「毎日」接触しており、年代差が大きい。

〈沖縄県〉

(n=1,289)

■ ほぼ毎日 □ 週に3～5日 ▨ 週に1～2日 ▩ まったくない ■ 無回答 □ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

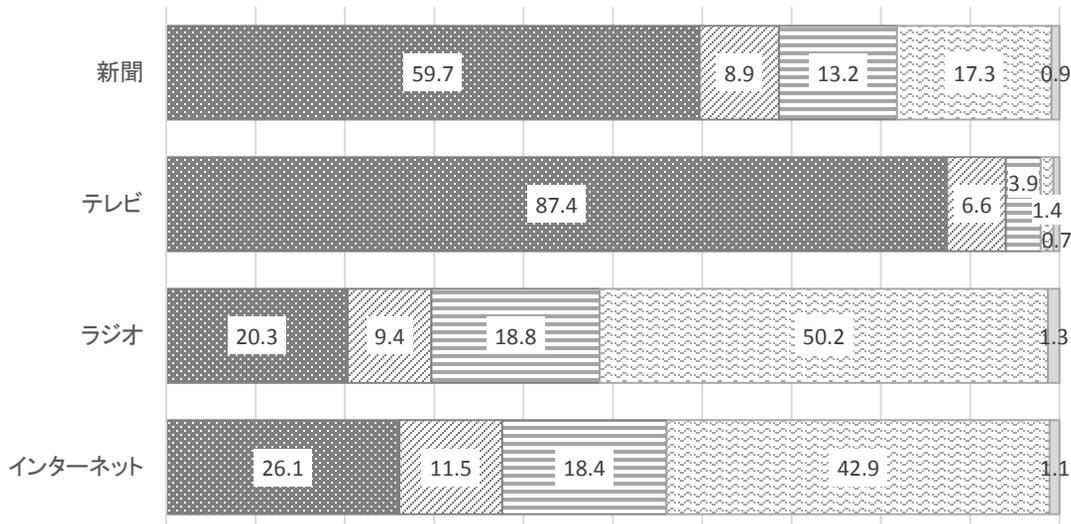


〈全国〉

(n=2,017)

■ ほぼ毎日 □ 週に3～5日 ▨ 週に1～2日 ▩ まったくない ■ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

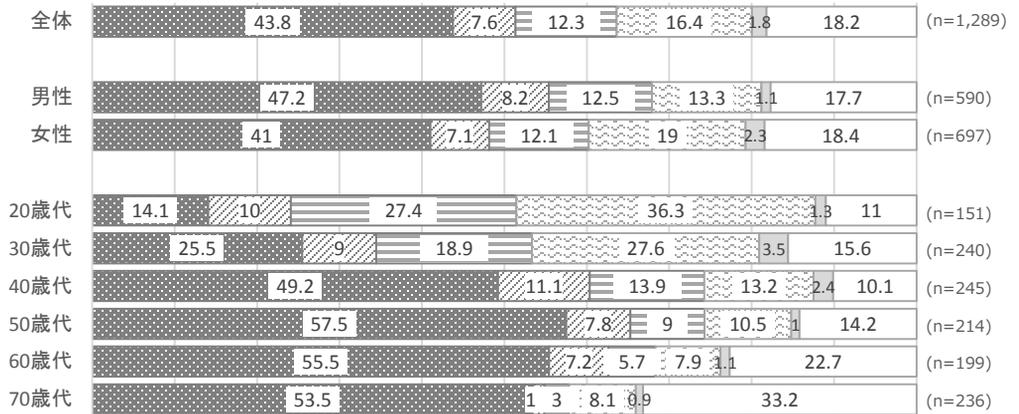


〈新聞〉

■ ほぼ毎日 □ 週に3~5日 □ 週に1~2日 □ まったくない □ 無回答 □ 不明

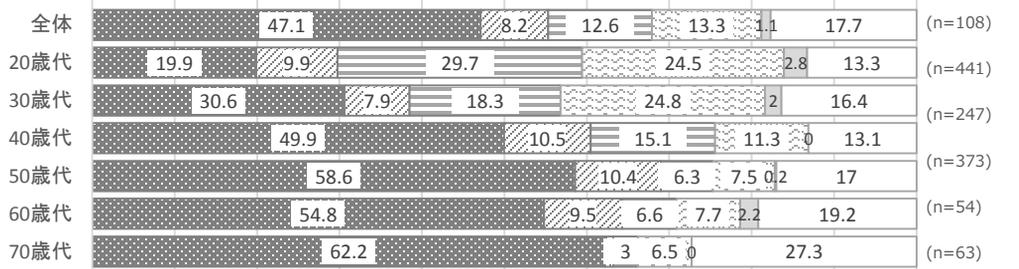
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

〔性別〕

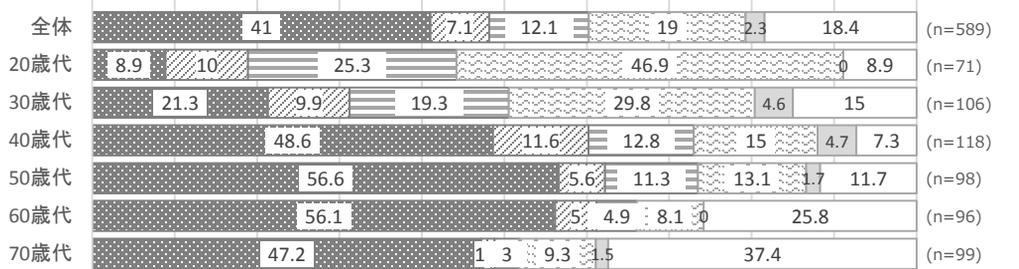


〔年代別〕

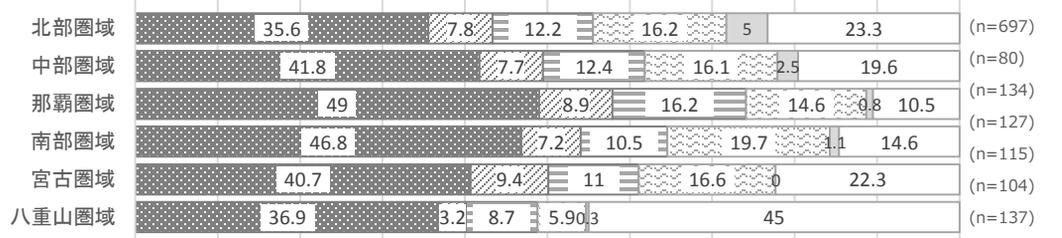
男性



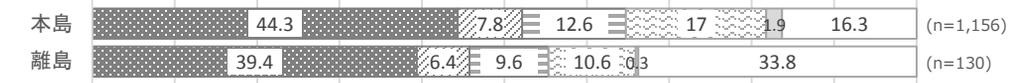
女性



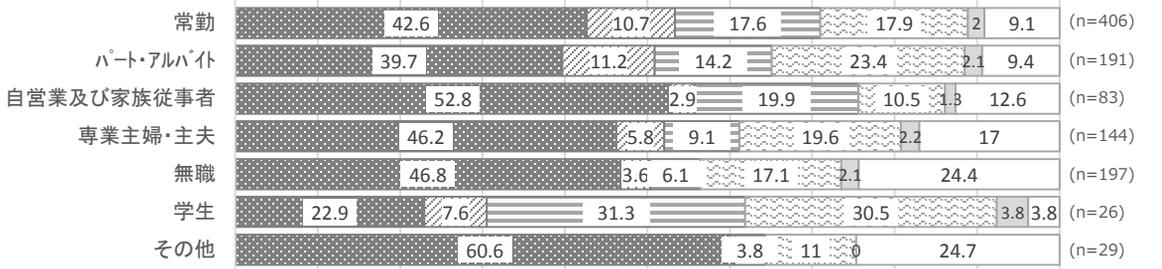
〔圏域別〕



〔本島離島別〕



〔職業別〕

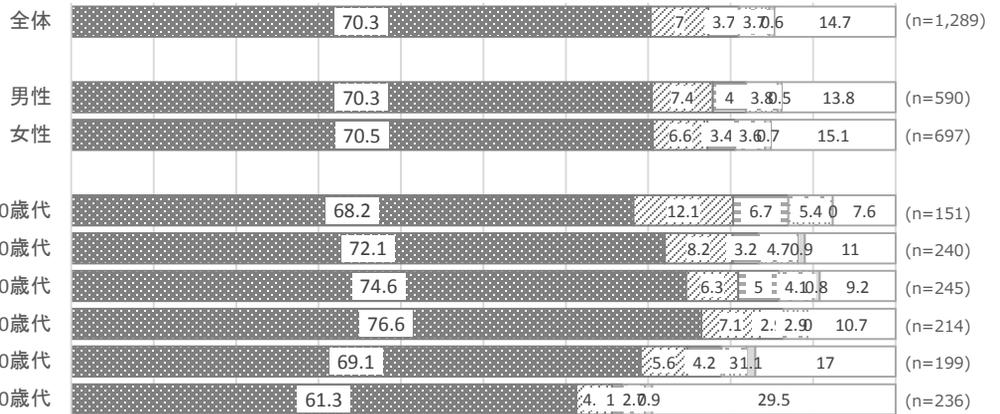


〈テレビ〉

■ ほぼ毎日 □ 週に3~5日 □ 週に1~2日 □ まったくない □ 無回答 □ 不明

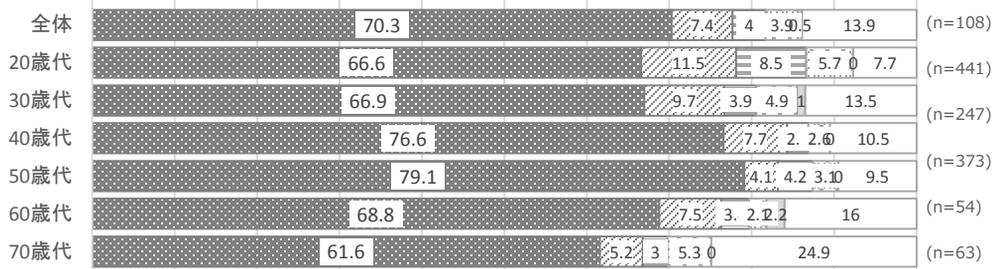
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

〔性別〕

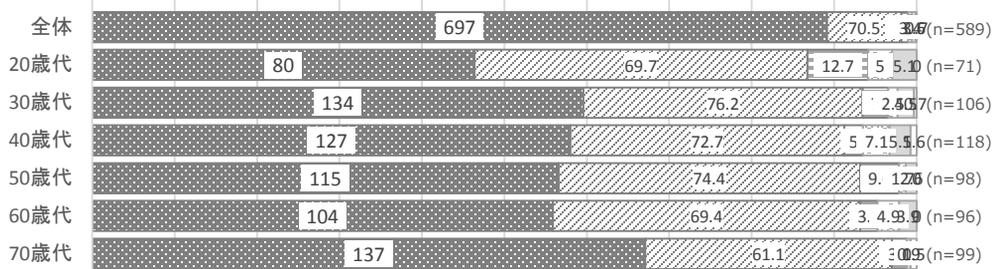


〔年代別〕

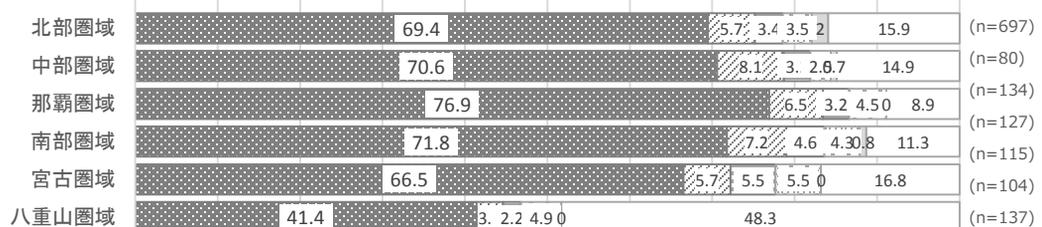
男性



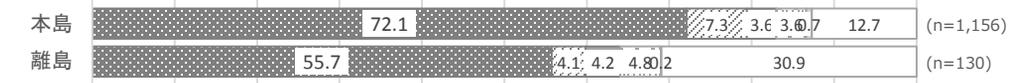
女性



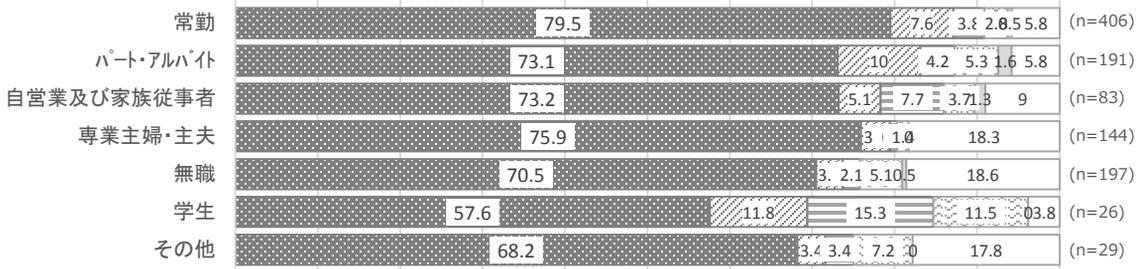
〔圏域別〕



〔本島離島別〕



〔職業別〕

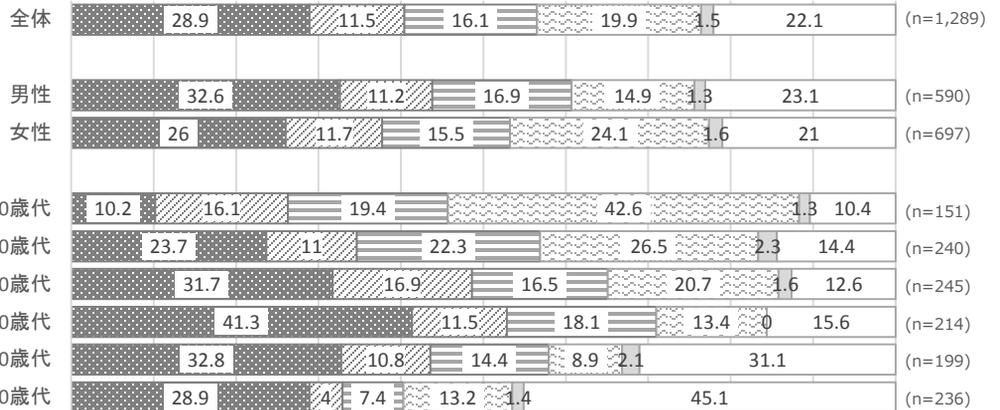


〈ラジオ〉

■ ほぼ毎日 □ 週に3~5日 □ 週に1~2日 □ まったくない □ 無回答 □ 不明

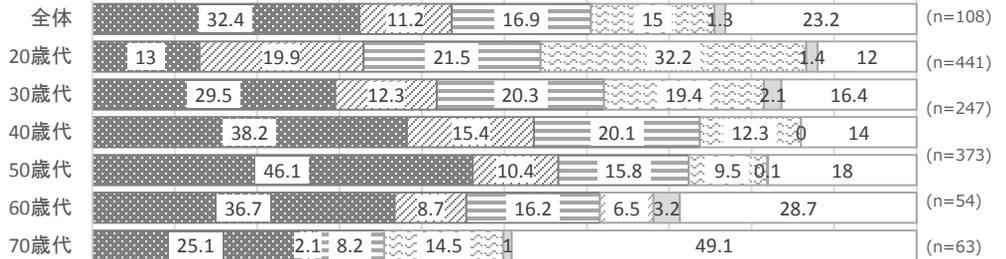
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

〔性別〕

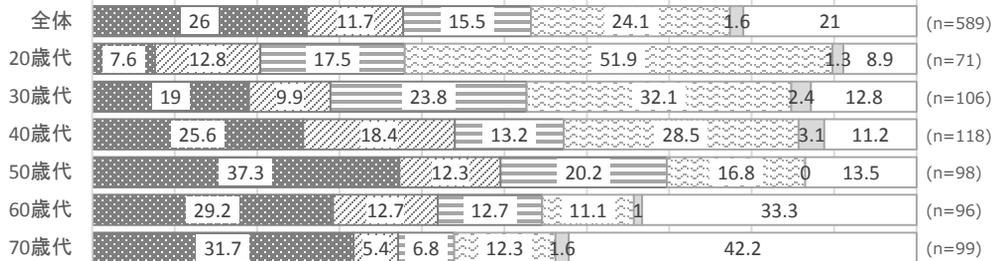


〔年代別〕

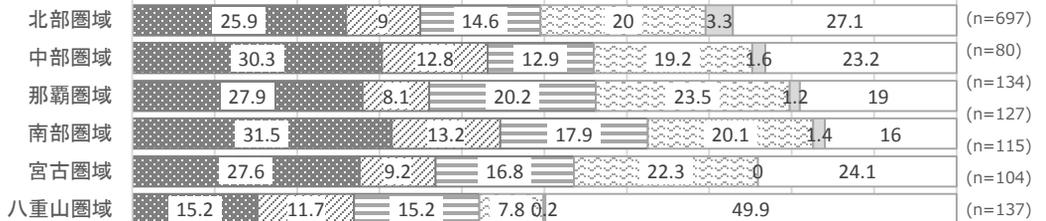
男性



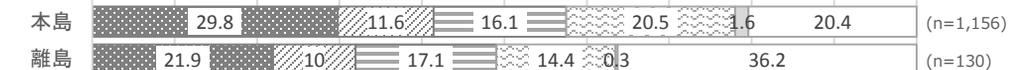
女性



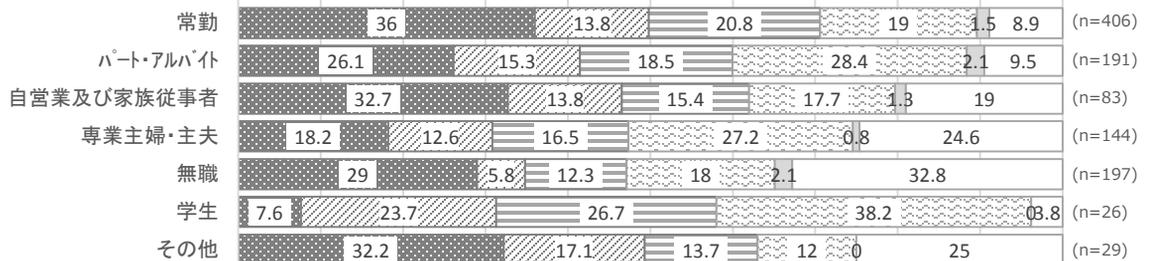
〔圏域別〕



〔本島離島別〕



〔職業別〕

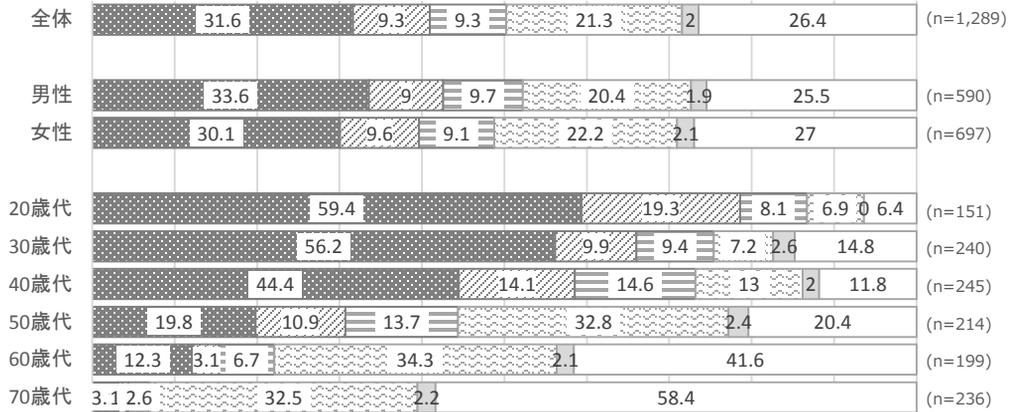


〈インターネット〉

■ ほぼ毎日 □ 週に3~5日 □ 週に1~2日 □ まったくない □ 無回答 □ 不明

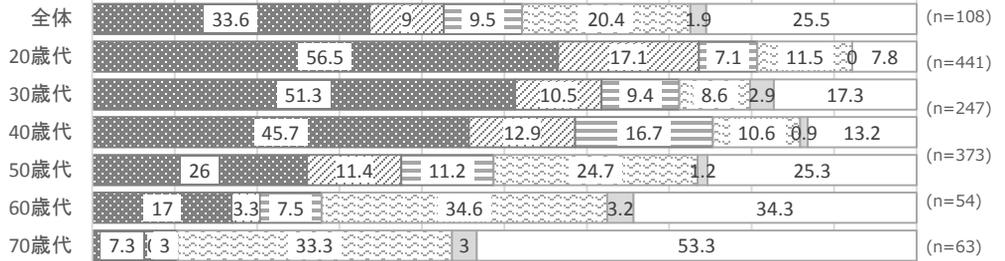
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

〔性別〕

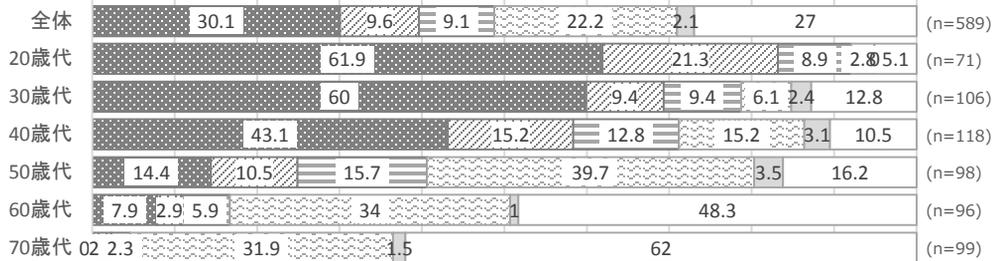


〔年代別〕

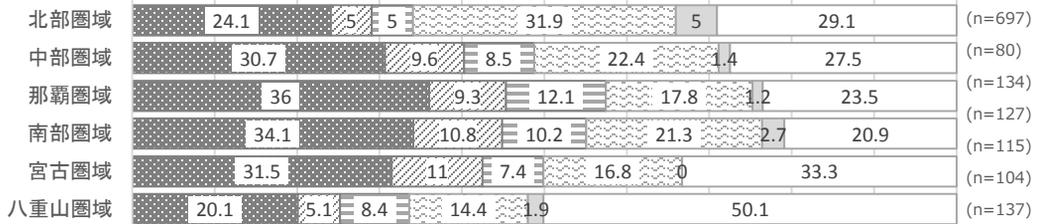
男性



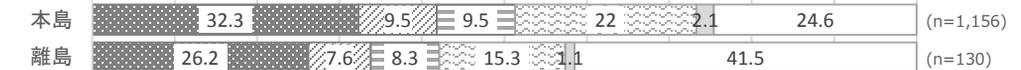
女性



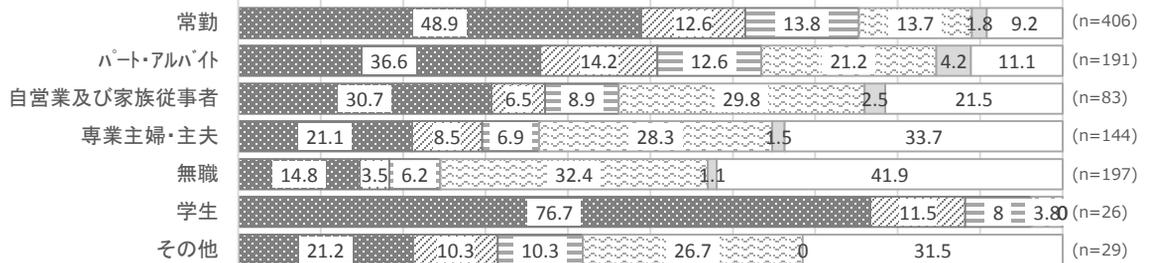
〔圏域別〕



〔本島離島別〕



〔職業別〕

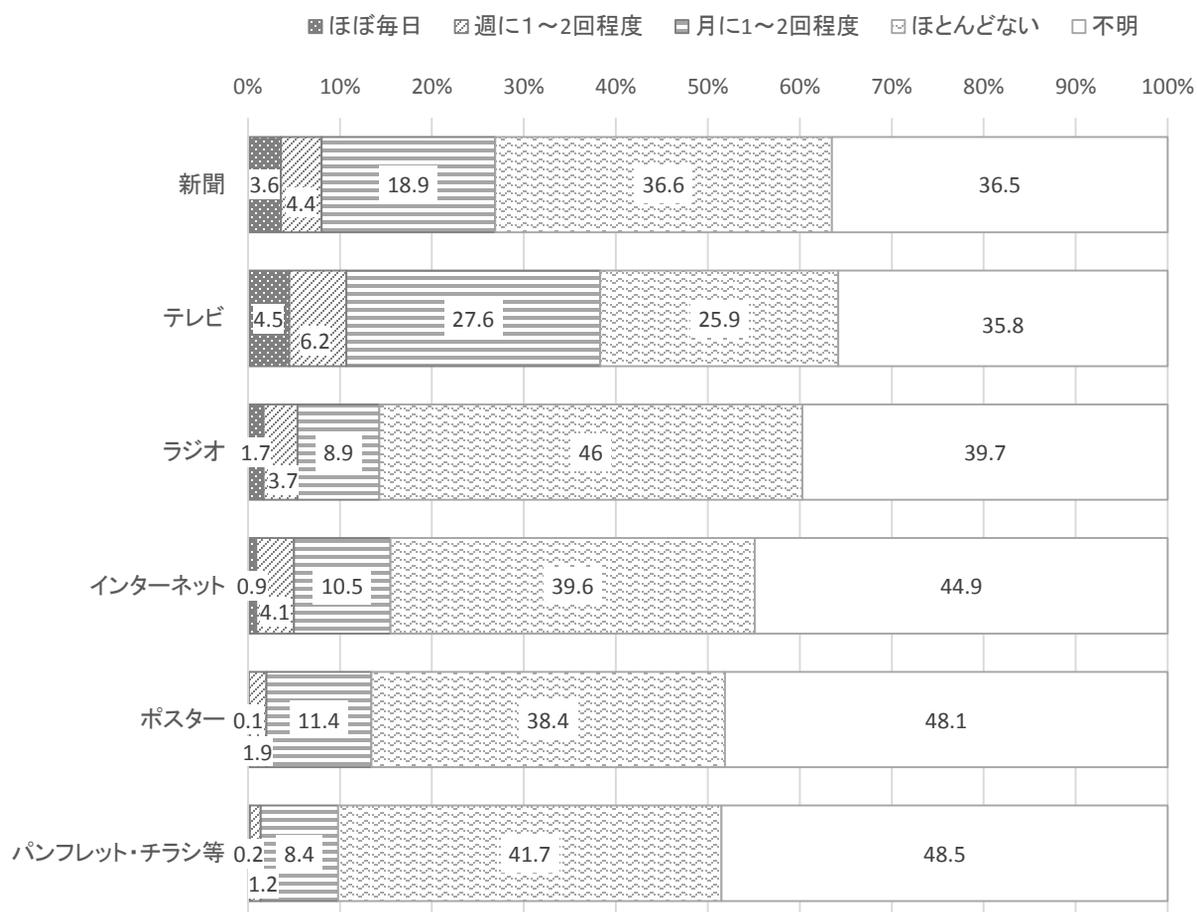


問29 各種メディアにおいて、自殺に関する報道に接したことがありますか。又、沖縄県の自殺対策に関する広告等に接したことがありますか。
 それぞれの項目にあてはまるものに○をつけて下さい。(それぞれの項目に○を記入)

各メディアでの自殺関連の報道への接触状況は「ほぼ毎日」「週に1～2回程度」「月に1～2回程度」を合わせた『接触率』は新聞26.9%、テレビ38.3%、ラジオ14.3%、インターネット15.5%、ポスター13.4%、パンフレット・チラシ等9.8%となった。

〈自殺に関する報道など〉

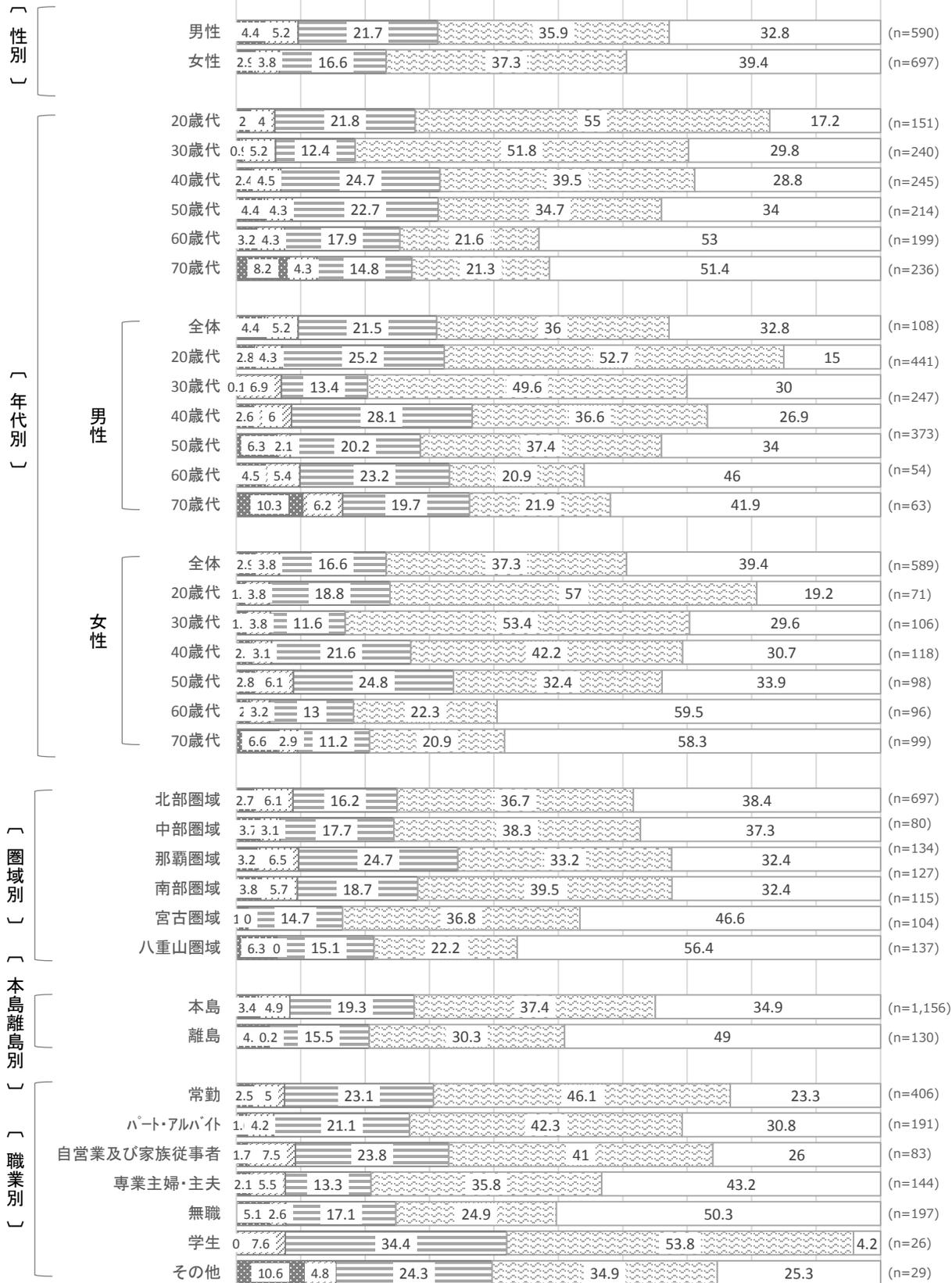
(n=1,289)



〈新聞〉

■ ほぼ毎日 ■ 週に1~2回程度 ■ 月に1~2回程度 ■ ほとんどない □ 不明

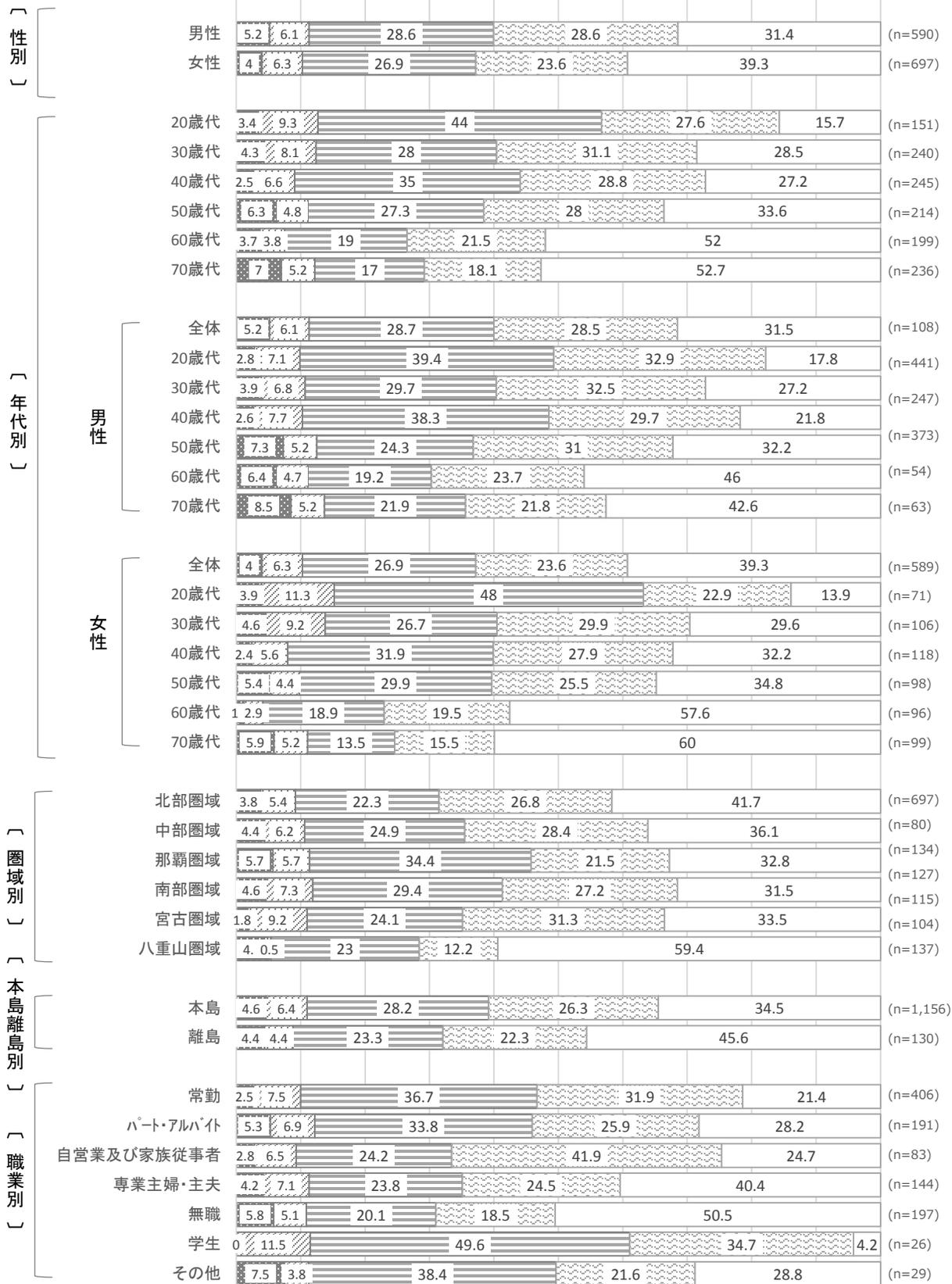
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



〈テレビ〉

■ ほぼ毎日 ■ 週に1~2回程度 ■ 月に1~2回程度 ■ ほとんどない □ 不明

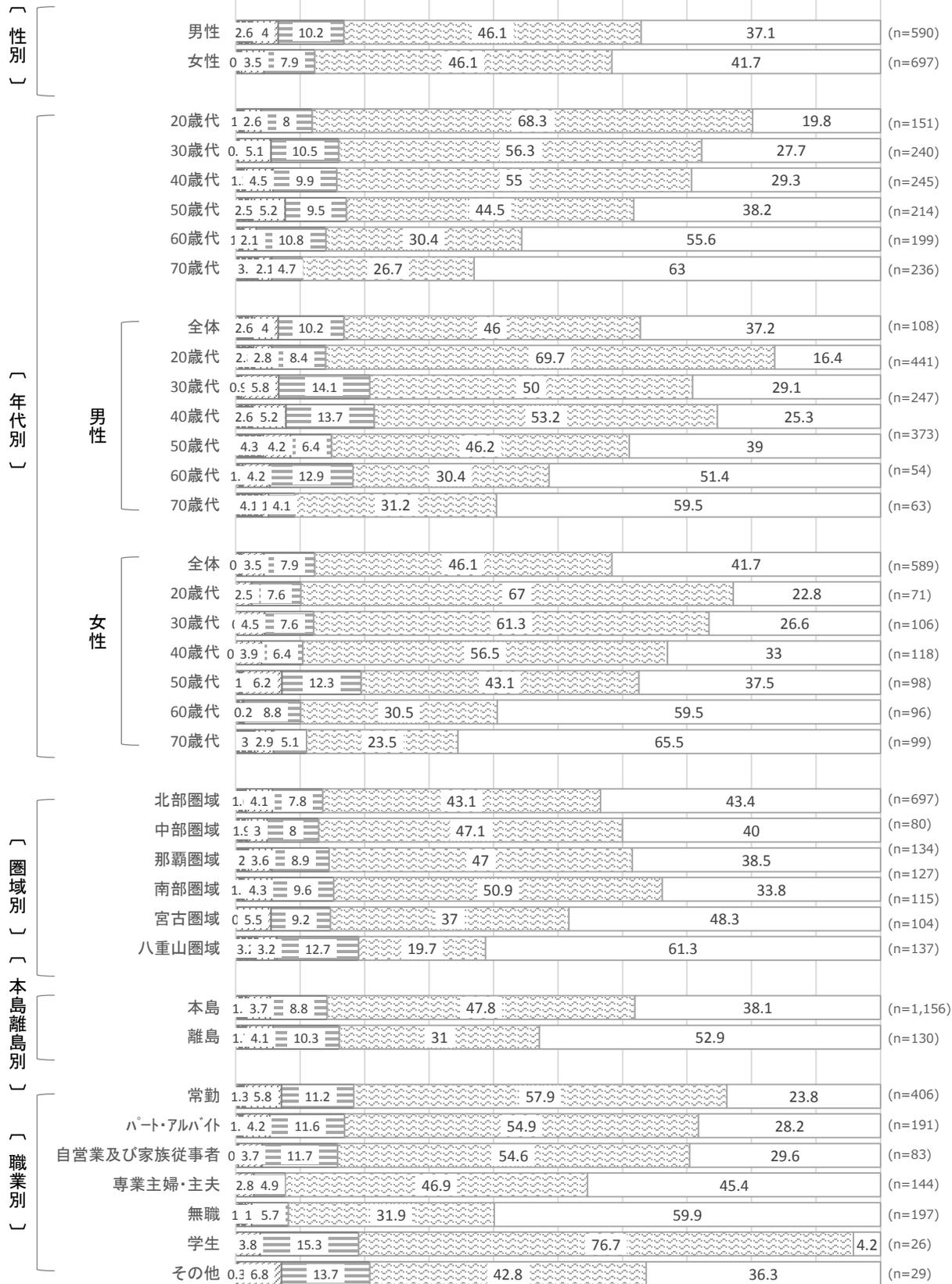
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



〈ラジオ〉

■ ほぼ毎日 □ 週に1~2回程度 □ 月に1~2回程度 □ ほとんどない □ 不明

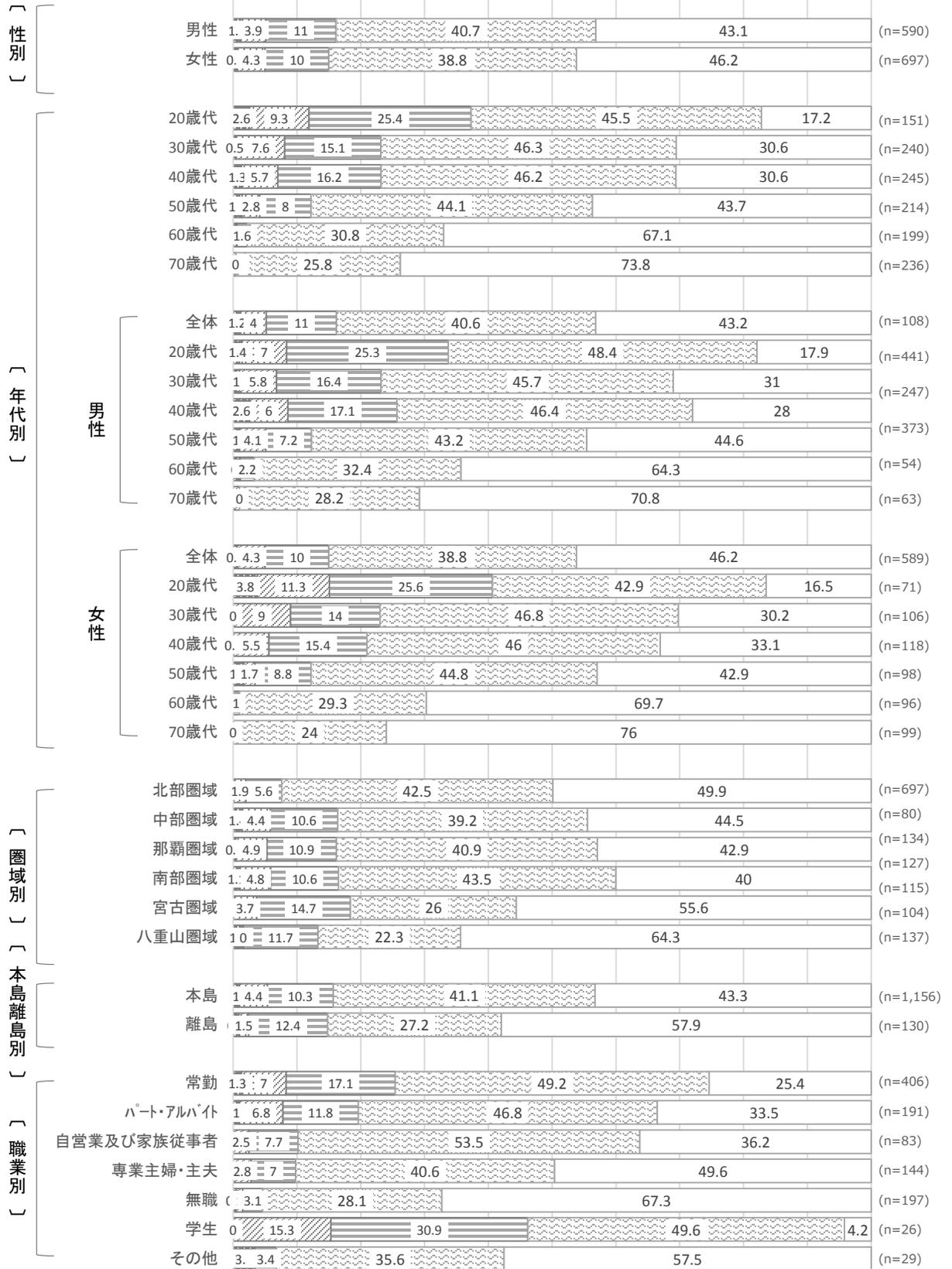
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



〈インターネット〉

■ ほぼ毎日 □ 週に1~2回程度 □ 月に1~2回程度 □ ほとんどない □ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



〈ポスター〉

■ ほぼ毎日 □ 週に1~2回程度 □ 月に1~2回程度 □ ほとんどない □ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

〔性別〕

全体 0.119 11.4 38.4 48.1 (n=1,289)

男性 0.116 11.6 40.2 46.2 (n=590)

女性 0.119 11.4 37.1 49.6 (n=697)

〔年代別〕

男性

20歳代 0.119 25.3 48.2 22.5 (n=151)

30歳代 0.119 14.2 48.5 34.4 (n=240)

40歳代 0.119 14.1 49.8 33.7 (n=245)

50歳代 0.154 12.3 36.5 49.3 (n=214)

60歳代 0.146 24.7 69.8 (n=199)

70歳代 0.17 24.1 73.7 (n=236)

全体 0.114 11.4 40.3 46.3 (n=108)

20歳代 0.12 26.6 49.9 19.3 (n=441)

30歳代 0.119 15.6 48.7 33.8 (n=247)

40歳代 0.119 14.6 51.3 31.5 (n=373)

50歳代 0.11 9.3 38 51.6 (n=54)

60歳代 0.132 28 66.7 (n=54)

70歳代 0.121 25.3 71.6 (n=63)

女性

全体 0.119 11.4 37.1 49.6 (n=589)

20歳代 0.119 24.2 46.6 25.4 (n=71)

30歳代 0.119 13 48.4 34.9 (n=106)

40歳代 0.119 13.6 48.4 35.7 (n=118)

50歳代 0.117 14.9 35.2 47.3 (n=98)

60歳代 0.158 21.6 72.6 (n=96)

70歳代 0.15 23.3 75.3 (n=99)

〔圏域別〕

北部圏域 0.119 10.2 34.5 52.4 (n=697)

中部圏域 0.119 9.9 39.7 48.1 (n=80)

那覇圏域 0.119 13 38.9 46.6 (n=134)

南部圏域 0.119 13.2 40.9 43.7 (n=127)

宮古圏域 0.155 37 57.5 (n=115)

八重山圏域 0.119 13.2 22.5 62.8 (n=104)

八重山圏域 0.119 13.2 22.5 62.8 (n=137)

〔本島離島別〕

本島 0.119 11.7 39.3 46.8 (n=1,156)

離島 0.108 9.1 31.1 59 (n=130)

〔職業別〕

常勤 0.119 18.1 48.7 31 (n=406)

パート・アルバイト 0.119 14.2 42.9 38.2 (n=191)

自営業及び家族従事者 0.119 6.4 51 40.2 (n=83)

専業主婦・主夫 0.119 7.8 39.2 51.7 (n=144)

無職 0.141 27.7 68.2 (n=197)

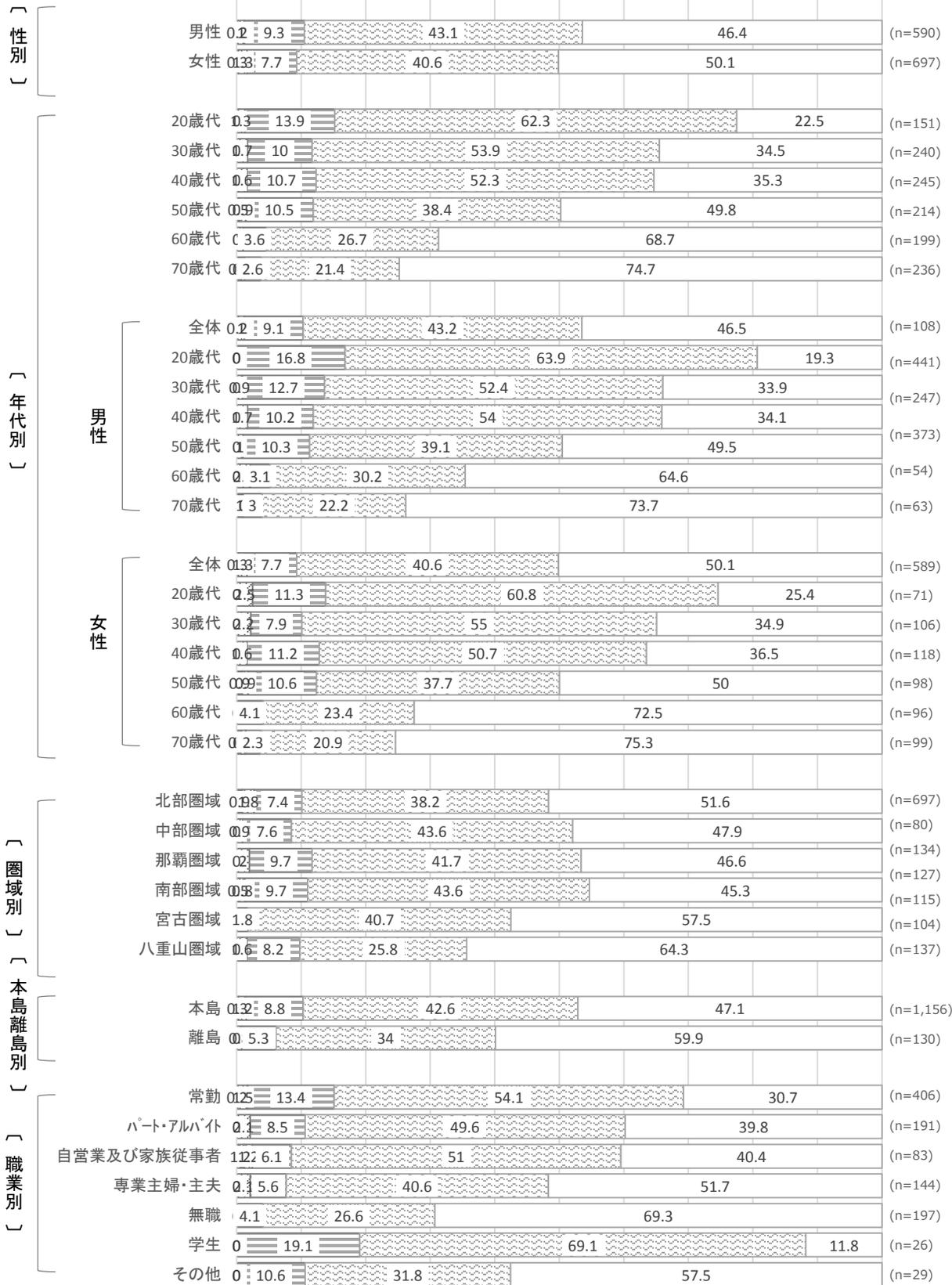
学生 0.119 7.6 30.9 57.3 4.2 (n=26)

その他 0.103 10.3 25.3 64.4 (n=29)

〈パンフレット・チラシ等〉

■ ほぼ毎日 ▨ 週に1~2回程度 □ 月に1~2回程度 ▩ ほとんどない □ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

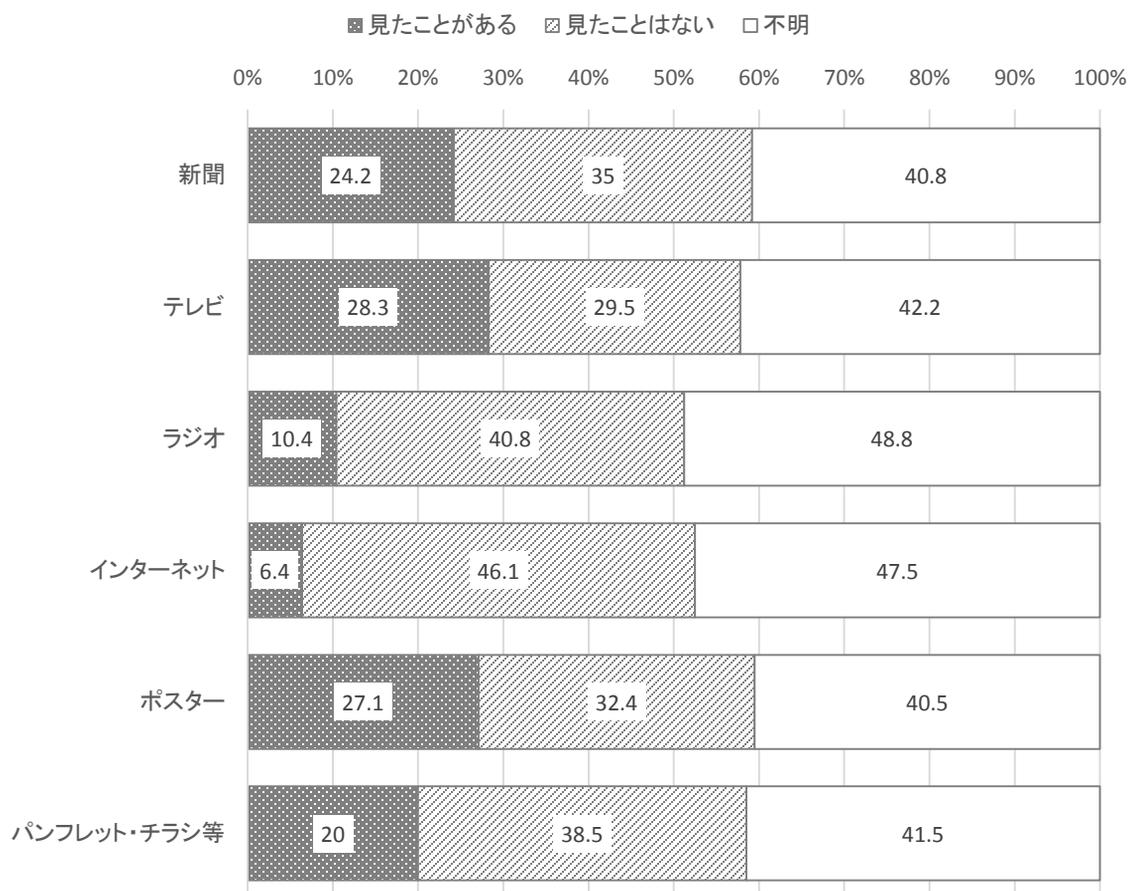


問29 各種メディアにおいて、自殺に関する報道に接したことがありますか。又、沖縄県の自殺対策に関する広告等に接したことがありますか。
それぞれの項目にあてはまるものに○をつけて下さい。(それぞれの項目に○を記入)

沖縄県の自殺対策についての広告の接触率を聞くと、「テレビ」が最も多く28.3%、次いで「ポスター」24.2%、「新聞」24.2%、「ラジオ」10.4%、「インターネット」6.4%となった。

〈沖縄県の自殺対策に関する広告等〉

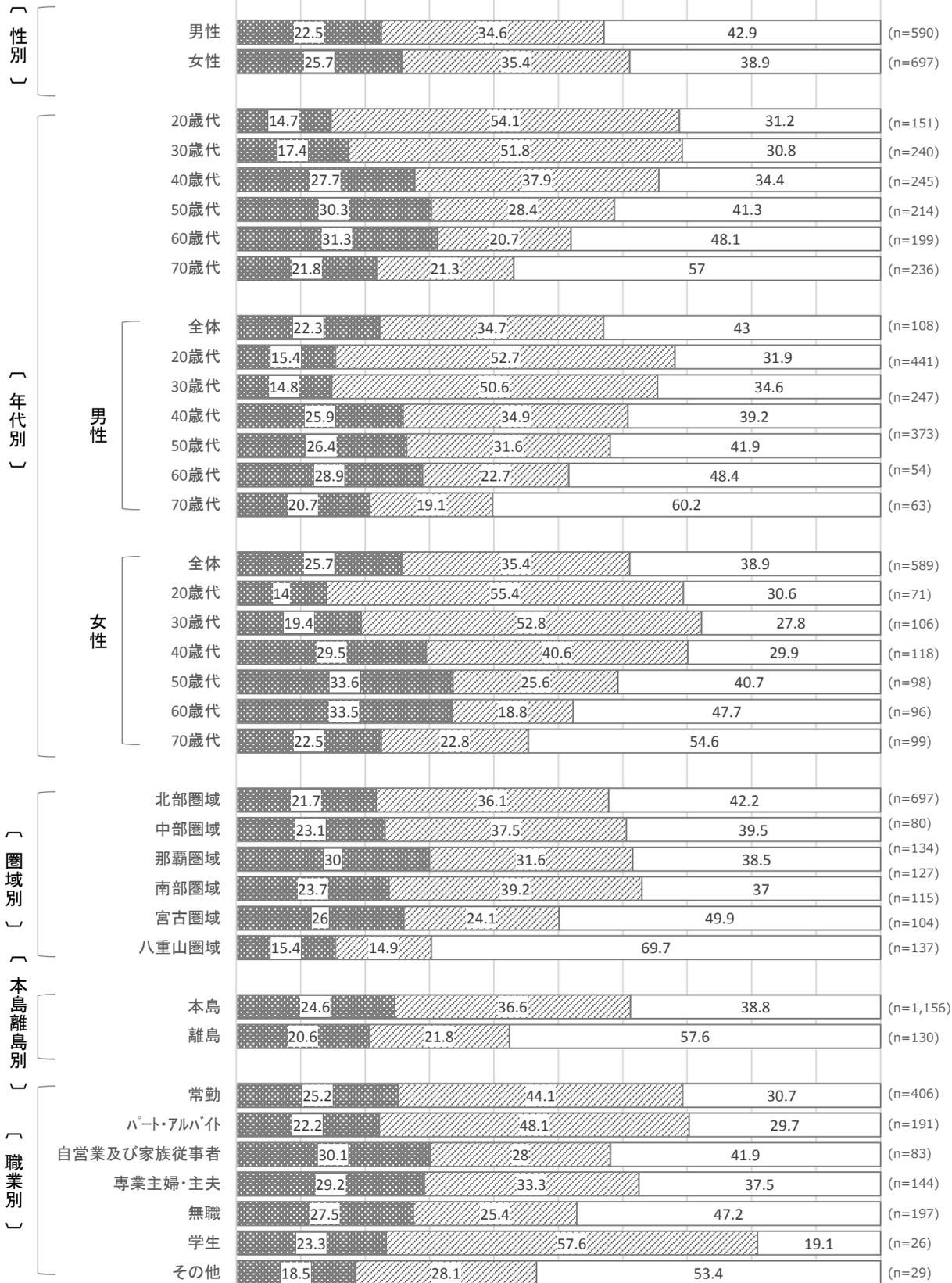
(n=1,289)



〈新聞〉

■ 見たことがある □ 見たことはない ○ 不明

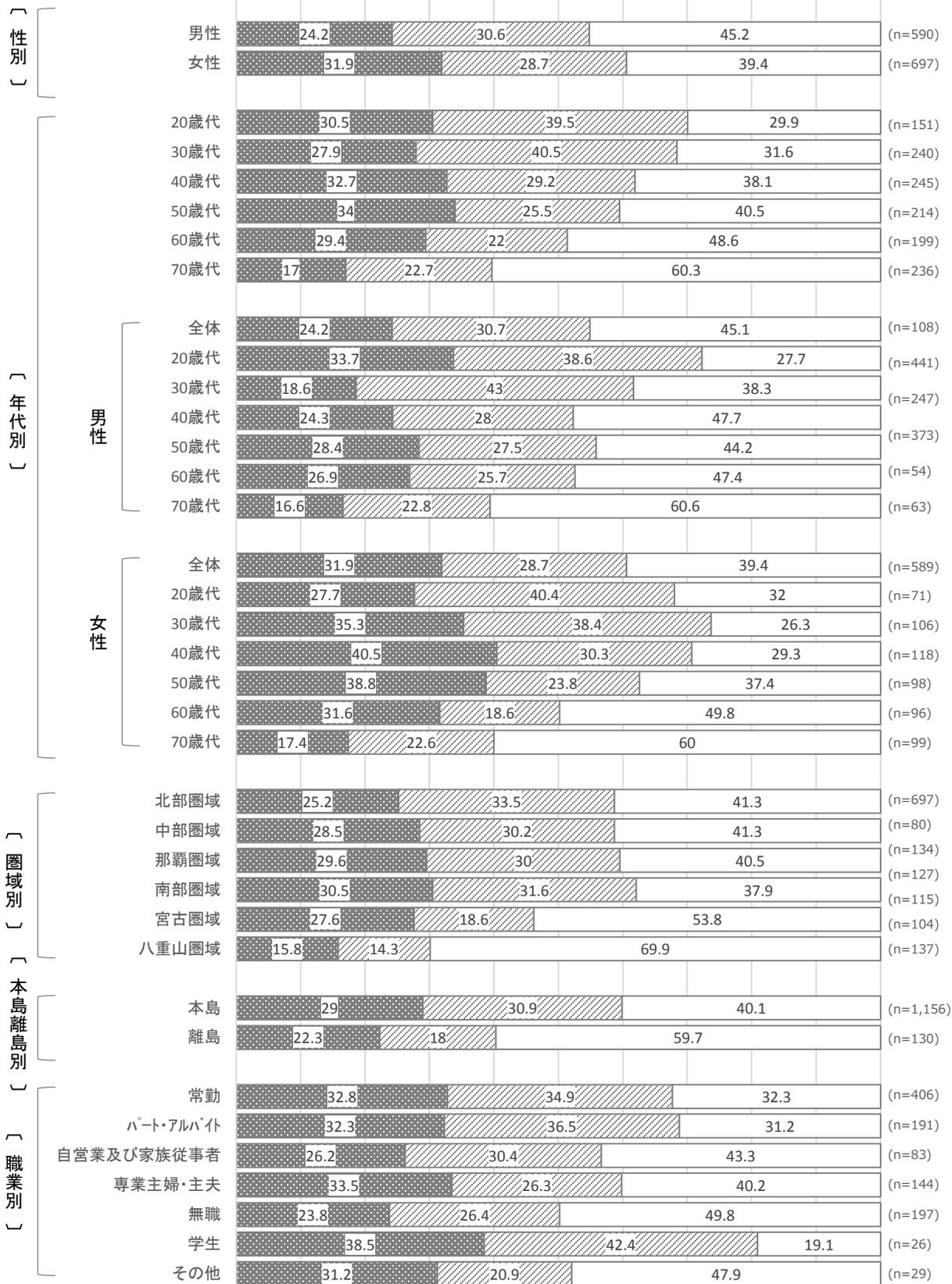
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



〈テレビ〉

■ 見たことがある □ 見たことはない ○ 不明

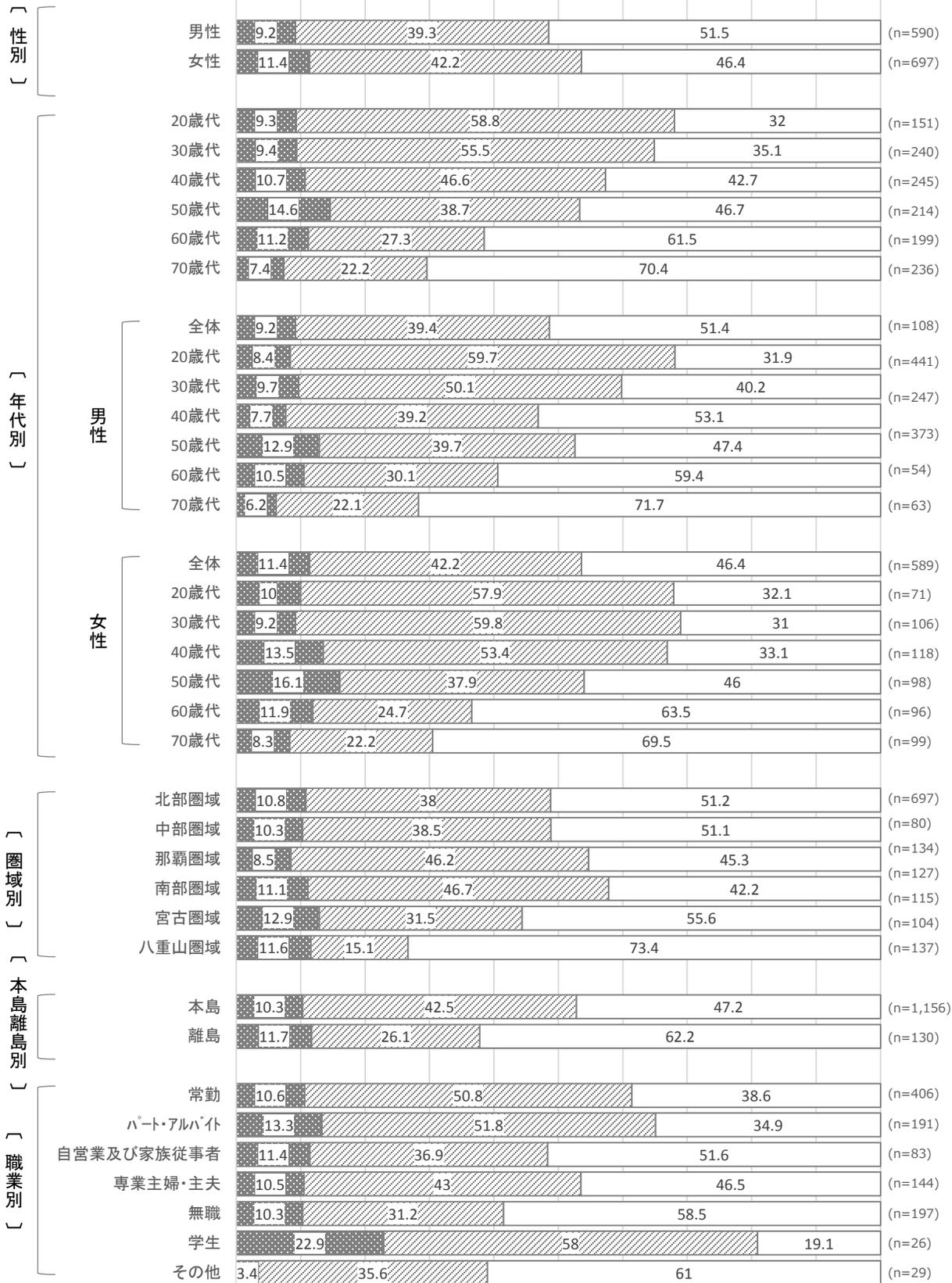
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



〈ラジオ〉

■系列1 □系列2 □系列3

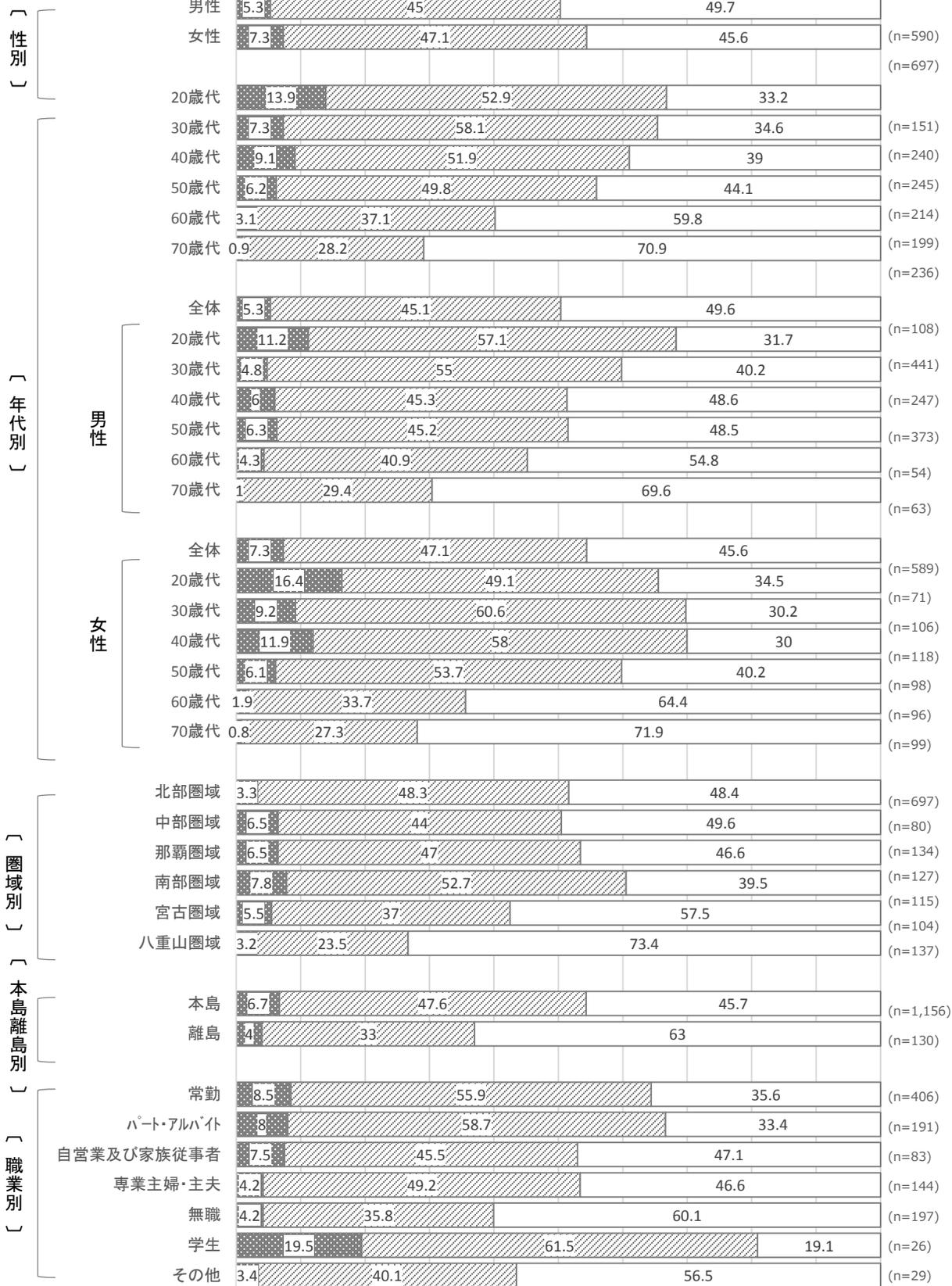
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



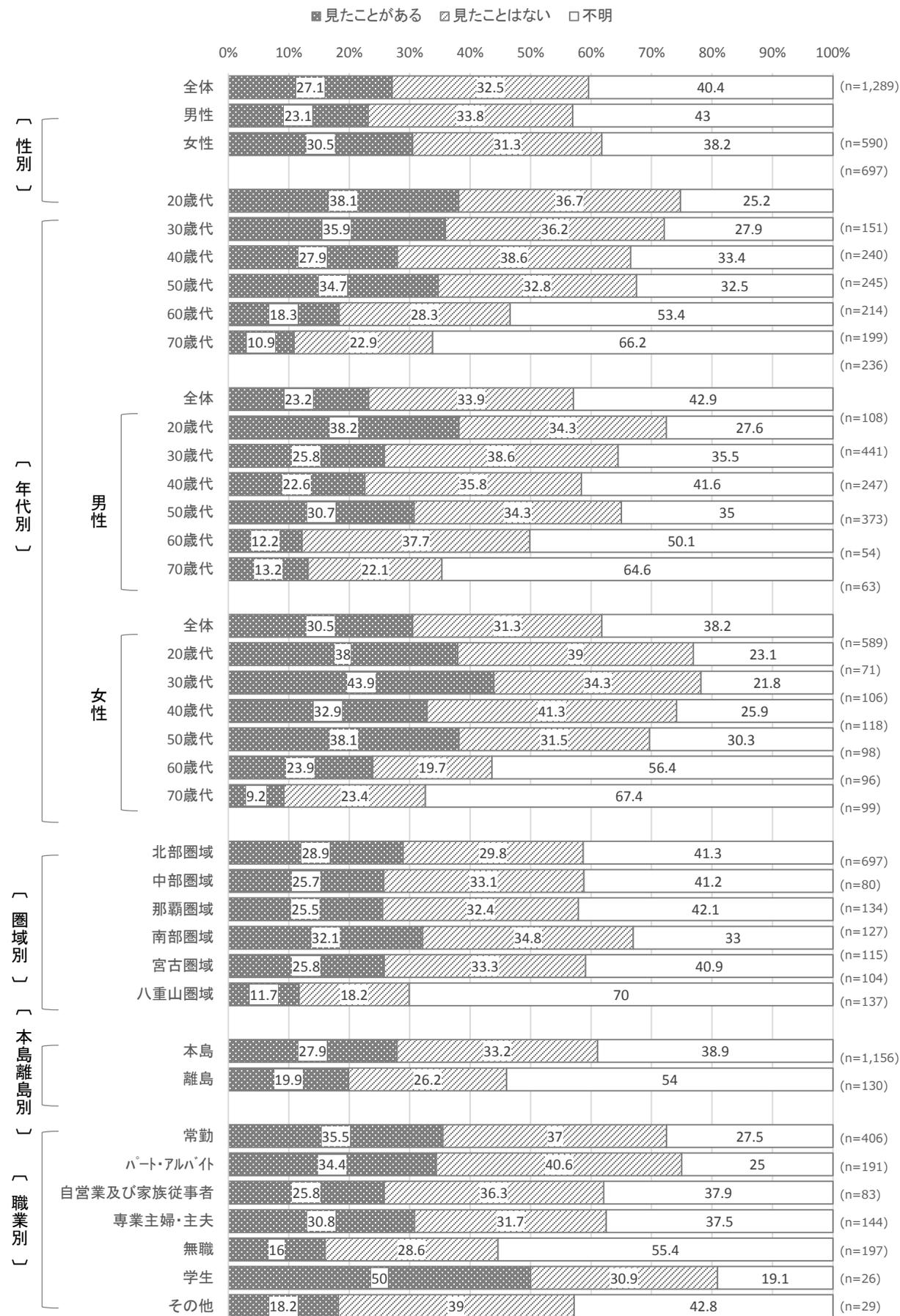
〈インターネット〉

■ 見たことがある □ 見たことはない ○ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

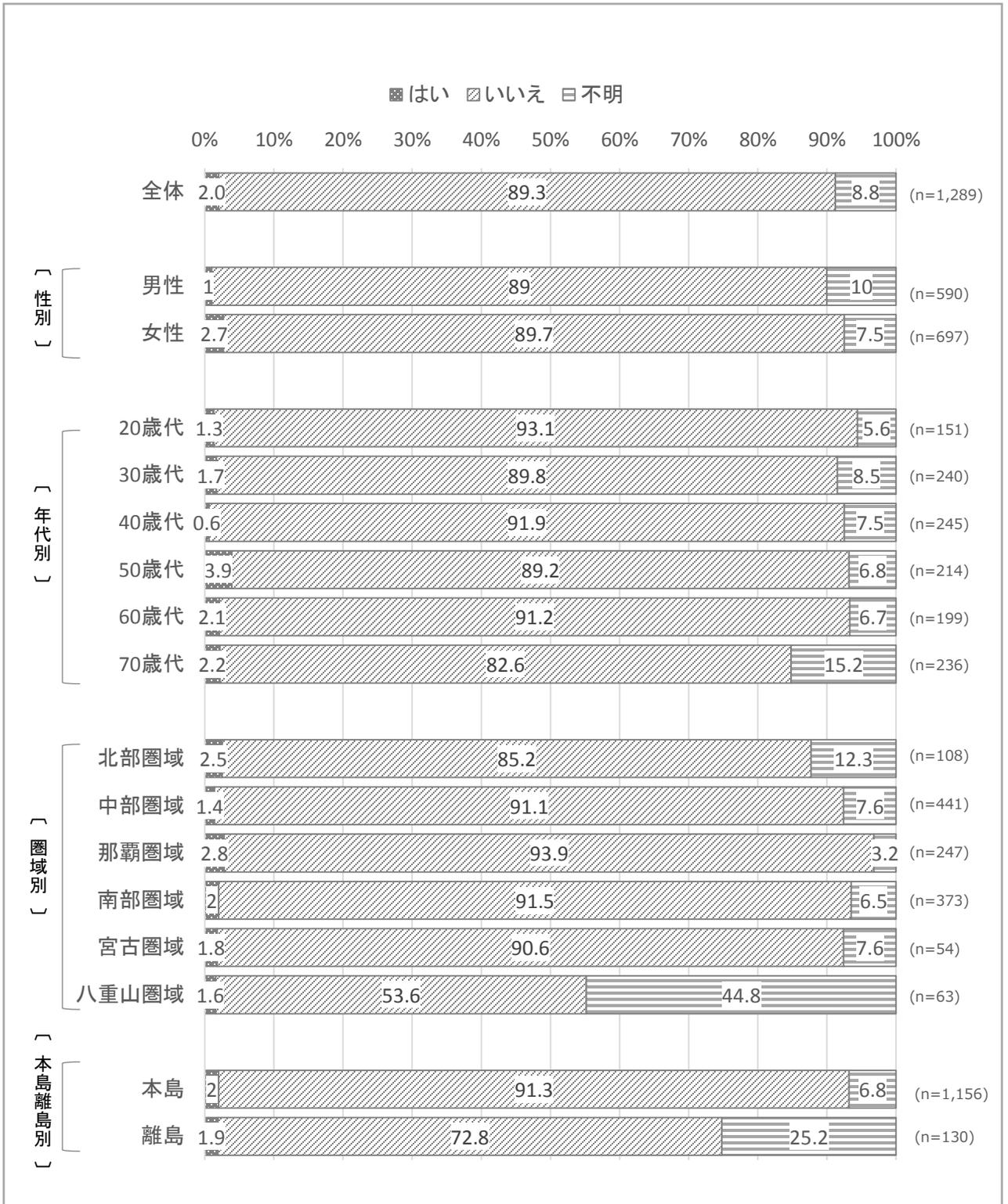


〈ポスター〉



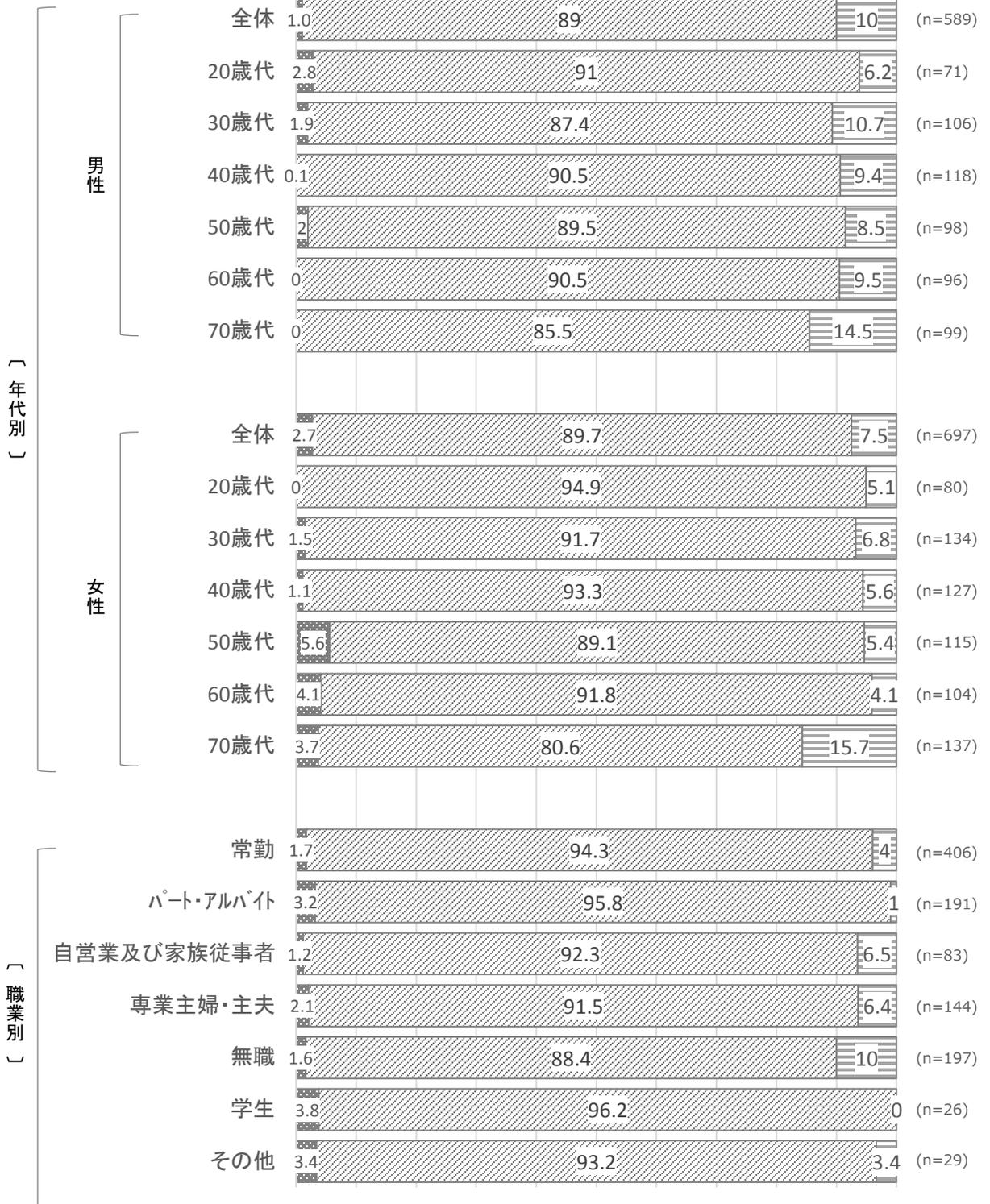
問30 自殺対策に関する講演会や講習会に参加したことがありますか。(○を1つ)

今までに自殺対策に関する講演会や講習会に参加したことがあるのは2.0%とわずかである。
性別、年代別、圏域別で際立った違いは無かった。



■ はい □ いいえ ▨ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

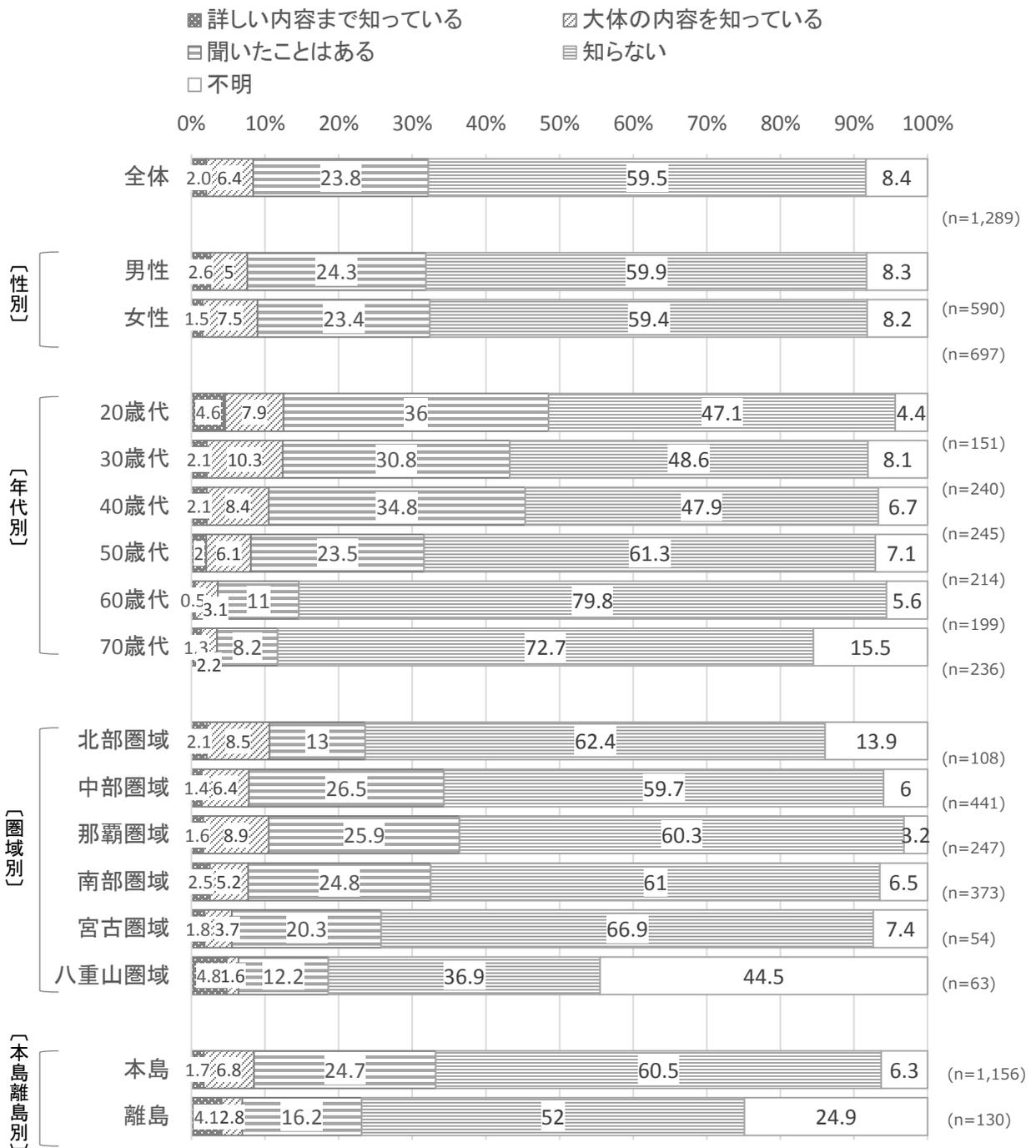


問31 あなたはゲートキーパーという言葉を知っていますか(○を一つ)

ゲートキーパーについての認知度では「詳しい内容まで知っている」が2.0%、「大体の内容を知っている」が6.4%で合わせて『おおよそ理解している』人は8.4%にとどまる。それに「聞いたことがある」の23.8%を加えた『認知率』は32.2%と約3割となる。

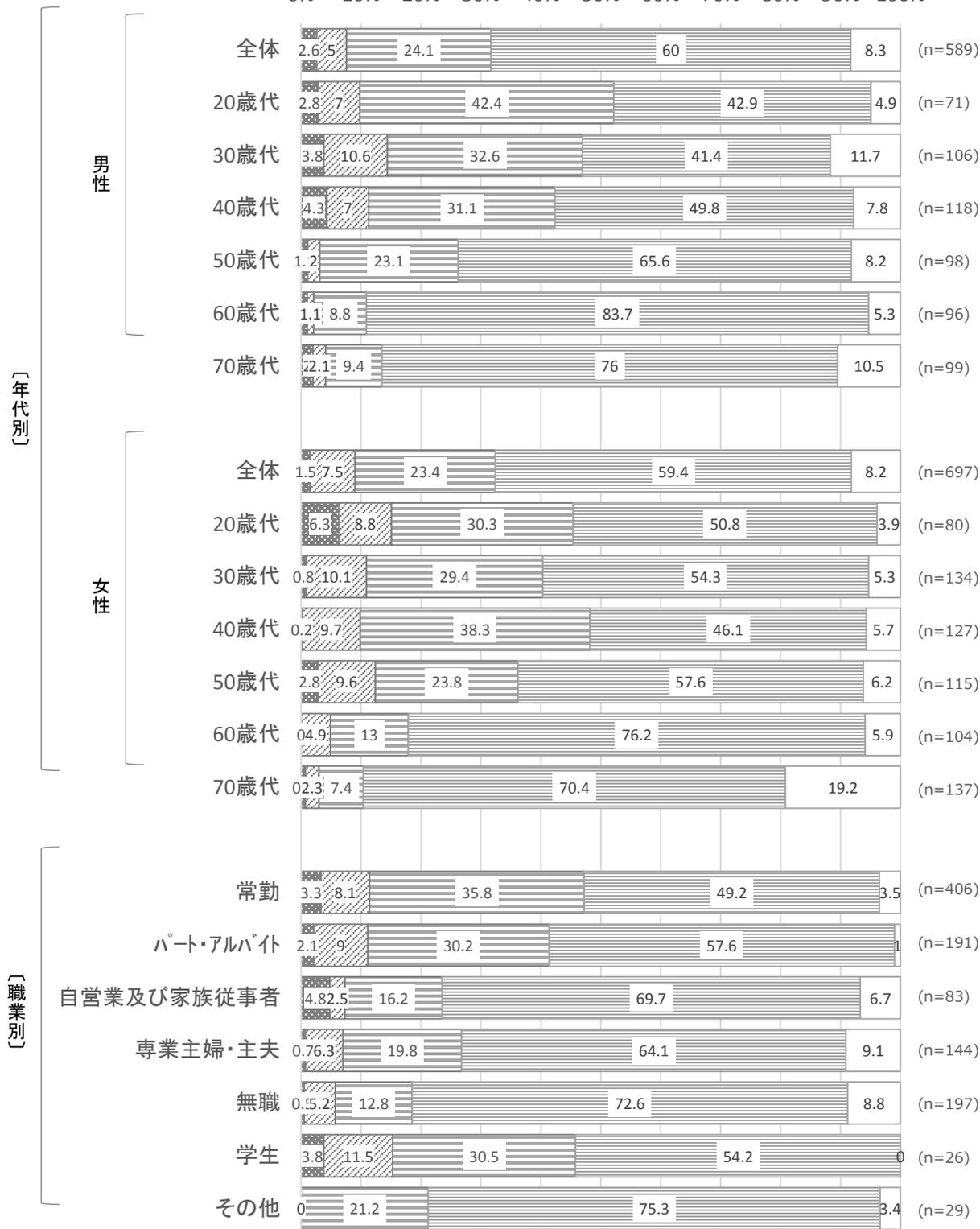
性別での差はほぼない。

年代別では『認知率』は20歳代で48.5%、30歳代で43.2%、40歳代で45.3%と40歳代までは4割を超える。圏域別では那覇圏域が最も認知率が高く36.4%である。



■ 詳しい内容まで知っている ▨ 大体の内容を知っている
 □ 聞いたことはある ■ 知らない
 □ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



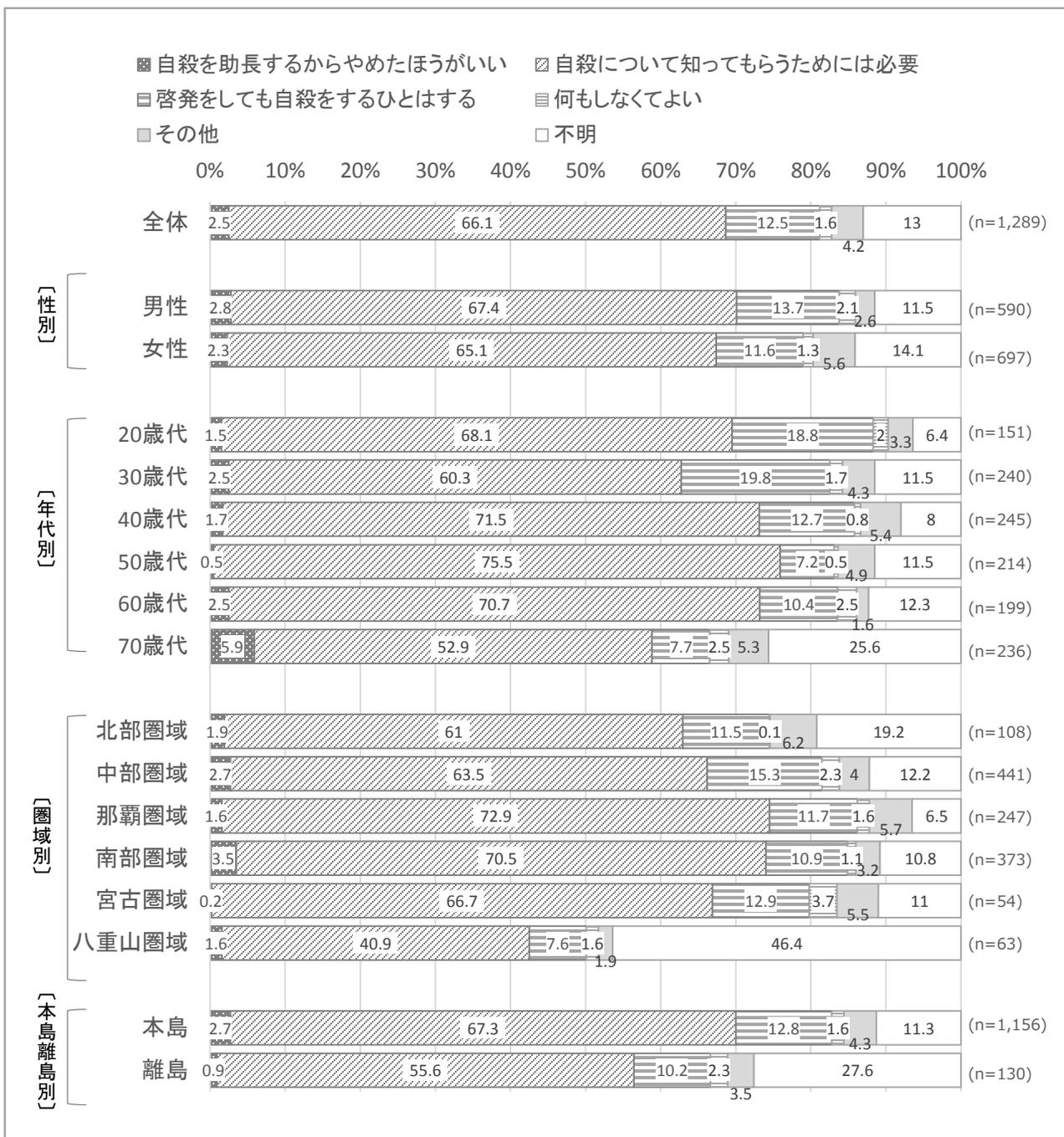
問32 自殺対策に関するPR活動についてどのように思いますか。(〇を1つ)

自殺対策についてのPR活動については「自殺をよく知ってもらうためには必要」が66.1%と6割以上が「必要」と回答している。

性別では男性の67.4%、女性の65.1%が「必要」と回答している。

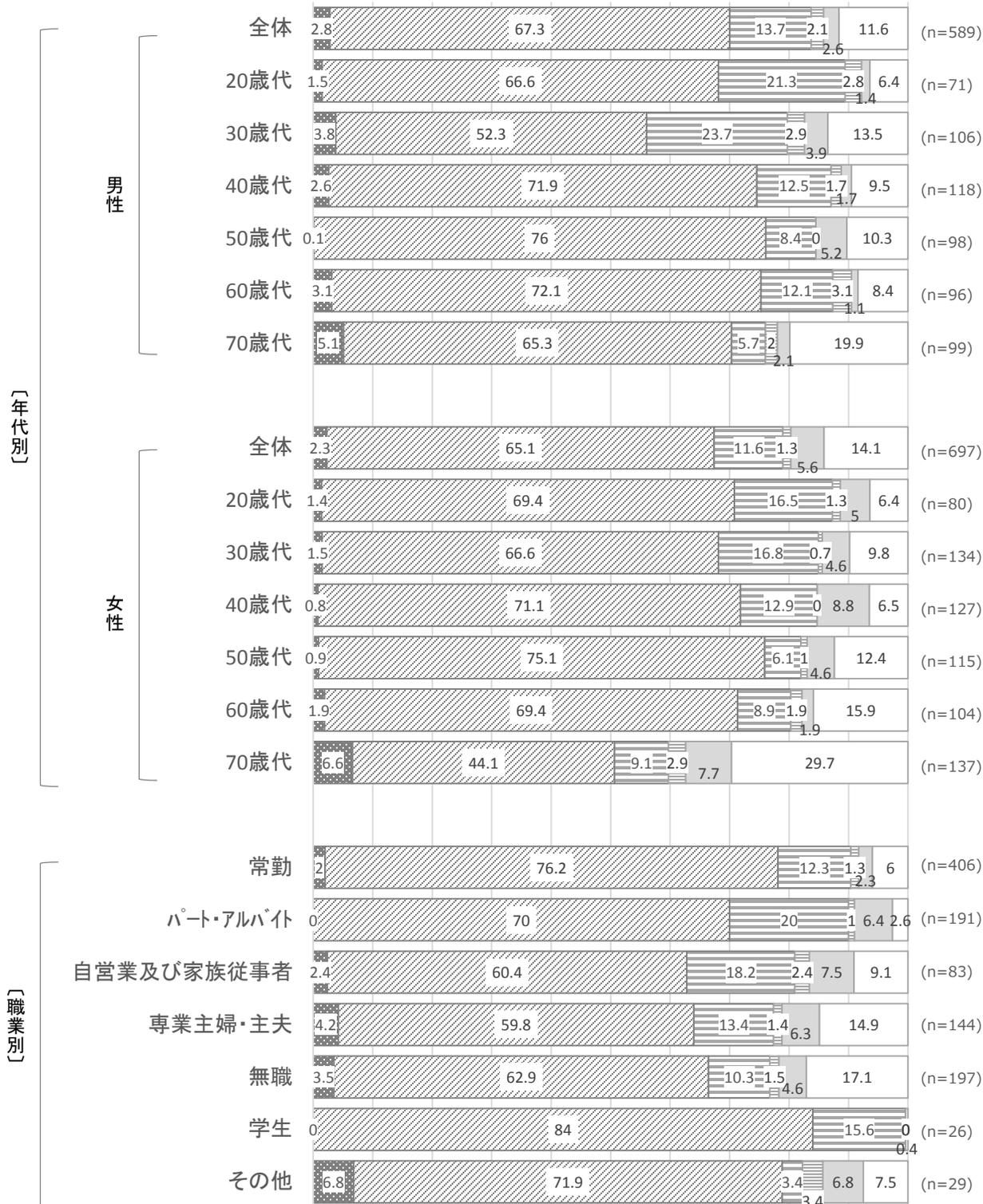
年代別では40歳代、50歳代、60歳代で7割が「必要」と回答している。

圏域別では那覇圏域が最も多く72.9%、次いで南部圏域の70.7%が「必要」と回答している。



- 自殺を助長するからやめたほうがいい
- ▨ 自殺について知ってもらうためには必要
- 啓発をしても自殺をするひとはする
- ▤ 何もなくてよい
- その他
- 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問33 自殺対策は社会的な取組として実施する必要があると思いますか。(〇を1つ)

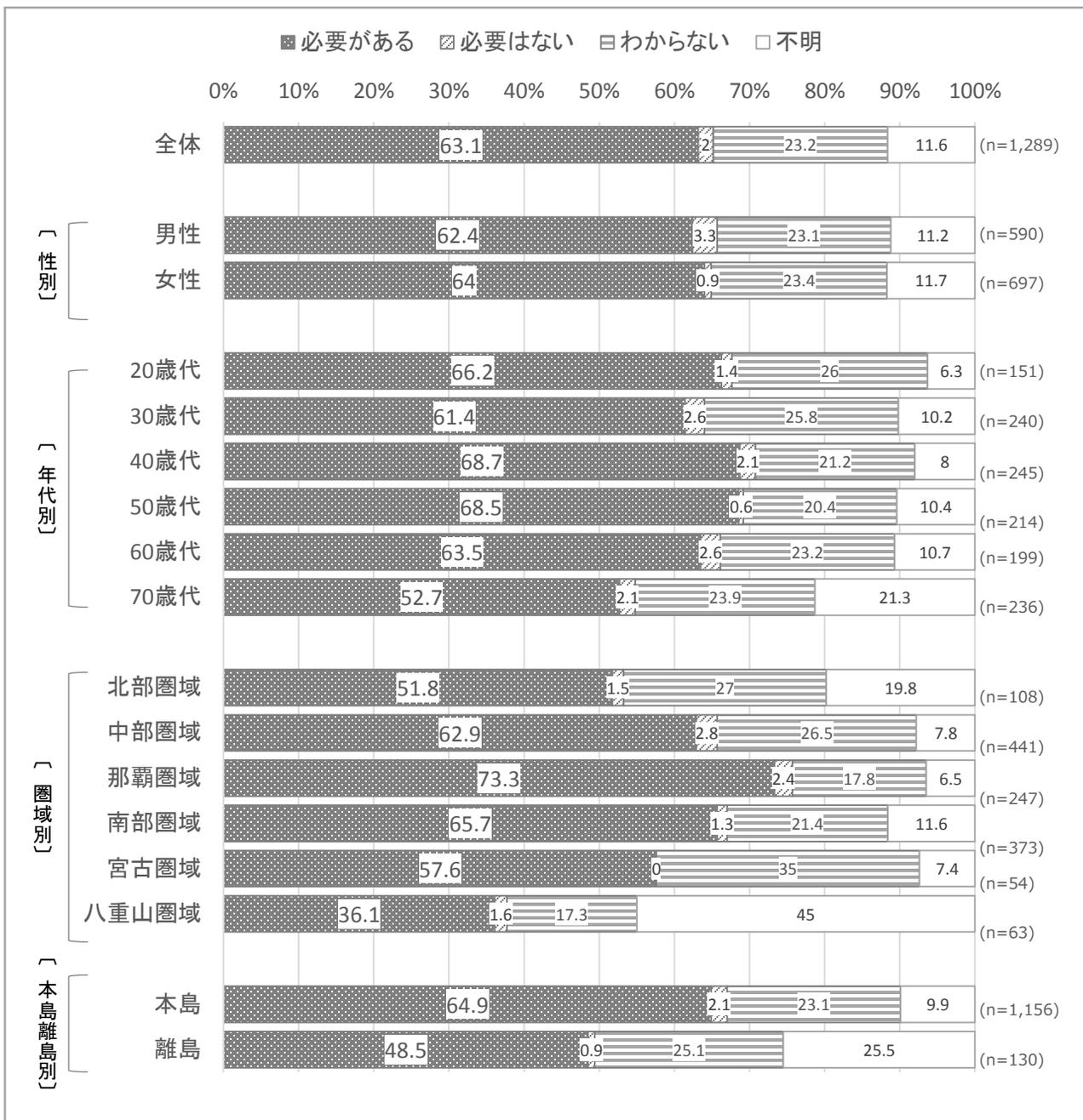
自殺対策は社会的な取組として必要か尋ねると63.1%が「必要がある」と回答。「必要ない」は2%と少ないが、「わからない」という判断保留も23.3%と2割を超えている。

性別ではあまり違いはない。

年代別でも20歳代から60歳代まで6割以上が「必要」と回答している。

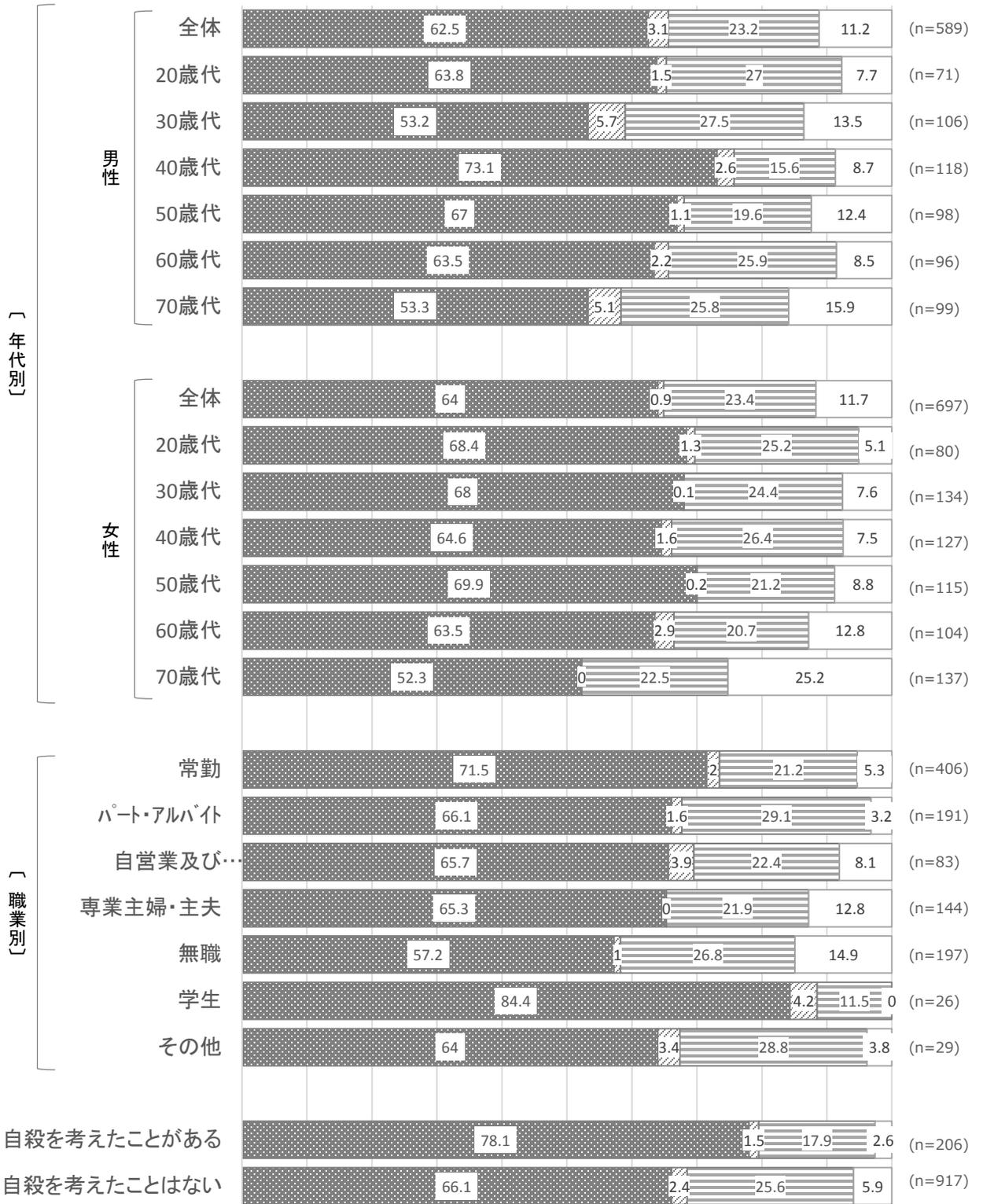
圏域別では那覇市で最も「必要」との回答が多く73.3%となった。次いで多いのは南部圏域の65.7%、中部圏域の62.9%と続いている。

性別・年代別で見ると40代男性が最も「必要」が多く73.1%と7割を超えている。



■ 必要がある □ 必要はない ▨ わからない □ 不明

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



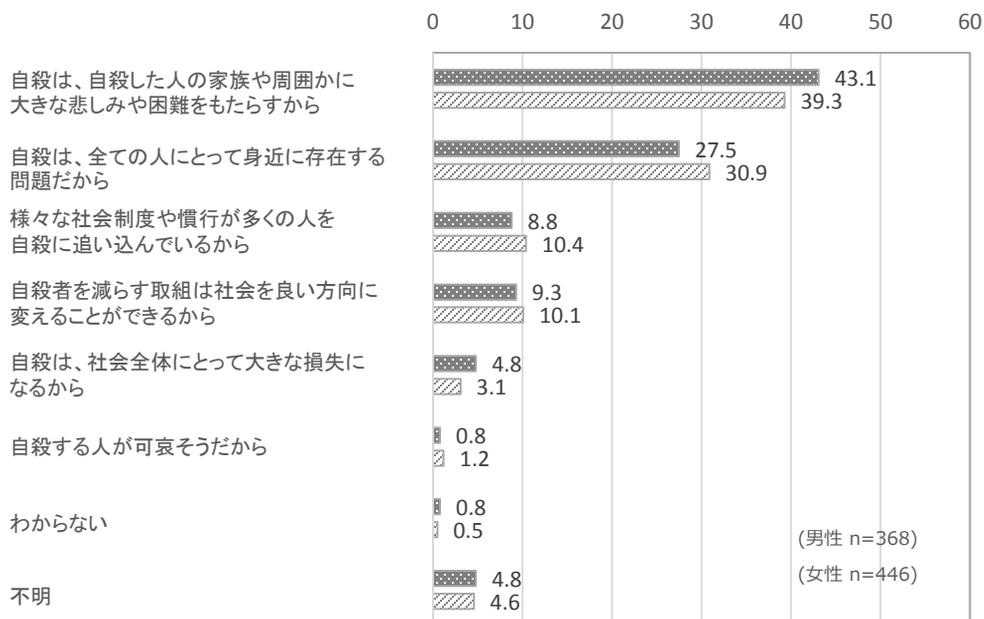
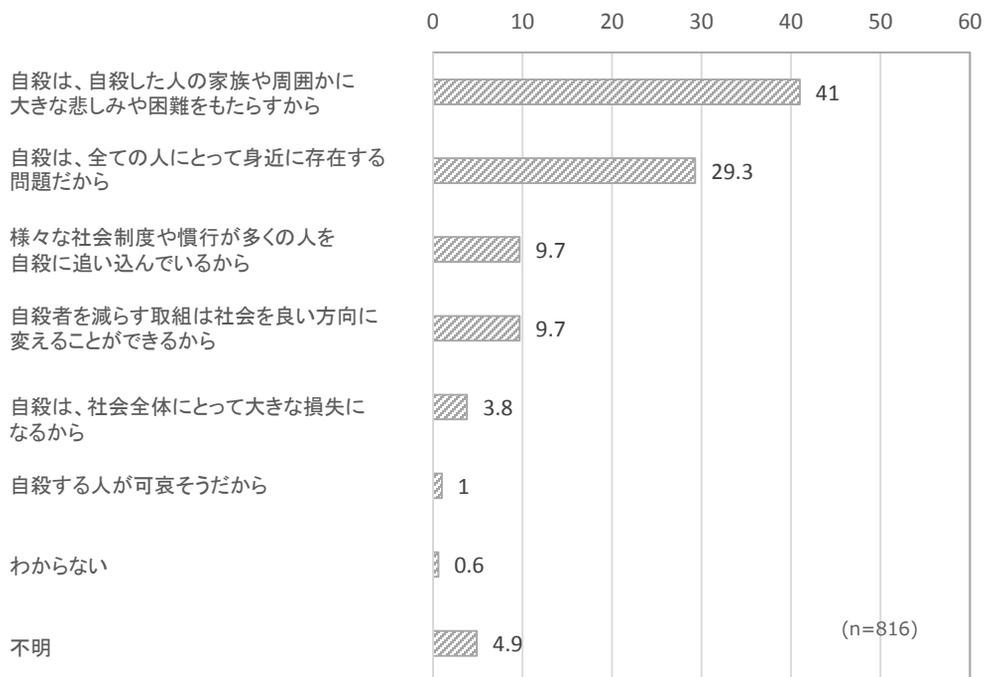
付問33-1 (問35で「自殺対策が必要」と選んだ方のみ)

そのように思うのはなぜですか。あなたのお考えに近いもの1つだけに○をつけてください

自殺対策が「必要」と回答した方にその理由を尋ねたところ、最も多くなったのは「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」が41.1%で最も多くなった。次に「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」が29.3%、「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」が9.7%、「自殺者を減らす取組は社会を良い方向に変えることができるから」9.7%と続いている。

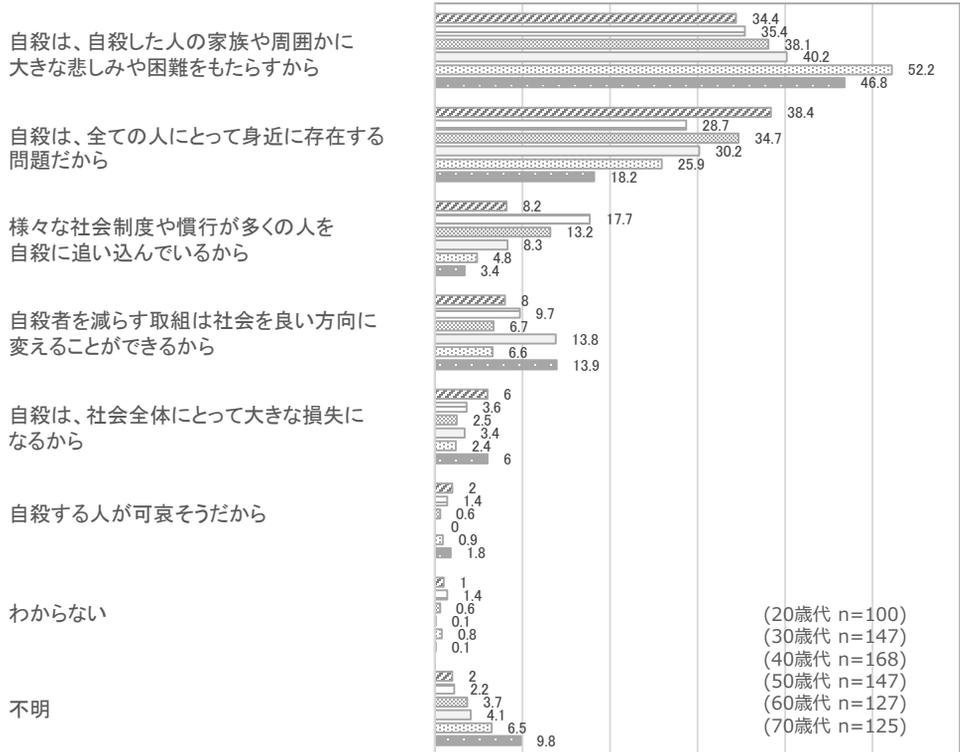
性別では大きな差は見られない。

年代別でみると「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」が20歳代34.4%から年代が上がるにつれ多くなり、60歳代では52.2%となる。



■ 20歳代 □ 30歳代 ▨ 40歳代 □ 50歳代 ▩ 60歳代 ■ 70歳代

0 10 20 30 40 50 60

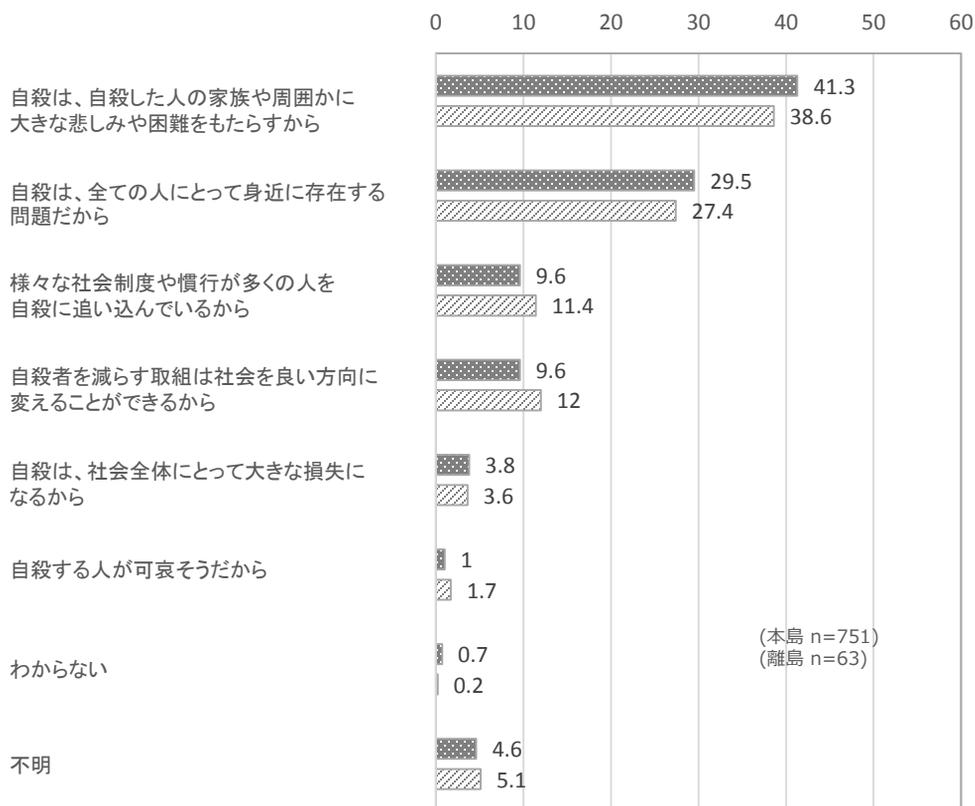


■ 北部圏域 □ 中部圏域 ▨ 那覇圏域 □ 南部圏域 ▩ 宮古圏域 ■ 八重山圏域

0 10 20 30 40 50 60



■本島 □離島



■常勤 □パート・アルバイト ■自営業及び家族従事者 □専業主婦・主夫 ■無職 ■学生 □その他

